

第 9 期

浦添市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

結果報告書

令和 5 年 3 月

浦 添 市

目 次

市全域

I. 調査の概要等	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 回答者の属性	2
II. 機能	4
(1) 運動器	4
(2) 転倒リスク	6
(3) 閉じこもり	7
(4) 栄養（低栄養）	9
(5) 口腔	15
(6) 認知機能	16
(7) うつ	17
III. 日常生活	19
(1) 手段的自立度（IADL）	19
IV. 社会参加	27
(1) 知的能動性	27
(2) 社会的役割	28
(3) 各グループへの参加頻度	30
(4) 地域づくり活動への参加意向（参加者として、企画・運営として）	32
(5) 「たすけあい」の状況	34
V. 健康・疾病	40
1. 健康	40
(1) 咀嚼	40
(2) 聞こえ	41
(3) 飲酒習慣	44
(4) 喫煙習慣	45
(5) 主観的健康感	46
2. 疾病	51
(1) 高血圧	53
(2) 脳卒中	54
(3) 心臓病	55
(4) 糖尿病	56
(5) 筋骨格系疾患	57
(6) がん	58
3. 主観的幸福感	59
VI. 介護	60
1. 介護の必要性	60
2. 介護・介助が必要になった原因について	63

3. 原因ごとにおける調査結果	65
(1) 脳卒中	65
(2) 心臓病	65
(3) 関節の病気	66
(4) 糖尿病	66
(5) 骨折・転倒	67
(6) 高齢による衰弱	67
4. 介護の状況	68
(1) 主な介護者	68
(2) 将来介護が必要になった時の療養に関する希望	68
5. 相談窓口等の認知度	73
(1) 認知症に関する相談窓口の認知度	73
(2) 地域包括支援センターの認知度	75
VII. 考察（市全域について）	87

日常生活圏域

I. 回答者の属性	91
II. 機能	94
(1) 運動器	94
(2) 転倒リスク	94
(3) 閉じこもり	95
(4) 栄養（低栄養）	95
(5) 口腔	96
(6) 認知機能	96
(7) うつ	97
(8) 生活機能の日常生活圏域別評価の総括	98
III. 日常生活	100
(1) 手段的自立度（IADL）	100
IV. 社会参加	103
(1) 知的能動性	103
(2) 社会的役割	103
(3) 各グループへの参加頻度	104
V. 疾病	112
(1) 高血圧	112
(2) 脳卒中	112
(3) 心臓病	113
(4) 糖尿病	113
(5) 筋骨格系疾患	114
(6) がん	114
(7) 疾病状況の日常生活圏域別総括	115

VI. 介護	117
1. 介護の必要性	117
2. 介護・介助が必要になった原因について	118
3. 原因ごとにおける調査結果	120
(1) 脳卒中	120
(2) 心臓病	120
(3) 関節の病気	121
(4) 糖尿病	121
(5) 骨折・転倒	122
(6) 高齢による衰弱	122
4. 地域における療養に関する希望	123
(1) 将来介護が必要になった時の療養に関する希望	123
5. 相談窓口等の認知度	124
(1) 地域包括支援センターの認知度	124
VII. 考察（日常生活圏域について）	125
参考資料（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票）	129

市全域

I. 調査の概要等

1. 調査の目的

第七次てだこ高齢者プランの策定にあたり、本市の高齢者の状況や課題を把握することを目的とする。

2. 調査の概要

【調査対象】本市に住む 65 歳以上の高齢者（要介護 1 ～ 5 の認定者を除く）

【調査方法】郵送による配布回収

【調査期間】令和 5 年 2 月 20 日（月）～令和 5 年 3 月 17 日（金）

【回収結果】

郵送配布数	有効回収数	有効回収率
6,000 件	3,502 件	58.4%

※百分率（％）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示した。したがって、単数回答（1 つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて 100％にならない場合がある。
また同様に、四捨五入の影響で、各選択肢の該当率とその割合を足し合わせた該当率が合わない場合がある。

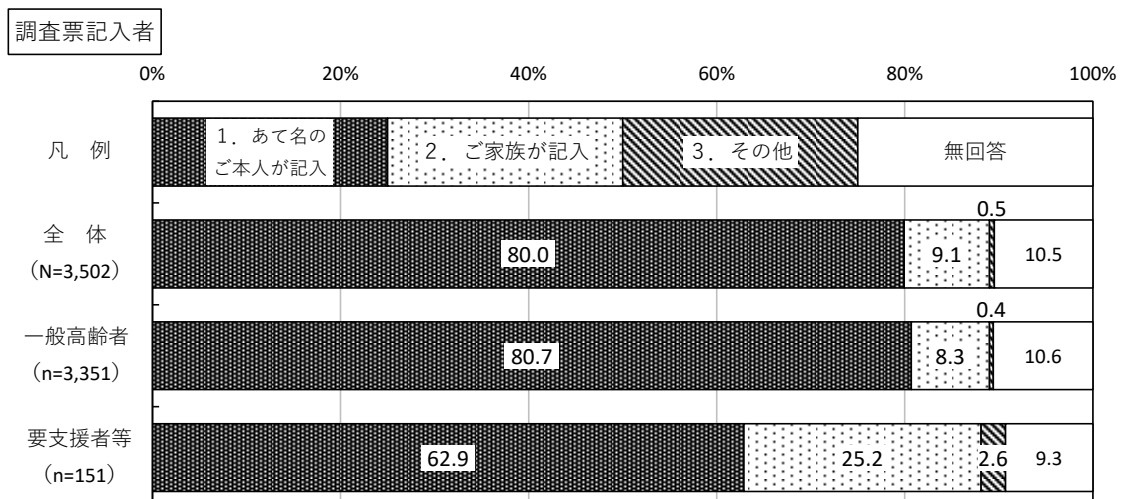
※複数回答（2 つ以上選んでよい問）においては、％の合計が 100％を超える場合がある。

※表やグラフの「N」「n」は、標本の大きさ（集計対象者数）を示している。

※なお、今回の調査は新型コロナウイルス感染症が収束していないタイミングでの調査実施となっている。一方で、前回調査や全国調査については新型コロナウイルスの流行以前もしくは流行が本格化する前に実施されたものであることに留意して結果を読み解く必要がある。

【調査票記入者】

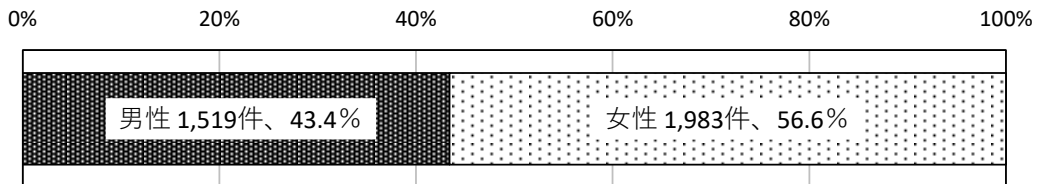
調査票記入者は、「一般高齢者」のうち 80.7％が「本人記入」、8.3％が「家族記入」となっている。また、「要支援者等」は 62.9％が「本人記入」、25.2％が「家族記入」となっている。



3. 回答者の属性

【性別】

回答者の性別は、「男性」が43.4%、「女性」は56.6%と、男性よりも女性の割合が13ポイント程度高くなっている。



【年齢構成】

回答者の年齢は、「70～74歳」が29.5%と最も高く、年齢が上がるにつれて構成割合が低くなっている

		上段:実数、下段:割合(%)					
	合計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
全体	3,502	913	1,033	633	561	278	84
	100.0	26.1	29.5	18.1	16.0	7.9	2.4
男性	1,519	408	450	299	234	102	26
	100.0	26.9	29.6	19.7	15.4	6.7	1.7
女性	1,983	505	583	334	327	176	58
	100.0	25.5	29.4	16.8	16.5	8.9	2.9

【認定状況】

回答者の認定状況は、「一般高齢者」が95.7%を占め、「要支援者等」は4.3%にとどまっている。「要支援者等」の割合は、男性に比べて女性がわずかに高くなっている。

		上段:実数、下段:割合(%)	
	合計	一般高齢者	要支援者等
全体	3,502	3,351	151
	100.0	95.7	4.3
男性	1,519	1,476	43
	100.0	97.2	2.8
女性	1,983	1,875	108
	100.0	94.6	5.4

※「要支援者等」には、「要支援認定者」のほか「総合事業対象者」を含む。

【日常生活圏域】

各圏域を男女別でみると、それぞれ2割前後と大きな偏りはみられない。

上段:実数、下段:割合(%)

	合計	浦添	仲西	神森	港川	浦西
全体	3,502	723	668	697	715	699
	100.0	20.6	19.1	19.9	20.4	20.0
男性	1,519	318	268	292	317	324
	100.0	20.9	17.6	19.2	20.9	21.3
女性	1,983	405	400	405	398	375
	100.0	20.4	20.2	20.4	20.1	18.9

【世帯構成】

市内の世帯構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が37.2%と最も高く、「息子・娘との2世帯」が28.3%、「1人暮らし」が22.0%と続いている。

上段:実数、下段:割合(%)

	合 計	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
全 体	3,502	772	1,301	154	991	243	41
	100.0	22.0	37.2	4.4	28.3	6.9	1.2
男 性	1,519	277	634	117	369	102	20
	100.0	18.2	41.7	7.7	24.3	6.7	1.3
女 性	1,983	495	667	37	622	141	21
	100.0	25.0	33.6	1.9	31.4	7.1	1.1

【住宅の所有関係】

住宅の所有関係については、『持家（一戸建て＋集合住宅）』が69.1%、『民間賃貸住宅（一戸建て＋集合住宅）』が21.1%となっている。

上段:実数、下段:割合(%)

	合 計	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅(市営・県営団地)	民間賃貸住宅(一戸建て)	民間賃貸住宅(集合住宅)	借家	その他	無回答
全 体	3,502	2,094	326	149	22	717	61	59	74
	100.0	59.8	9.3	4.3	0.6	20.5	1.7	1.7	2.1
男 性	1,519	932	157	48	14	299	17	25	27
	100.0	61.4	10.3	3.2	0.9	19.7	1.1	1.6	1.8
女 性	1,983	1,162	169	101	8	418	44	34	47
	100.0	58.6	8.5	5.1	0.4	21.1	2.2	1.7	2.4

Ⅱ. 機能

ここでは、日常生活圏域ニーズ調査から求めることができる各評価項目における「該当者（リスク者）」の割合等をもとに、本市における高齢者状況の把握を行う。なお、該当者等の割合は、有効回収数（3,502件）に占める割合である。

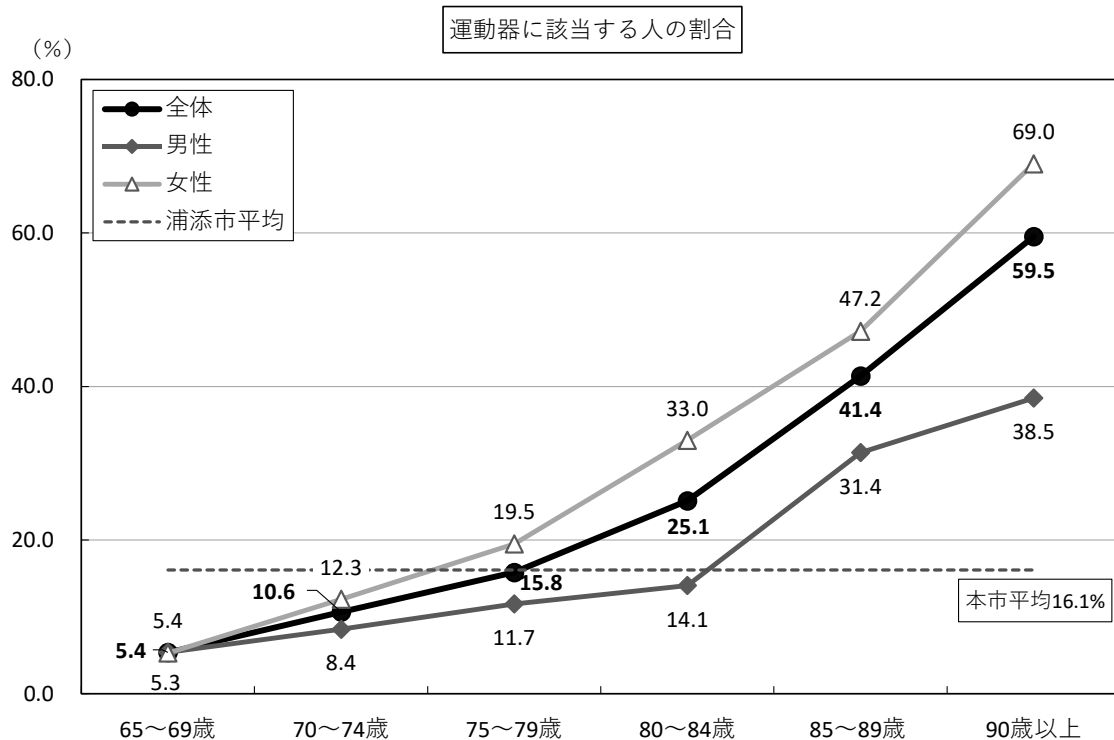
（１）運動器

１）評価方法

脊髄、筋肉、骨などの身体を動かすための組織である運動器に関する設問５項目のうち、３項目以上について該当する回答を行った場合、運動器機能の低下のリスクを有する「該当者（リスク者）」とする。

■運動器の評価方法

設 問	該当する回答
問２（１）階段を手すりや壁をつたわずに登っていますか	「３．できない」
問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがっていますか	「３．できない」
問２（３）15分位続けて歩いていますか	「３．できない」
問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか	「１．何度もある」 「２．１度ある」
問２（５）転倒に対する不安は大きいですか	「１．とても不安である」 「２．やや不安である」



『運動器』の項目における該当者の割合は、本市平均で 16.1%となっている。

該当者の割合を男女別にみると、「65～69 歳」では男女で大きな差は見られないものの、『70 歳以降』からは女性の該当率が男性を上回っている。年齢階級が上がるにつれ男女の割合の差が開いており、『80 歳以上』では男女差が 10%以上、特に「90 歳以上」で 30%以上の差が生じている。

2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問 2（5）転倒に対する不安について、該当率が 49.2%と最も高い。

問 2（5）の転倒に対する不安の該当率（49.2%）が、問 2（4）過去に転んだ経験（27.6%）を上回っていることから、過去 1 年間に転んだ経験がない回答者でも転倒に対して不安があることがうかがえる。

また、問 2（1）階段での移動に関する設問では、2 割弱（18.7%）の該当者が手すりや壁をつたわらなければ上階へ上がることも困難と答えている。

設 問（該当する回答）	該当率	
問 2（1）階段を手すりや壁をつたわずに登っていますか（できない）	18.7%	
問 2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがっていますか（できない）	13.3%	
問 2（3）15分位続けて歩いていますか（できない）	8.7%	
問 2（4）過去 1 年間に転んだ経験がありますか（何度もある、1 度ある）	27.6%	
	何度もある	1 度ある
	7.9%	19.7%
問 2（5）転倒に対する不安は大きいですか（とても不安である、やや不安である）	49.2%	
	とても不安	やや不安
	15.8%	33.4%

(2) 転倒リスク

1) 評価方法

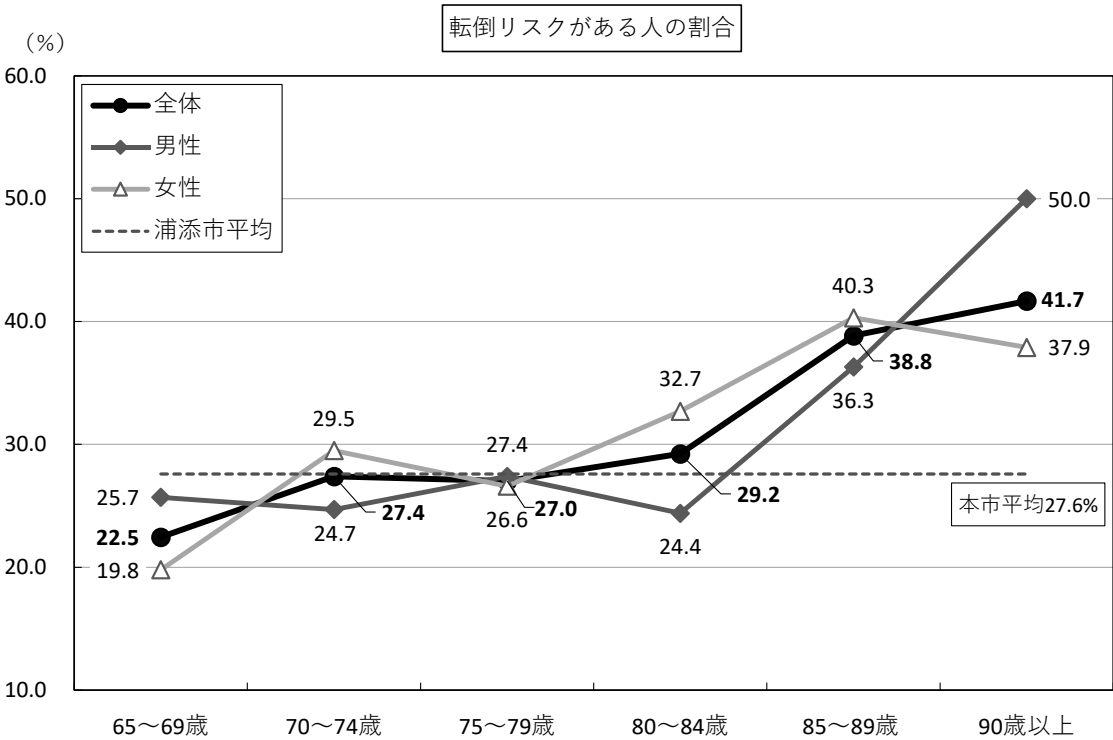
転倒に関する設問 1 項目について、該当する回答を行った場合を転倒リスクが見られる「該当者」とする。

■転倒リスクの評価方法

設 問	該当する回答
問 2 (4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1 度ある」

『転倒リスク』の項目での該当者の割合は、本市平均で 27.6%となっており、約 4 人に 1 人は転倒リスクがある。

該当者の割合を男女別にみると、どちらの転倒リスクが上位にくるかは年齢区分ごとによって不規則となっているが、男性の場合は『80 歳以上』から、女性の場合は『75 歳以上』から該当率が高くなり始める傾向にある。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、過去 1 年間に転んだ経験があると回答した中で、「何度もある」と回答した割合は 7.9%みられる。

設 問 (該当する回答)	該当率	
	27.6%	
	何度もある	1 度ある
問 2 (4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか (何度もある、1 度ある)	7.9%	19.7%

(3) 閉じこもり

1) 評価方法

閉じこもりに関する設問1項目について、該当する回答を行った場合を閉じこもり傾向を有する「該当者」とする。

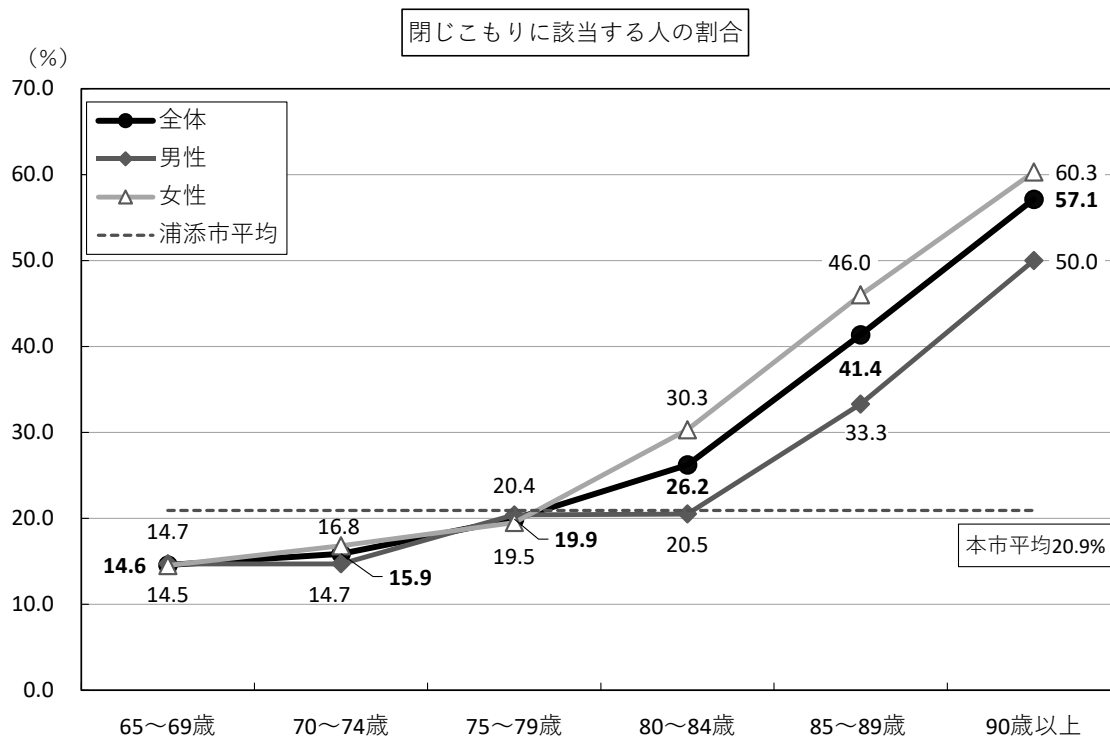
■閉じこもりの評価方法

設 問	該当する回答
問2 (6) 週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

『閉じこもり』の項目での該当者の割合は、本市平均で20.9%となっている。

該当者の割合を男女別にみると、女性の場合は『80歳以上』から、男性の場合は『85歳以上』から割合が高くなる傾向がみられる。特に女性の場合は、『80歳以上』の年齢階層において男性よりも約10%程度高い割合で推移している。

※なお、今回のニーズ調査においては新型コロナウイルス感染症拡大による影響が収束していない時点での状況を伺ったものであるため、感染症流行以前あるいは収束後は異なる傾向が抽出される可能性がある点に留意しなくてはならない。本項目の『週に1回以上の外出』の有無については、コロナ禍前あるいはコロナ収束後よりも男女全体で該当者の割合が低くなることが想定される。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、一週間で「ほとんど外出しない」と回答した割合が7.3%みられる。

設 問 (該当する回答)	該当率	
	20.9%	
問 2 (6) 週に1回以上は外出していますか (ほとんど外出しない、週1回)	ほとんど外出しない	週 1 回
	7.3%	13.6%

(4) 栄養（低栄養）

1) 評価方法

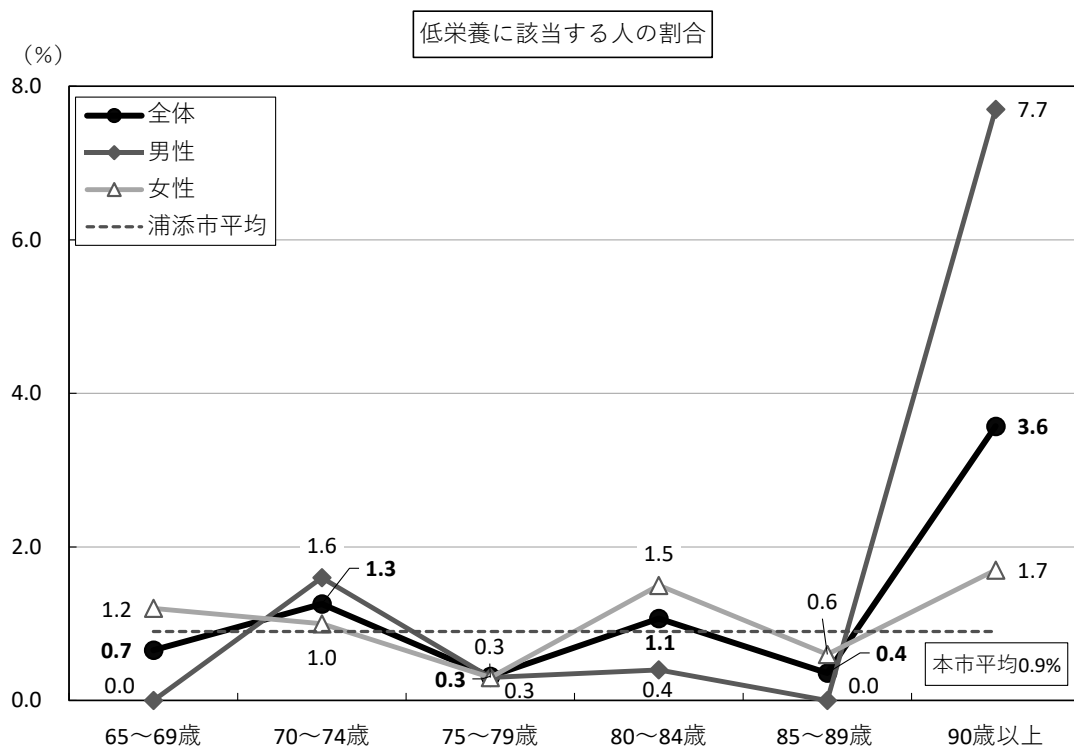
栄養（低栄養）に関する設問2項目について、2項目とも該当する回答を行った場合、低栄養のリスクを有する「該当者」とする。

■栄養の評価方法

設 問	該当する回答
問3（1）身長・体重	BMI 18.5未満
問3（7）6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

『栄養（低栄養）』の項目での該当者の割合は、本市平均で0.9%となっている。

該当者の割合を男女別にみると、女性の場合は年齢階級ごとに1%前後を上下しながら概ね横ばいで推移しており、男性においても『65歳から89歳頃』までは同様に低い割合を維持している。一方、男性の「90歳以上」においては7.7%と、『89歳頃』までと異なり急激に高い割合が算出されているが、これは該当する年齢階級自体の母数が少ないため、他の年齢階級よりも該当者の割合が上昇しやすいことが要因である。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問3（1）BMI値からの該当率は全体で3.3%と低いものの、問3（7）一定期間の体重減少からみる該当率は14.9%となっている。

設 問（該当する回答）	該当率
問3（1）身長・体重（BMI 18.5未満）	3.3%
問3（7）6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか（はい）	14.9%

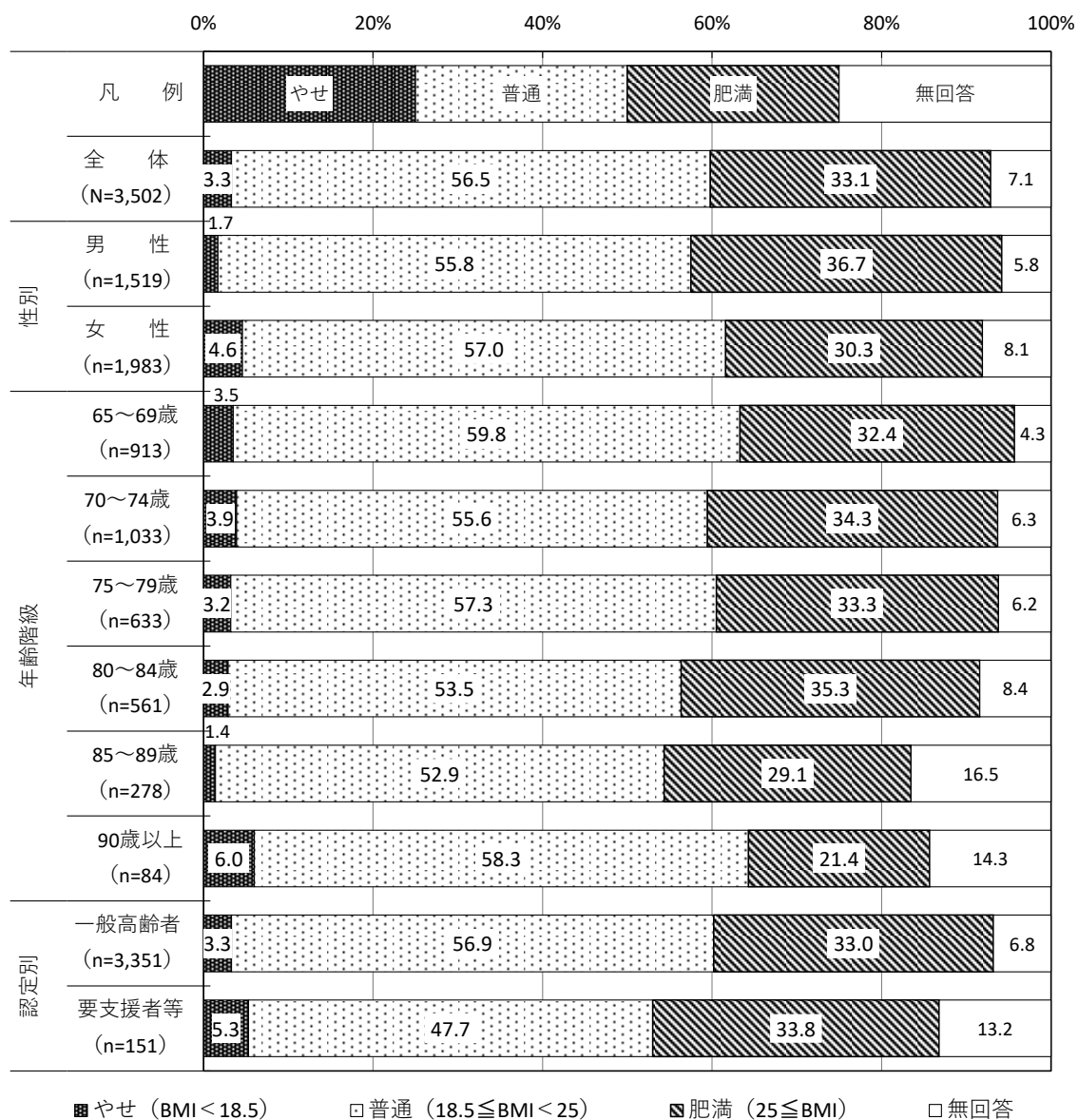
《関連設問》

○身長・体重（BMI 値）【問3（1）】

身長・体重から算出したBMI 値について、「普通（ $18.5 \leq \text{BMI} < 25.0$ ）」が 56.5%と大半を占めている一方で、「肥満（ $\text{BMI} \geq 25.0$ ）」が 33.1%みられる。

「肥満」の割合に着目すると、女性に比べて男性の方がやや高い値となっている。また、年齢階級別にみると「90 歳以上」を除くほぼ全ての年齢層で約 3 割が肥満となっており、「80～84 歳」においては 35.3%と最も高い割合を示している。

BMI 値の状況



○普段の食事で比較的多いもの【問４（１）】（表p.12 参照）

普段の食事の形態について（内食・中食・外食・自炊など）尋ねたところ、「１．自分で作った食事」が61.7%と過半数を占め、以下、「２．家族が作った食事（36.9%）」、「５．買ってきた総菜や弁当（32.1%）」と続いている。また、「６．冷凍食品（15.2%）」・「７．インスタント食品（13.3%）」「８．外食（13.6%）」は概ね同程度となっている。

男女別の割合をみると、男性の場合は「２．家族が作った食事（64.9%）」とする回答が最も多かった一方で、女性の場合は「１．自分で作った食事（85.3%）」が最も高くなっている。

年齢階級別にみると、若い年代ほど「１．自分で作った食事」が高く、上の年齢階級に推移するに従って自炊の割合が低くなり、一方で「２．家族が作った食事」とする割合が高くなる傾向にある。また、実数は多くないものの、『80歳以上』の年齢層では若い年齢層と比較して「４．宅配弁当」を活用する割合が高くなっている

認定別の状況でみると、要支援者等の場合、「１．自分で作った食事」や「２．家族が作った食事」以外では、「５．買ってきた総菜や弁当（41.7%）」「６．冷凍食品（25.8%）」「７．インスタント食品（21.9%）」「４．宅配弁当（11.3%）」などの回答が比較的高くなっている。

※今回のニーズ調査においては新型コロナウイルス感染症拡大による影響が収束していない時点での状況を伺ったものであるため、感染症流行以前あるいは収束後とは異なる傾向が抽出される可能性に留意しなくてはならない。特に「８．外食」の選択肢に対しては回答票数に大きな変動が生じるものと推察される他、テイクアウトやデリバリーなどの需要が増えたことで外食ニーズが中食ニーズへシフトしている傾向や、家での食事機会が増えることで自炊志向が高まっている傾向などが想定される。

○食事の困りごとについて【問４（２）】（表p.13 参照）

食事の困りごとについて尋ねたところ、「８．困りごとはない」とした回答が30.2%と最上位の次点で多く見うけられたものの、それ以外の回答者からは「２．栄養バランスがとれているか不安」が30.8%で最も高く、次いで「４．脂っぽいものをさけるようになった（22.4%）」「１．料理を作るのが大変（18.4%）」「３．食べる量が減った（17.1%）」「６．購入した食材を使いきるまで何食も同じもの（16.7%）」といった意見が多くあがっていた。

年齢階級別にみると、上の年齢階級に推移するに従って「８．困り事はない」とする割合が低くなっており、年齢が上がるにつれて何らかの食事の困り事を抱えている人が多くなっている状況がうかがえる。また、調理の大変さや食べられる量に関する困り事は勿論のこと、「５．買い物に行けない」といった食材を手に入れる段階から困り事を抱えてしまう人の割合が上の年齢階級ほど高くなっている。

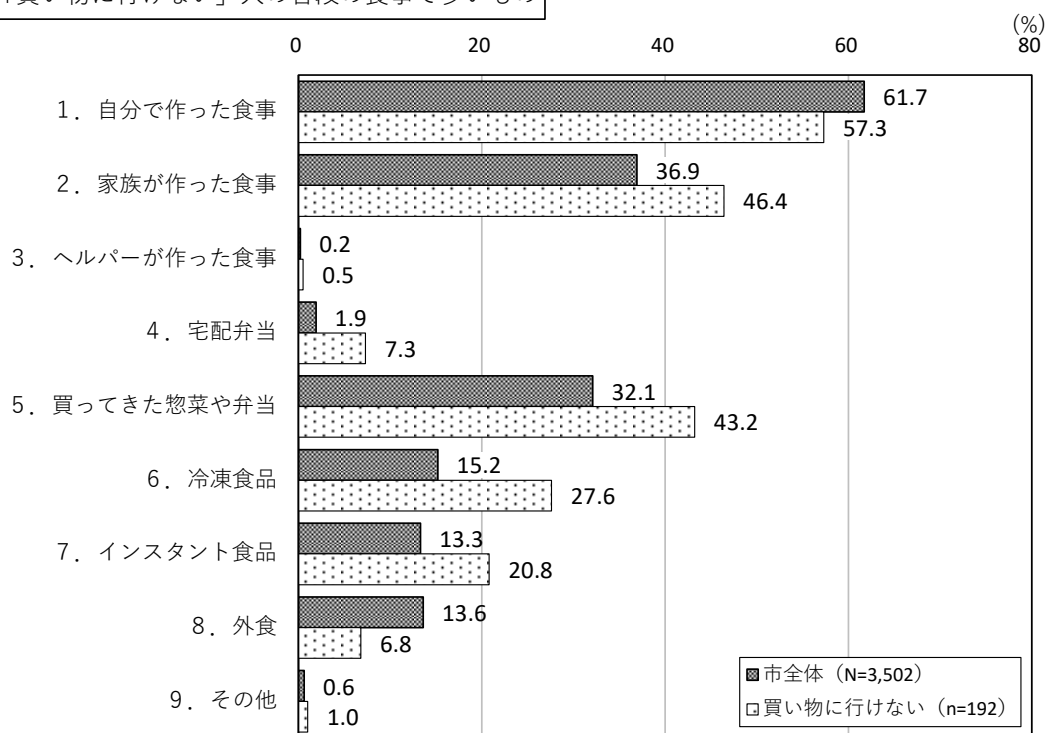
属性	上段:実数 下段:横%	普段の食事で比較的多いのはどれですか(複数回答)					
		合 計	1. 自分で 作った食事	2. 家族が 作った食事	3. ヘル パーが作っ た食事	4. 宅配弁 当	5. 買ってき た惣菜や弁 当
全 体		3,502	2,160	1,291	8	65	1,123
		－	61.7	36.9	0.2	1.9	32.1
性 別	男 性	1,519	469	986	1	29	507
		－	30.9	64.9	0.1	1.9	33.4
	女 性	1,983	1,691	305	7	36	616
		－	85.3	15.4	0.4	1.8	31.1
年 齢 階 級	65～69歳	913	592	328	1	8	298
		－	64.8	35.9	0.1	0.9	32.6
	70～74歳	1,033	643	340	4	19	333
		－	62.2	32.9	0.4	1.8	32.2
	75～79歳	633	397	228	2	5	186
		－	62.7	36.0	0.3	0.8	29.4
	80～84歳	561	336	210	1	12	190
		－	59.9	37.4	0.2	2.1	33.9
	85～89歳	278	155	133	0	16	88
		－	55.8	47.8	0.0	5.8	31.7
	90歳以上	84	37	52	0	5	28
		－	44.0	61.9	0.0	6.0	33.3
認 定 別	一般高齢者	3,351	2,088	1,224	7	48	1,060
		－	62.3	36.5	0.2	1.4	31.6
	要支援者等	151	72	67	1	17	63
		－	47.7	44.4	0.7	11.3	41.7
		合 計	6. 冷凍食 品	7. インスタ ント食品	8. 外食	9. その他	無回答
全 体		3,502	531	466	476	20	219
		－	15.2	13.3	13.6	0.6	6.3
性 別	男 性	1,519	180	236	210	10	117
		－	11.8	15.5	13.8	0.7	7.7
	女 性	1,983	351	230	266	10	102
		－	17.7	11.6	13.4	0.5	5.1
年 齢 階 級	65～69歳	913	135	115	130	3	47
		－	14.8	12.6	14.2	0.3	5.1
	70～74歳	1,033	168	133	155	5	71
		－	16.3	12.9	15.0	0.5	6.9
	75～79歳	633	84	81	83	2	40
		－	13.3	12.8	13.1	0.3	6.3
	80～84歳	561	83	84	68	4	38
		－	14.8	15.0	12.1	0.7	6.8
	85～89歳	278	44	43	32	5	20
		－	15.8	15.5	11.5	1.8	7.2
	90歳以上	84	17	10	8	1	3
		－	20.2	11.9	9.5	1.2	3.6
認 定 別	一般高齢者	3,351	492	433	465	18	206
		－	14.7	12.9	13.9	0.5	6.1
	要支援者等	151	39	33	11	2	13
		－	25.8	21.9	7.3	1.3	8.6

属性		上段:実数 下段:横%	食事の困りごとについて当てはまるもの(複数回答)					
			合 計	1. 料理を作るのが大変	2. 栄養バランスがとれているか不安	3. 食べる量が減った	4. 脂っぽいものをさけるようになった	5. 買い物に行けない
全 体			3,502	646	1,079	600	783	192
			－	18.4	30.8	17.1	22.4	5.5
性別	男 性	1,519	255	398	256	260	47	
		－	16.8	26.2	16.9	17.1	3.1	
	女 性	1,983	391	681	344	523	145	
		－	19.7	34.3	17.3	26.4	7.3	
年齢階級	65～69歳	913	147	295	126	210	10	
		－	16.1	32.3	13.8	23.0	1.1	
	70～74歳	1,033	172	322	153	227	35	
		－	16.7	31.2	14.8	22.0	3.4	
	75～79歳	633	101	167	87	160	31	
		－	16.0	26.4	13.7	25.3	4.9	
	80～84歳	561	129	177	127	113	51	
		－	23.0	31.6	22.6	20.1	9.1	
	85～89歳	278	71	87	77	55	42	
		－	25.5	31.3	27.7	19.8	15.1	
	90歳以上	84	26	31	30	18	23	
		－	31.0	36.9	35.7	21.4	27.4	
認定別	一般高齢者	3,351	592	1,021	552	749	143	
		－	17.7	30.5	16.5	22.4	4.3	
	要支援者等	151	54	58	48	34	49	
		－	35.8	38.4	31.8	22.5	32.5	
			合 計	6. 購入した食材を使いきるまで何食も同じものを食べる	7. 食事制限があるので、限られた食材でメニューを決めることが難しい	8. 困りごとはない	9. その他	無回答
全 体			3,502	585	102	1,056	38	307
			－	16.7	2.9	30.2	1.1	8.8
性別	男 性	1,519	232	49	533	14	161	
		－	15.3	3.2	35.1	0.9	10.6	
	女 性	1,983	353	53	523	24	146	
		－	17.8	2.7	26.4	1.2	7.4	
年齢階級	65～69歳	913	131	23	291	7	70	
		－	14.3	2.5	31.9	0.8	7.7	
	70～74歳	1,033	181	31	330	13	92	
		－	17.5	3.0	31.9	1.3	8.9	
	75～79歳	633	104	20	198	8	56	
		－	16.4	3.2	31.3	1.3	8.8	
	80～84歳	561	93	18	155	8	57	
		－	16.6	3.2	27.6	1.4	10.2	
	85～89歳	278	55	7	66	2	27	
		－	19.8	2.5	23.7	0.7	9.7	
	90歳以上	84	21	3	16	0	5	
		－	25.0	3.6	19.0	0.0	6.0	
認定別	一般高齢者	3,351	543	94	1,038	37	292	
		－	16.2	2.8	31.0	1.1	8.7	
	要支援者等	151	42	8	18	1	15	
		－	27.8	5.3	11.9	0.7	9.9	

○「買い物に行けない人」の普段の食事について【問４（１）×（２）】

「買い物に行けない」と回答した 192 人の方が普段、どのように食事を準備しているのか尋ねたところ、「１．自分で作った食事」が 57.3%で最も割合が高いのは回答者全体と同様の傾向だが、その他の「２．家族が作った食事（46.4%）」や「５．買ってきた惣菜や弁当（43.2%）」、「６．冷凍食品（27.6%）」、「７．インスタント食品（20.8%）」、「４．宅配弁当（7.3%）」といった自炊以外で普段の食事を済ませている人の割合が、回答者全体の傾向よりも比較的高い様子がうかがえる。

「買い物に行けない」人の普段の食事で多いもの



(5) 口腔

1) 評価方法

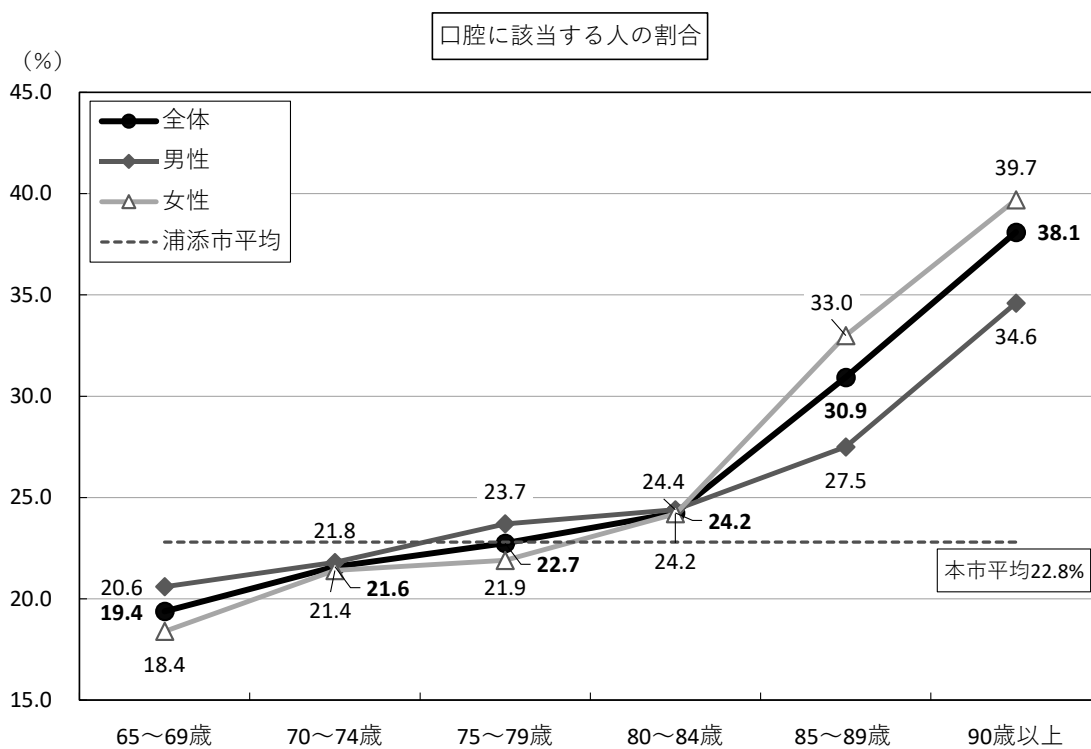
口腔に関する設問3項目のうち、2項目以上について該当する回答を行った場合を口腔機能の低下のリスクを有する「該当者」とする。

■口腔の評価方法

設 問	該当する回答
問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3 (4) 口の渇きが気になりますか	「1. はい」

『口腔』の項目での該当者の割合は、本市平均で22.8%となっている。

該当者の割合を男女別にみると、『65歳から84歳頃』までは男女ともに大きな差はなく緩やかに上昇しているが、『85歳以上』からは急激に該当者の割合が高くなっており、特に女性の伸び具合が著しい。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問3 (2) 固いものの食べにくさは31.2%、問3 (3) 水分摂取時のむせは22.1%、問3 (4) 口の渇きは28.6%となっている。

設 問 (該当する回答)	該当率
問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (はい)	31.2%
問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか (はい)	22.1%
問3 (4) 口の渇きが気になりますか (はい)	28.6%

(6) 認知機能

1) 評価方法

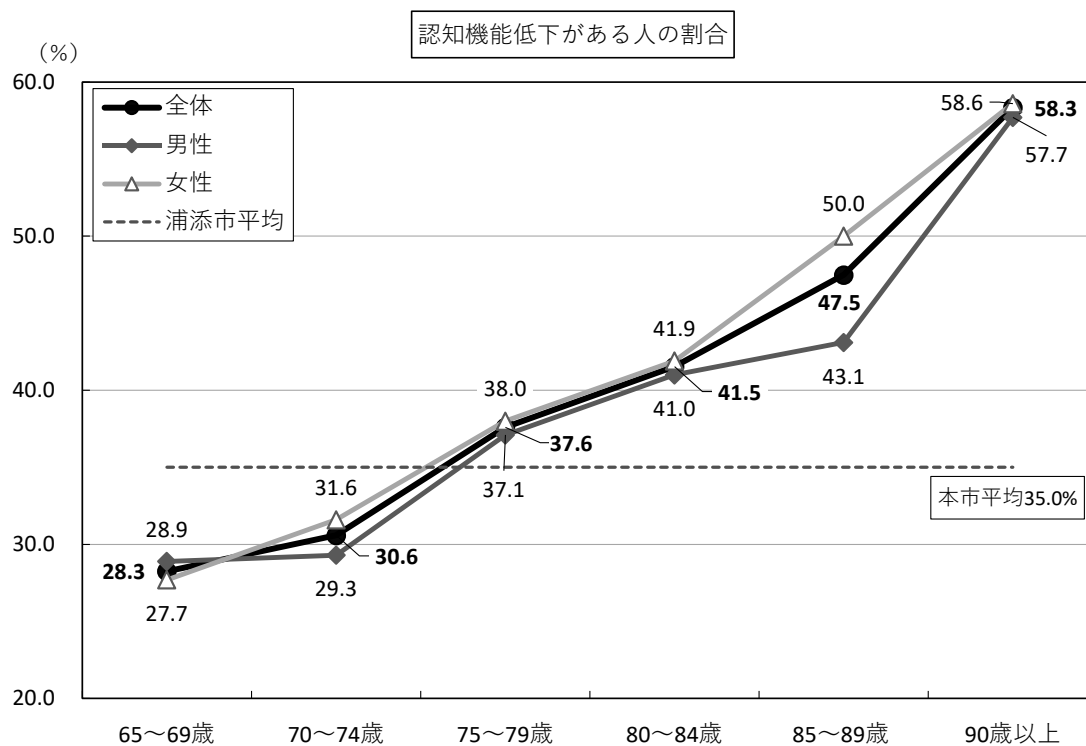
認知機能に関する設問 1 項目に対し該当する回答を行った場合を「該当者」とする。

■認知機能の評価方法

設 問	該当する回答
問 6 (1) 物忘れが多いと感じますか	「1. はい」

『認知機能』の項目での該当者の割合は、本市平均で 35.0%となっており、約 3 人に 1 人は認知機能の低下がみられる。

該当者の割合を男女別にみると、女性は男性よりも急激に割合が高まる傾向にある。一方、男性の場合は女性よりも緩やかな上昇ではあるものの年齢が上がるにつれ該当率が高くなり、「90 歳以上」では女性の該当者の割合に追いつくほどの急激な高まりを見せている。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問 6 (1) 物忘れについての該当率は 35.0%となっている。

設 問 (該当する回答)	該当率
問 6 (1) 物忘れが多いと感じますか (はい)	35.0%

(7) うつ

1) 評価方法

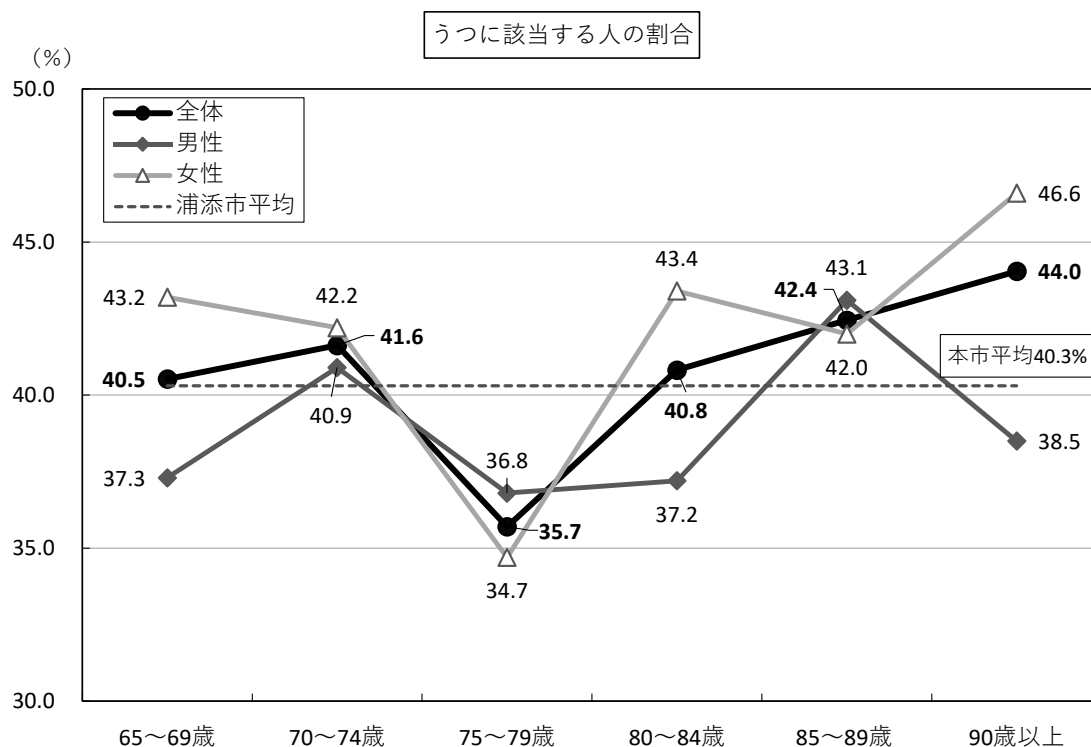
うつに関する設問2項目のうち、1項目以上について該当する回答を行った場合、うつのリスクを有する「該当者」とする。

■ うつの評価方法

設 問	該当する回答
問9 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問9 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

『うつ』の項目での該当者の割合は、本市平均で40.3%となっており、約2.5人に1人はうつ傾向となっている。

年齢階級により割合の低下・上昇が激しい項目となっているが、全体的にみると男女ともに30%台半ば～40%台半ばを推移している状況にある。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問9（3）1か月間の気うつ状況の該当率は36.6%と、問9（4）物事への無関心の該当率（22.8%）と比較して高くなっている。

設 問（該当する回答）	該当率
問9（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（はい）	36.6%
問9（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（はい）	22.8%

Ⅲ. 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

1) 評価方法

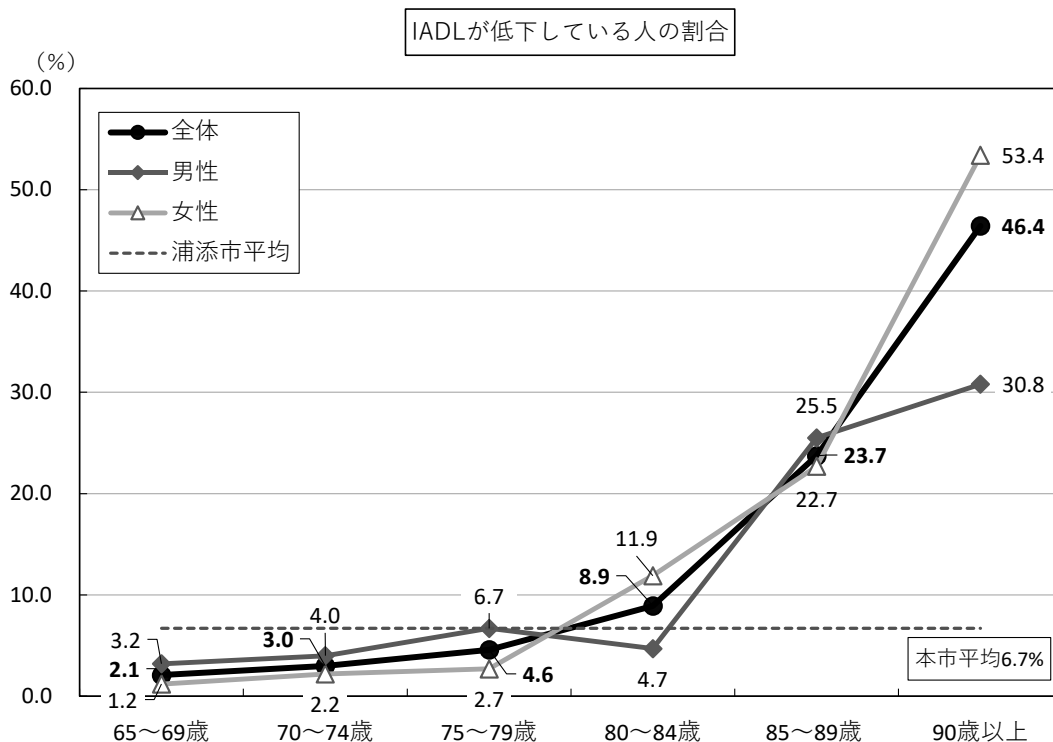
日常生活の中でも比較的高度な動作を示す手段的自立度 (IADL) に関する 5 つの設問について、「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を 1 点として 5 点満点で評価し、3 点以下を「手段的自立度 (IADL) が低下している人」とする。

■手段的自立度 (IADL) の評価方法

設 問	該当する回答
問 6 (4) バスやモノレールを使って1人で外出していますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問 6 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問 6 (6) 自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問 6 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問 6 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

『手段的自立度 (IADL)』の項目で低下していると評価された割合は、本市平均で 6.7% となっている。

低下者の割合を男女別にみると、男性は『85 歳以上』から、女性では『80 歳以上』から割合が高くなる傾向にある。



2) 回答状況

評価の基礎になった設問をみると、全ての項目で「できるし、している」と「できるだけしていない」を合わせた割合が8割～9割となっている。

また、「できるだけしていない」とした回答については、問6（4）バス等を使った1人での外出の割合が16.4%で最も高い。

※なお、今回のニーズ調査においては新型コロナウイルス感染症拡大による影響が収束していない時点での状況を伺ったものであるため、感染症流行以前あるいは収束後と異なる傾向が抽出される可能性に留意しなくてはならない。本項目においては、問6（4）『バス等を使った1人での外出』傾向において、「できるだけしていない」の選択肢に対し「コロナに関係なく、1人でも外出できるがしていない」人と、「コロナの影響が懸念されるため、1人でも外出できるが外出していない」人の両者の回答が集中するため、コロナ禍前あるいはコロナ収束後よりも該当する項目の割合が高くなることが想定される。

設 問（該当する回答）	該当率	
問6（4）バスやモノレールを使って1人で外出していますか （できるし、している、できるだけしていない）	84.4%	
	できるし、している	できるだけしていない
	68.0%	16.4%
問6（5）自分で食品・日用品の買物をしていますか （できるし、している、できるだけしていない）	88.5%	
	できるし、している	できるだけしていない
	79.6%	8.9%
問6（6）自分で食事の用意をしていますか （できるし、している、できるだけしていない）	87.0%	
	できるし、している	できるだけしていない
	72.2%	14.8%
問6（7）自分で請求書の支払いをしていますか （できるし、している、できるだけしていない）	89.4%	
	できるし、している	できるだけしていない
	78.9%	10.5%
問6（8）自分で預貯金の出し入れをしていますか （できるし、している、できるだけしていない）	90.2%	
	できるし、している	できるだけしていない
	80.3%	9.9%

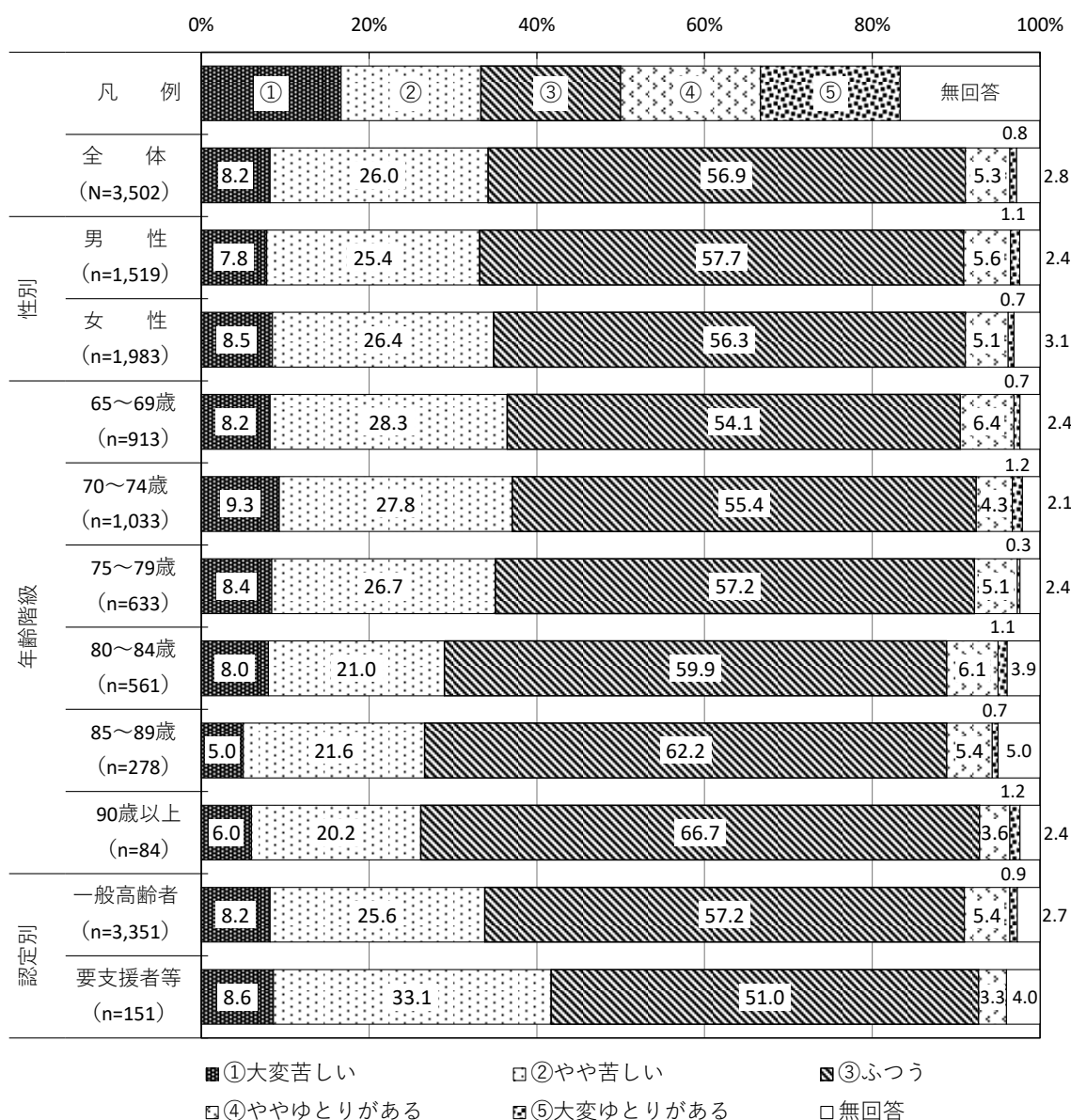
<<関連設問>>

○現在の暮らしの経済的状況【問１（３）】

現在の暮らしの経済的状況について主観的にどう感じているか尋ねたところ、「３．ふつう」が 56.9%と大半を占め、以下、「２．やや苦しい」（26.0%）、「１．大変苦しい」（8.2%）、「４．ややゆとりがある」（5.3%）、「５．大変ゆとりがある」（0.8%）と続いている。『苦しい』（「１．大変」＋「２．やや」）と回答した割合が 34.2%となっており、『ゆとりがある』（「４．やや」＋「５．大変」）（6.1%）と回答した割合を大きく上回っている。

年齢階級別にみると、『苦しい』と回答した割合は「70～74 歳」が 37.1%（9.3%+27.8%）と最も高く、『70 歳以上』では年齢が上がるにつれて『苦しい』と回答した割合が低くなる傾向がみられる。

現在の暮らしの経済的状況



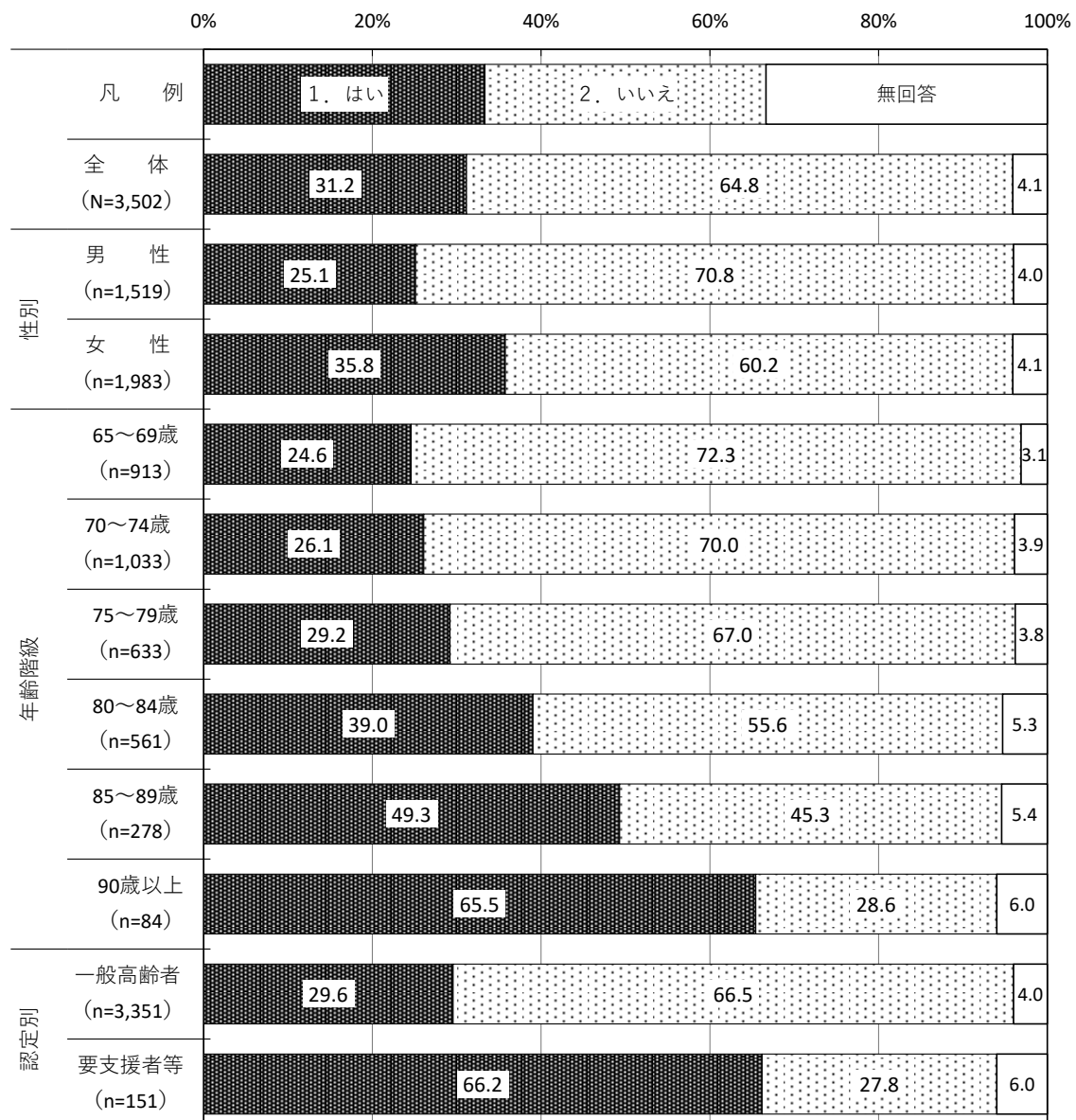
○外出の状況【問2（8）】

外出を控えているか尋ねたところ、64.8%が「控えていない（いいえ）」と回答している一方で、「控えている（はい）」割合が31.2%みられる。

外出を「控えている（はい）」割合に着目すると、男性に比べて女性の方が高く、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。要支援者等では「控えている（はい）」割合が66.2%と、一般高齢者（29.6%）を大きく上回っている。

※なお、今回のニーズ調査においては新型コロナウイルス感染症拡大による影響が収束していない時点での状況を伺ったものであるため、感染症流行以前あるいは収束後とは異なる傾向が抽出される可能性に留意しなくてはならない。本項目では、全体的に『外出を控えている』と回答した割合がコロナ禍前あるいはコロナ収束後よりも高くなる傾向が想定される。

外出を控えていますか



外出を「控えている」と回答した方にその理由を尋ねると、全体では「3. 足腰などの痛み」が42.0%と最も高く、以下、「9. 交通手段がない」(17.6%)、「7. 外での楽しみがない」(16.9%)、「4. トイレの心配」(16.5%)、「8. 経済的に出られない」(15.1%)と続いている。

男女別にみると、女性では男性に比べて「3. 足腰などの痛み」(男性：36.4%，女性：45.0%)及び「9. 交通手段がない」(男性：14.9%，女性：19.0%)と回答した割合がやや高い。一方、男性では女性に比べて「7. 外での楽しみがない」(男性：19.1%，女性：15.7%)と回答した割合がやや高くなっている。

年齢階級別にみると、「3. 足腰などの痛み」及び「4. トイレの心配」、「5. 耳の障害」などの項目については、上の年齢層の回答者ほど外出を控える理由として挙げる割合が高い。また、若い年齢層では「8. 経済的に出られない」とした割合が高い傾向にある。

認定別にみると、一般高齢者に比べて要支援者等では「3. 足腰などの痛み」(一般：39.3%，要支援者等：69.0%)、「4. トイレの心配」(一般：15.3%，要支援者等：28.0%)、「9. 交通手段がない」(一般：16.3%，要支援者等：30.0%)といった割合が高い。

属性	上段:実数 下段:横%	外出を控えている理由(複数回答)											
		合 計	1. 病気	2. 障害 (脳卒中 の後遺症 など)	3. 足腰 などの痛 み	4. トイレ の心配 (失禁な ど)	5. 耳の 障害(聞 こえの問 題など)	6. 目の 障害	7. 外で の楽しみ がない	8. 経済 的に出ら れない	9. 交通 手段がな い	10. その他	無回答
全 体		1,091	113	30	458	180	68	47	184	165	192	279	37
		—	10.4	2.7	42.0	16.5	6.2	4.3	16.9	15.1	17.6	25.6	3.4
性 別	男 性	382	45	17	139	72	18	18	73	54	57	92	13
		—	11.8	4.5	36.4	18.8	4.7	4.7	19.1	14.1	14.9	24.1	3.4
	女 性	709	68	13	319	108	50	29	111	111	135	187	24
		—	9.6	1.8	45.0	15.2	7.1	4.1	15.7	15.7	19.0	26.4	3.4
年 齢 階 級	65～69歳	225	27	9	63	18	4	6	39	43	23	78	10
		—	12.0	4.0	28.0	8.0	1.8	2.7	17.3	19.1	10.2	34.7	4.4
	70～74歳	270	29	7	98	31	7	10	41	56	36	77	14
		—	10.7	2.6	36.3	11.5	2.6	3.7	15.2	20.7	13.3	28.5	5.2
	75～79歳	185	16	5	81	30	6	8	38	26	39	53	3
		—	8.6	2.7	43.8	16.2	3.2	4.3	20.5	14.1	21.1	28.6	1.6
	80～84歳	219	25	6	108	49	21	15	31	26	52	38	4
		—	11.4	2.7	49.3	22.4	9.6	6.8	14.2	11.9	23.7	17.4	1.8
	85～89歳	137	12	3	73	34	18	8	24	12	32	20	5
		—	8.8	2.2	53.3	24.8	13.1	5.8	17.5	8.8	23.4	14.6	3.6
	90歳以上	55	4	0	35	18	12	0	11	2	10	13	1
		—	7.3	0.0	63.6	32.7	21.8	0.0	20.0	3.6	18.2	23.6	1.8
認 定 別	一般高齢者	991	101	23	389	152	55	43	167	155	162	267	37
		—	10.2	2.3	39.3	15.3	5.5	4.3	16.9	15.6	16.3	26.9	3.7
	要支援者等	100	12	7	69	28	13	4	17	10	30	12	0
		—	12.0	7.0	69.0	28.0	13.0	4.0	17.0	10.0	30.0	12.0	0.0

○移動手段【問2（9）】（表p.25参照）

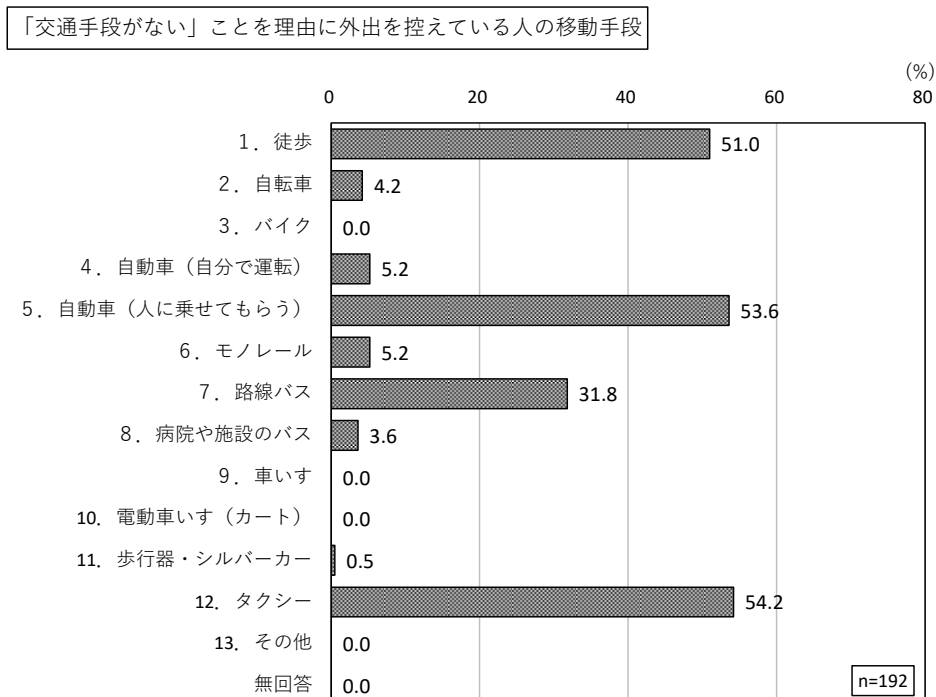
外出する際の移動手段についてみると（p.25参照）、全体では「4. 自動車（自分で運転）」が58.2%で最も高く、以下、「1. 徒歩」（38.0%）、「5. 自動車（人に乗せてもらう）」（25.9%）、「12. タクシー」（17.6%）、「7. 路線バス」（16.1%）と続いている。

男女別にみると、男性の場合は「4. 自動車（自分で運転）」を利用している割合が73.1%で最も高い。女性の場合も「4. 自動車（自分で運転）」（46.8%）による移動手段が最も高い一方で、次点が「5. 自動車（人に乗せてもらう）」（35.5%）となっており、自身以外の運転者と外出する傾向が女性は男性より強いことがうかがえる。

年齢階級別にみると、若い年齢層は「4. 自動車（自分で運転）」の割合が高く、上の年齢層では「5. 自動車（人に乗せてもらう）」の割合が高くなっている。

認定別でみると、一般高齢者の場合は「4. 自動車（自分で運転）」で移動する割合が60.5%で最も高く、次いで「1. 徒歩」（38.5%）となっている。一方、要支援者等の場合は、「5. 自動車（人に乗せてもらう）」が61.6%で最も高く、次いで「12. タクシー」（42.4%）となっている。

また、問2（8）①外出を控えている理由を尋ねた設問において、「9. 交通手段がない」と回答した方の移動手段をみると（以下グラフ）、「4. 自動車（自分で運転）」は5.2%にとどまり、市全体（58.2%）を大きく下回っている。一方で、「12. タクシー」（54.2%／市全体：17.6%）、「5. 自動車（人に乗せてもらう）」（53.6%／市全体：25.9%）、「7. 路線バス」（31.8%／市全体：16.1%）といった手段の割合が、市全体を大きく上回っている。



属性	上段:実数 下段:横%	外出する際の移動手段は何ですか(複数回答)								
		合 計	1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク	4. 自動車 (自分で運 転)	5. 自動車 (人に乗せ てもらう)	6. モノレ ール	7. 路線バ ス	
全 体		3,502 －	1,331 38.0	105 3.0	127 3.6	2,039 58.2	907 25.9	283 8.1	563 16.1	
性 別	男 性	1,519 －	577 38.0	68 4.5	107 7.0	1,110 73.1	203 13.4	128 8.4	186 12.2	
	女 性	1,983 －	754 38.0	37 1.9	20 1.0	929 46.8	704 35.5	155 7.8	377 19.0	
年 齢 階 級	65～69歳	913 －	327 35.8	37 4.1	53 5.8	669 73.3	161 17.6	71 7.8	121 13.3	
	70～74歳	1,033 －	382 37.0	33 3.2	47 4.5	697 67.5	191 18.5	82 7.9	158 15.3	
	75～79歳	633 －	270 42.7	15 2.4	12 1.9	377 59.6	161 25.4	73 11.5	127 20.1	
	80～84歳	561 －	215 38.3	13 2.3	14 2.5	226 40.3	199 35.5	38 6.8	102 18.2	
	85～89歳	278 －	109 39.2	4 1.4	1 0.4	60 21.6	138 49.6	17 6.1	48 17.3	
	90歳以上	84 －	28 33.3	3 3.6	0 0.0	10 11.9	57 67.9	2 2.4	7 8.3	
	認 定 別	一般高齢者	3,351 －	1,289 38.5	103 3.1	127 3.8	2,026 60.5	814 24.3	280 8.4	543 16.2
		要支援者等	151 －	42 27.8	2 1.3	0 0.0	13 8.6	93 61.6	3 2.0	20 13.2
		合 計	8. 病院や 施設のバス	9. 車いす	10. 電動車 いす(カー ト)	11. 歩行 器・シル バーカー	12. タク シー	13. その他	無回答	
全 体		3,502 －	35 1.0	9 0.3	4 0.1	13 0.4	618 17.6	2 0.1	117 3.3	
性 別	男 性	1,519 －	9 0.6	5 0.3	3 0.2	5 0.3	199 13.1	0 0.0	50 3.3	
	女 性	1,983 －	26 1.3	4 0.2	1 0.1	8 0.4	419 21.1	2 0.1	67 3.4	
年 齢 階 級	65～69歳	913 －	3 0.3	1 0.1	0 0.0	2 0.2	80 8.8	0 0.0	25 2.7	
	70～74歳	1,033 －	9 0.9	3 0.3	1 0.1	2 0.2	126 12.2	0 0.0	36 3.5	
	75～79歳	633 －	6 0.9	3 0.5	1 0.2	1 0.2	134 21.2	1 0.2	15 2.4	
	80～84歳	561 －	6 1.1	1 0.2	1 0.2	4 0.7	158 28.2	0 0.0	23 4.1	
	85～89歳	278 －	8 2.9	0 0.0	1 0.4	2 0.7	106 38.1	1 0.4	14 5.0	
	90歳以上	84 －	3 3.6	1 1.2	0 0.0	2 2.4	14 16.7	0 0.0	4 4.8	
	認 定 別	一般高齢者	3,351 －	15 0.4	7 0.2	4 0.1	7 0.2	554 16.5	2 0.1	108 3.2
		要支援者等	151 －	20 13.2	2 1.3	0 0.0	6 4.0	64 42.4	0 0.0	9 6.0

○運転免許証を返納することになった場合の外出する手段 【問2（9）①】

運転免許証を返納することになった場合の外出する手段をみると、全体で「1. 徒歩」が53.8%と最も高く、以下、「4. タクシー」(48.7%)、「3. 路線バス」(46.7%)、「2. 家族や友人の車に乗せてもらう」(45.4%)と続いている。

年齢階級別にみると、若い年齢層ほど「1. 徒歩」での外出を選択する割合が高い。また、「85～89歳」の65.6%と過半数以上が「2. 家族や友人の車」を移動手段として挙げている。

認定別にみると、一般高齢者では「1. 徒歩」が54.0%と最も高い一方で、要支援者等では「4. タクシー」が76.9%と最も高い割合の手段となっている。

属性	上段:実数 下段:横%	運転免許証を返納することになった場合の外出する手段(複数回答)								
		合 計	1. 徒歩	2. 家族 や友人の 車に乗せ てもらう	3. 路線 バス	4. タク シー	5. モノ レール	6. 出かける ことは 難しい	7. その他	無回答
全 体		2,088	1,123	948	976	1,016	537	73	25	139
		—	53.8	45.4	46.7	48.7	25.7	3.5	1.2	6.7
性 別	男 性	1,142	613	467	519	555	293	48	20	66
		—	53.7	40.9	45.4	48.6	25.7	4.2	1.8	5.8
	女 性	946	510	481	457	461	244	25	5	73
		—	53.9	50.8	48.3	48.7	25.8	2.6	0.5	7.7
年 齢 階 級	65～69歳	685	409	329	343	308	194	24	9	51
		—	59.7	48.0	50.1	45.0	28.3	3.5	1.3	7.4
	70～74歳	717	403	312	344	354	189	21	7	51
		—	56.2	43.5	48.0	49.4	26.4	2.9	1.0	7.1
	75～79歳	382	188	161	166	197	101	14	4	26
		—	49.2	42.1	43.5	51.6	26.4	3.7	1.0	6.8
	80～84歳	233	99	104	104	116	47	13	5	9
		—	42.5	44.6	44.6	49.8	20.2	5.6	2.1	3.9
	85～89歳	61	23	40	16	35	6	1	0	0
		—	37.7	65.6	26.2	57.4	9.8	1.6	0.0	0.0
	90歳以上	10	1	2	3	6	0	0	0	2
		—	10.0	20.0	30.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0
認 定 別	一般高齢者	2,075	1,120	942	974	1,006	535	73	25	139
		—	54.0	45.4	46.9	48.5	25.8	3.5	1.2	6.7
	要支援者等	13	3	6	2	10	2	0	0	0
		—	23.1	46.2	15.4	76.9	15.4	0.0	0.0	0.0

IV. 社会参加

(1) 知的能動性

1) 評価方法

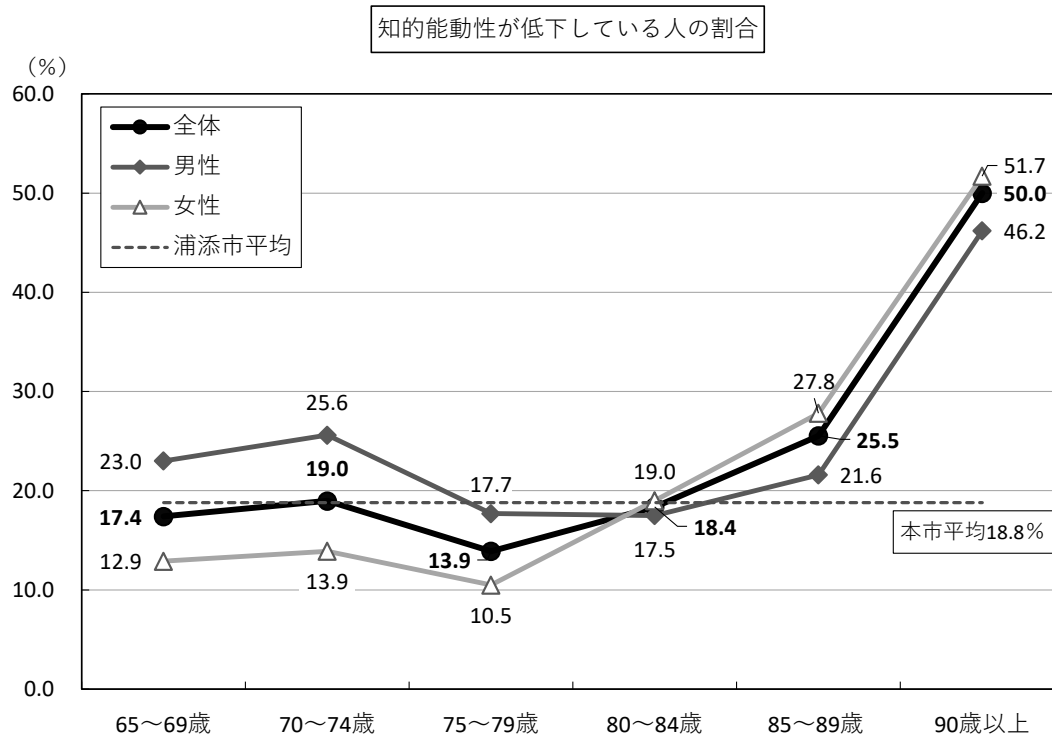
高齢者の知的活動を行う能力である「知的能動性」に関する4つの設問に「はい」と回答した場合を1点として4点満点で評価し、2点以下を「知的能動性が低下している方」とする。

■知的能動性の評価方法

設 問	該当する回答
問6 (9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」
問6 (10) 新聞を読んでいますか	「1. はい」
問6 (11) 本や雑誌を読んでいますか	「1. はい」
問6 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	「1. はい」

『知的能動性』が低下していると評価された回答者の割合は、本市平均で18.8%となっている。

『80歳未満』では女性に比べ男性の割合が高いものの、『80歳以上』からは女性の割合が急激に高まり、男性を上回った割合で推移している。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問をみると、問6（11）読書活動の該当率が68.8%と最も低い一方で、問6（12）健康への関心度の該当率が88.0%と最も高くなっている。

設 問（該当する回答）	該当率
問6（9）年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（はい）	84.5%
問6（10）新聞を読んでいますか（はい）	71.2%
問6（11）本や雑誌を読んでいますか（はい）	68.8%
問6（12）健康についての記事や番組に関心がありますか（はい）	88.0%

（2）社会的役割

1) 評価方法

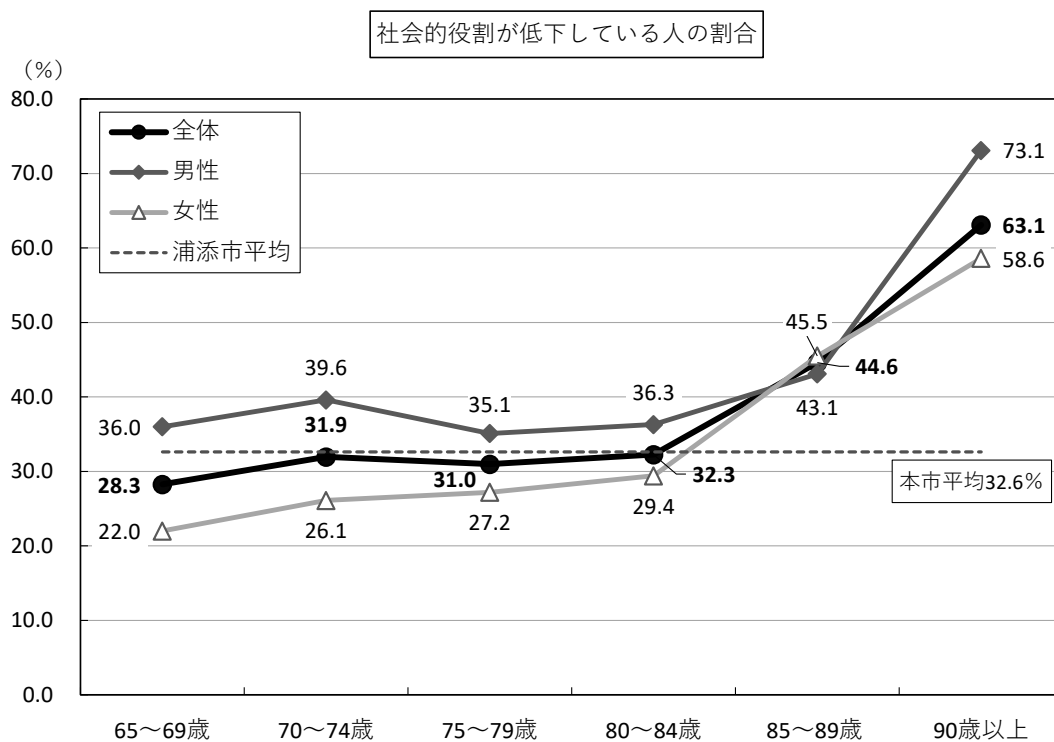
高齢者の社会参加を行う能力である「社会的役割」に関する4つの設問に「はい」と回答した場合を1点として4点満点で評価し、2点以下を「社会的役割が低下している方」とする。

■社会的役割の評価方法

設 問	該当する回答
問6（13）友人の家を訪ねていますか	「1. はい」
問6（14）家族や友人の相談にのっていますか	「1. はい」
問6（15）病人を見舞うことができますか	「1. はい」
問6（16）若い人に自分から話しかけることがありますか	「1. はい」

『社会的役割』が低下していると評価された割合は、本市平均で32.6%となっている。
社会的役割が低下している割合を年齢別にみると（グラフp.28 参照）、男女ともに、『85歳以上』から急激に低下者の割合が高くなる傾向が見うけられる。

※なお、今回のニーズ調査においては新型コロナウイルス感染症拡大による影響が収束していない時点での状況を伺ったものであるため、感染症流行以前あるいは収束後とは異なる傾向が抽出される可能性に留意しなくてはならない。本項目では、問6（13）友人宅への訪問交流に関する設問について、外出自粛の推奨を受けて「2. いいえ」と回答し、コロナ禍前あるいはコロナ収束後よりも低下者の割合が高まる傾向が想定される。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問をみると、問6（13）友人宅への訪問交流の該当率が 41.2%と最も低くなっている。

設 問（該当する回答）	該当率
問6（13）友人の家を訪ねていますか（はい）	41.2%
問6（14）家族や友人の相談にのっていますか（はい）	73.4%
問6（15）病人を見舞うことができますか（はい）	79.4%
問6（16）若い人に自分から話しかけることがありますか（はい）	74.0%

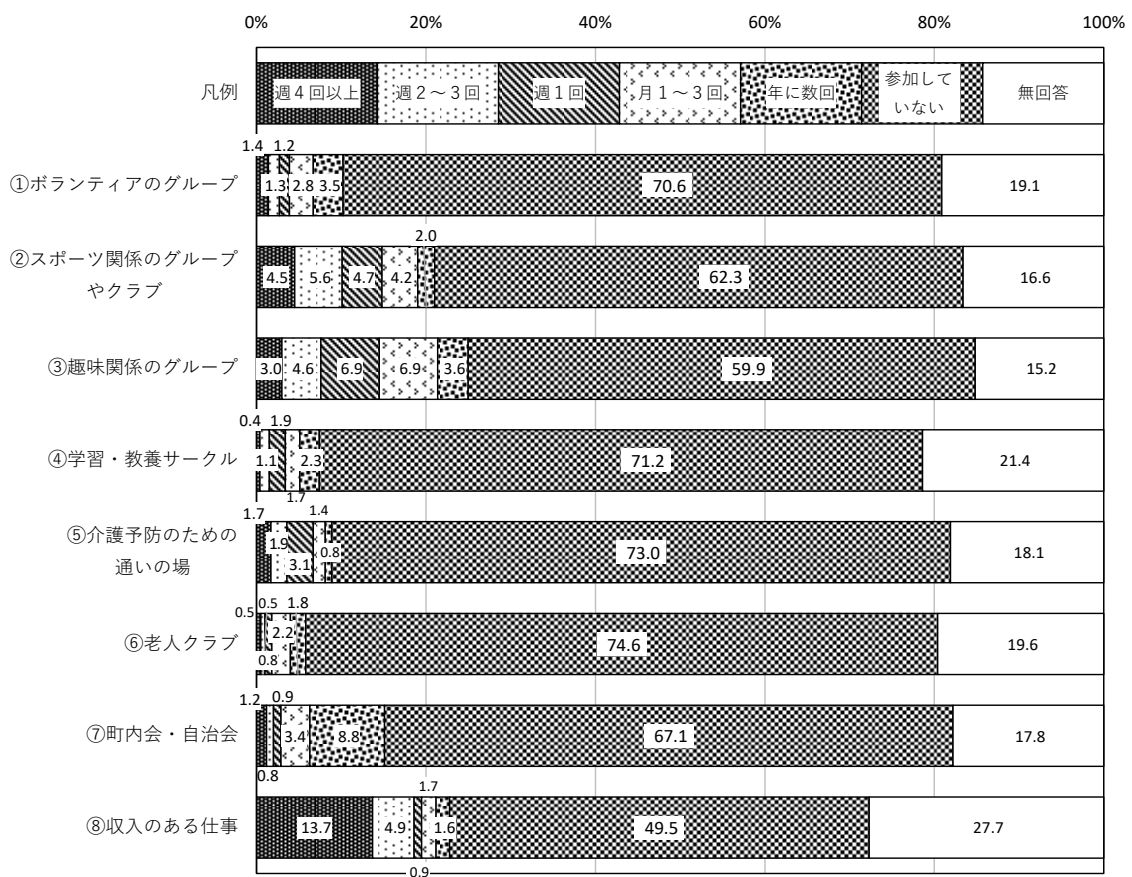
(3) 各グループへの参加頻度【問 30】

各グループへの参加頻度をみると、全てのグループに共通して「参加していない」割合が最も高く、『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）は、それぞれ1割弱～2割強となっている。

『参加している』回答者が多いグループとして「③趣味関係のグループ」が25.0%と最も高く、次いで「⑧収入のある仕事」が22.8%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が21.0%、「⑦町内会・自治会」が15.1%となっている。

一方、「⑥老人クラブ」へ『参加している』割合が最も低く、5.8%にとどまっている。

各グループへの参加頻度 (N=3,502)

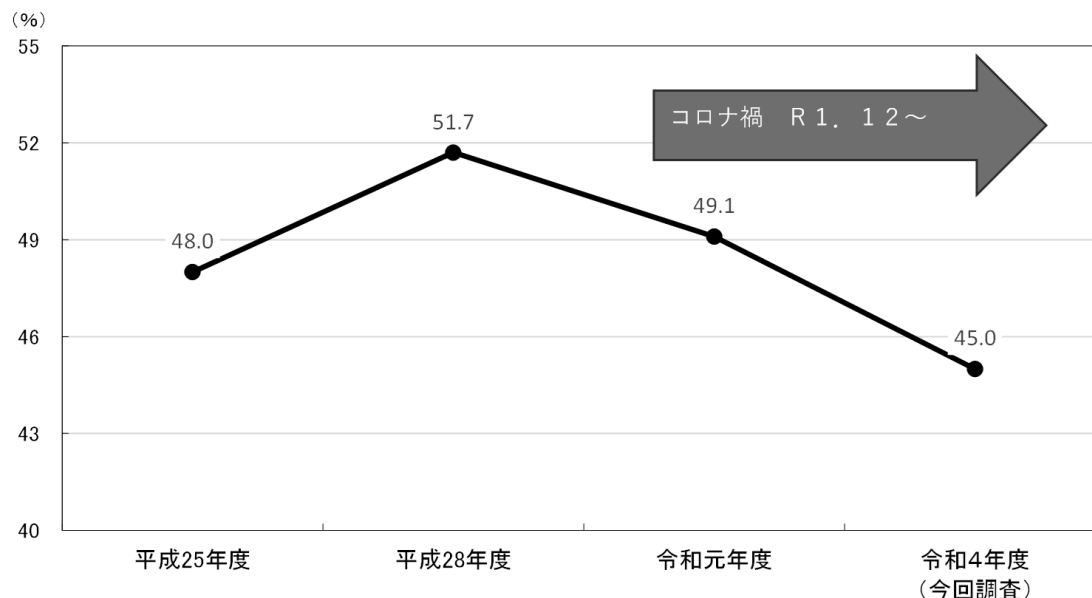


○地域活動の時系列変化について

地域活動への参加頻度から社会参加の現状を見るため、『週に1回以上何らかの活動をしている人』（「週4回以上」・「週2～3回」・「週1回」で①～⑧に1つでも参加している回答者）と『月数回の頻度で複数のグループ活動を行っている人』（「月1～3回」で①～⑧に2つ以上参加している回答者）を合わせて「積極的に社会参加を行っている人」とみなし、第四次でこ高齢者プラン以降の日常生活圏域ニーズ調査結果を活用して時系列変化を以下に整理した。

これをみると、本市の地域活動への参加者の割合は平成25年度調査から平成28年度調査にかけて高くなっているものの、それ以降は低下に転じている。令和元年度調査実施時期は令和2年初旬だったため、この頃より新型コロナウイルス流行の影響を受け地域活動への参加が抑制される傾向にあったことが想定される。

地域活動に週1回以上参加している方の割合の推移



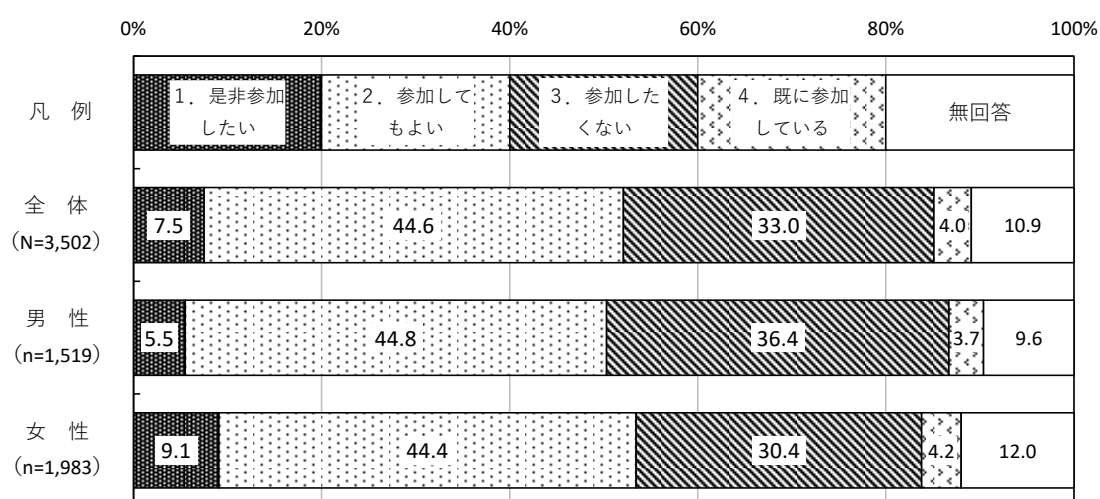
(4) 地域づくり活動への参加意向（参加者として、企画・運営として）

地域づくりへの参加意向を参加者としてみると、全体では『参加する』（「1. 是非参加したい」＋「2. 参加してもよい」＋「4. 既に参加している」）とした回答者が56.1%と半数以上を占めている。『参加する』と回答した割合を男女別にみると、男性が54.0%、女性が57.7%となっている。

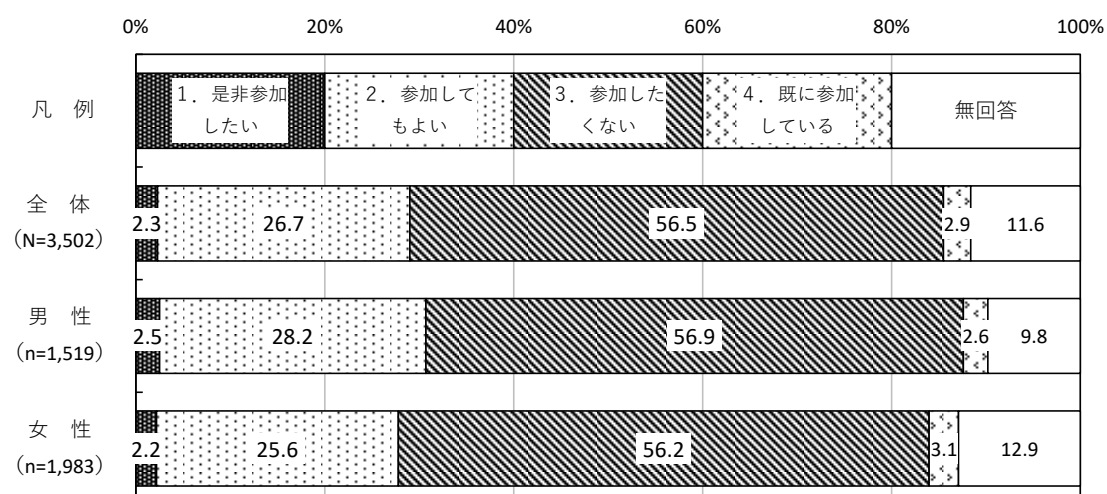
企画・運営としての参加意向をみると、全体では『参加する』が31.9%となっている。『企画・運営として参加する』と回答した割合を男女別にみると、男性が33.3%、女性は30.9%となっている。

地域づくりに対し『参加者として参加』する意向は6割弱（56.1%）見うけられるものの、『企画・運営として参加』する意向は3割強（31.9%）にとどまっている。

参加者としての地域づくり活動への参加意向



企画・運営としての地域づくり活動への参加意向



地域での活動全てに参加していない理由についてたずねると、「５．人との関わりがわずらわしい」が22.0%で最も高く、次いで「７．足腰が痛い(21.3%)」、「１．会やグループの存在を知らない(19.9%)」、「２．興味を引く活動が無い(19.4%)」と続いている。

年齢階級別にみると、上の年齢層の回答者ほど「７．足腰が痛い」や「８．体調や健康状態」、「９．トイレ」ということを理由として挙げている割合が高い。

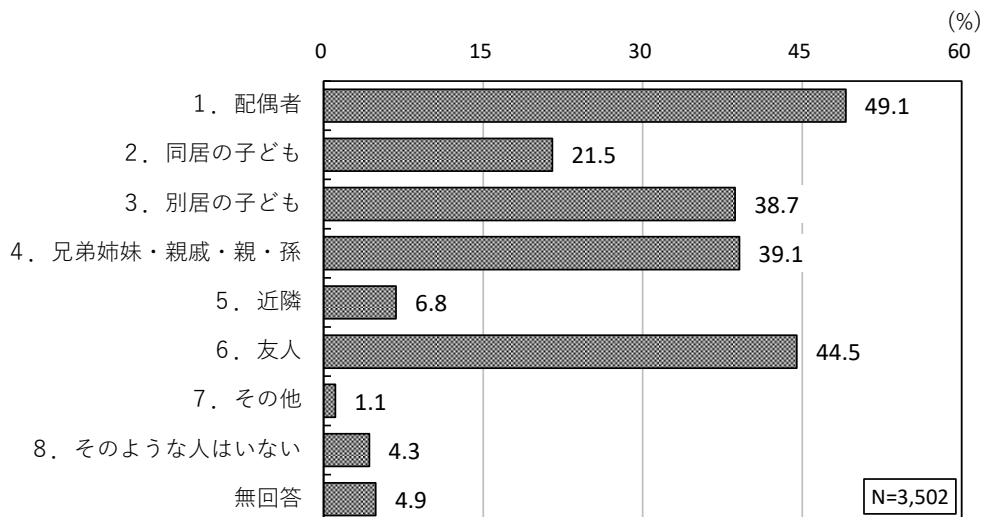
属性	上段:実数 下段:横%	地域での活動に参加していない理由(複数回答)							
		合 計	1. 会やグループの存在を知らない	2. 興味を引く活動がない	3. 日時が合わない	4. 一人での参加に不安がある	5. 人との関わりがわずらわしい	6. 移動手段がない	7. 足腰が痛い
全 体		1,653	329	320	184	219	363	177	352
		－	19.9	19.4	11.1	13.2	22.0	10.7	21.3
性別	男 性	695	149	164	70	69	181	45	112
		－	21.4	23.6	10.1	9.9	26.0	6.5	16.1
	女 性	958	180	156	114	150	182	132	240
		－	18.8	16.3	11.9	15.7	19.0	13.8	25.1
年齢階級	65～69歳	464	116	102	73	61	96	37	60
		－	25.0	22.0	15.7	13.1	20.7	8.0	12.9
	70～74歳	470	101	91	51	58	117	40	74
		－	21.5	19.4	10.9	12.3	24.9	8.5	15.7
	75～79歳	273	52	46	31	31	58	28	71
		－	19.0	16.8	11.4	11.4	21.2	10.3	26.0
	80～84歳	248	35	48	19	38	50	33	73
		－	14.1	19.4	7.7	15.3	20.2	13.3	29.4
	85～89歳	145	17	27	8	21	20	28	48
		－	11.7	18.6	5.5	14.5	13.8	19.3	33.1
	90歳以上	53	8	6	2	10	22	11	26
		－	15.1	11.3	3.8	18.9	41.5	20.8	49.1
認定別	一般高齢者	1,575	319	307	180	202	346	158	307
		－	20.3	19.5	11.4	12.8	22.0	10.0	19.5
	要支援者等	78	10	13	4	17	17	19	45
	－	12.8	16.7	5.1	21.8	21.8	24.4	57.7	
		合 計	8. 体調や健康状態に自信がない	9. トイレが心配	10. 忙しい	11. 特に理由はない	12. その他	無回答	
全 体		1,653	280	164	300	266	77	52	
		－	16.9	9.9	18.1	16.1	4.7	3.1	
性別	男 性	695	116	66	119	108	27	18	
		－	16.7	9.5	17.1	15.5	3.9	2.6	
	女 性	958	164	98	181	158	50	34	
		－	17.1	10.2	18.9	16.5	5.2	3.5	
年齢階級	65～69歳	464	55	26	108	54	24	26	
		－	11.9	5.6	23.3	11.6	5.2	5.6	
	70～74歳	470	58	26	98	90	20	11	
		－	12.3	5.5	20.9	19.1	4.3	2.3	
	75～79歳	273	51	35	47	51	8	7	
		－	18.7	12.8	17.2	18.7	2.9	2.6	
	80～84歳	248	51	34	29	49	16	3	
		－	20.6	13.7	11.7	19.8	6.5	1.2	
	85～89歳	145	45	27	15	16	9	4	
		－	31.0	18.6	10.3	11.0	6.2	2.8	
	90歳以上	53	20	16	3	6	0	1	
		－	37.7	30.2	5.7	11.3	0.0	1.9	
認定別	一般高齢者	1,575	243	140	297	263	76	51	
		－	15.4	8.9	18.9	16.7	4.8	3.2	
	要支援者等	78	37	24	3	3	1	1	
	－	47.4	30.8	3.8	3.8	1.3	1.3		

（５）「たすけあい」の状況

【あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人】

心配事や愚痴を聞いてくれる人として、「１．配偶者」が 49.1%と最も高く、「６．友人」(44.5%)、「４．兄弟姉妹・親戚・親・孫」(39.1%)、「３．別居の子ども」(38.7%)と続いている。一方、「８．そのような人はいない」と回答した割合が 4.3%みられる。

あなたの心配や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

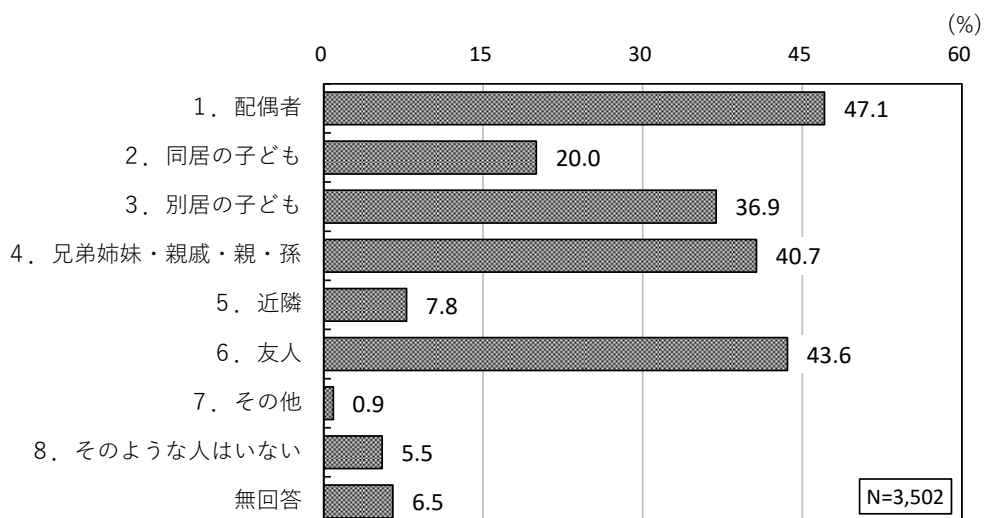


【反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人】

心配事や愚痴を聞いてあげる人として、「１．配偶者」が 47.1%と最も高く、「６．友人」(43.6%)、「４．兄弟姉妹・親戚・親・孫」(40.7%)、「３．別居の子ども」(36.9%)と続いている。

前述の『心配事や愚痴を聞いてくれる人』の結果と類似がみられる。

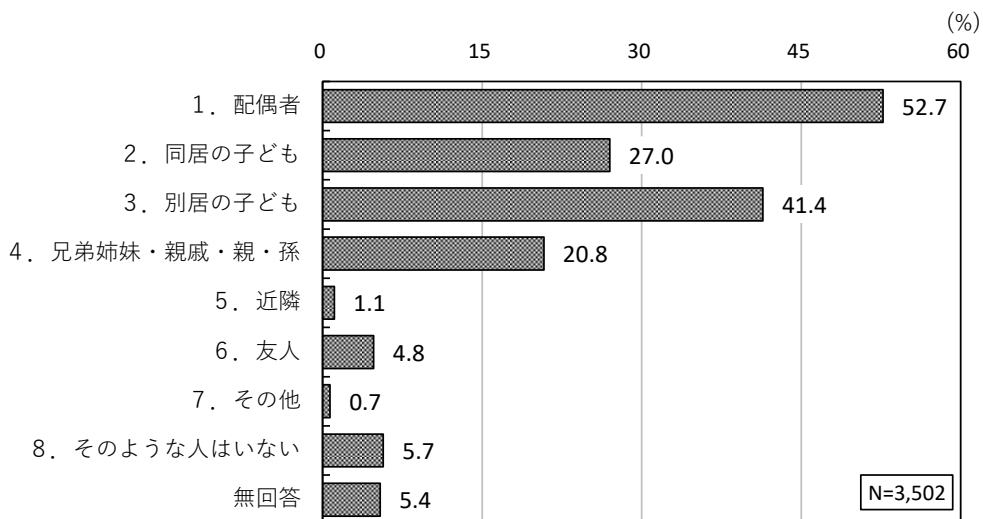
心配や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）



【あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人】

看病や世話をしてくれる人として、「1. 配偶者」が52.7%と最も高く、「3. 別居の子ども」(41.4%)、「2. 同居の子ども」(27.0%)と続いており、家族・親族の割合が高くなっている。一方、「8. そのような人はいない」と回答した割合が5.7%みられる。

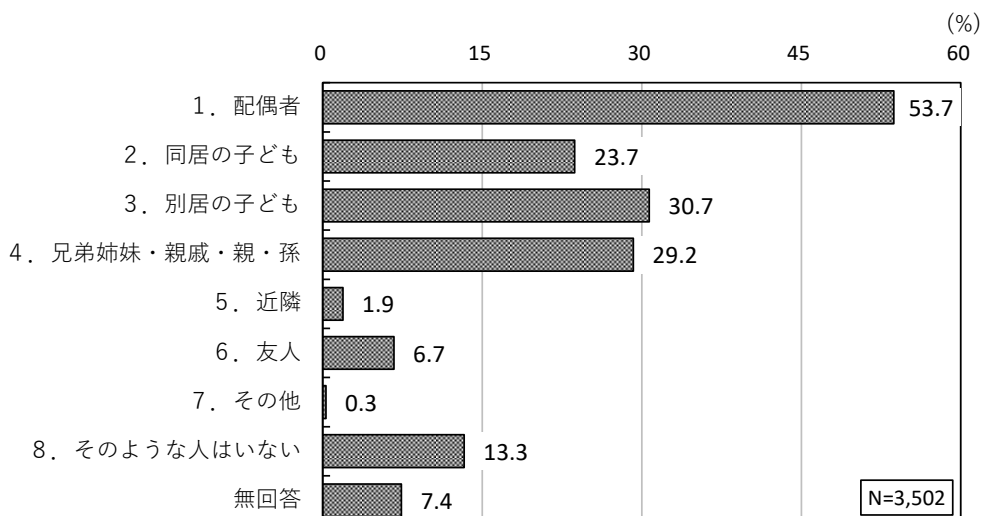
病気で数日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（複数回答）



【反対に、看病や世話をしてあげる人】

看病や世話をしてあげる人として、「1. 配偶者」が53.7%と最も高く、「3. 別居の子ども」(30.7%)、「4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫」(29.2%)と続いており、子どもや身近な親族の世話をしている様子が見えてくる。

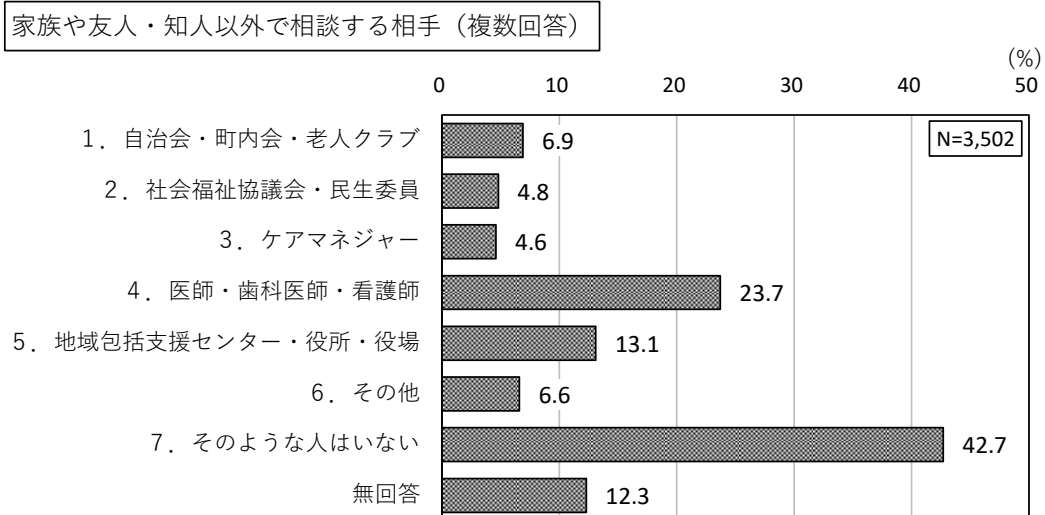
看病や世話をしてあげる人（複数回答）



【家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手】

家族や友人・知人以外で相談できる相手として、「7. そのような人はいない」が42.7%を占めている。

相談できる相手として挙げられた中では、「4. 医師・歯科医師・看護師」が23.7%と最も高く、「5. 地域包括支援センター・役所・役場」(13.1%)、「1. 自治会・町内会・老人クラブ」(6.9%)と続いている。

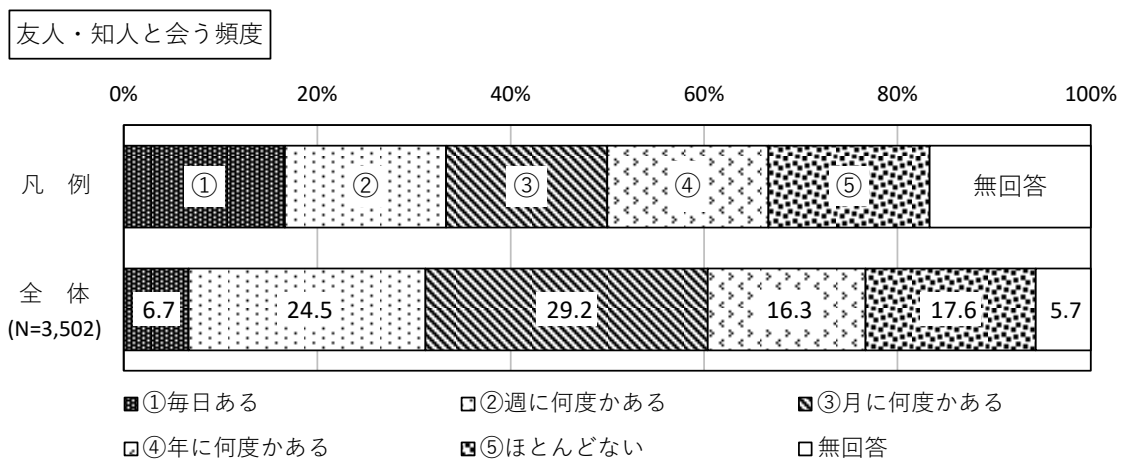


【友人・知人に会う頻度】

友人・知人に会う頻度として、「3. 月に何度かある」が29.2%と最も高く、「2. 週に何度かある」(24.5%)、「4. 年に何度かある」(16.3%)と続いており、『月に1回以上』(「1. 毎日ある」+「2. 週に何度かある」+「3. 月に何度かある」)が60.4%と大半を占める。一方、「5. ほとんどない」の回答も17.6%みられる。

また、閉じこもり傾向のクロス集計をみると、「5. ほとんどない」とした該当者は33.4%と、非該当者(13.4%)に比べて割合が高くなっている。

次に、うつ傾向のクロス集計をみると、「5. ほとんどない」とした該当者は22.4%となっており、非該当者(14.3%)に比べ、わずかに割合が高くなっている。



■ 閉じこもり傾向 × 友人・知人に会う頻度

上段:実数 下段:横%	合計	1. 毎日 ある	2. 週に何 度かある	3. 月に何 度かある	4. 年に何 度かある	5. ほとんど ない	無回答
全体	3,502	234	857	1,024	572	615	200
	100.0	6.7	24.5	29.2	16.3	17.6	5.7
該当	733	17	82	204	141	245	44
	100.0	2.3	11.2	27.8	19.2	33.4	6.0
非該当	2,769	217	775	820	431	370	156
	100.0	7.8	28.0	29.6	15.6	13.4	5.6

■ うつ傾向 × 友人・知人に会う頻度

上段:実数 下段:横%	合計	1. 毎日 ある	2. 週に何 度かある	3. 月に何 度かある	4. 年に何 度かある	5. ほとんど ない	無回答
全体	3,502	234	857	1,024	572	615	200
	100.0	6.7	24.5	29.2	16.3	17.6	5.7
該当	1,410	71	283	409	258	316	73
	100.0	5.0	20.1	29.0	18.3	22.4	5.2
非該当	2,092	163	574	615	314	299	127
	100.0	7.8	27.4	29.4	15.0	14.3	6.1

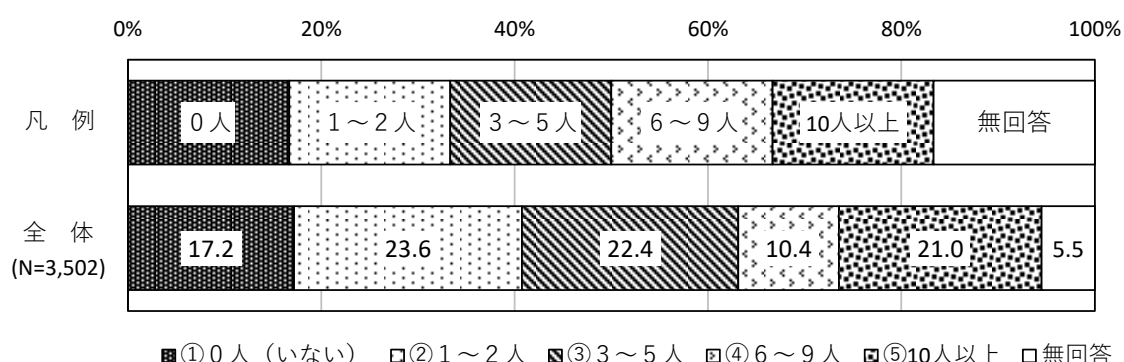
【この1ヶ月間、何人の友人・知人と会ったか】

この1ヶ月間で会った人数について、「1～2人」が23.6%と最も高く、「3～5人」(22.4%)、「10人以上」(21.0%)と続いている。一方、「0人(いない)」とした回答者も17.2%みられる。

また、閉じこもり傾向のクロス集計をみると、「0人(いない)」とした該当者は31.4%と、非該当(13.4%)に比べて割合が高くなっている。

次に、うつ傾向のクロス集計をみると、「0人(いない)」とした該当者は21.5%となっており、非該当(14.2%)に比べて割合が高くなっている。

この1ヶ月間で友人・知人と会った人数



■閉じこもり傾向×この1か月間で友人・知人と会った人数

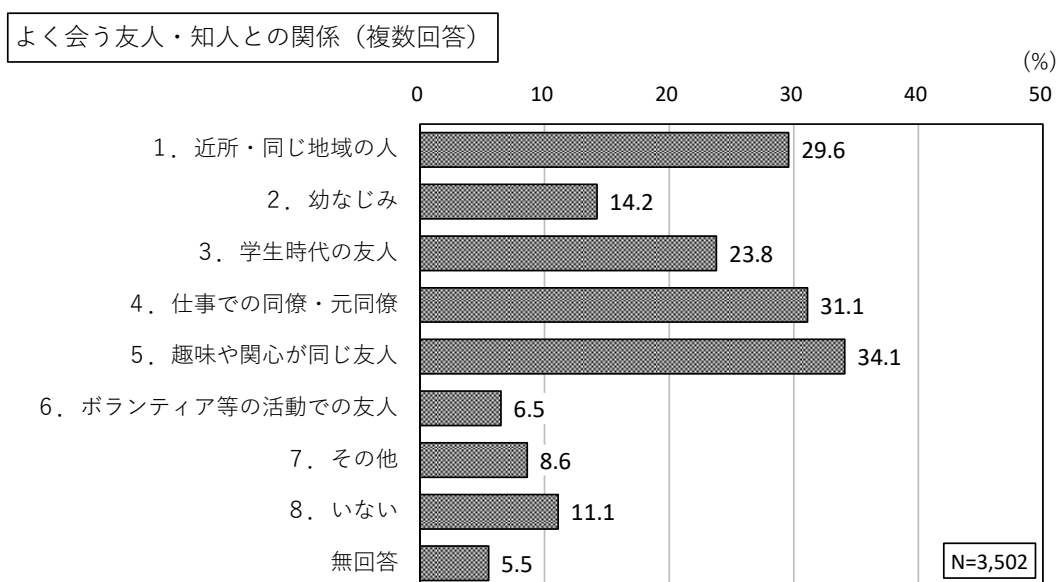
	上段:実数 下段:横%	合計	0人 (いない)	1～2人	3～5人	6～9人	10人 以上	無回答
全体		3,502	601	826	784	363	734	194
		100.0	17.2	23.6	22.4	10.4	21.0	5.5
該当		733	230	232	130	39	56	46
		100.0	31.4	31.7	17.7	5.3	7.6	6.3
非該当		2,769	371	594	654	324	678	148
		100.0	13.4	21.5	23.6	11.7	24.5	5.3

■うつ傾向×この1か月間で友人・知人と会った人数

	上段:実数 下段:横%	合計	0人 (いない)	1～2人	3～5人	6～9人	10人 以上	無回答
全体		3,502	601	826	784	363	734	194
		100.0	17.2	23.6	22.4	10.4	21.0	5.5
該当		1,410	303	374	313	124	227	69
		100.0	21.5	26.5	22.2	8.8	16.1	4.9
非該当		2,092	298	452	471	239	507	125
		100.0	14.2	21.6	22.5	11.4	24.2	6.0

【よく会う友人・知人との関係】

よく会う友人・知人との関係について、「5. 趣味や関心が同じ友人」が34.1%と最も高く、「4. 仕事での同僚・元同僚」(31.1%)、「1. 近所・同じ地域の人」(29.6%)と続いている。



V. 健康・疾病

1. 健康

(1) 咀嚼

1) 評価方法

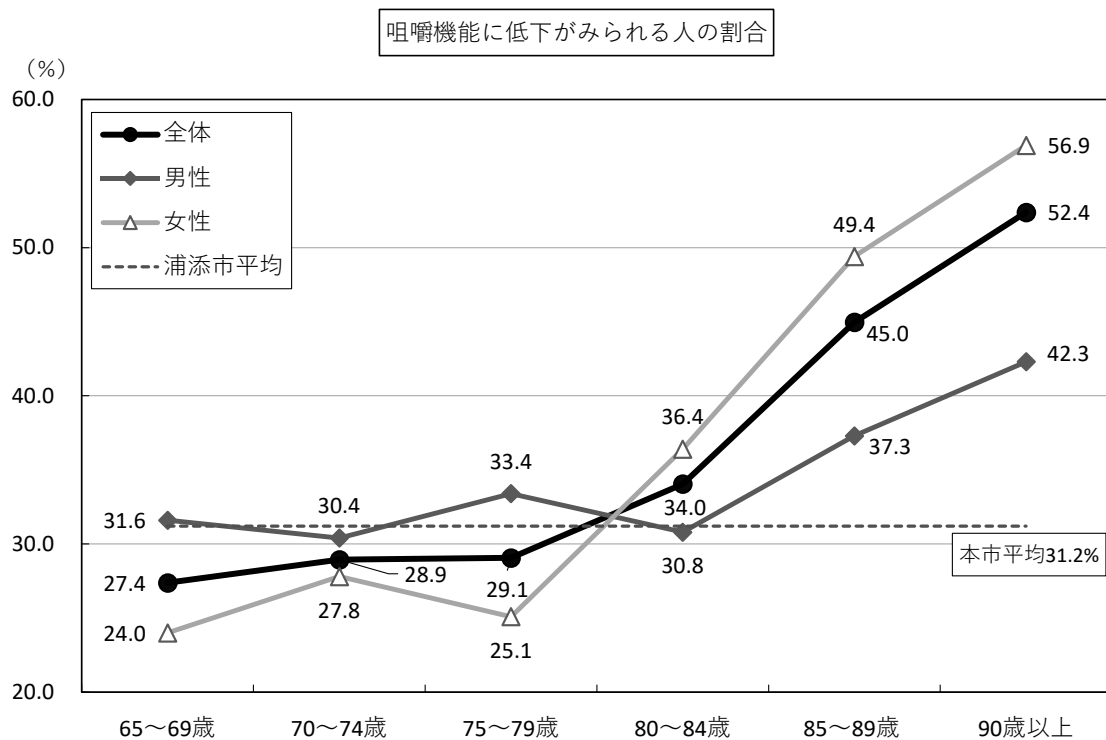
咀嚼に関する設問 1 項目について、該当する回答を行った場合を「該当者」とする。

■咀嚼の評価方法

設 問	該当する回答
問 3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」

『咀嚼』の項目での該当者の割合は、本市平均で 31.2%となっており、約 3 人に 1 人は咀嚼機能の低下がみられる。

該当者の割合を男女別にみると、女性の場合は『75 歳以上』から、男性の場合は『80 歳以上』から該当率が高くなる傾向がうかがえる。



2) 回答状況

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問 3 (2) 固いものの咀嚼に関する該当率は 31.2%となっている。

設 問 (該当する回答)	該当率
問 3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (はい)	31.2%

（２）聞こえ

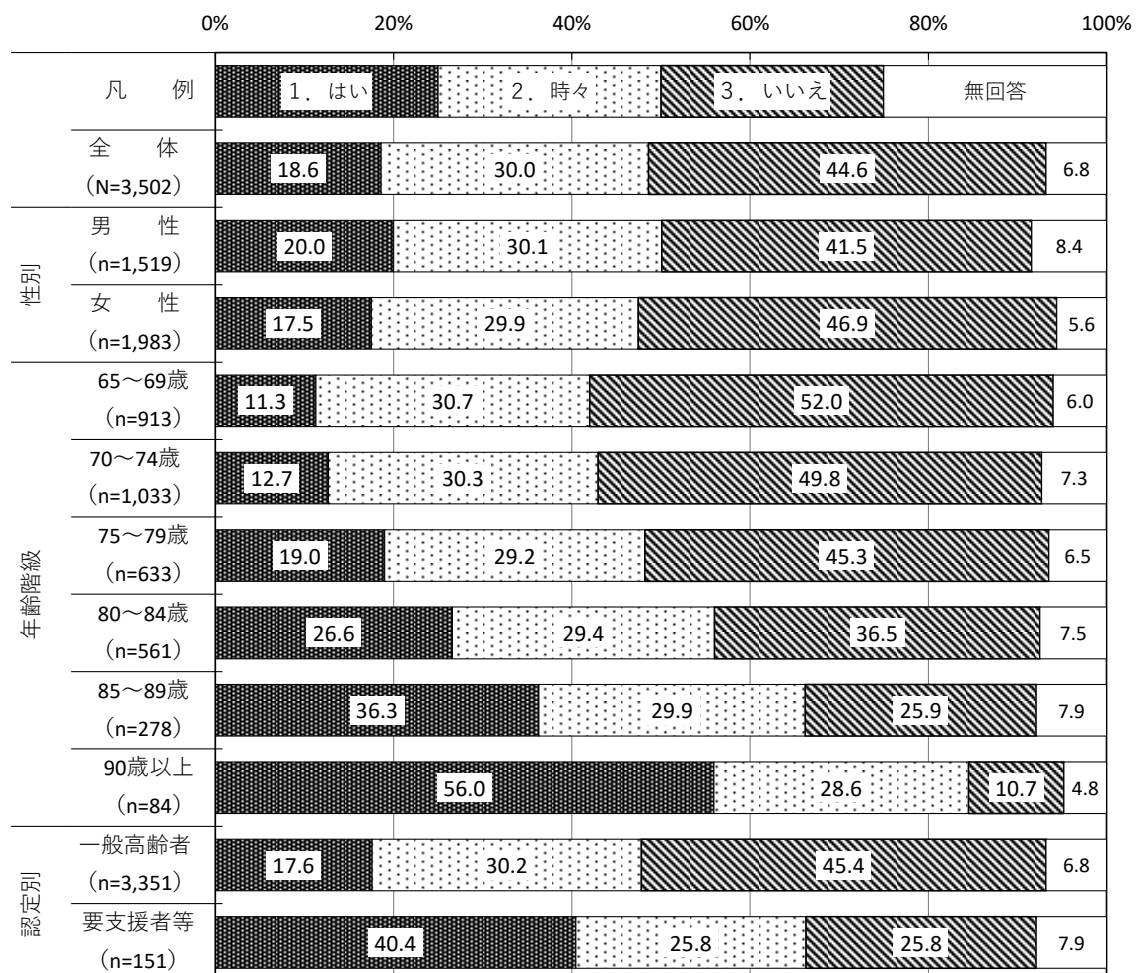
【相手の声が聞き取りにくいことがあるか】

聞こえについて、相手の声が聞き取りにくいことがあるか尋ねたところ、「いいえ」が44.6%、「時々」が30.0%、「はい」が18.6%となっており、『聞き取りにくいことがある』（「はい」＋「時々」）が48.6%と約半数みられる。

『聞き取りにくいことがある』と回答した割合に着目すると、女性に比べて男性の割合がやや高くなっている。また、年齢が上がるにつれ聞き取りにくくなる割合は高くなっており、「80～84歳」では約半数の56.0%、「90歳以上」では84.6%にのぼる。

認定別でみると、要支援者等では66.2%と、一般高齢者（47.8%）を上回っている。

相手の声が聞き取りにくいことがありますか



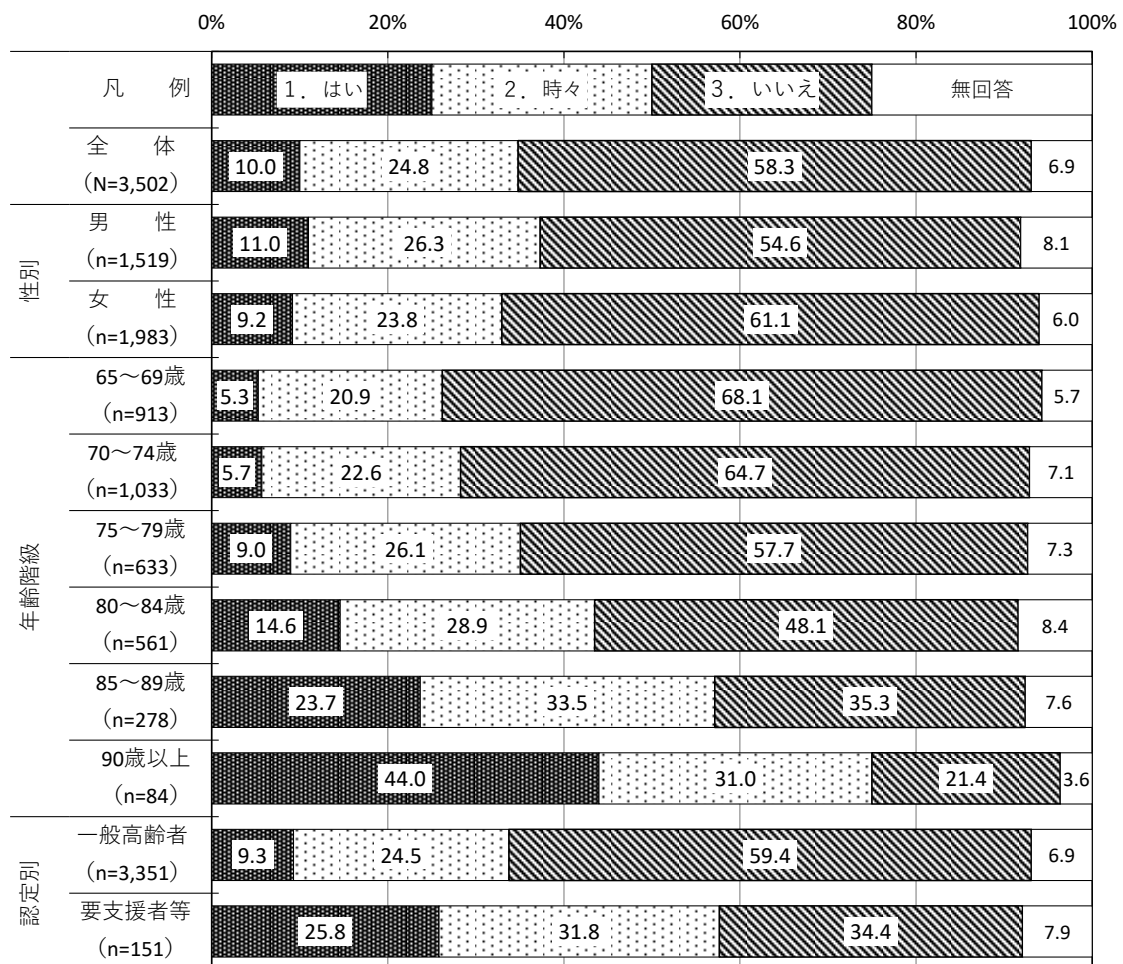
【相手の話す内容が理解しづらいことがあるか】

相手の話す内容が理解しづらいことがあるか尋ねたところ、「いいえ」が 58.3%、「時々」が 24.8%、「はい」が 10.0%となっており、『内容が理解しづらいことがある』（「はい」＋「時々」）が 34.8%みられる。

『内容が理解しづらいことがある』と回答した割合に着目すると、女性に比べて男性の割合がやや高くなっている。また、年齢が上がるにつれて理解しづらくなる割合は高くなっており、「80～84 歳」では約半数の 43.5%、「90 歳以上」では 75.0%にのぼる。

認定別でみると、要支援者等では 57.6%と、一般高齢者（33.8%）を大きく上回っている。

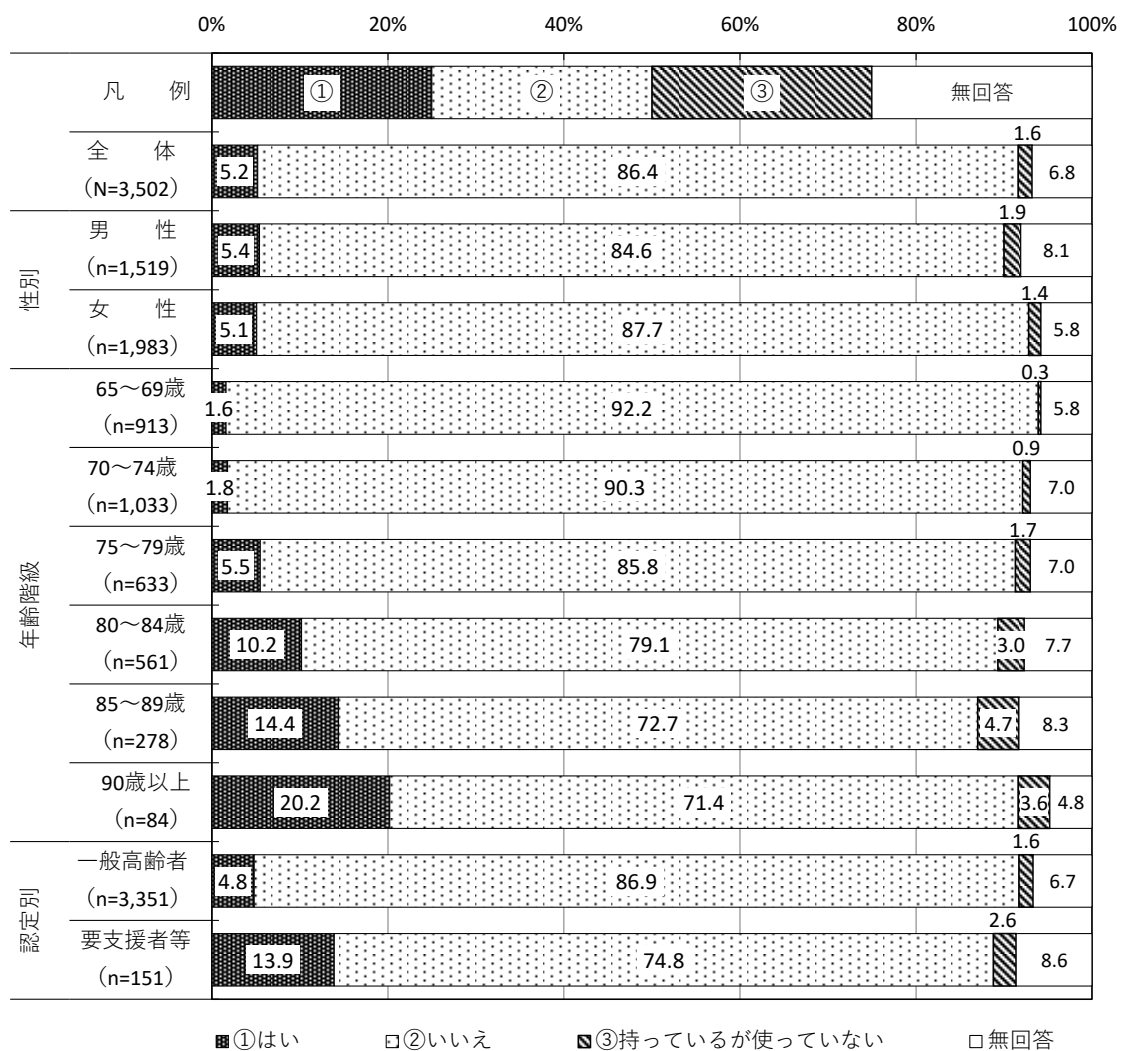
以前と比べて相手の話す内容が理解しづらいことがありますか



【補聴器を使用しているか】

前設問において、相手の声が『聞き取りにくいことがある』と回答した割合が 48.6% みられる一方で、補聴器を使用している方は 5.2%にとどまっている。年齢が上がるにつれて使用率は高くなるものの、「90 歳以上」でも 20.2%程度しか補聴器を使用しておらず、8 割近い回答者は補聴器を持っていないか、持っていても使用していない状況が見られる。

補聴器を使用していますか

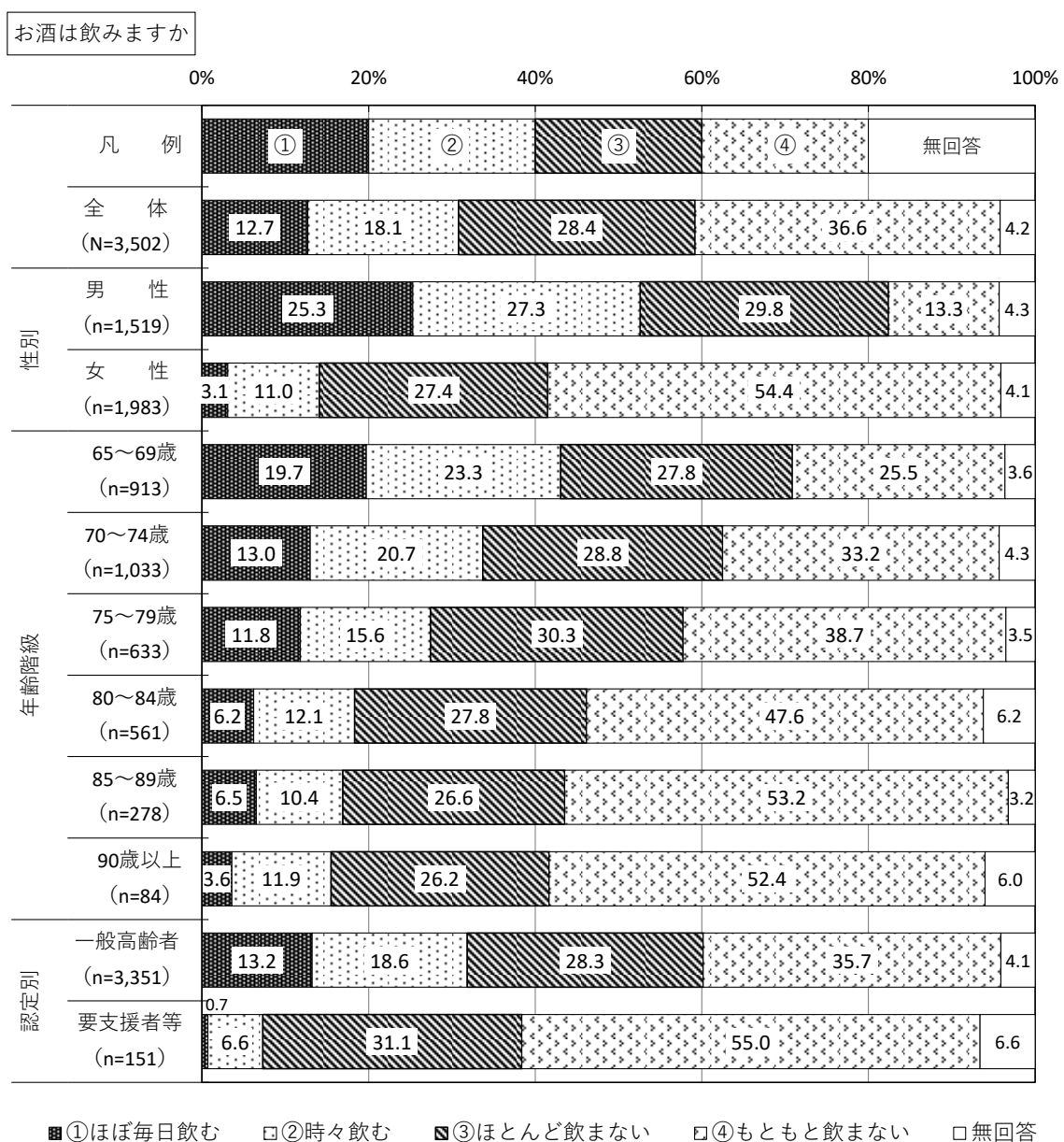


(3) 飲酒習慣

飲酒の習慣について、「4. もともと飲まない」が36.6%と最も高く、以下、「3. ほとんど飲まない」(28.4%)、「2. 時々飲む」(18.1%)、「1. ほぼ毎日飲む」(12.7%)と続いている。

性別により大きな差がみられ、男性に比べて女性では「4. もともと飲まない」(54.4%)と回答した割合が半数程度を占めており、一方で女性に比べて男性では「1. ほぼ毎日飲む」(25.3%)及び「2. 時々飲む」(27.3%)と回答した割合が高い。

なお、要支援者等では「1. ほぼ毎日飲む」(0.7%)及び「2. 時々飲む」(6.6%)との回答はわずかな割合となっている。



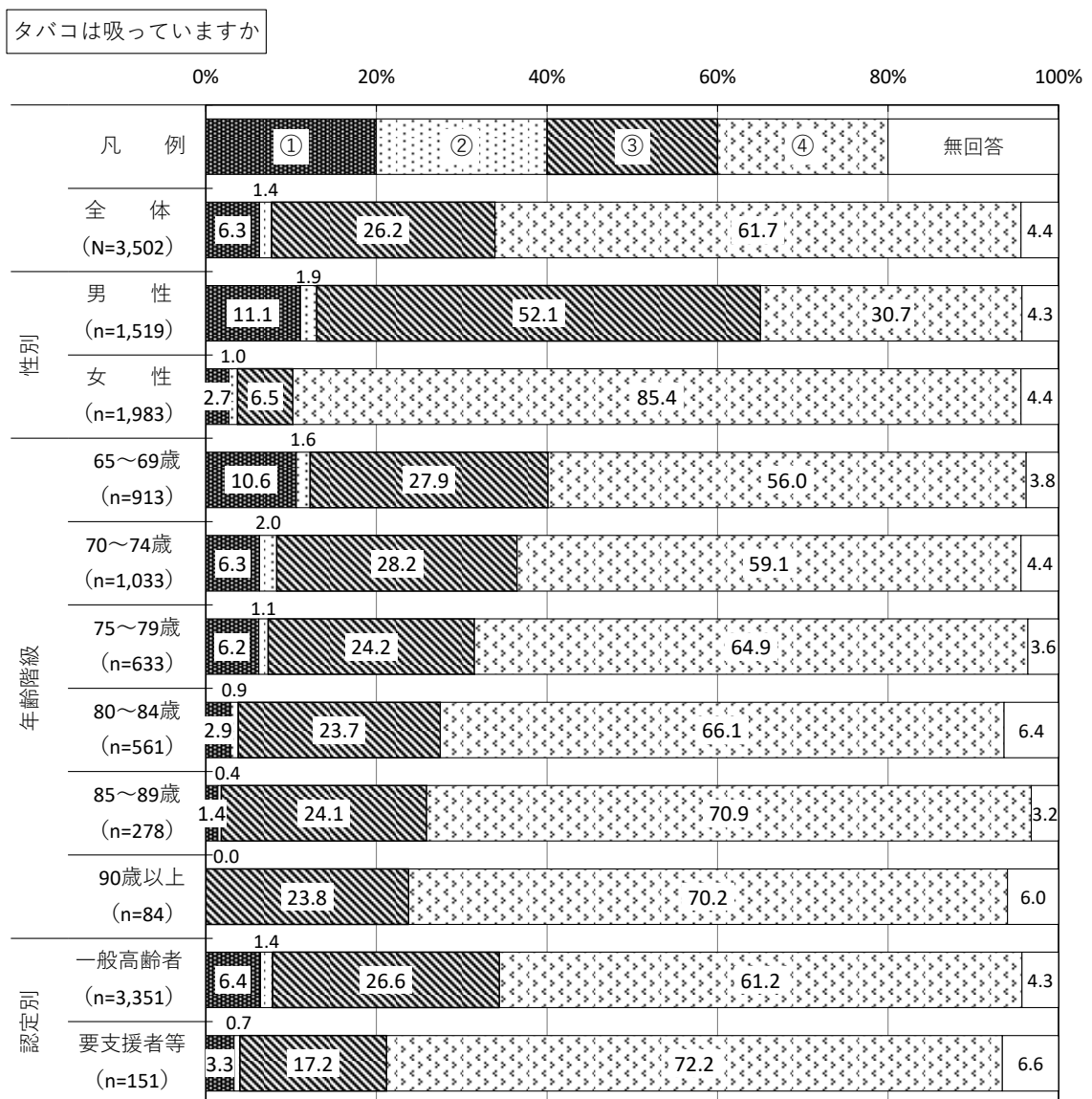
(4) 喫煙習慣

喫煙の習慣について、「4. もともと吸っていない」が61.7%を占め、次いで「3. 吸っていたがやめた」(26.2%)となっており、『吸っている』(「1. ほぼ毎日」+「2. 時々」)割合は7.7%にとどまる。

性別により大きな差がみられ、男性に比べて女性では「4. もともと吸っていない」(85.4%)とした回答が殆どを占めており、逆に女性に比べて男性では「1. ほぼ毎日吸っている」(11.1%)及び「3. 吸っていたがやめた」(52.1%)と回答した割合が高い。

年齢階級別にみると、若い年代ほど「1. ほぼ毎日吸っている」とした割合が高く、「65～69歳」では10.6%となっている。

なお、要支援者等では、『吸っている』(4.0%)とした回答はわずかな割合となっている。



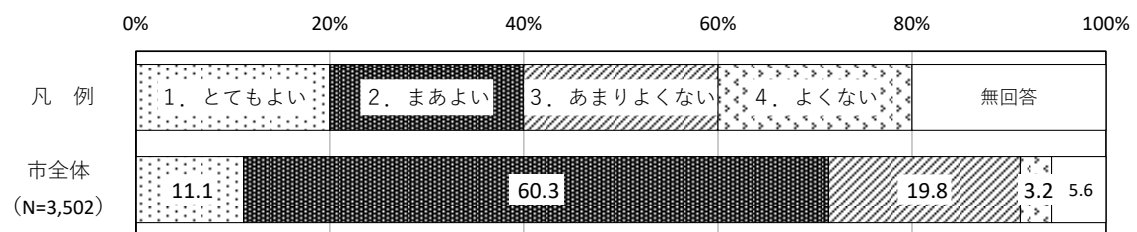
■①ほぼ毎日吸っている □②時々吸っている ■③吸っていたがやめた □④もともと吸っていない □無回答

（５）主観的健康感

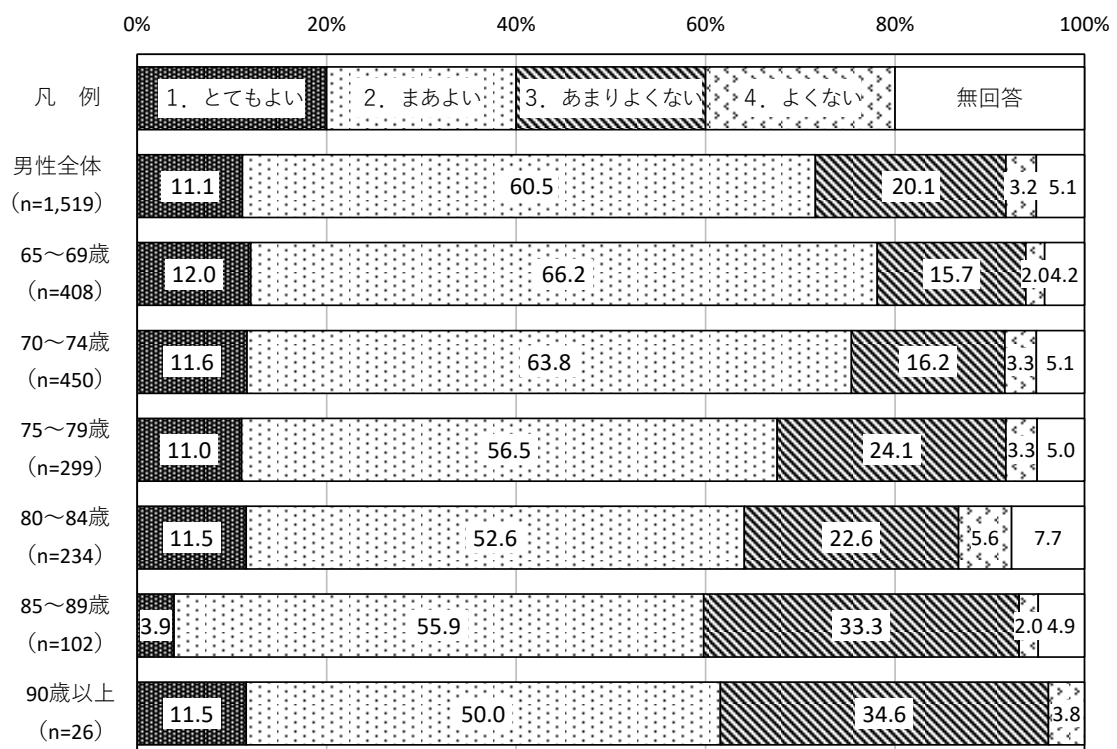
１）回答結果

男女ともに年齢が上がるにつれ、『健康群』（「１．とてもよい」＋「２．まあよい」）の割合が低くなり、『不健康群』（「３．あまりよくない」＋「４．よくない」）が高くなる傾向がみられる。

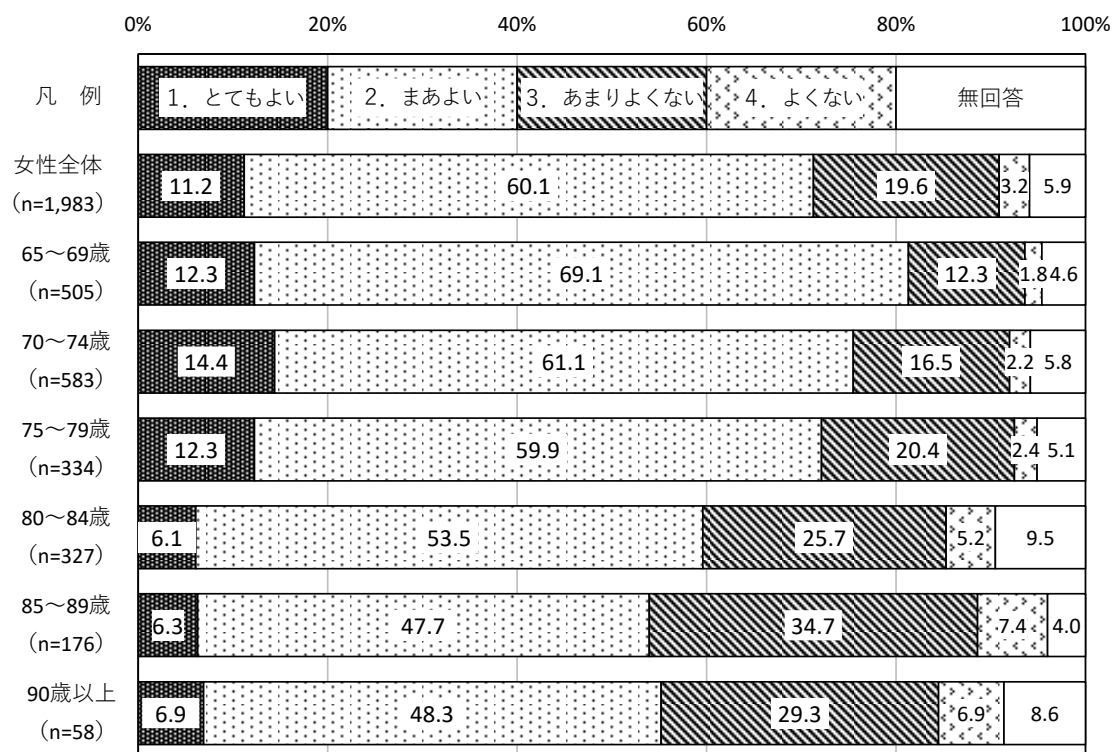
主観的健康感（市全体）



主観的健康感（男性）



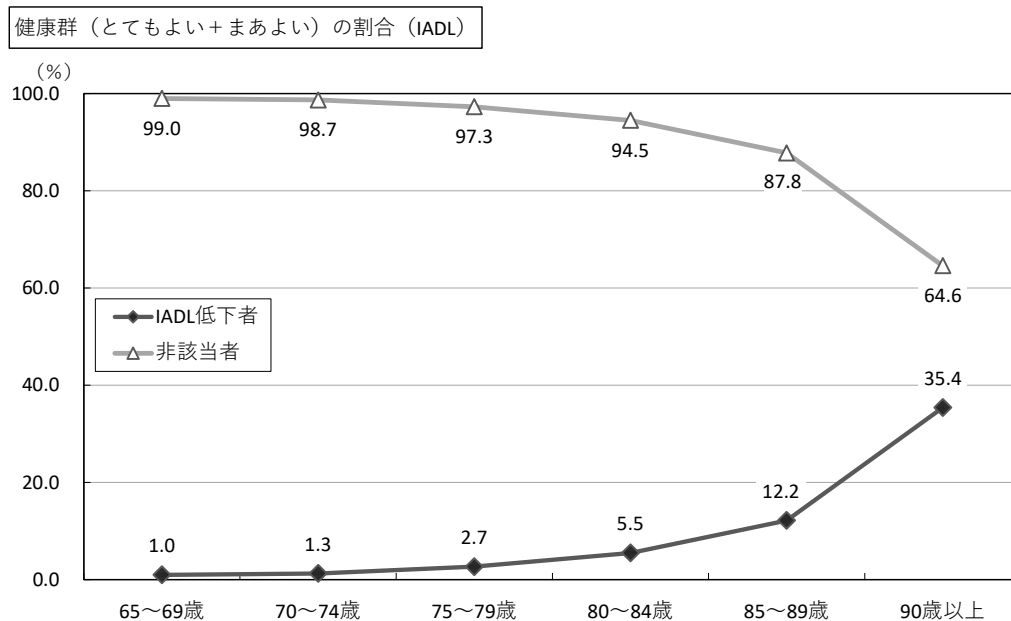
主観的健康感（女性）



2) 属性別の健康群の割合 (IADL、知的能動性、社会的役割、介護予防活動)

【IADL】

日常生活の中でも高度な動作を示す「IADL (手段的自立度)」の低下者 (リスク該当者)・非該当者別に『健康群』の割合をみると、リスク非該当者は高い割合の健康群に位置しているのに対し、IADL 低下者では自身の健康状態を『よい』とした回答者が殆ど見うけられなかった。一方で、『80 歳以上』からはリスク非該当者においても健康群の割合が低くなる傾向にあり、IADL 低下者・非該当者ともに割合が近づく傾向にあった。

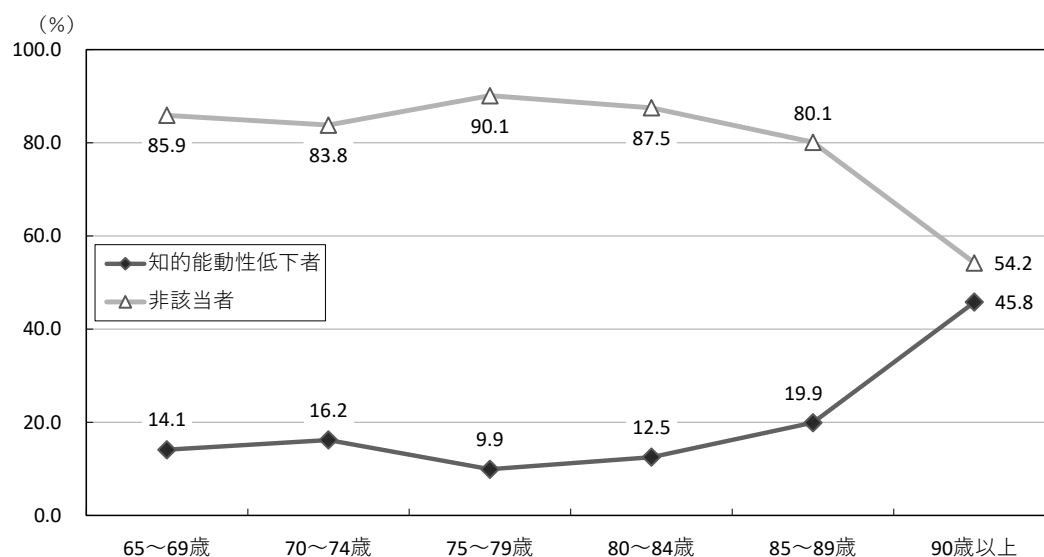


【知的能動性】

高齢者の知的活動を行う能力を示す「知的能動性」別に『健康群』の割合をみると、リスク非該当者は高い割合の傾向群を推移している一方で、知的能動性低下者 (リスク該当者) は自身の健康状態を『よい』とした回答者が少ない傾向にあった。

IADL の傾向と同様、知的能動性の健康群も上の年齢層へ推移するごとにリスク非該当者と該当者の差が縮まっており、「90 歳以上」においては両者ともに健康状態を『よい』とした回答者は5割前後にとどまった。

健康群（とてもよい+まあよい）の割合（知的能動性）

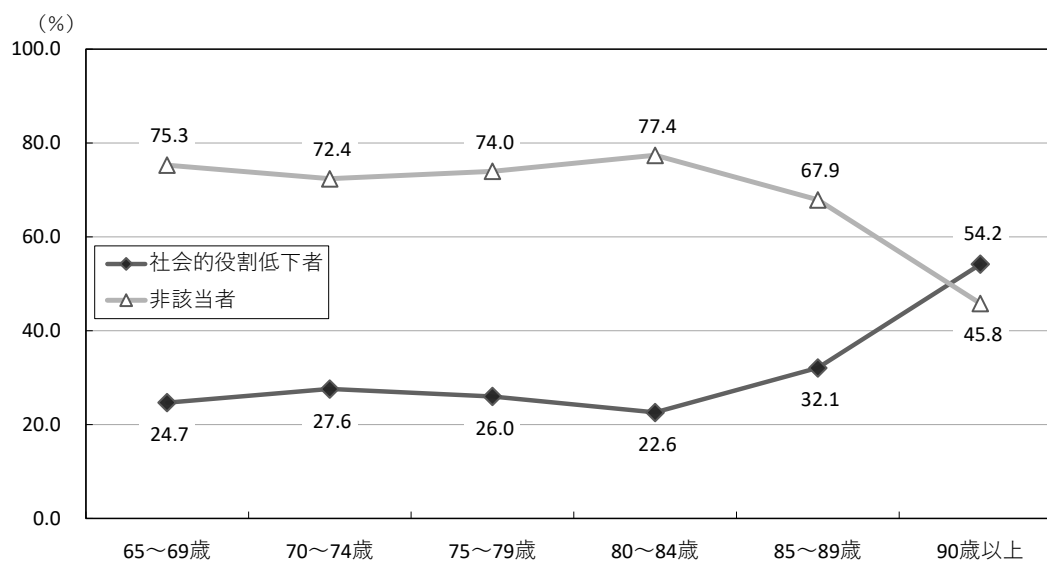


【社会的役割】

高齢者が社会参加を行っている程度を示す「社会的役割」の低下者（リスク該当者）・非該当者別に『健康群』の割合をみると、『65歳から89歳まで』の回答者で自身の健康状態を『よい』とみなしている方は、リスク非該当者が7割程度、社会的役割低下者が2～3割程となっていた。一方で、「90歳以上」において自身の健康状態を『よい』とみなしている方は、リスク非該当者で45.8%、社会的役割低下者で54.2%となっており、これまでの年齢階層の優位下位が逆転している。

この結果については、年齢層が高い人ほどそもそも老化や身体状況を要因として社会的役割が低下する傾向にある人が多くなることから、実人数の逆転により一部の回答傾向が極端に表出した可能性等が想定される。

健康群（とてもよい+まあよい）の割合（社会的役割）

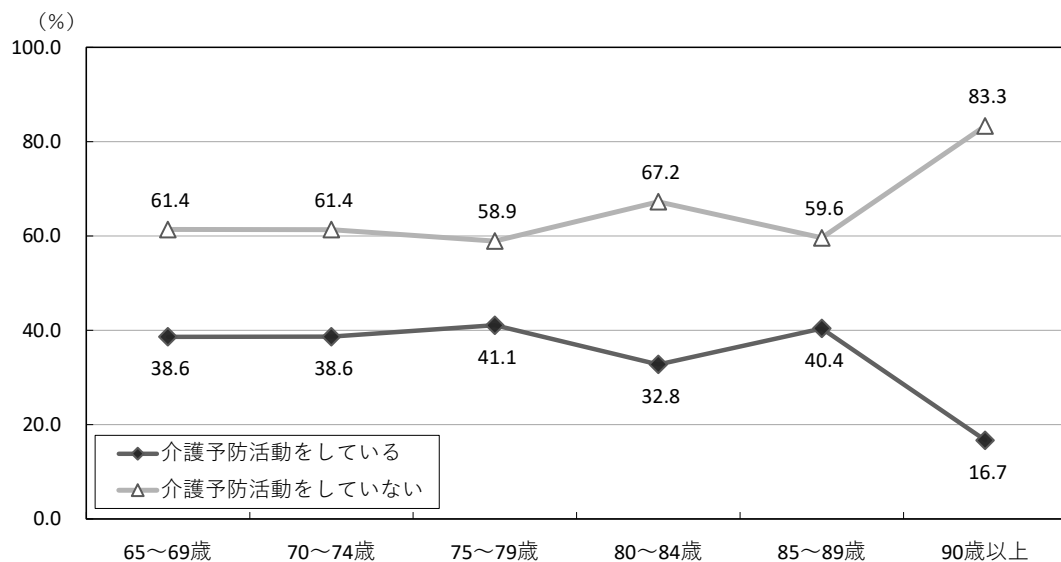


【介護予防活動】

高齢者の介護予防活動の実施状況別に『健康群』の割合をみると、介護予防活動をしていない回答者ほど高い割合の健康群に、介護予防活動をしている回答者ほど低い割合の健康群に位置している。

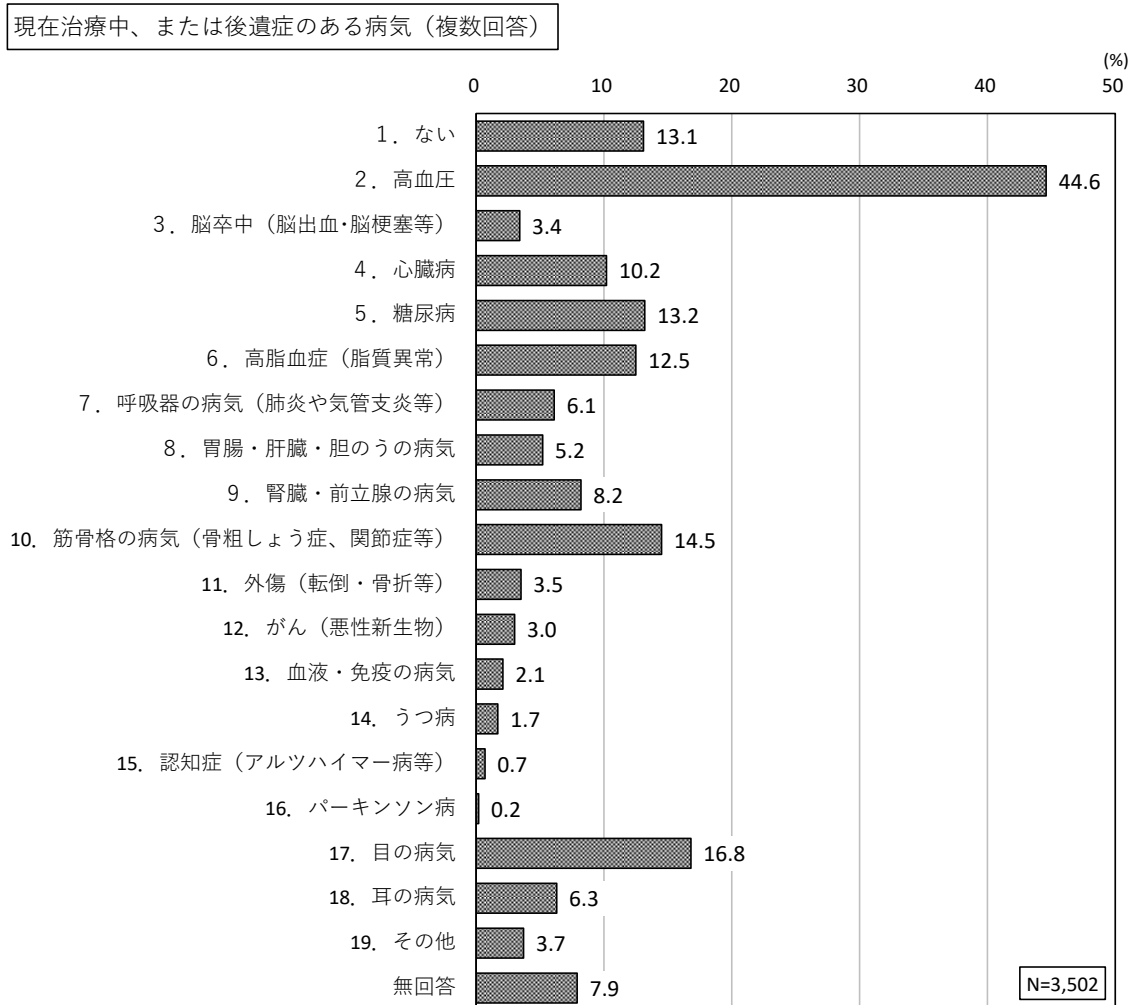
この結果については、上の年齢層の場合『健康であるため介護予防活動をしていない』方や、『介護予防活動をしている人がそもそも少ない』・『健康状態がよくないため介護予防活動をしている』方が多い等の要因が想定される。また、「90歳以上」においては、廊下や身体状況を要因として「介護予防活動をしていない」方や「健康状態がよくない」方等が多いものと考えられる。

健康群（とてもよい+まあよい）の割合（介護予防活動）



2. 疾病

現在治療中、または後遺症のある病気は、「2. 高血圧」が44.6%と最も高く、次いで「17. 目の病気」(16.8%)、「10. 筋骨格の病気」(14.5%)、「5. 糖尿病」(13.2%)、「6. 高脂血症(脂質異常)」(12.5%)となっている。



属性	上段:実数 下段:横%	現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(複数回答)										
		合 計	1. ない	2. 高血圧	3. 脳卒中 (脳出血・脳 梗塞等)	4. 心臓病	5. 糖尿病	6. 高脂血 症(脂質異 常)	7. 呼吸器 の病気(肺 炎や気管支 炎等)	8. 胃腸・肝 臓・胆のう の病気	9. 腎臓・前 立腺の病気	10. 筋骨格 の病気(骨 粗しょう症、 関節症等)
全 体		3,502 -	459 13.1	1,562 44.6	119 3.4	358 10.2	462 13.2	439 12.5	213 6.1	183 5.2	286 8.2	509 14.5
認 定 別	一般高齢者	3,351 -	456 13.6	1,500 44.8	105 3.1	330 9.8	435 13.0	425 12.7	199 5.9	176 5.3	263 7.8	454 13.5
	要支援者等	151 -	3 2.0	62 41.1	14 9.3	28 18.5	27 17.9	14 9.3	14 9.3	7 4.6	23 15.2	55 36.4
		合 計	11. 外傷 (転倒・骨折 等)	12. がん (悪性新生 物)	13. 血液・ 免疫の病 気	14. うつ病	15. 認知症 (アルツハイ マー病等)	16. パーキン ソン病	17. 目の病 気	18. 耳の病 気	19. その他	無回答
全 体		3,502 -	124 3.5	104 3.0	75 2.1	59 1.7	25 0.7	7 0.2	590 16.8	219 6.3	131 3.7	277 7.9
認 定 別	一般高齢者	3,351 -	100 3.0	101 3.0	72 2.1	53 1.6	21 0.6	7 0.2	558 16.7	202 6.0	120 3.6	263 7.8
	要支援者等	151 -	24 15.9	3 2.0	3 2.0	6 4.0	4 2.6	0 0.0	32 21.2	17 11.3	11 7.3	14 9.3

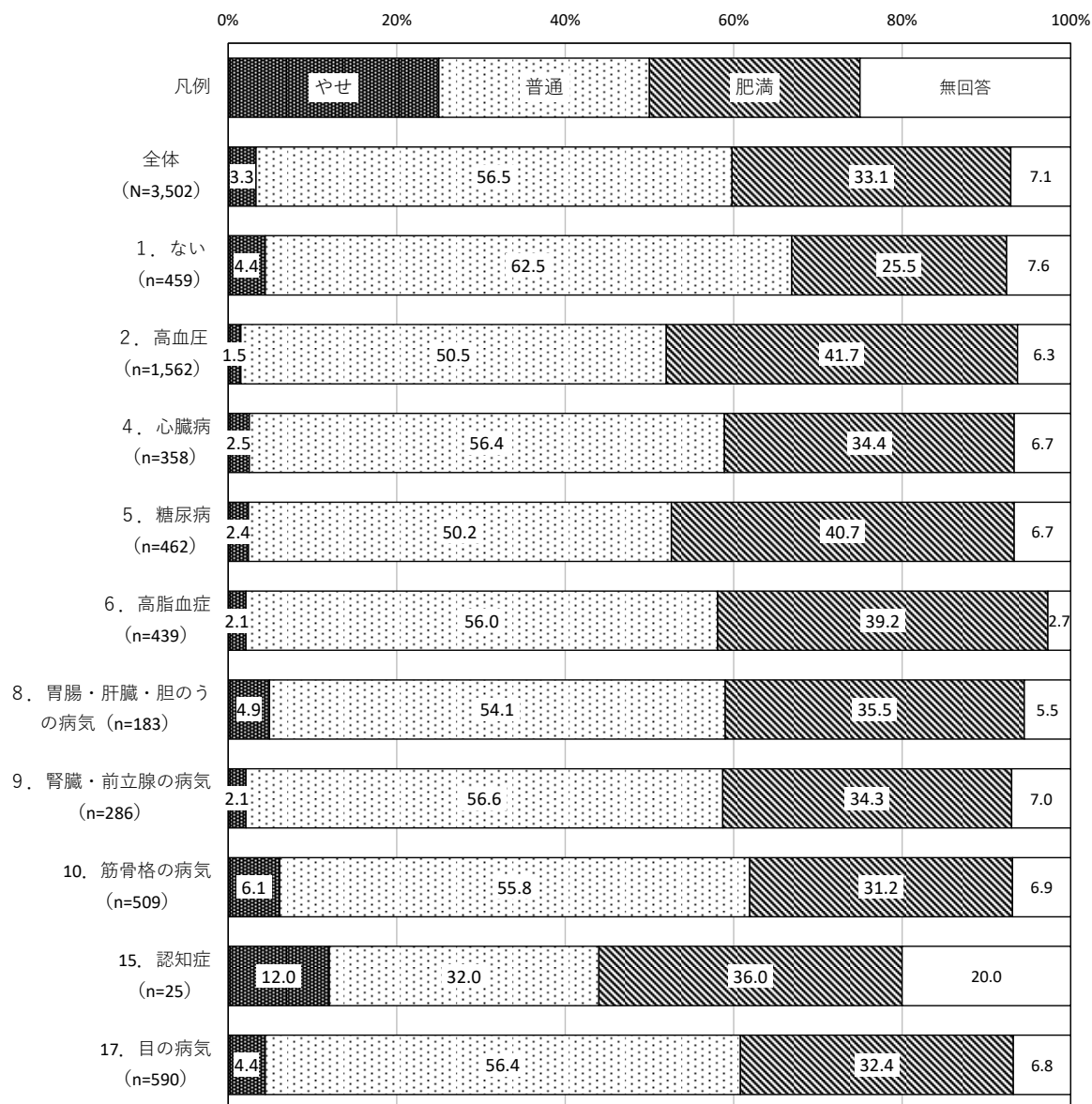
《関連設問》

○主な疾病とBMI値の関係【問3（1）×問9（7）】

主な疾病とBMI値との関係に着目すると、本市平均と比較して、「（疾病が）ない」とした回答者は「普通」の割合（62.5%）が高く、「肥満」の割合（25.5%）が低くなっている。

一方、「10. 筋骨格の病気」及び「17. 目の病気」以外の殆どの項目において、疾病を有する回答者は本市平均と比較して「肥満」の割合が高い傾向がみられた。また、「8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気」、「10. 筋骨格の病気」、「15. 認知症」、「17. 目の病気」の場合は、本市平均と比較して「やせ」の割合が高くなっている。

疾病×BMI（複数回答）

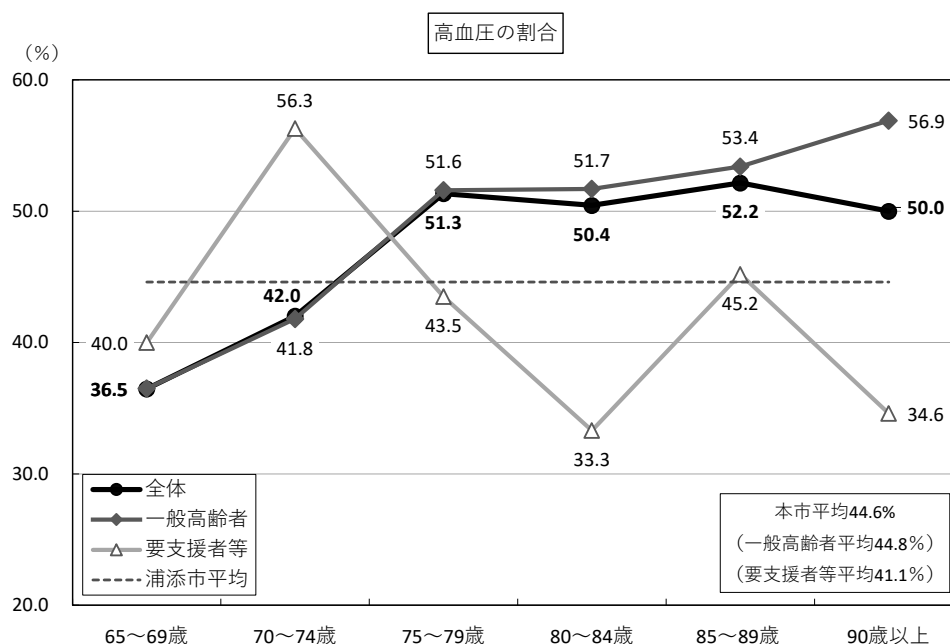
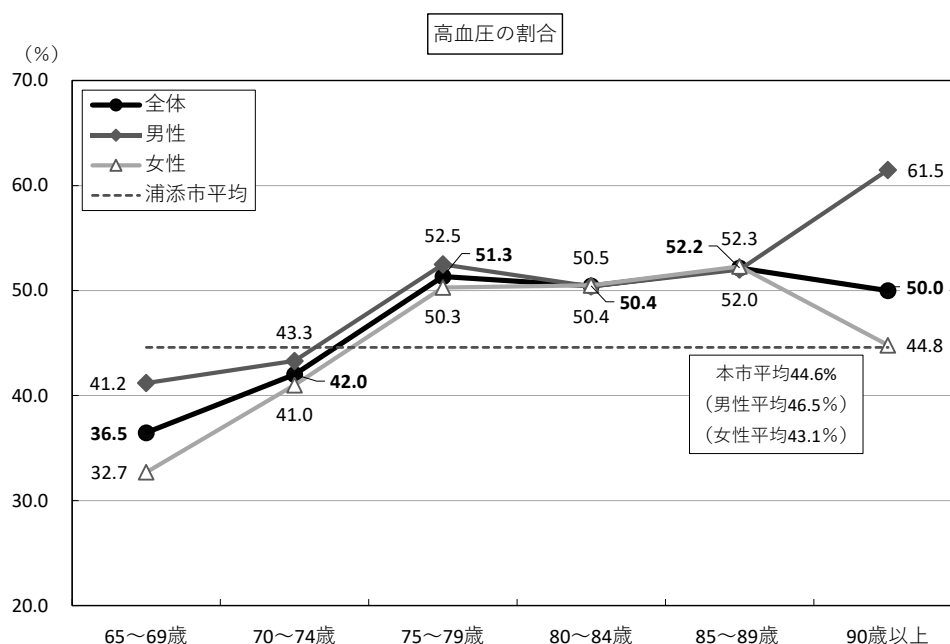


(1) 高血圧

現在治療中、または後遺症がある病気は、『高血圧』が本市平均で44.6%と最も高くなっており、約2人に1人が該当者となっている。

男女別にみると、男性平均が46.5%、女性平均は43.1%となっている。男女ともに年齢が上がるにつれ該当率も高くなっており、特に男性の方が女性よりも全体的に高い傾向にある。

また、認定別にみた場合、要支援者等の母数自体が小さいため特定の年齢層の傾向がグラフ上では顕著に表れている点に留意する必要がある。「65～69歳」においては全5人中2人が、「70～74歳」においては16人中9人が、それ以降の年齢層においては10人前後の人数で推移している。

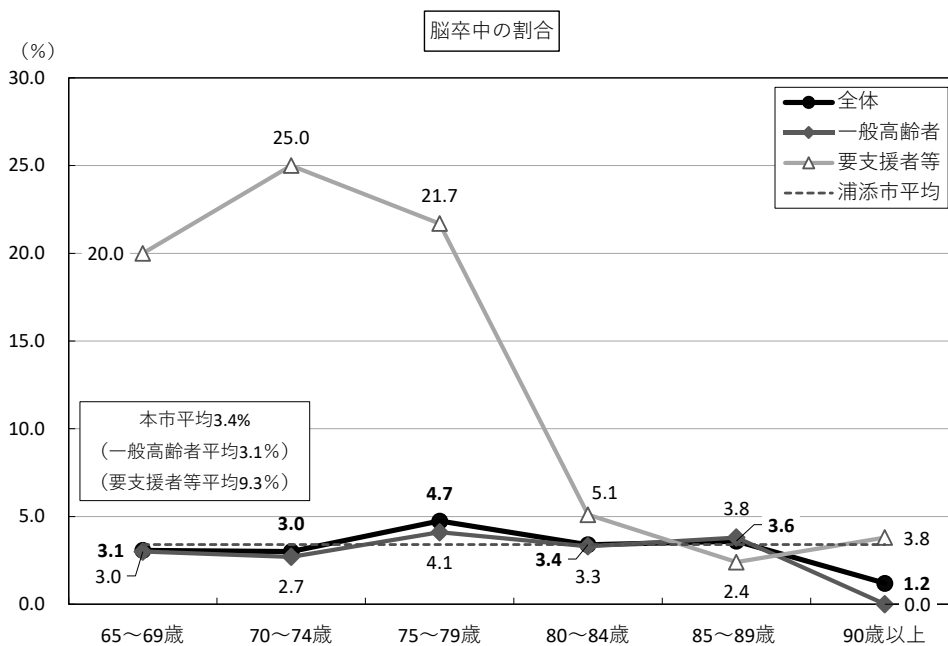
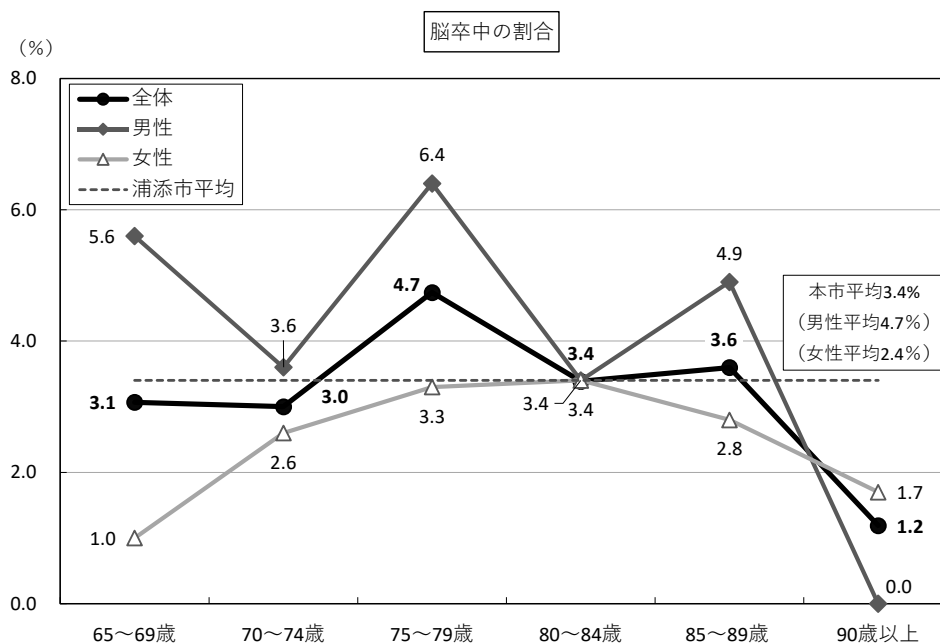


(2) 脳卒中

『脳卒中』と回答した割合は、本市平均で3.4%となっている。

男女別にみると、男性平均が4.7%、女性平均は2.4%となっており、全体的にほとんどの年齢層で女性より男性の該当率が高い傾向にある。

認定別にみた場合、要支援者等の母数自体が小さいため特定の年齢層の傾向がグラフ上では顕著に表れている点に留意する必要がある。「65～69歳」においては全5人中1人が、「70～74歳」においては16人中4人が、全年齢層において1人～5人の該当者で推移している。

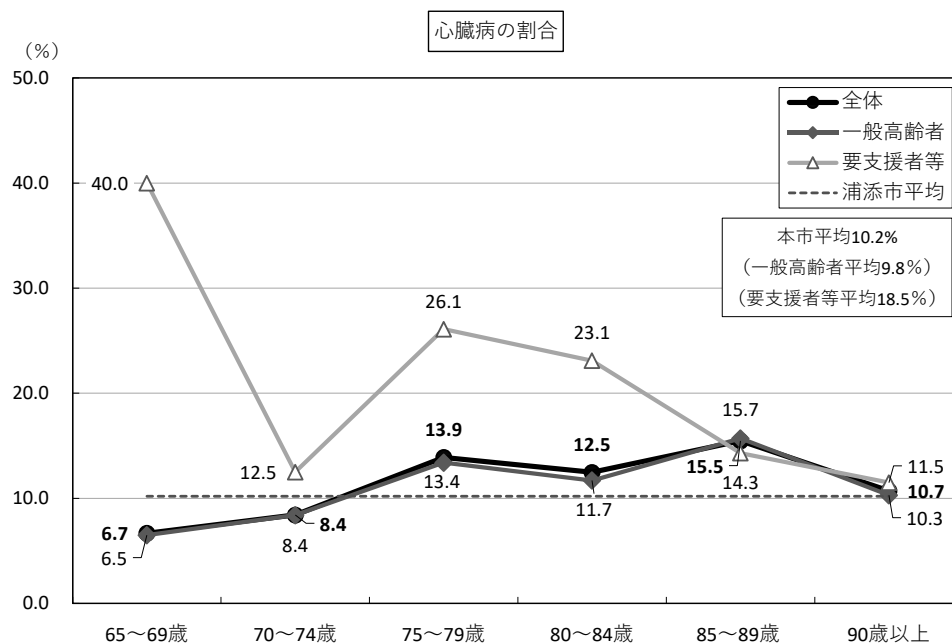
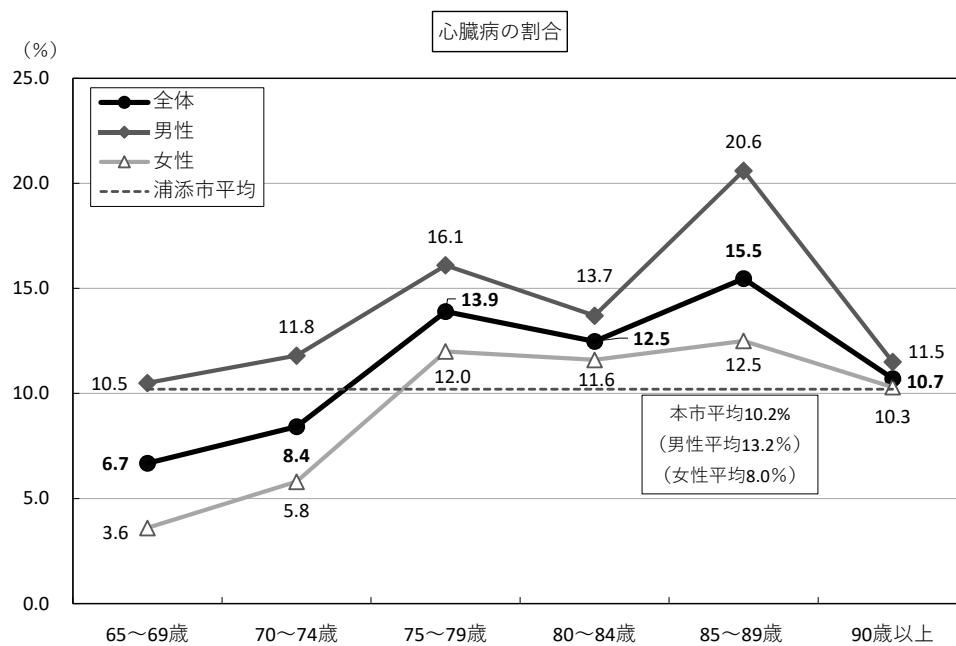


(3) 心臓病

『心臓病』と回答した割合は、本市平均で 10.2% となっている。

男女別にみると、男性平均が 13.2%、女性平均は 8.0% となっており、全ての年齢層で男性が女性の割合を上回っている。

認定別にみた場合、要支援者等の母数自体が小さいため特定の年齢層の傾向がグラフ上では顕著に表れている点に留意する必要がある。「65～69 歳」においては全 5 人中 2 人が該当者となっており、それ以降の年齢層においても 2 人～9 人以内で推移している。

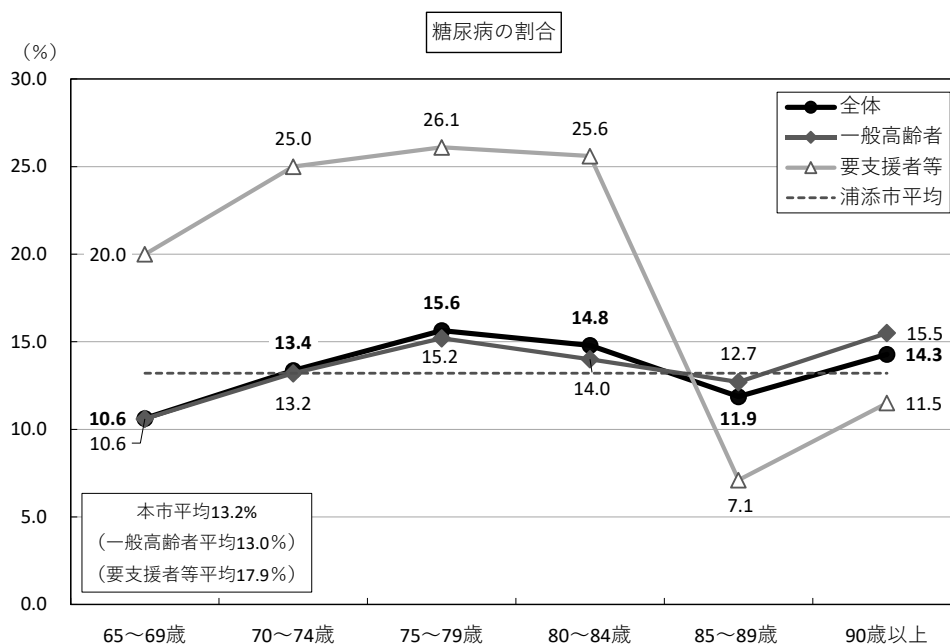
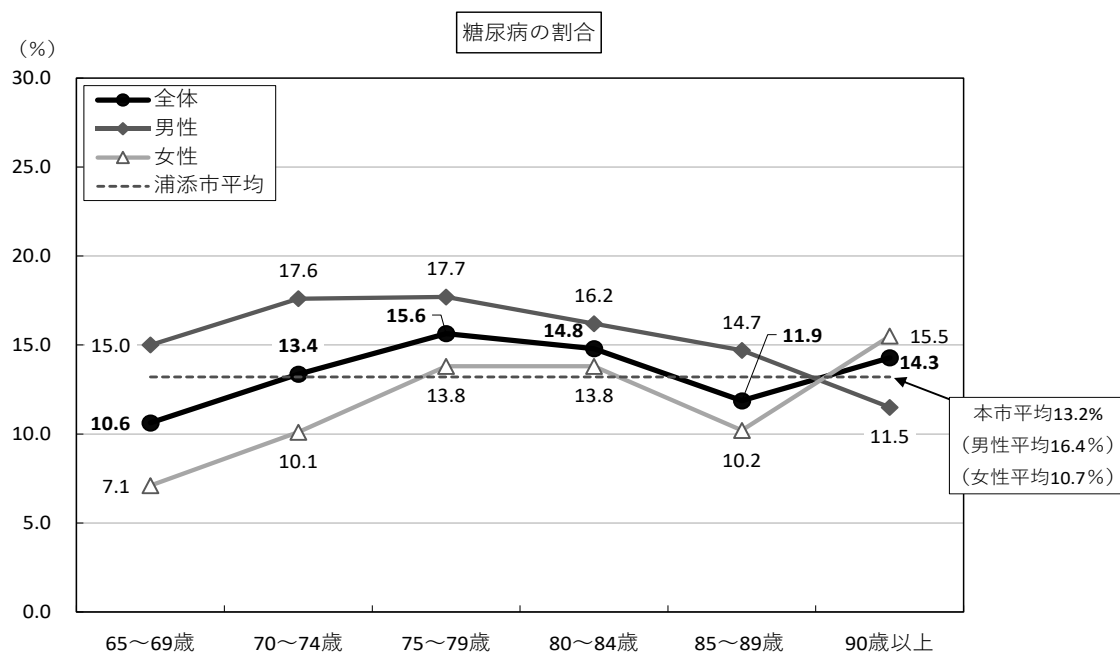


(4) 糖尿病

『糖尿病』と回答した割合は、本市平均で 13.2% となっている。

男女別にみると、男性平均が 16.4%、女性平均は 10.7% となっている。「90 歳以上」を除く殆どの年齢層で男性の割合が女性に比べて高くなっている。

認定別にみた場合、要支援者等の母数自体が小さいため特定の年齢層の傾向がグラフ上では顕著に表れている点に留意する必要がある。「65～69 歳」においては全 5 人中 1 人が、「70～74 歳」においては 16 人中 4 人が、「75～79 歳」においては 23 人中 6 人が、「80～84 歳」においては 39 人中 10 人が該当者となっており、該当者の実人数でみると、「80～84 歳」が最も多くなっている。

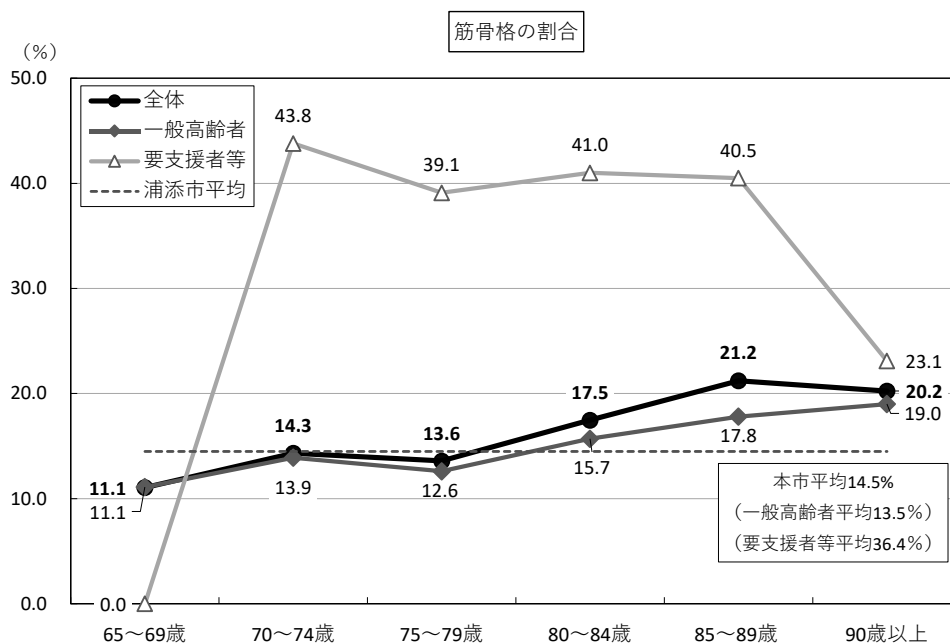
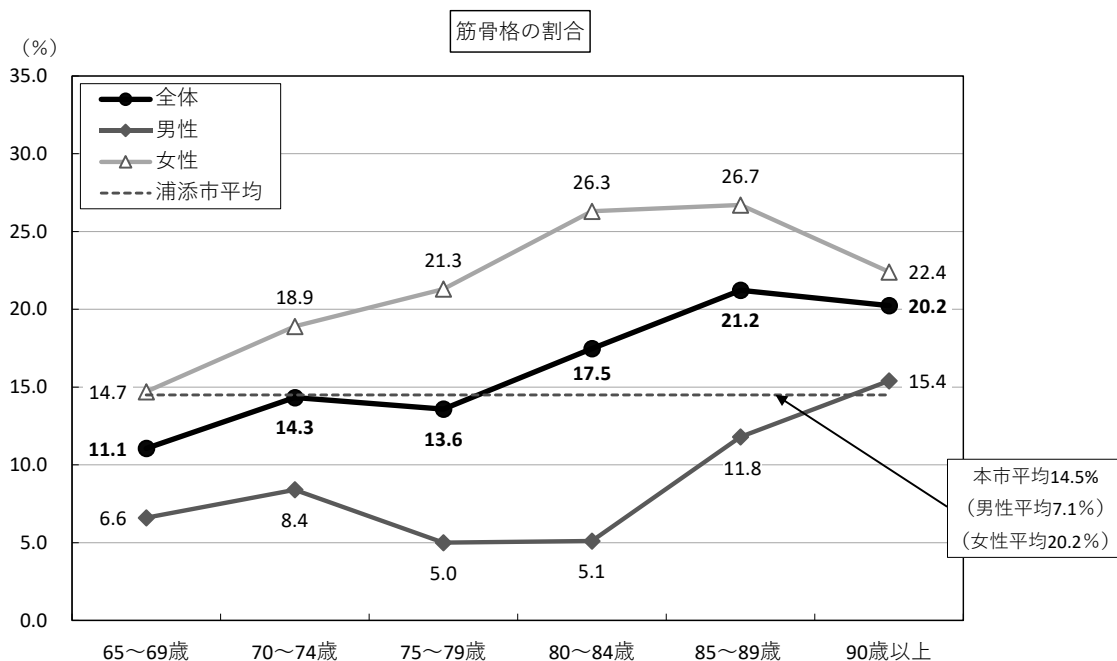


(5) 筋骨格系疾患

『筋骨格系疾患』と回答した割合は本市平均で14.5%となっている。

男女別にみると、男性平均が7.1%、女性平均は20.2%となっており、女性の平均値が大きく男性を上回っている。全ての年齢層で女性の割合が男性に比べて高くなっている。

認定別にみた場合、要支援者等の母数自体が小さいため特定の年齢層の傾向がグラフ上では顕著に表れている点に留意する必要がある。「65～69歳」においては全5人中該当者なし、「70～74歳」においては16人中7人が、「80～84歳」においては39人中16人が、「85～90歳」においては42人中17人が該当者となっている。

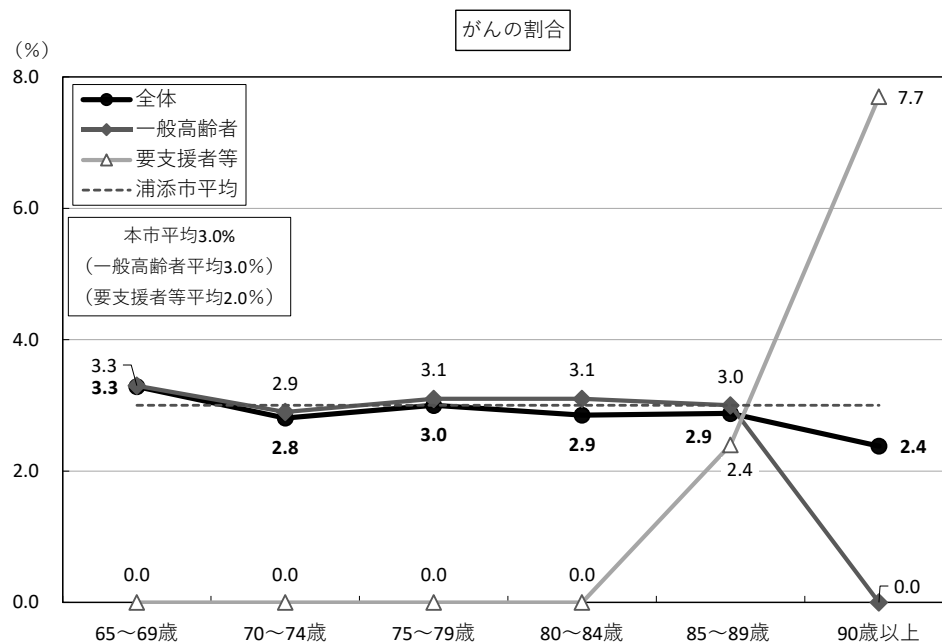
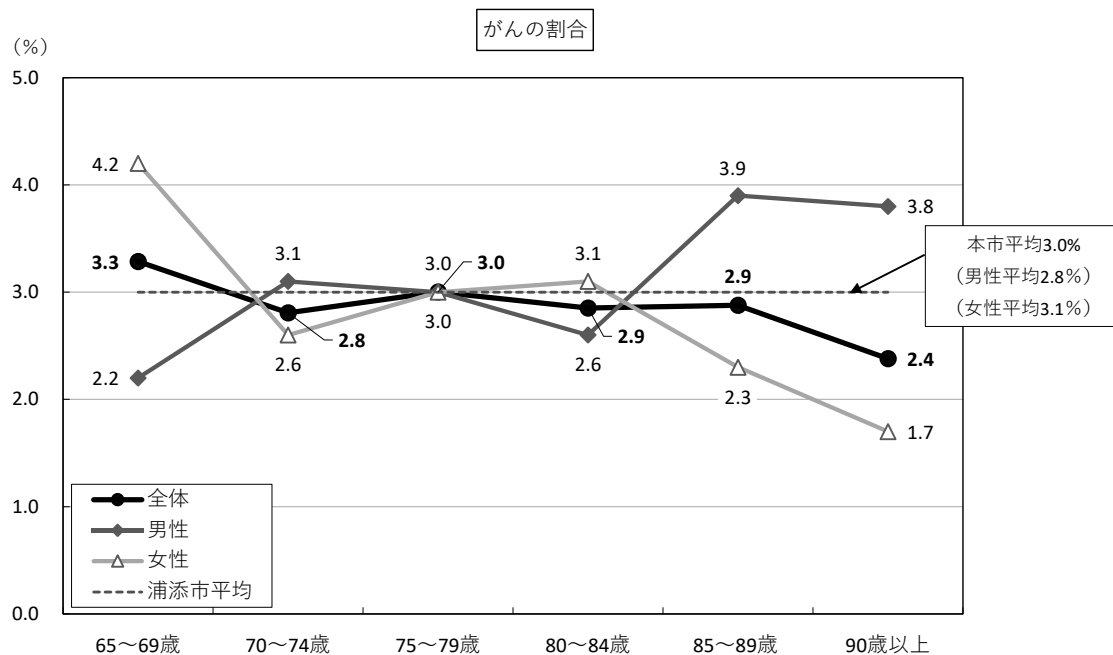


(6) がん

『がん』と回答した割合は本市平均で3.0%となっている。

男女別にみると、男性平均が2.8%、女性平均は3.1%となっている。

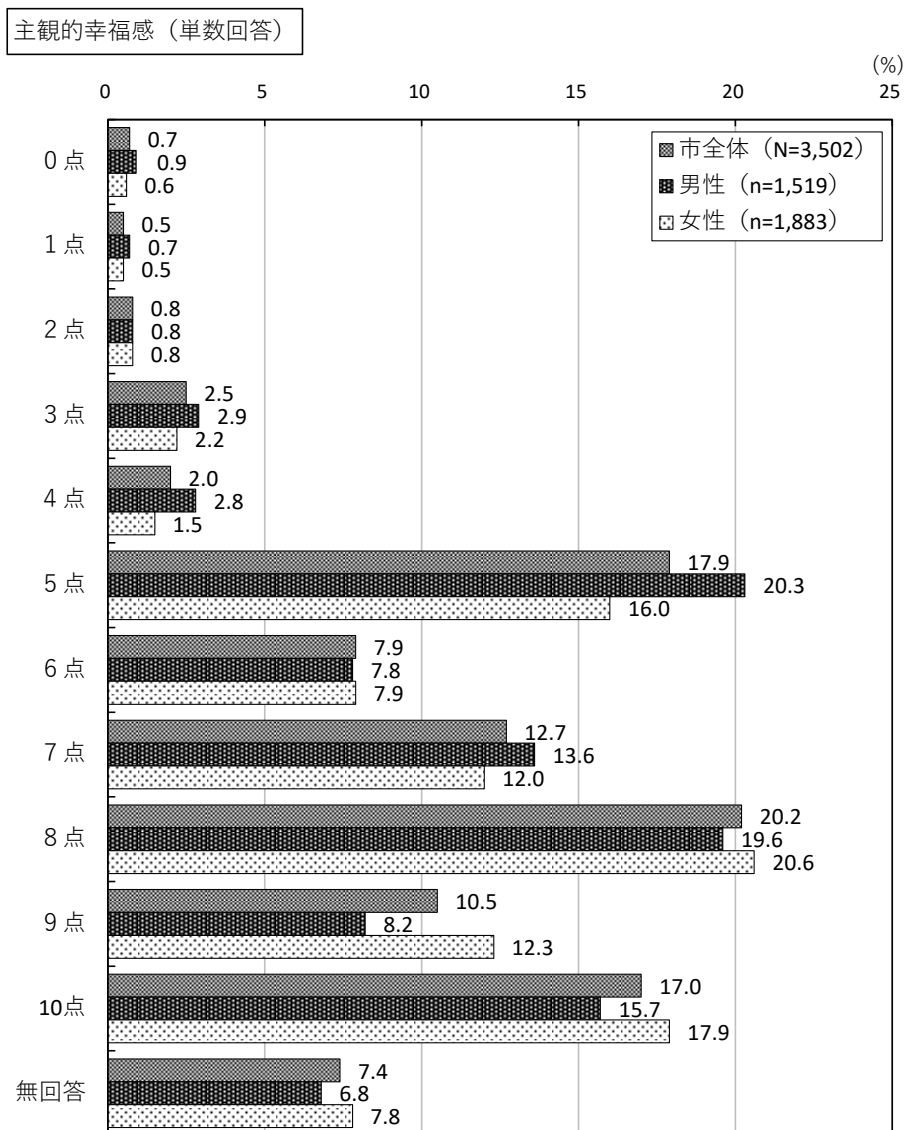
認定別にみた場合、要支援者等の母数自体が小さいため特定の年齢層の傾向がグラフ上では顕著に表れている点に留意する必要がある。『65歳から84歳まで』は該当者なし、『85～90歳以上』においては1～2人が該当者となっている。



3. 主観的幸福感

自身の状態に対する満足度・幸福感を示す主観的幸福感について、性別・点数別に整理した。これをみると、回答者全体では「8点（20.2%）」や「5点（17.9%）」とした方が多い。

回答者が男性の場合は、「5点」とした方が回答者の20.3%で最も高く、次いで「8点（19.6%）」、「10点（15.7%）」と続いている。女性の場合は、「8点」とした方が回答者の20.6%で最も高く、次いで「10点（17.9%）」、「5点（16.0%）」となっている。



VI. 介護

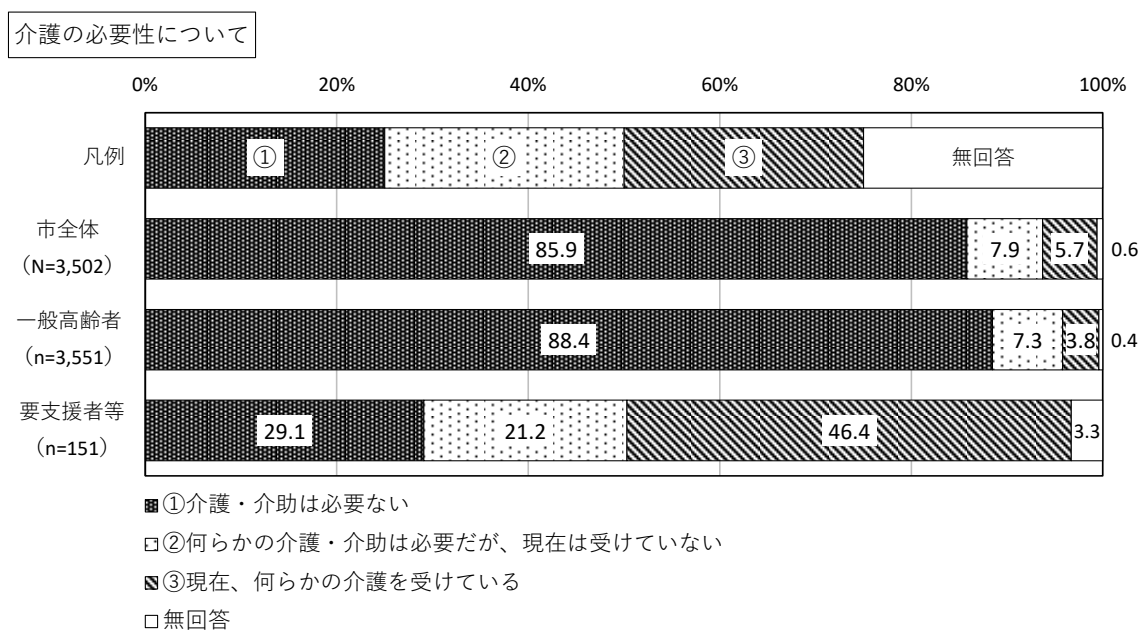
1. 介護の必要性

介護の必要性に関して、『介護が必要な人』（「2. 何らかの介護・介助は必要だが現在は受けていない」＋「3. 現在、何らかの介護を受けている」）の割合は市全体で 13.6%（7.9%+5.7%）となっており、男性全体で 12.1%、女性全体で 14.7%となっている。

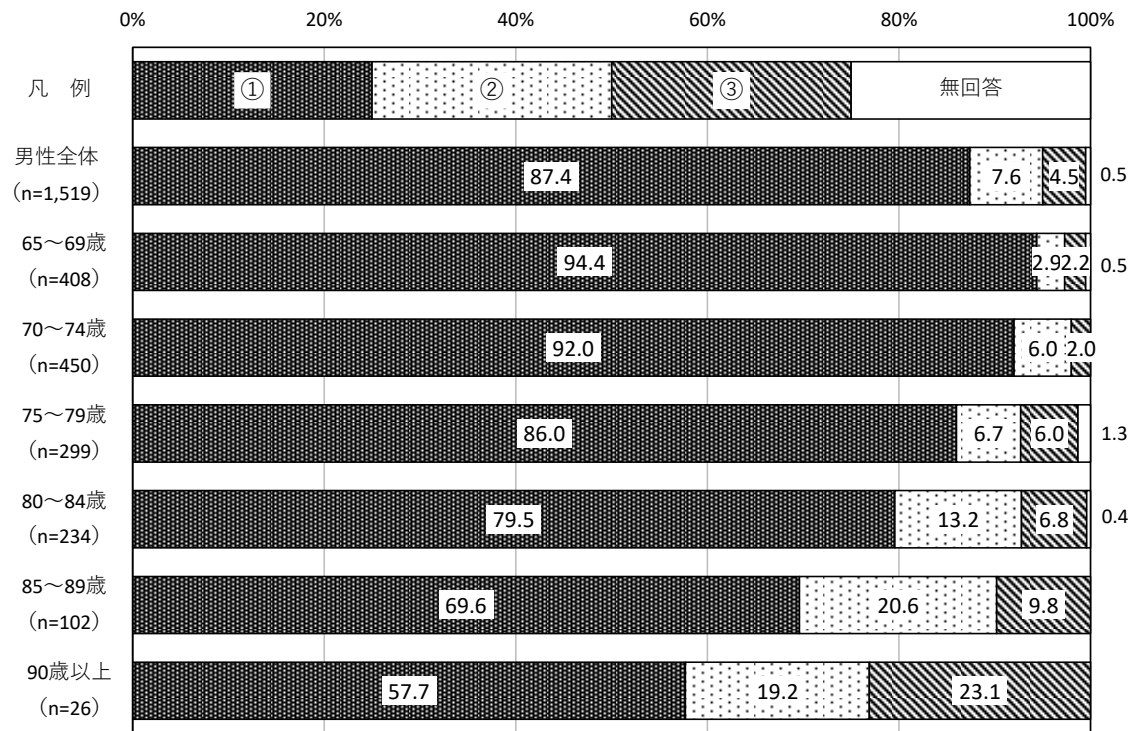
認定別にみると、『介護が必要』とした一般高齢者は 11.1%（7.3%+3.8%）にとどまっている一方で、要支援者等の場合は過半数の 67.6%が『介護が必要』と回答した。

『介護が必要な人』の割合は年齢が上がるにつれ高くなっており、男性では「75～79 歳」で 12.7%、「90 歳以上」では 42.3%にのぼっている。女性では「75～79 歳」で 11.1%、「90 歳以上」で 55.1%にのぼる。

男女別にみると、『80 歳以上』では男性に比べて女性の方が『介護が必要な人』の割合が高くなっている。

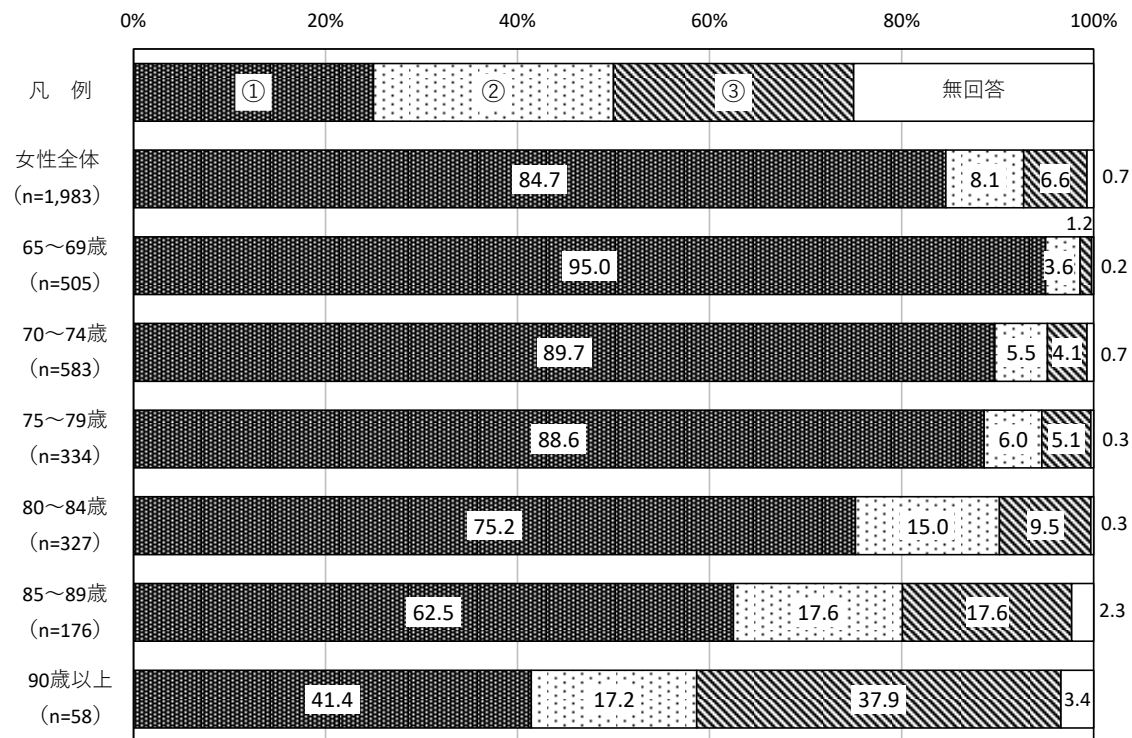


介護の必要性について（男性）



- ① 介護・介助は必要ない
- ② 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ▨ ③ 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

介護の必要性について（女性）



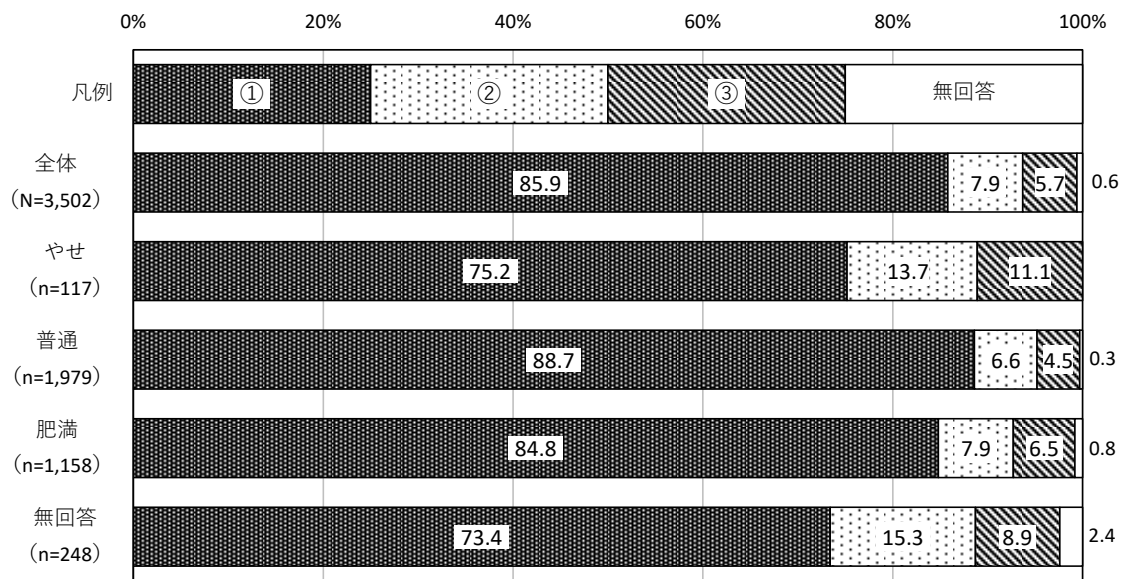
- ① 介護・介助は必要ない
- ② 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ▨ ③ 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

<<関連設問>>

○介護の必要性とBMI値の関係

BMI値別に介護の必要性をみると、「やせ」の回答者の中で『介護が必要な人』の割合は24.8%となっており、本市平均（13.6%）を大きく上回っている。

介護の必要性 × BMI



- ①介護・介助は必要ない
- ②何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- ③現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

2. 介護・介助が必要になった原因について

介護・介助が必要になった原因をみると、男性では「13. 高齢による衰弱」が19.0%と最も高く、「1. 脳卒中」(17.4%)、「2. 心臓病」(16.8%)と続いている。

女性では「11. 骨折・転倒」が25.8%と最も高く、「13. 高齢による衰弱」(22.0%)、「5. 関節の病気」(20.6%)と続いている。

■介護・介助が必要になった原因（男性）

(複数回答 n=184)

		① 脳 卒 中	② 心 臓 病	③ が ん	④ 気 管 支 炎 の 病	⑤ 関 節 の 病 気	⑥ 認 知 症	⑦ パ ー キン ソン 病	⑧ 糖 尿 病
上段: 件数、下段: 横%									
男 性	合計(n=184)	32 17.4	31 16.8	8 4.3	18 9.8	24 13.0	10 5.4	1 0.5	25 13.6
	65～69歳(n=21)	6 28.6	2 9.5	0 0.0	1 4.8	1 4.8	0 0.0	0 0.0	3 14.3
	70～74歳(n=36)	8 22.2	5 13.9	0 0.0	2 5.6	2 5.6	5 13.9	0 0.0	3 8.3
	75～79歳(n=38)	12 31.6	9 23.7	1 2.6	3 7.9	6 15.8	0 0.0	1 2.6	6 15.8
	80～84歳(n=47)	4 8.5	8 17.0	5 10.6	9 19.1	8 17.0	4 8.5	0 0.0	7 14.9
	85～89歳(n=31)	2 6.5	7 22.6	2 6.5	2 6.5	5 16.1	1 3.2	0 0.0	5 16.1
	90歳以上(n=11)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	2 18.2	0 0.0	0 0.0	1 9.1
上段: 件数、下段: 横%		⑨ 腎 疾 患	⑩ 障 害 視 覚 ・ 聴 覚	⑪ 骨 折 ・ 転 倒	⑫ 脊 椎 損 傷	⑬ 衰 弱 高 齢 に よ る	⑭ そ の 他	⑮ 不 明	無 回 答
男 性	合計(n=184)	7 3.8	18 9.8	19 10.3	12 6.5	35 19.0	11 6.0	3 1.6	27 14.7
	65～69歳(n=21)	0 0.0	1 4.8	1 4.8	3 14.3	1 4.8	3 14.3	0 0.0	4 19.0
	70～74歳(n=36)	1 2.8	4 11.1	2 5.6	2 5.6	3 8.3	1 2.8	1 2.8	7 19.4
	75～79歳(n=38)	4 10.5	2 5.3	4 10.5	2 5.3	4 10.5	0 0.0	0 0.0	5 13.2
	80～84歳(n=47)	2 4.3	7 14.9	4 8.5	2 4.3	11 23.4	4 8.5	1 2.1	6 12.8
	85～89歳(n=31)	0 0.0	3 9.7	5 16.1	2 6.5	10 32.3	1 3.2	0 0.0	4 12.9
	90歳以上(n=11)	0 0.0	1 9.1	3 27.3	1 9.1	6 54.5	2 18.2	1 9.1	1 9.1

■介護・介助が必要になった原因（女性）

（複数回答 n=291）

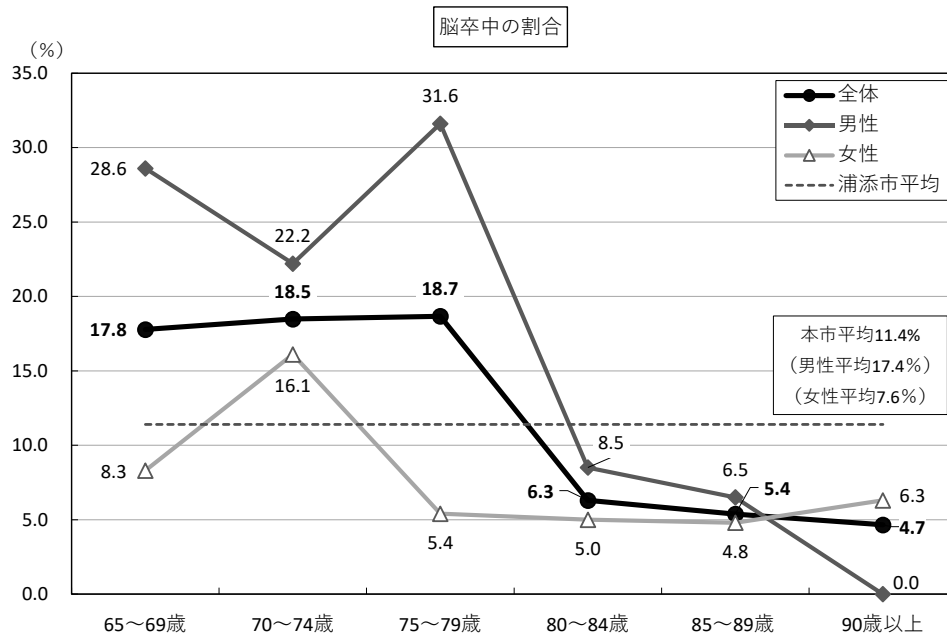
		① 脳 卒 中	② 心 臓 病	③ が ん	④ 気 呼吸 器 の 病	⑤ 関 節 の 病 気	⑥ 認 知 症	⑦ ン 病 パ ー キン ソ	⑧ 糖 尿 病
上段：件数、下段：横%									
女 性	合計（n=291）	22 7.6	27 9.3	16 5.5	9 3.1	60 20.6	15 5.2	5 1.7	29 10.0
	65～69歳（n=24）	2 8.3	0 0.0	3 12.5	0 0.0	3 12.5	1 4.2	0 0.0	2 8.3
	70～74歳（n=56）	9 16.1	5 8.9	6 10.7	3 5.4	6 10.7	5 8.9	2 3.6	5 8.9
	75～79歳（n=37）	2 5.4	5 13.5	1 2.7	1 2.7	8 21.6	1 2.7	2 5.4	7 18.9
	80～84歳（n=80）	4 5.0	4 5.0	2 2.5	2 2.5	25 31.3	1 1.3	1 1.3	8 10.0
	85～89歳（n=62）	3 4.8	9 14.5	3 4.8	2 3.2	13 21.0	3 4.8	0 0.0	3 4.8
	90歳以上（n=32）	2 6.3	4 12.5	1 3.1	1 3.1	5 15.6	4 12.5	0 0.0	4 12.5
上段：件数、下段：横%		⑨ 腎 疾 患	⑩ 障 害 視 覚 ・ 聴 覚	⑪ 骨 折 ・ 転 倒	⑫ 脊 椎 損 傷	⑬ 衰 弱 高 齢 に よ る	⑭ そ の 他	⑮ 不 明	無 回 答
女 性	合計（n=291）	5 1.7	25 8.6	75 25.8	16 5.5	64 22.0	22 7.6	6 2.1	27 9.3
	65～69歳（n=24）	1 4.2	2 8.3	2 8.3	0 0.0	1 4.2	2 8.3	1 4.2	7 29.2
	70～74歳（n=56）	1 1.8	3 5.4	19 33.9	1 1.8	7 12.5	8 14.3	1 1.8	1 1.8
	75～79歳（n=37）	2 5.4	2 5.4	7 18.9	3 8.1	5 13.5	3 8.1	1 2.7	2 5.4
	80～84歳（n=80）	1 1.3	8 10.0	17 21.3	6 7.5	21 26.3	5 6.3	3 3.8	8 10.0
	85～89歳（n=62）	0 0.0	7 11.3	21 33.9	4 6.5	15 24.2	2 3.2	0 0.0	7 11.3
	90歳以上（n=32）	0 0.0	3 9.4	9 28.1	2 6.3	15 46.9	2 6.3	0 0.0	2 6.3

3. 原因ごとにおける調査結果

(1) 脳卒中

介護・介助が必要になった原因として『脳卒中』と回答した割合をみると、本市平均で市全体 11.4%、男性 17.4%、女性 7.6%となっている。

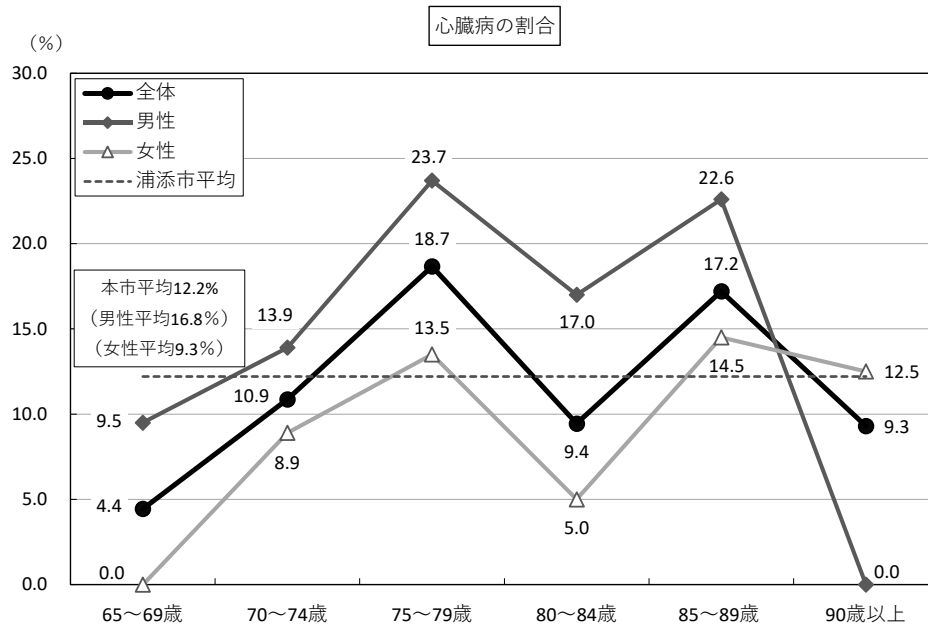
男女別にみると、各年代を通して全体的に男性の割合が女性を上回っており、とりわけ、「75～79歳」が 31.6%で最も高い割合となっている。



(2) 心臓病

介護・介助が必要になった原因として『心臓病』と回答した割合をみると、本市平均で市全体 12.2%、男性 16.8%、女性 9.3%となっている。

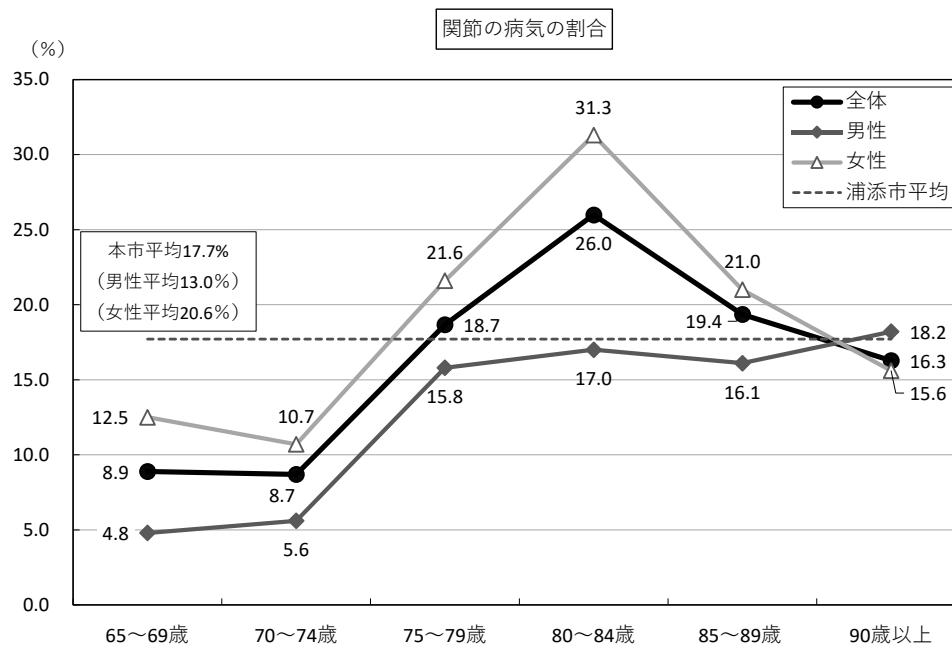
男女別にみると、殆どの年齢層で男性の割合が女性を上回っており、とりわけ「75～79歳」が 23.7%で最も高い割合となっている。



(3) 関節の病気

介護・介助が必要になった原因として『関節の病気』と回答した割合をみると、本市平均で市全体 17.7%、男性 13.0%、女性 20.6%となっている。

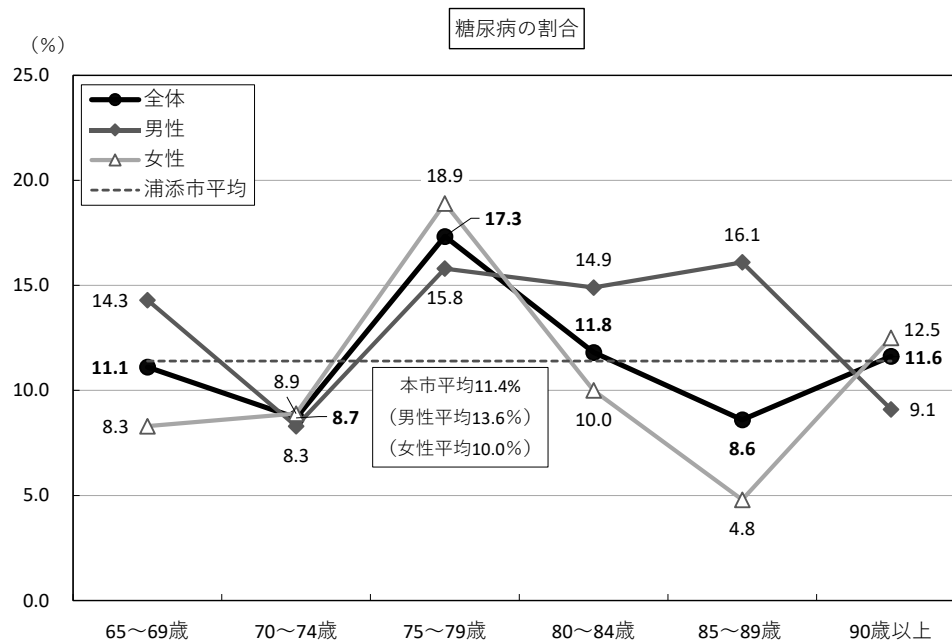
男女別にみると、殆どの年齢層で女性の割合が男性を上回っており、とりわけ「80～84歳」で 31.3%と最も高い割合となっている。



(4) 糖尿病

介護・介助が必要になった原因として『糖尿病』と回答した割合をみると、本市平均で市全体 11.4%、男性 13.6%、女性 10.0%となっている。

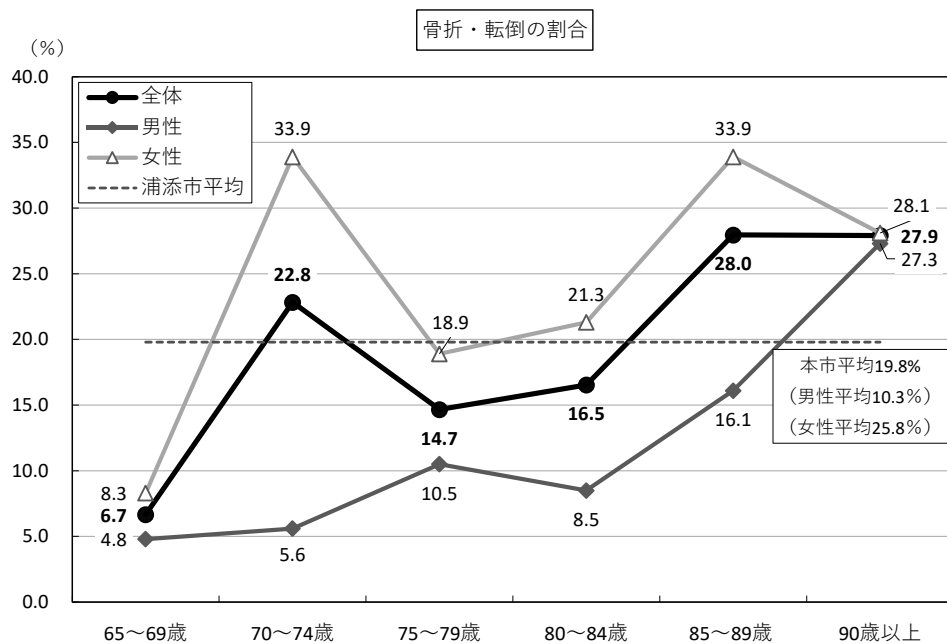
男女ともに「75～79歳」頃に急激に割合が高くなる傾向にある。



(5) 骨折・転倒

介護・介助が必要になった原因として『骨折・転倒』と回答した割合をみると、本市平均で市全体 19.8%、男性 10.3%、女性 25.8%となっている。

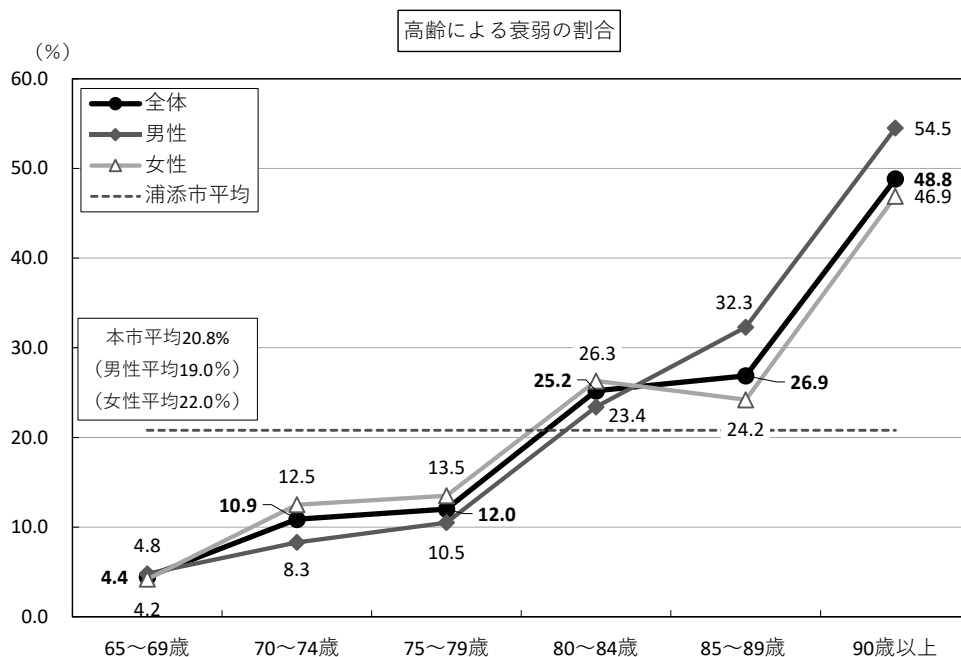
男女別にみると、全体的に女性の割合が男性を上回っており、とりわけ「70～74 歳」及び「85～89 歳」で 33.9%と最も高い割合となっている。



(6) 高齢による衰弱

介護・介助が必要になった原因として『高齢による衰弱』と回答した割合をみると、本市平均で市全体 20.8%、男性 19.0%、女性 22.0%となっている。

年齢別にみると、男性の場合は『80 歳以上』から割合が高くなっている傾向が見受けられる。女性の場合は、「80～84 歳」及び「90 歳以上」で段階的に割合が高くなっている。

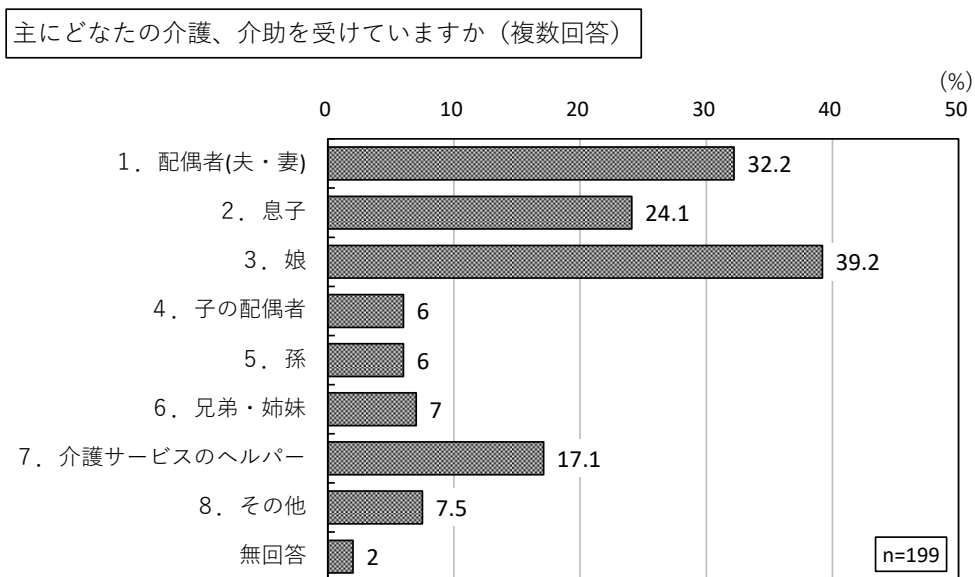


4. 介護の状況

(1) 主な介護者

「現在、何らかの介護・介助を受けている」と回答した方の主な介護者として、「3. 娘」が39.2%と最も高く、次いで「1. 配偶者（夫・妻）」(32.2%)、「2. 息子」(24.1%)と続いており、娘（女性）と息子（男性）では約15ポイントの差がみられる。

また、「7. 介護サービスのヘルパー」については17.1%となっている。

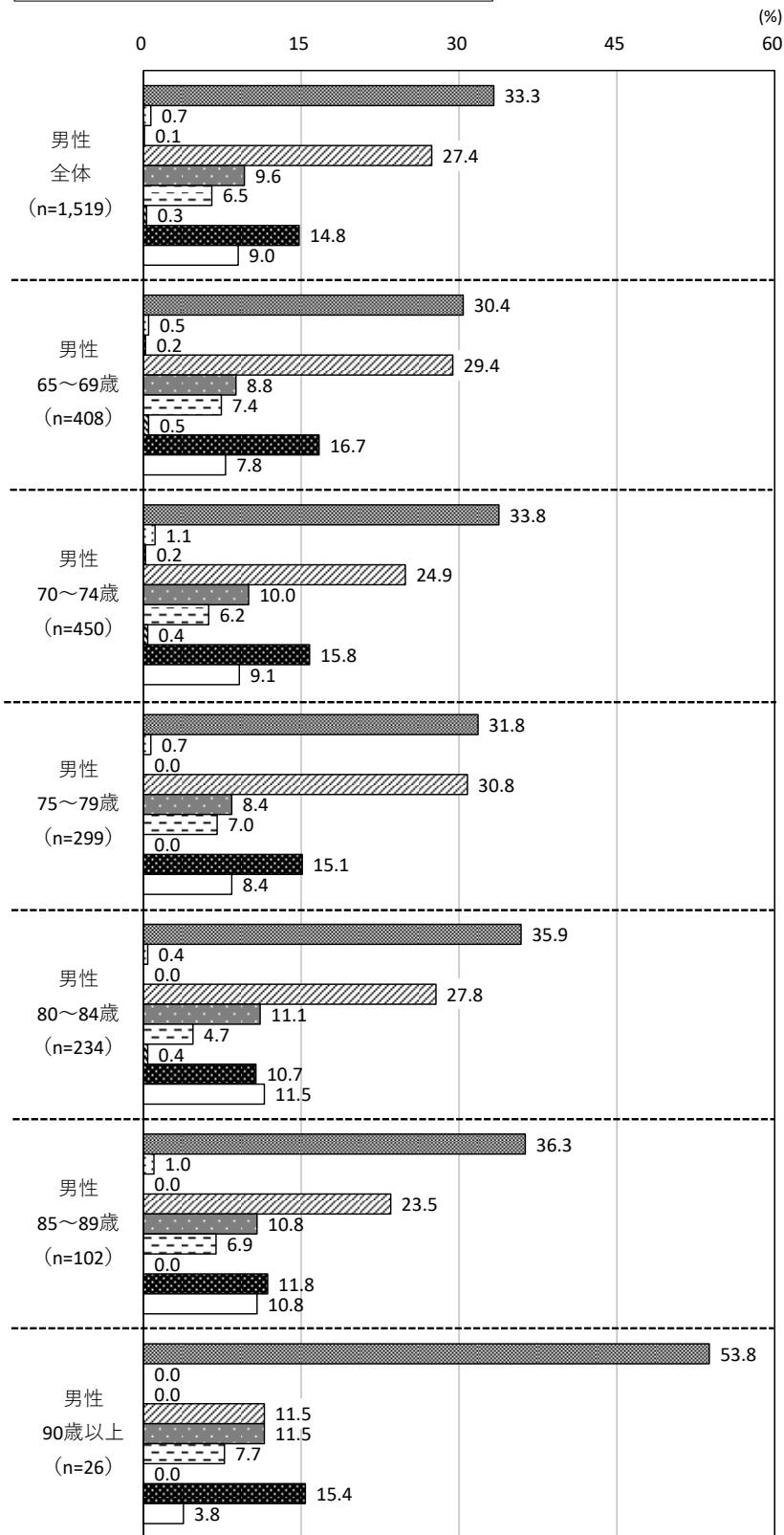


(2) 将来介護が必要になった時の療養に関する希望

将来の療養先の希望について、男性では「1. 自宅」が33.3%で最も高く、次いで「4. 介護施設（27.4%）」となっている。女性では「4. 介護施設」が33.2%で最も高く、次いで「1. 自宅（21.2%）」となっている。

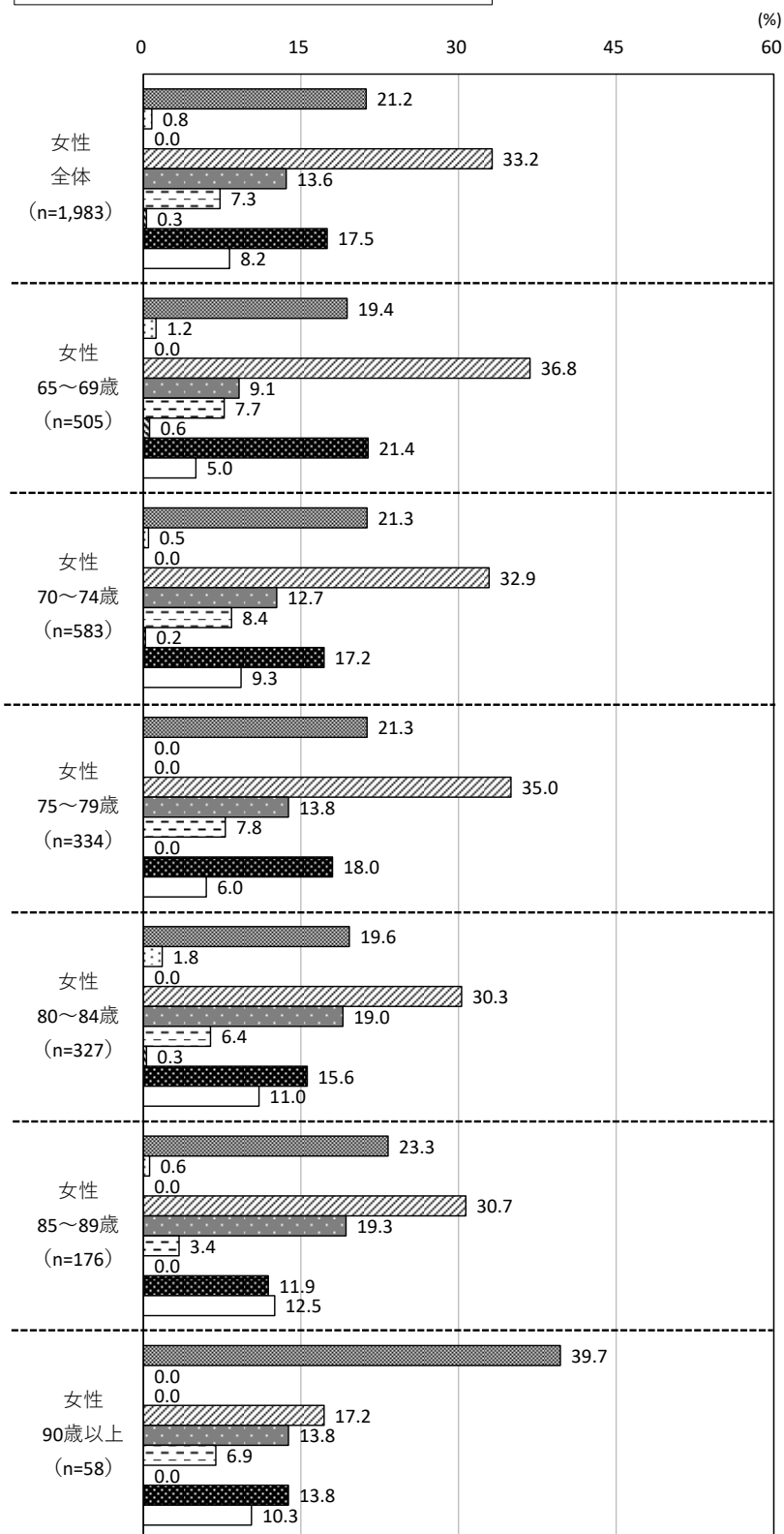
将来の療養先の希望について年齢階級別にみると、男性の場合は「90 歳以上」で自宅介護を希望する割合が53.8%と、他の年齢よりも高い割合を占めている。また、女性の場合も各年齢層では「4. 介護施設」の意向が強いが、「90 歳以上」においては「1. 自宅」の割合が最も高く、39.7%となっている。

介護が必要になった時に希望する療養場所（男性）



- 1. 自宅で介護してほしい
- 3. 親族の家で介護してほしい
- 5. 病院などの医療機関に入院したい
- 7. その他
- 無回答
- 2. 子どもの家で介護してほしい
- 4. 介護施設に入所したい
- 6. 民間有料老人ホーム等を利用したい
- 8. わからない

介護が必要になった時に希望する療養場所（女性）



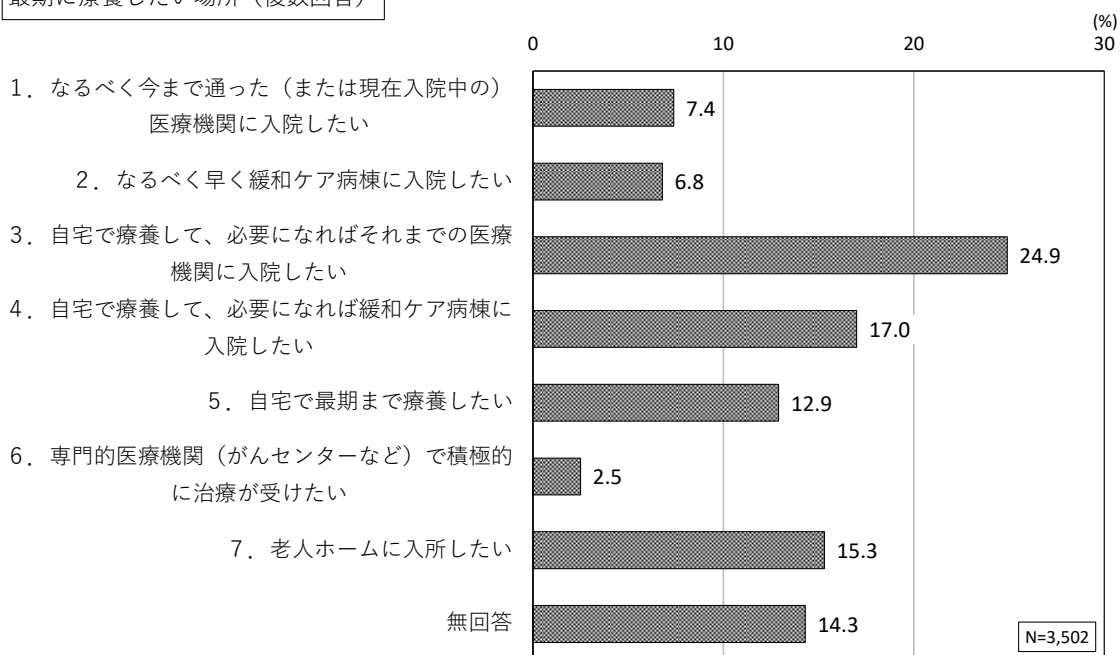
- ☒ 1. 自宅で介護してほしい ☐ 2. 子どもの家で介護してほしい
☒ 3. 親族の家で介護してほしい ☒ 4. 介護施設に入所したい
☒ 5. 病院などの医療機関に入院したい ☐ 6. 民間有料老人ホーム等を利用したい
☒ 7. その他 ☒ 8. わからない
☐ 無回答

<<関連設問>>

○最期に療養したい場所について【問 12（3）】

回答者が最期の療養先として希望する場所としては、「3. 自宅で療養し、必要になればそれまでの医療機関に入院」とした割合が 24.9%で最も高く、次いで「4. 自宅で療養し、必要になれば緩和ケア病棟への入院」（17.0%）、「7. 老人ホームに入所」（15.3%）と続いている。

最期に療養したい場所（複数回答）

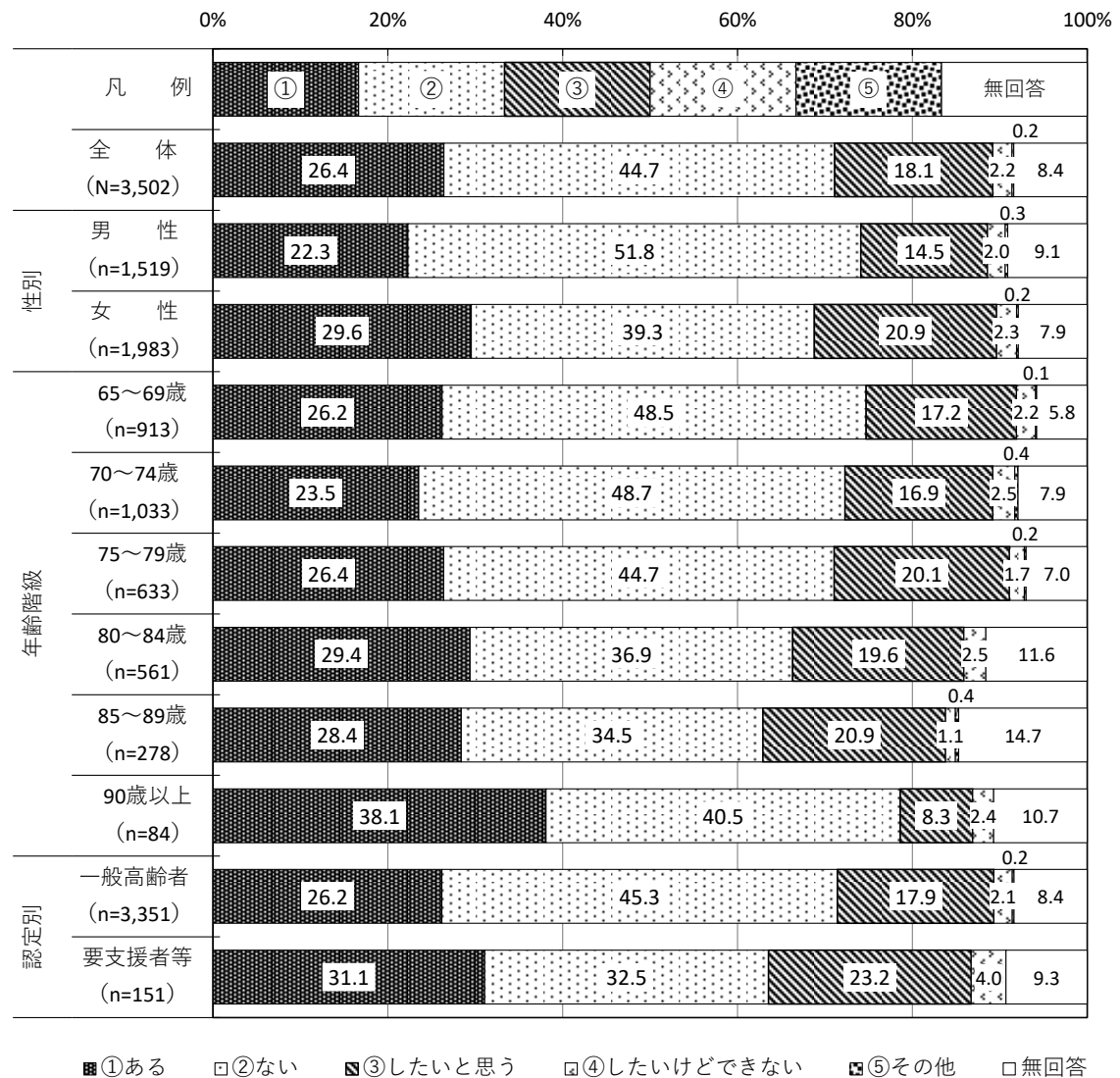


○家族や近い人へ自身の最期についての相談【問 12（4）】（グラフ p. 72 参照）

回答者が「ご自身の最期について家族や近い人と相談したことがあるか」についてうかがうと、市全体では「2. ない」とした回答者が 44.7%で最も高い。一方で、『相談する意向がある人』（「1. 相談したことがある」＋「3. 相談したいと思う」）は 44.5%（26.4%＋18.1%）を占めており、相談したことが無い人とほぼ同程度となっている。

男女別にみると、『相談する意向がある人』は女性が男性を上回っており（女性：50.5%，男性：36.8%）、女性の回答者の半数程度はご自身の最期について話し合いや相談の必要性を感じていることがうかがえる。

ご自身の最期について家族等と話し合い、相談したことはありますか



5. 相談窓口等の認知度

(1) 認知症に関する相談窓口の認知度

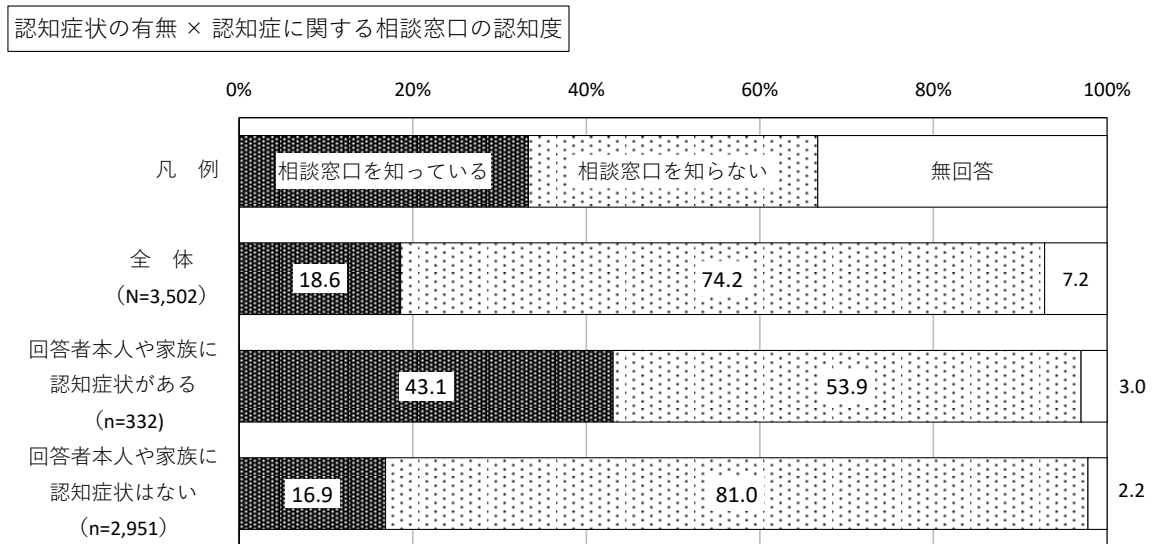
認知症に関する相談窓口の認知度について、市全体では「知らない(いいえ)」が74.2%と大半を占め、「知っている(はい)」は18.6%にとどまっている。

男女別にみると、「知っている(はい)」と回答した割合は男性に比べて女性の方がやや高い(女性：20.4%，男性：16.1%)。また、認定別にみると、一般高齢者の方が要支援者等よりも「知っている(はい)」とした割合が高い(一般：18.9%，要支援：11.3%)。



回答者本人やその家族に認知症状がある方では、相談窓口を「知っている」とした回答者が 43.1%となっており、本人や家族に認知症状がない回答者の「知っている」(16.9%)とした割合を倍以上も上回っている。

一方で、本人や家族に認知症状がある回答者の 53.9%は「相談窓口を知らない」としており、当事者やその家族の半数以上へ相談先が周知されていない状況にある。

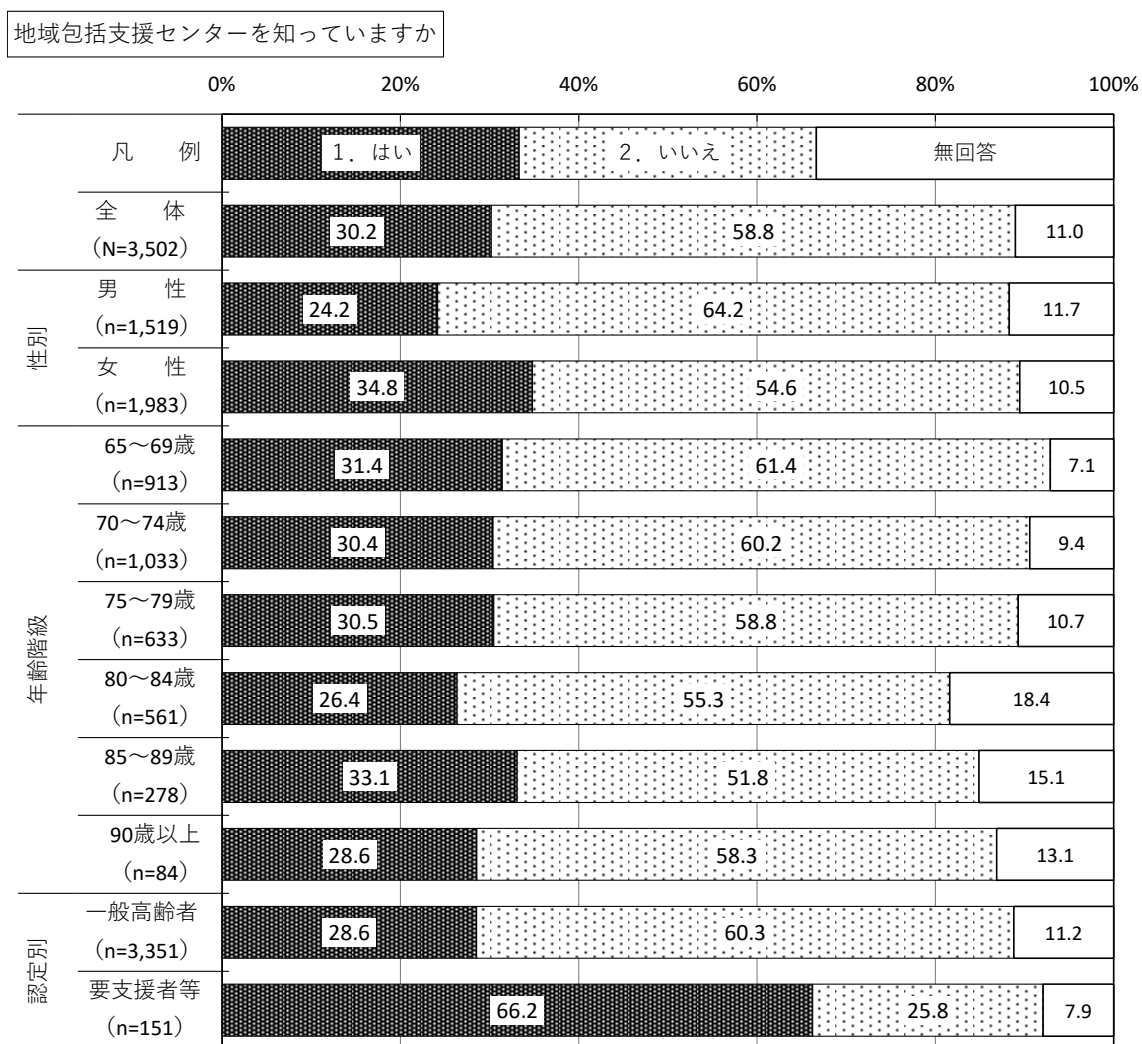


(2) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度について、「知らない (いいえ)」が 58.8%、「知っている (はい)」が 30.2%となっている。

男性に比べて女性の方が「知っている (はい)」と回答した割合が高い (女性 : 34.8%, 男性 : 24.2%)。

認定別にみると、要支援者等では「知っている (はい)」とした回答者が 66.2%と過半数を占めており、一般高齢者の認知度 (28.6%) を上回っている。

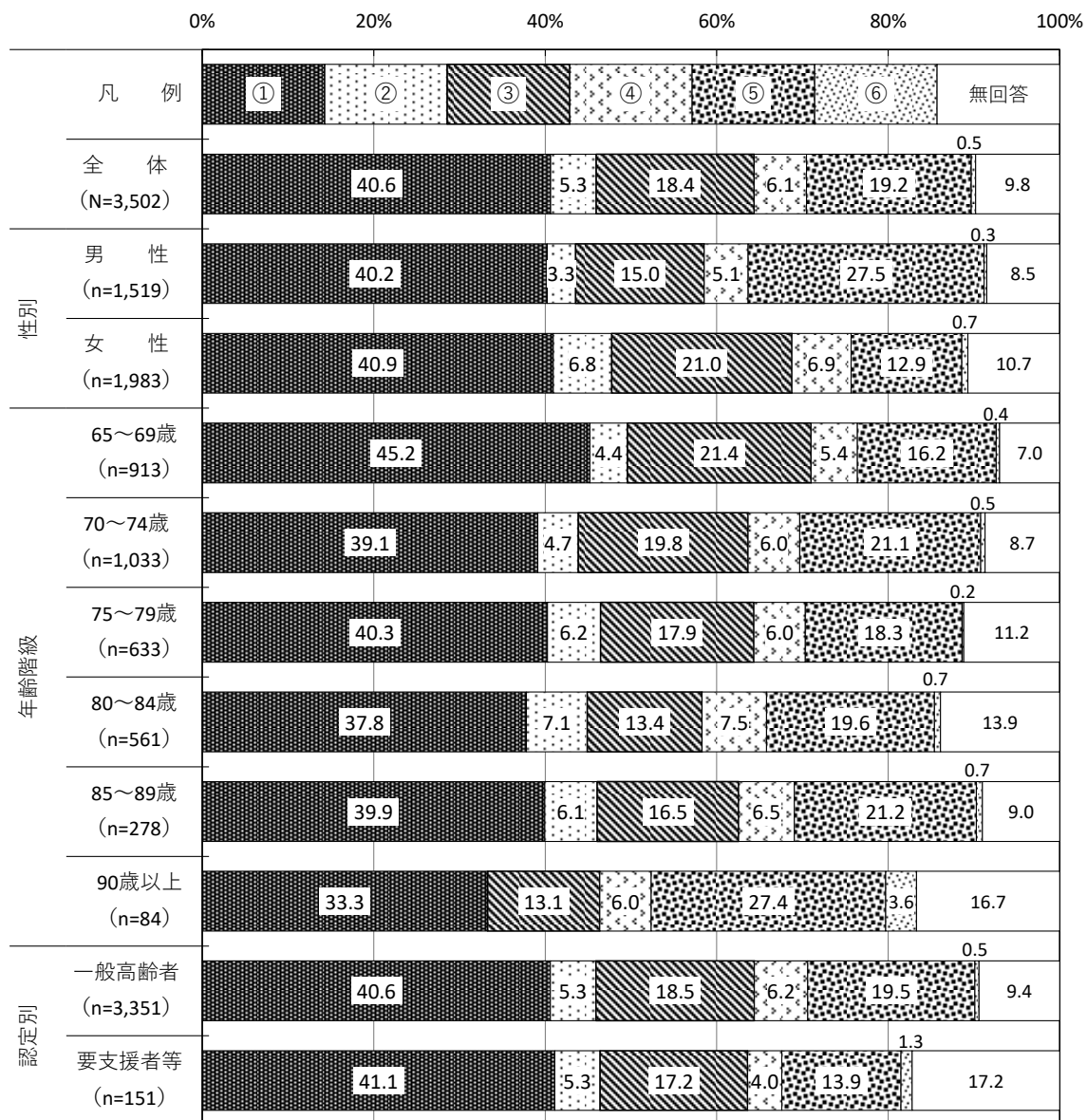


《関連設問》

○認知症の予防について【問10（3）】

認知症の予防に関してうかがうと、市全体では「1. 自宅でできる予防策」（40.6％）が最も高い割合となっている。また、男女別にみると、「5. あまり関心がない」とした回答者の割合は女性より男性が高い傾向にある（男性：27.5％、女性：12.9％）。

認知症の予防状況

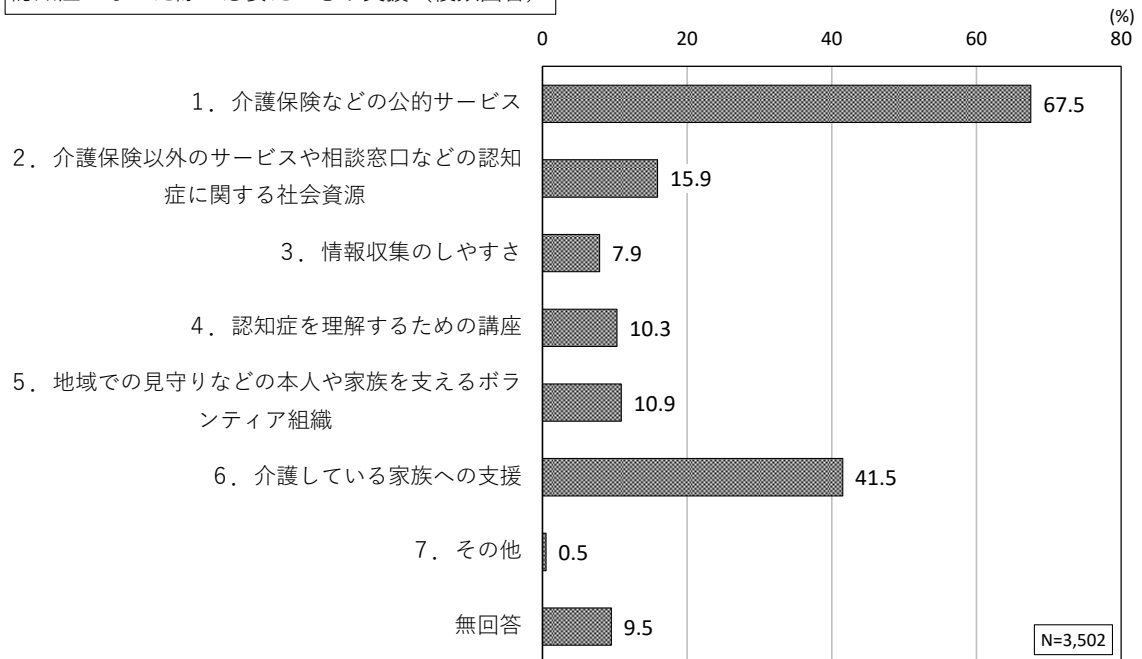


- ①自宅でできる予防策があれば取り組みたい
- ②予防策の教室等があれば参加したい
- ③早期発見できるチェックリストがあれば受けてみたい
- ④すでに予防に取り組んでいる
- ⑤あまり関心がない
- ⑥その他
- 無回答

○認知症への支援について【問 10（４）】

認知症になった際の支援として必要だと思われるものをうかがうと、「１．介護保険などの公的サービス」が 67.5%で最も高く、次いで「６．介護している家族への支援」(41.5%)と続いている。

認知症になった際に必要だと思う支援（複数回答）

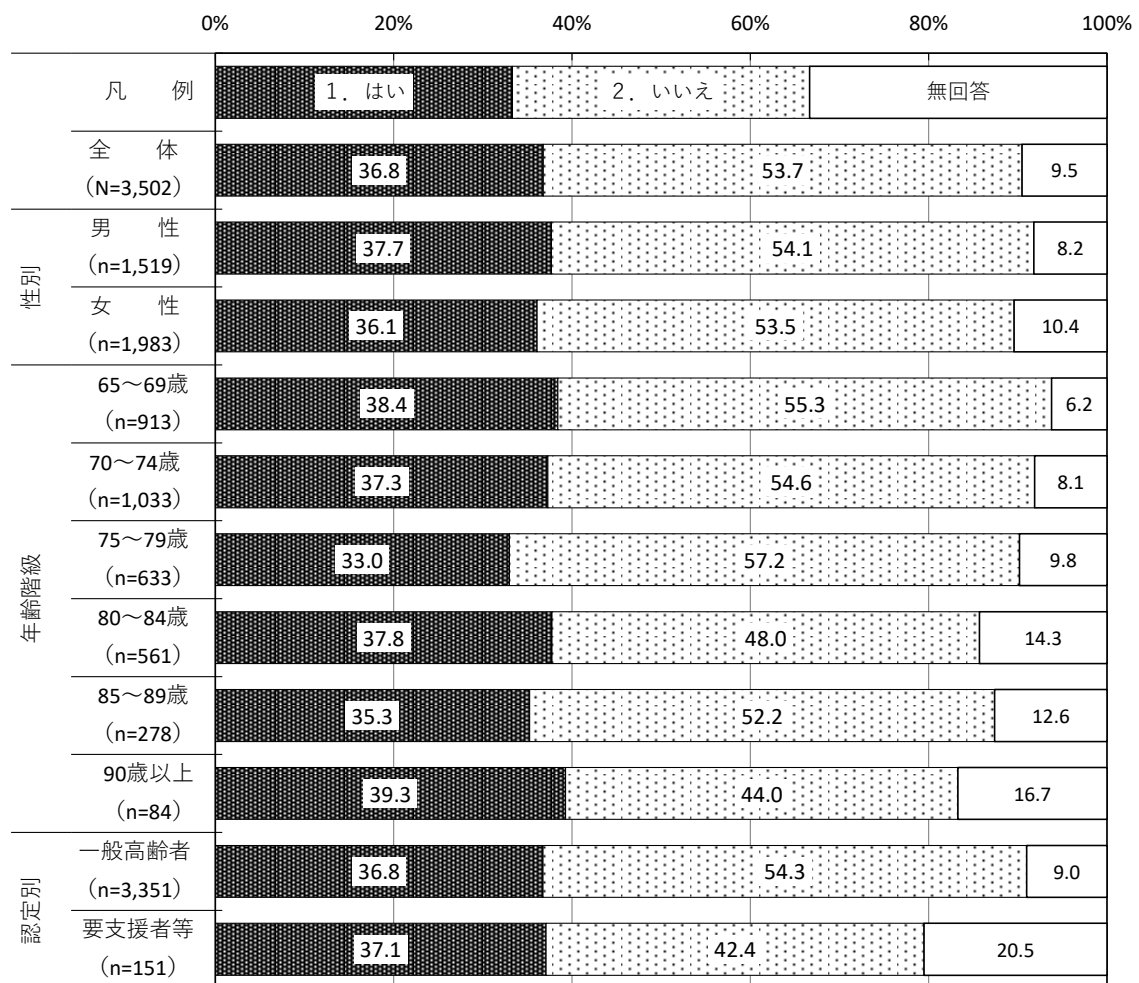


○成年後見制度の利用について【問 10（5）】

「自身の判断能力に不安が生じた際に成年後見制度を利用したいか」についてうかがうと、市全体では「利用したい（はい）」が 36.8%、「利用を希望しない（いいえ）」が 53.7% となっており、回答者の 4 割弱程度は利用意向があることがうかがえる。

性別・年齢階級別・認定別において大きな差や傾向の違いは見受けられないことから、年齢や認定状況に関わらず一定数の利用意向があるものと想定される。

成年後見制度を利用したいと思いますか

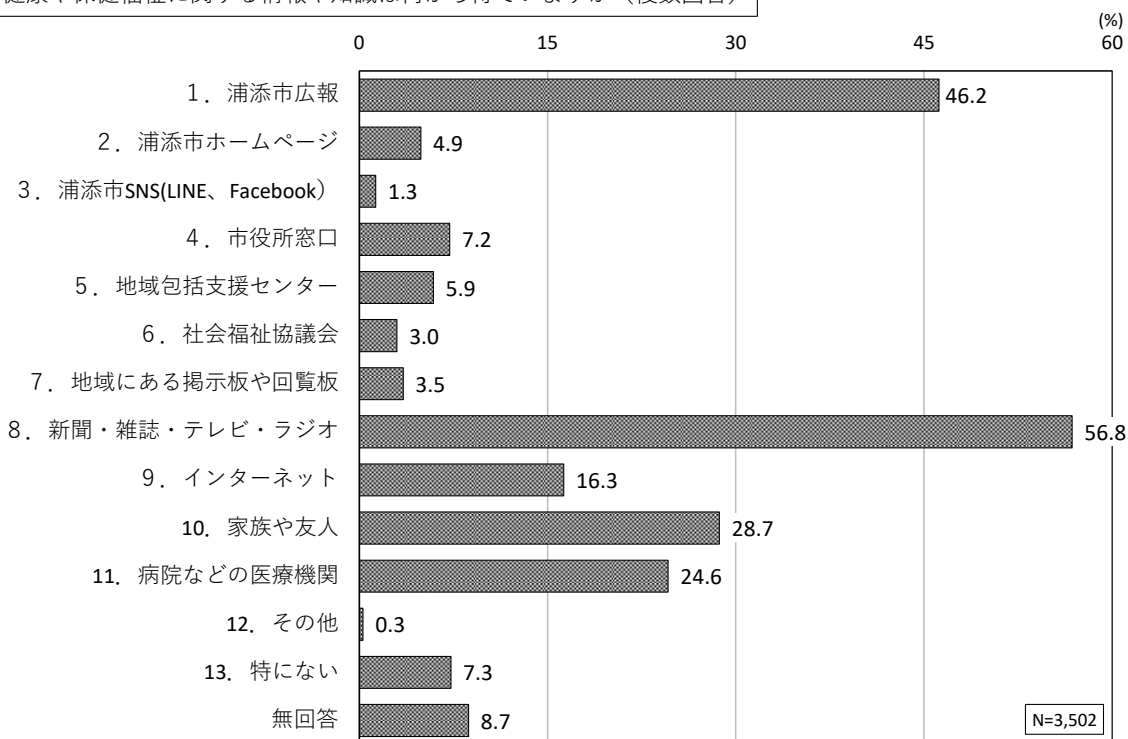


○健康や保健福祉に関する情報収集【問 11（１）】

健康や保健福祉に関する情報・知識の入手先についてうかがうと、「８．新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が 56.8% で最も高い。次いで「１．浦添市広報」(46.2%)、「10．家族や友人」(28.7%)、「11．病院などの医療機関」(24.6%) と続いている。

年齢別にみると、「８．新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」は全ての年齢層において 5 割前後と高い割合を示している一方で、「９．インターネット」については主に『65 歳から 74 歳まで』の方たちが 2 割程度となっており、それより上の年齢層の方たちにおいては僅かな割合となっている。

健康や保健福祉に関する情報や知識は何から得ていますか（複数回答）

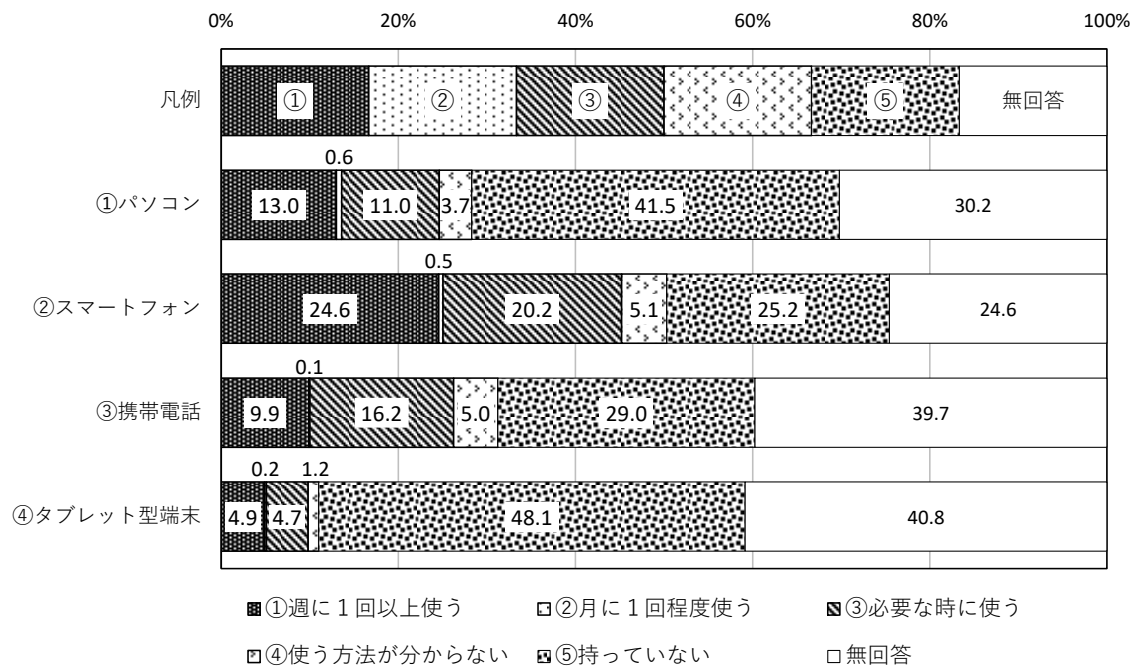


属性		健康や保健福祉に関する情報や知識は何から得ていますか							
		合計	1. 浦添市広報	2. 浦添市ホームページ	3. 浦添市SNS(LINE、Facebook)	4. 市役所窓口	5. 地域包括支援センター	6. 社会福祉協議会	7. 地域にある掲示板や回覧板
全 体		3,502	1,618	171	46	252	207	106	123
		－	46.2	4.9	1.3	7.2	5.9	3.0	3.5
性別	男 性	1,519	596	90	22	103	68	53	51
		－	39.2	5.9	1.4	6.8	4.5	3.5	3.4
	女 性	1,983	1,022	81	24	149	139	53	72
		－	51.5	4.1	1.2	7.5	7.0	2.7	3.6
年齢階級	65～69歳	913	454	72	20	56	29	21	29
		－	49.7	7.9	2.2	6.1	3.2	2.3	3.2
	70～74歳	1,033	476	53	18	67	53	30	32
		－	46.1	5.1	1.7	6.5	5.1	2.9	3.1
	75～79歳	633	322	23	4	53	47	24	30
		－	50.9	3.6	0.6	8.4	7.4	3.8	4.7
	80～84歳	561	214	12	1	55	38	19	22
		－	38.1	2.1	0.2	9.8	6.8	3.4	3.9
	85～89歳	278	121	10	3	20	32	10	8
		－	43.5	3.6	1.1	7.2	11.5	3.6	2.9
	90歳以上	84	31	1	0	1	8	2	2
		－	36.9	1.2	0.0	1.2	9.5	2.4	2.4
認定別	一般高齢者	3,351	1,557	169	46	243	171	103	117
		－	46.5	5.0	1.4	7.3	5.1	3.1	3.5
	要支援者等	151	61	2	0	9	36	3	6
		－	40.4	1.3	0.0	6.0	23.8	2.0	4.0
属性	上段:実数 下段:横%	合計	8. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	9. インターネット	10. 家族や友人	11. 病院などの医療機関	12. その他	13. 特にない	無回答
全 体		3,502	1,990	572	1,005	862	9	256	306
		－	56.8	16.3	28.7	24.6	0.3	7.3	8.7
性別	男 性	1,519	850	303	339	379	4	127	141
		－	56.0	19.9	22.3	25.0	0.3	8.4	9.3
	女 性	1,983	1,140	269	666	483	5	129	165
		－	57.5	13.6	33.6	24.4	0.3	6.5	8.3
年齢階級	65～69歳	913	486	243	256	205	3	76	60
		－	53.2	26.6	28.0	22.5	0.3	8.3	6.6
	70～74歳	1,033	590	209	299	238	1	75	93
		－	57.1	20.2	28.9	23.0	0.1	7.3	9.0
	75～79歳	633	408	82	194	175	1	31	47
		－	64.5	13.0	30.6	27.6	0.2	4.9	7.4
	80～84歳	561	319	31	153	152	2	42	66
		－	56.9	5.5	27.3	27.1	0.4	7.5	11.8
	85～89歳	278	146	5	86	73	1	22	30
		－	52.5	1.8	30.9	26.3	0.4	7.9	10.8
	90歳以上	84	41	2	17	19	1	10	10
		－	48.8	2.4	20.2	22.6	1.2	11.9	11.9
認定別	一般高齢者	3,351	1,916	567	957	823	8	247	296
		－	57.2	16.9	28.6	24.6	0.2	7.4	8.8
	要支援者等	151	74	5	48	39	1	9	10
		－	49.0	3.3	31.8	25.8	0.7	6.0	6.6

○情報通信機器の利用頻度について【問 11（2）】

回答者が日常生活において必要な情報を得るために、パソコンやスマートフォン等の情報通信機器を使う頻度を以下に整理する。これをみると、『使う』（「1. 週に1回以上」＋「2. 月に1回程度」＋「3. 必要な時」）とした機器については、「3. スマートフォン」が45.3%で最も高い。

情報通信機器の利用状況

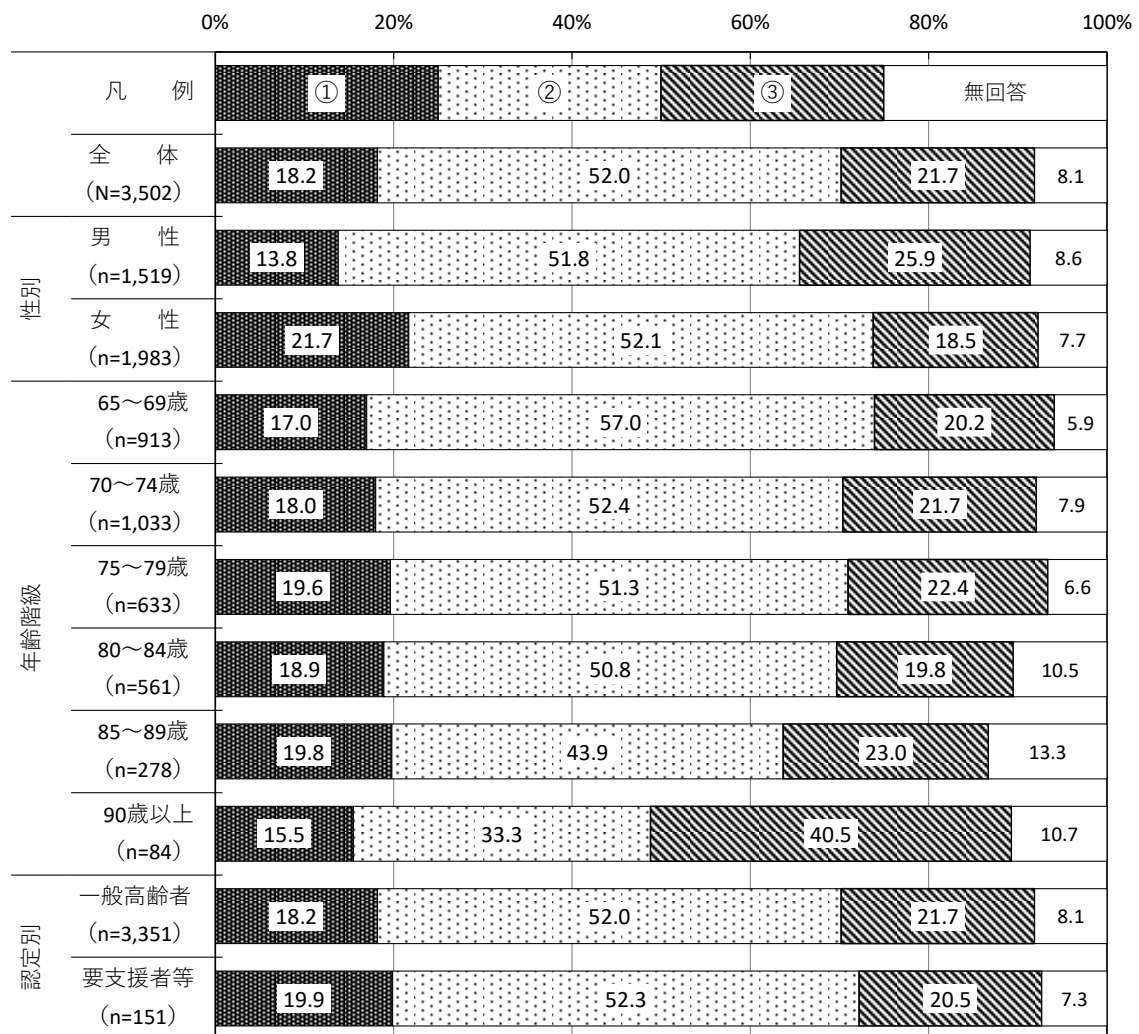


○介護予防への関心度・取り組みについて【問 13（１）・（２）・（２）－ ①・②】

介護予防の取り組みについてうかがうと、市全体では『介護予防を理解していない』（「２．聞いたことはあるが、あまり理解していない」＋「３．知らない」）とした割合が73.7%で高い。

男女別にみると、「１．介護予防を理解している」とした回答者は男性よりも女性が高く（女性：21.7%，男性：13.8%）、介護予防活動について男女で関心度が異なることがうかがえる。

介護予防について知っていますか



■①聞いたことがあり、よく理解している

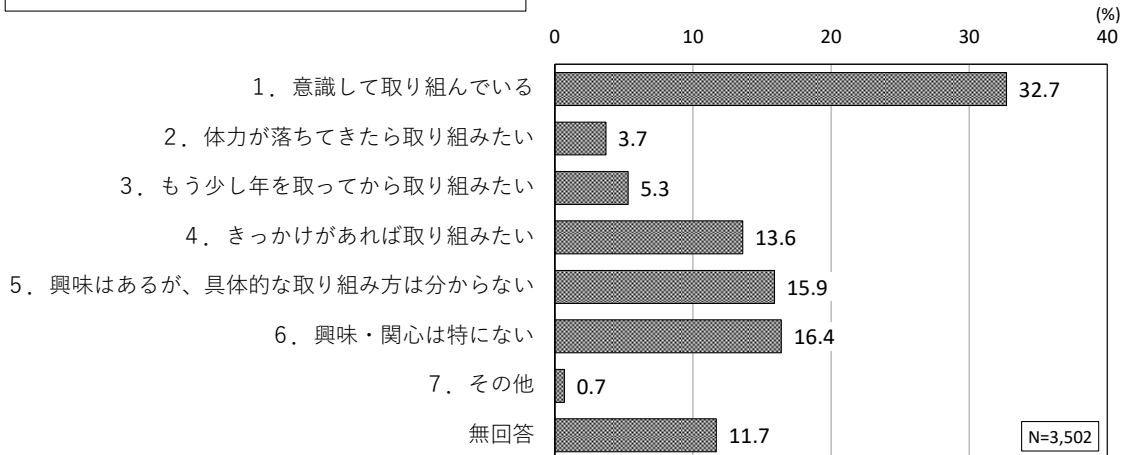
□②聞いたことはあるが、あまり理解していない

■③聞いたことがなく、知らない

□無回答

介護予防活動に意識して取り組んでいるかをうかがうと、「1. 意識して取り組んでいる」が32.7%で最も高い一方で、「6. 興味・関心は特にない」(16.4%)とした回答も次点で多い。

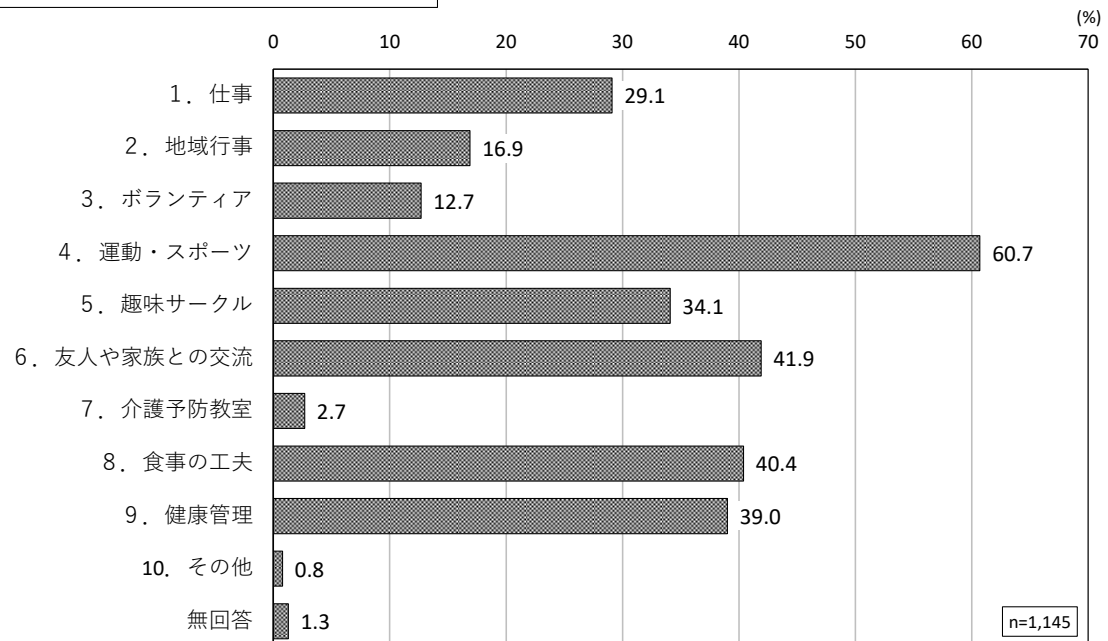
介護予防活動に取り組んでいますか（単数回答）



属性		介護予防活動に取り組んでいますか									
		合計	1. 意識して取り組んでいる	2. 体力が落ちてきたら取り組みたい	3. もう少し年を取ってから取り組みたい	4. きっかけがあれば取り組みたい	5. 興味はあるが、具体的な取り組み方は分からない	6. 興味・関心は特にない	7. その他	無回答	
上段:実数 下段:横%											
全 体		3,502 100.0	1,145 32.7	128 3.7	185 5.3	476 13.6	558 15.9	576 16.4	26 0.7	408 11.7	
性別	男 性	1,519 100.0	460 30.3	66 4.3	101 6.6	167 11.0	252 16.6	292 19.2	9 0.6	172 11.3	
		1,983 100.0	685 34.5	62 3.1	84 4.2	309 15.6	306 15.4	284 14.3	17 0.9	236 11.9	
	年 齢 階 級	65～69歳	913 100.0	322 35.3	39 4.3	84 9.2	139 15.2	146 16.0	111 12.2	3 0.3	69 7.6
			70～74歳	1,033 100.0	352 34.1	32 3.1	52 5.0	148 14.3	166 16.1	166 16.1	8 0.8
75～79歳		633 100.0	214 33.8	27 4.3	26 4.1	85 13.4	94 14.8	95 15.0	2 0.3	90 14.2	
		80～84歳	561 100.0	161 28.7	15 2.7	18 3.2	83 14.8	93 16.6	102 18.2	5 0.9	84 15.0
85～89歳		278 100.0	84 30.2	10 3.6	5 1.8	19 6.8	50 18.0	65 23.4	4 1.4	41 14.7	
		90歳以上	84 100.0	12 14.3	5 6.0	0 0.0	2 2.4	9 10.7	37 44.0	4 4.8	15 17.9
認 定 別	一般高齢者	3,351 100.0	1,110 33.1	125 3.7	180 5.4	465 13.9	530 15.8	534 15.9	24 0.7	383 11.4	
		要支援者等	151 100.0	35 23.2	3 2.0	5 3.3	11 7.3	28 18.5	42 27.8	2 1.3	25 16.6

前述の「意識して取り組んでいる」とした回答について具体的な内容をうかがうと、「4. 運動・スポーツ」が60.7%で最も高く、以下「6. 友人や家族との交流」(41.9%)、「8. 食事の工夫」(40.4%)、「9. 健康管理」(39.0%)と続いている。

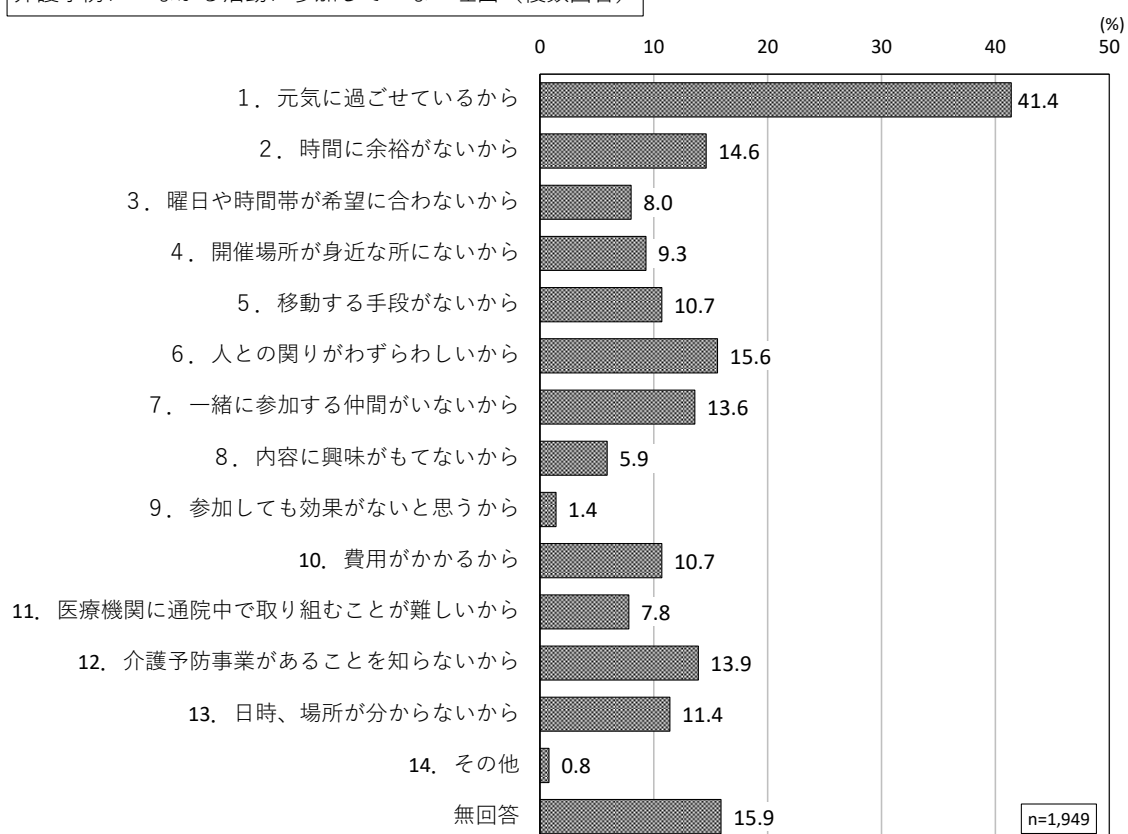
取り組んでいる介護予防活動（複数回答）



属性	上段:実数 下段:横%	取り組んでいる活動はどれですか(複数回答)											
		合計	1. 仕事	2. 地域行事	3. ボランティア	4. 運動・スポーツ	5. 趣味サークル	6. 友人や家族との交流	7. 介護予防教室	8. 食事の工夫	9. 健康管理	10. その他	無回答
全体		1,145	333	194	145	695	390	480	31	463	446	9	15
		—	29.1	16.9	12.7	60.7	34.1	41.9	2.7	40.4	39.0	0.8	1.3
性別	男性	460	153	73	63	314	133	144	5	133	165	3	5
		—	33.3	15.9	13.7	68.3	28.9	31.3	1.1	28.9	35.9	0.7	1.1
	女性	685	180	121	82	381	257	336	26	330	281	6	10
		—	26.3	17.7	12.0	55.6	37.5	49.1	3.8	48.2	41.0	0.9	1.5
年齢階級	65～69歳	322	156	38	44	203	90	142	0	120	105	5	2
		—	48.4	11.8	13.7	63.0	28.0	44.1	0.0	37.3	32.6	1.6	0.6
	70～74歳	352	119	55	52	231	132	145	5	147	147	2	4
		—	33.8	15.6	14.8	65.6	37.5	41.2	1.4	41.8	41.8	0.6	1.1
	75～79歳	214	39	49	29	135	90	83	5	89	91	2	6
		—	18.2	22.9	13.6	63.1	42.1	38.8	2.3	41.6	42.5	0.9	2.8
	80～84歳	161	17	30	15	84	54	74	10	68	66	0	1
		—	10.6	18.6	9.3	52.2	33.5	46.0	6.2	42.2	41.0	0.0	0.6
	85～89歳	84	2	21	4	35	20	32	10	35	32	0	2
		—	2.4	25.0	4.8	41.7	23.8	38.1	11.9	41.7	38.1	0.0	2.4
認定別	90歳以上	12	0	1	1	7	4	4	1	4	5	0	0
		—	0.0	8.3	8.3	58.3	33.3	33.3	8.3	33.3	41.7	0.0	0.0
	一般高齢者	1,110	332	191	144	679	387	466	19	454	434	8	15
		—	29.9	17.2	13.0	61.2	34.9	42.0	1.7	40.9	39.1	0.7	1.4
	要支援者等	35	1	3	1	16	3	14	12	9	12	1	0
		—	2.9	8.6	2.9	45.7	8.6	40.0	34.3	25.7	34.3	2.9	0.0

一方で、「介護予防に意識して取り組んでいる」以外を選択した回答者へ、その理由についてうかがうと、「1. 元気に過ごせているから」が41.4%で最も高く、以下「6. 人との関わりがわずらわしいから」(15.6%)、「2. 時間に余裕が無いから」(14.6%)などと続いている。

介護予防につながる活動に参加していない理由（複数回答）



属性		介護予防につながる活動に参加していない理由(複数回答)								
		合計	1. 元気に 過ごせて いるから	2. 時間に 余裕がな いから	3. 曜日 や時間帯 が希望に 合わない から	4. 開催 場所が身 近な所に ないから	5. 移動す る手段が ないから	6. 人との 関りがわ ずらわし いから	7. 一緒に 参加する 仲間がい ないから	8. 内容に 興味がも てないか ら
全 体		1,949 －	806 41.4	284 14.6	156 8.0	182 9.3	209 10.7	304 15.6	266 13.6	115 5.9
性別	男 性	887 －	417 47.0	107 12.1	52 5.9	67 7.6	61 6.9	157 17.7	111 12.5	69 7.8
	女 性	1,062 －	389 36.6	177 16.7	104 9.8	115 10.8	148 13.9	147 13.8	155 14.6	46 4.3
年齢階級	65～69歳	522 －	240 46.0	123 23.6	52 10.0	34 6.5	45 8.6	80 15.3	75 14.4	30 5.7
	70～74歳	572 －	256 44.8	85 14.9	55 9.6	49 8.6	46 8.0	105 18.4	77 13.5	32 5.6
	75～79歳	329 －	141 42.9	42 12.8	26 7.9	41 12.5	45 13.7	48 14.6	43 13.1	18 5.5
	80～84歳	316 －	114 36.1	27 8.5	19 6.0	39 12.3	40 12.7	35 11.1	42 13.3	15 4.7
	85～89歳	153 －	37 24.2	5 3.3	2 1.3	17 11.1	29 19.0	21 13.7	21 13.7	13 8.5
	90歳以上	57 －	18 31.6	2 3.5	2 3.5	2 3.5	4 7.0	15 26.3	8 14.0	7 12.3
	認定別	一般高齢者	1,858 －	795 42.8	283 15.2	152 8.2	173 9.3	188 10.1	293 15.8	254 13.7
	要支援者等	91 －	11 12.1	1 1.1	4 4.4	9 9.9	21 23.1	11 12.1	12 13.2	10 11.0
属性		合計	9. 参加し ても効果 がないと 思うから	10. 費用 がかかる から	11. 医療 機関に通 院してい て取り組 むことが 難しいか ら	12. 介護 予防事業 があるこ とを知ら ないから	13. 日 時、場所 が分から ないから	14. その 他	無回答	
全 体		1,949 －	27 1.4	209 10.7	152 7.8	270 13.9	223 11.4	16 0.8	310 15.9	
性別	男 性	887 －	18 2.0	74 8.3	59 6.7	124 14.0	93 10.5	6 0.7	151 17.0	
	女 性	1,062 －	9 0.8	135 12.7	93 8.8	146 13.7	130 12.2	10 0.9	159 15.0	
年齢階級	65～69歳	522 －	3 0.6	63 12.1	28 5.4	59 11.3	62 11.9	2 0.4	77 14.8	
	70～74歳	572 －	12 2.1	65 11.4	43 7.5	86 15.0	65 11.4	2 0.3	70 12.2	
	75～79歳	329 －	4 1.2	38 11.6	26 7.9	58 17.6	45 13.7	3 0.9	47 14.3	
	80～84歳	316 －	4 1.3	24 7.6	34 10.8	43 13.6	35 11.1	1 0.3	67 21.2	
	85～89歳	153 －	2 1.3	14 9.2	16 10.5	18 11.8	14 9.2	5 3.3	40 26.1	
	90歳以上	57 －	2 3.5	5 8.8	5 8.8	6 10.5	2 3.5	3 5.3	9 15.8	
認定別	一般高齢者	1,858 －	25 1.3	196 10.5	130 7.0	254 13.7	212 11.4	14 0.8	288 15.5	
	要支援者等	91 －	2 2.2	13 14.3	22 24.2	16 17.6	11 12.1	2 2.2	22 24.2	

VII. 考察（市全域について）

1) 「Ⅱ. 機能」について

- ・高齢者の心身の個別領域（運動器、転倒リスク、閉じこもり、栄養、口腔、認知機能、うつ）で、その状況をみると、うつ（40.3%）、認知機能（35.0%）の領域で本市平均のリスク該当者が3割を超えており、他領域に比べて高く、特にうつは約4割を占める。
- ・男女別にみると、運動器や閉じこもりの領域において女性の該当率が比較的高くなっている。

2) 「Ⅲ. 日常生活」について

- ・本調査の対象となる要介護認定者を除く高齢者では、手段的自立度（IADL）が低下している方は6.7%にとどまる。
- ・外出を控えている方が31.2%みられ、その理由としては「足腰などの痛み」、「交通手段がない」、「外での楽しみがない」、「トイレの心配」、「経済的に出られない」との回答割合が比較的高くなっている。

3) 「Ⅳ. 社会参加」について

- ・社会参加については、社会的な交流能力である「社会的役割」が低下している人が本市平均で32.6%と比較的高い。
- ・地域活動への参加頻度について、積極的に社会参加を行っている人の割合はコロナ禍の影響を受けて低下している。
- ・友人・知人に会う頻度として、閉じこもり傾向やうつ傾向に該当する人ほど非該当の人よりも「ほとんど会わない（ほとんどない）」とした割合が高くなっている。また、わずかではあるが、「心配事や愚痴を聞いてくれる人はいない」（4.3%）や「病気で寝込んだときに看病や世話をしてくれる人はいない」（5.7%）との回答もみられる。

4) 「Ⅴ. 健康・疾病」について

- ・聞こえについて、相手の声が『聞き取りにくいことがある』方が48.6%みられる一方で、補聴器を使用している方は5.2%にとどまる。
- ・現在治療中、または後遺症のある病気として、「高血圧」と回答した割合が44.6%と最も高く、「目の病気」（16.8%）、「筋骨格の病気」（14.5%）、「糖尿病」（13.2%）、「高脂血症（脂質異常）」（12.5%）の順で割合が高い。
- ・性別でみると、「高血圧」、「脳卒中」、「心臓病」、「糖尿病」については男性の割合が高く、「筋骨格系疾患」については女性の割合が高い。
- ・BMI値をみると、「普通」が56.5%、「肥満」が33.1%、「やせ」が3.3%となっている。「肥満」の方は疾病がない割合が低く、「高血圧」、「糖尿病」、「高脂血症（脂質異常）」等の疾病の割合が高くなっている。

5) 「Ⅵ. 介護」について

- ・本調査の対象となる要介護認定者を除く高齢者では、「介護・介助は必要ない」方が 85.9%を占める。一方、年齢が上がるほど介護を必要とする割合は高くなり、90 歳以上の男性で 42.3%、女性で 55.1%となっている。また、「やせ」の方では 24.8%が介護を必要と回答している。
- ・介護・介助が必要になった原因について、男性では「高齢による衰弱」が 19.0%と最も高く、「脳卒中」(17.4%)、「心臓病」(16.8%)の順で高い。女性は「骨折・転倒」が 25.8%と最も高く、「高齢による衰弱」(22.0%)、「関節の病気」(20.6%)の順で高く、男女で介護・介助が必要になった原因が異なる。
- ・介護者（複数回答）としては、「娘」が 39.2%と最も高く、「配偶者」(32.2%)、「息子」(24.1%)と続いており、家族の割合が高くなっている。また、娘（女性）と息子（男性）では約 15 ポイントの差がみられる。
- ・将来介護が必要になった時の療養場所として、男女ともに「自宅」での介護を希望する割合が上位となっている。なお、女性の場合は「介護施設」での療養を希望する割合が最も高い。
- ・認知症に関する相談窓口の認知度が 18.6%、地域包括支援センターの認知度が 30.2%となっている。

以上を踏まえ、今後、本市における高齢者の課題の抽出にむけたポイントを整理する。

- ・『うつ』と『認知機能』について、該当者（リスク者）の割合が3割を超えていることから、専門機関が担う役割や公的な支援方策の検討・充実に加え、地域サービスとしての希望が高い「見守り、声かけ」活動の推進や「交流の場」の設置等による、リスク者を減らす取り組みが必要となる。なお、地域づくり活動へ既に参加している割合はわずか4%程度にとどまるものの、参加者として「参加したい」との回答は6割弱にのぼるため、参加手法や活動形態を考慮することにより、今後、地域づくり活動への参加者の増加が期待される。
- ・外出を控えている方が3割強、友人・知人に会うことがほとんどない方が2割弱みられる。これらは新型コロナウイルス感染症拡大の影響による傾向も想定されるものの、傾向が深刻化することで『うつ』や『閉じこもり』リスクにも転じる可能性があることから、高齢者の社会参加を推進する取り組みについて検討する必要がある。また、外出を控える要因として「足腰の痛み」や「交通手段がない」点を挙げている回答も多いことから、運動機能改善への働きかけや移動手段の確保等の取り組みが必要とされている。
- ・本市の高齢者の「高血圧」と回答した割合は4割強にのぼり、65～69歳時点の男性で4割強・女性では3割強が治療中と回答している。介護・介助が必要になる直接の原因ではないが、心臓病や脳卒中等の病気に繋がることもあり、要介護状態への移行を抑制するためには、健康維持にむけた早期の取り組みも必要であるといえる。
- ・「肥満」の方が3割強となっており、「高血圧」、「糖尿病」、「高脂血症（脂質異常）」等の生活習慣病の割合が高くなる傾向がみられる。一方、「やせ」の方はわずか3%程度にとどまるものの、介護を必要としている割合が高い傾向がみられる。このようなことから、肥満や低栄養を予防し、適正体重を維持することは高齢者の健康づくり及び介護予防において重要である。
- ・主な介護者は、「娘」や「配偶者」であることが多く、高齢者本人だけでなく、家族介護者を含めたニーズの把握を行い、必要な支援やサービスを検討していくことが求められる。
- ・将来介護が必要になった時の療養場所として、「自宅」を希望する割合が男性で3割強、女性で2割強となっていることから、在宅生活を継続するために必要となる支援やサービスを把握し、今後、介護保険または地域によるサービスを提供できる仕組みを構築する必要がある。
- ・地域包括支援センターの認知度が30.2%にとどまっている一方で、要支援者等では半数以上が「知っている」と回答している。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会にするためには、地域包括支援センター等の身近な相談窓口の周知を図るとともに、初期相談をはじめ、一体的なサービス提供が行われるような基盤づくりを強化する必要がある。

日常生活圏域

I. 回答者の属性

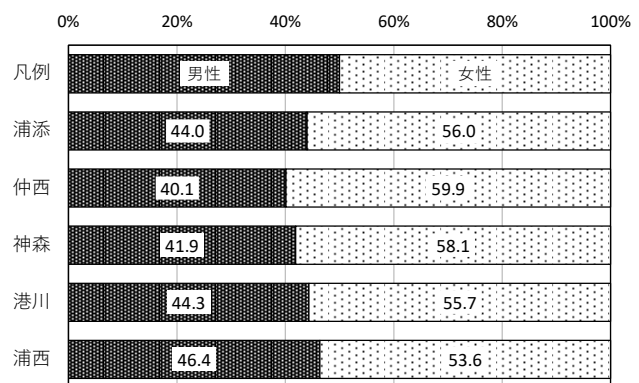
【圏域区分】

圏域	浦添	仲西	神森	港川	浦西
行政区	仲間/安波茶/経塚/前田/茶山/浦添ニュータウン/浦添グリーンハイツ/前田公務員宿舎/浦添ハイツ/県営経塚団地	城間/屋富祖/宮城/仲西/大平/浅野浦/キャンプキンザー	小湾/勢理客/内間/沢岨/神森/県営沢岨高層住宅	伊祖/牧港/港川/緑ヶ丘/浦城/牧港ハイツ/港川崎原/上野/マチナトタウン/浦添市街地住宅/県営港川団地	西原一区/西原二区/当山/広栄/浦西/安川/当山ハイツ/陽迎橋

【性別】

回答者の性別は、どの圏域も男女の割合は概ね男性：4～5割／女性：5～6割程度で、わずかに女性の割合が高い。

		合計	男性	女性
全体	件数(件)	3,502	1,519	1,983
	割合(%)	100.0	43.4	56.6
浦添	件数(件)	723	318	405
	割合(%)	100.0	44.0	56.0
仲西	件数(件)	668	268	400
	割合(%)	100.0	40.1	59.9
神森	件数(件)	697	292	405
	割合(%)	100.0	41.9	58.1
港川	件数(件)	715	317	398
	割合(%)	100.0	44.3	55.7
浦西	件数(件)	699	324	375
	割合(%)	100.0	46.4	53.6



【年齢構成】

今回調査への回答状況及び現況をみると、浦西地区は前期高齢者（65～74 歳）の割合が、他圏域に比べわずかに高い。

■今回調査

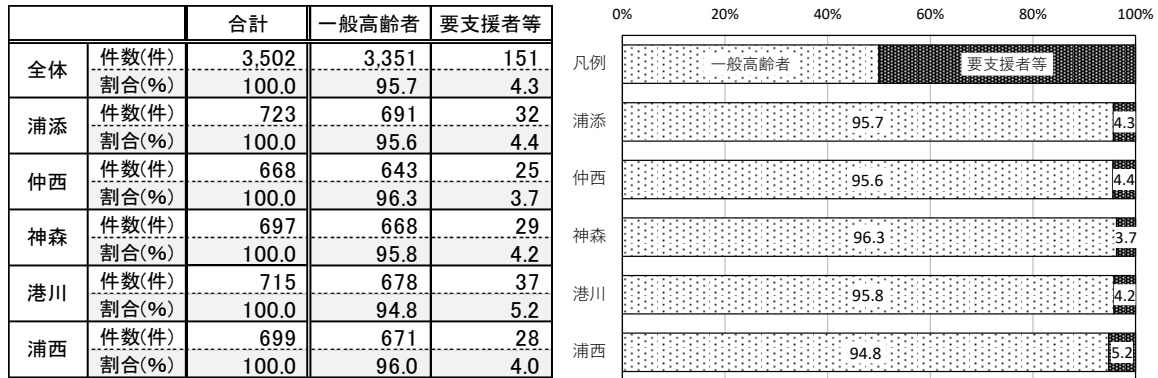
		合計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	前期高齢者 (65～74歳)	後期高齢者 (75歳以上)
全体	件数(件)	3,502	913	1,033	633	561	278	84	1,946	1,556
	割合(%)	100.0	26.1	29.5	18.1	16.0	7.9	2.4	55.6	44.4
浦添	件数(件)	723	167	203	133	133	71	16	370	353
	割合(%)	100.0	23.1	28.1	18.4	18.4	9.8	2.2	51.2	48.8
仲西	件数(件)	668	170	204	115	101	59	19	374	294
	割合(%)	100.0	25.4	30.5	17.2	15.1	8.8	2.8	56.0	44.0
神森	件数(件)	697	172	200	117	138	57	13	372	325
	割合(%)	100.0	24.7	28.7	16.8	19.8	8.2	1.9	53.4	46.6
港川	件数(件)	715	195	201	131	96	69	23	396	319
	割合(%)	100.0	27.3	28.1	18.3	13.4	9.7	3.2	55.4	44.6
浦西	件数(件)	699	209	225	137	93	22	13	434	265
	割合(%)	100.0	29.9	32.2	19.6	13.3	3.1	1.9	62.1	37.9

■現況（令和5年1月31日現在）

		合計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	前期高齢者 (65～74歳)	後期高齢者 (75歳以上)
全体	人口(人)	24,124	6,237	6,531	3,787	3,635	2,461	1,473	12,768	11,356
	割合(%)	100.0	25.9	27.1	15.7	15.1	10.2	6.1	52.9	47.1
浦添	人口(人)	4,618	1,071	1,181	759	771	517	319	2,252	2,366
	割合(%)	100.0	23.2	25.6	16.4	16.7	11.2	6.9	48.8	51.2
仲西	人口(人)	6,659	1,741	1,815	1,014	957	696	436	3,556	3,103
	割合(%)	100.0	26.1	27.3	15.2	14.4	10.5	6.5	53.4	46.6
神森	人口(人)	4,950	1,219	1,316	755	849	554	257	2,535	2,415
	割合(%)	100.0	24.6	26.6	15.3	17.2	11.2	5.2	51.2	48.8
港川	人口(人)	4,967	1,354	1,332	771	709	507	294	2,686	2,281
	割合(%)	100.0	27.3	26.8	15.5	14.3	10.2	5.9	54.1	45.9
浦西	人口(人)	2,930	852	887	488	349	187	167	1,739	1,191
	割合(%)	100.0	29.1	30.3	16.7	11.9	6.4	5.7	59.4	40.6

【認定状況】

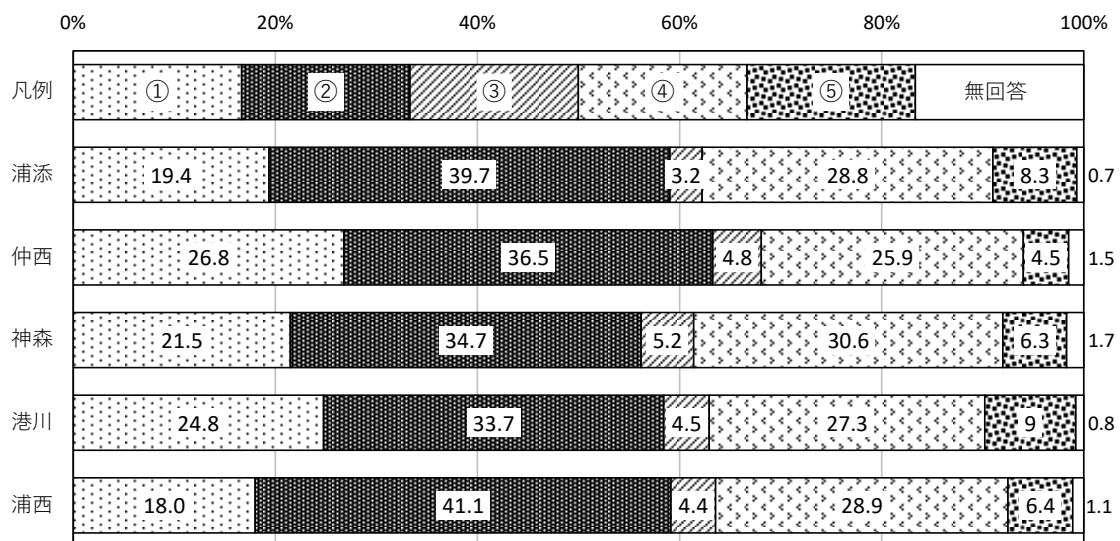
回答者の「一般高齢者」と「要支援者等」の割合について、圏域による大きな差はみられない。



【世帯構成】

仲西地区は「1人暮らし」が3割弱（26.8%）、浦西・浦添地区は「高齢の夫婦2人暮らし」がそれぞれ4割程度（浦西：41.1%，浦添：39.7%）と、他圏域に比べ割合が高い。

		合計	1. 1人暮らし	2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	4. 息子・娘との2世帯	5. その他	無回答
全体	件数(件)	3,502	772	1,301	154	991	243	41
	割合(%)	100.0	22.0	37.2	4.4	28.3	6.9	1.2
浦添	件数(件)	723	140	287	23	208	60	5
	割合(%)	100.0	19.4	39.7	3.2	28.8	8.3	0.7
仲西	件数(件)	668	179	244	32	173	30	10
	割合(%)	100.0	26.8	36.5	4.8	25.9	4.5	1.5
神森	件数(件)	697	150	242	36	213	44	12
	割合(%)	100.0	21.5	34.7	5.2	30.6	6.3	1.7
港川	件数(件)	715	177	241	32	195	64	6
	割合(%)	100.0	24.8	33.7	4.5	27.3	9.0	0.8
浦西	件数(件)	699	126	287	31	202	45	8
	割合(%)	100.0	18.0	41.1	4.4	28.9	6.4	1.1

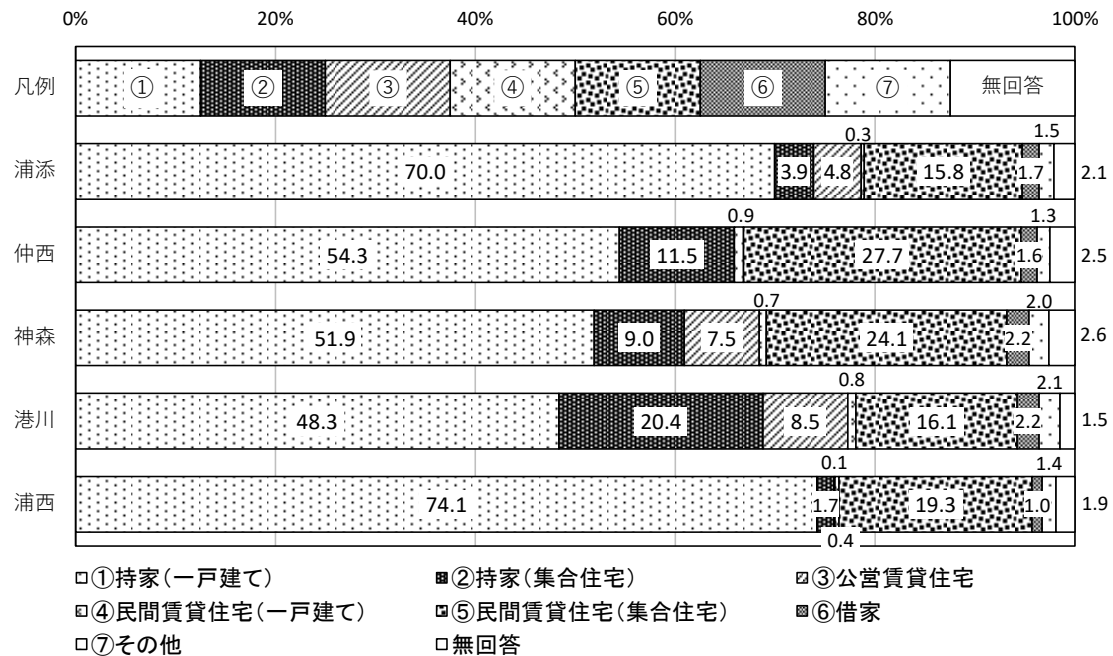


- ①1人暮らし
- ②夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
- ▨③夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
- ▩④息子・娘との2世帯
- ⑤その他
- 無回答

【住宅の所有関係】

『持家（一戸建て＋集合住宅）』が浦西で75.8%、浦添は73.9%と、他圏域に比べて割合が高い。

		合計	1. 持家 (一戸建て)	2. 持家 (集合住宅)	3. 公営賃貸 住宅	4. 民間賃貸 住宅 (一戸建て)	5. 民間賃貸 住宅 (集合住宅)	6. 借家	7. その他	無回答
全体	件数(件)	3,502	2,094	326	149	22	717	61	59	74
	割合(%)	100.0	59.8	9.3	4.3	0.6	20.5	1.7	1.7	2.1
浦添	件数(件)	723	506	28	35	2	114	12	11	15
	割合(%)	100.0	70.0	3.9	4.8	0.3	15.8	1.7	1.5	2.1
仲西	件数(件)	668	363	77	0	6	185	11	9	17
	割合(%)	100.0	54.3	11.5	0.0	0.9	27.7	1.6	1.3	2.5
神森	件数(件)	697	362	63	52	5	168	15	14	18
	割合(%)	100.0	51.9	9.0	7.5	0.7	24.1	2.2	2.0	2.6
港川	件数(件)	715	345	146	61	6	115	16	15	11
	割合(%)	100.0	48.3	20.4	8.5	0.8	16.1	2.2	2.1	1.5
浦西	件数(件)	699	518	12	1	3	135	7	10	13
	割合(%)	100.0	74.1	1.7	0.1	0.4	19.3	1.0	1.4	1.9

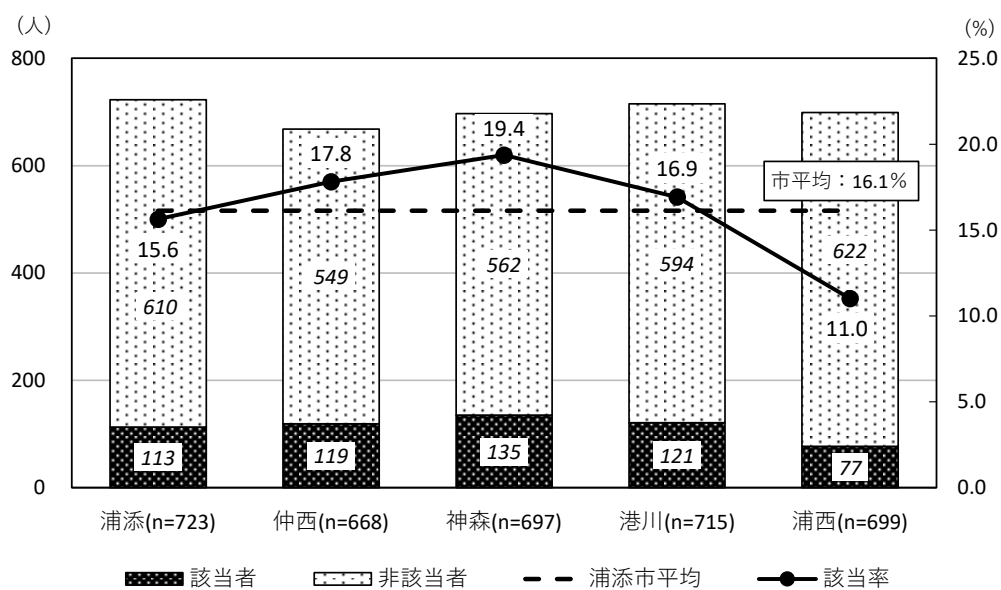


Ⅱ. 機能

ここでは、各評価項目について全高齢者に対する該当者（リスク者）の割合等を算出し、日常生活圏域別における高齢者の状況の把握を行う。

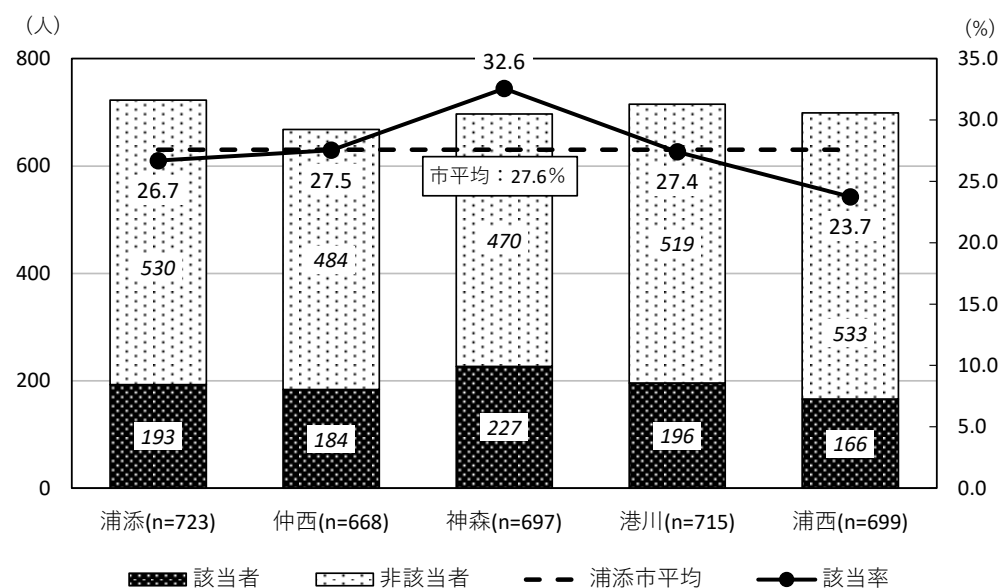
（１）運動器

『運動器』における該当率をみると、神森（19.4%）、仲西（17.8%）、港川（16.9%）で本市平均（16.1%）を超えており、一方で浦西（11.0%）は他地区に比べ該当率が低い。



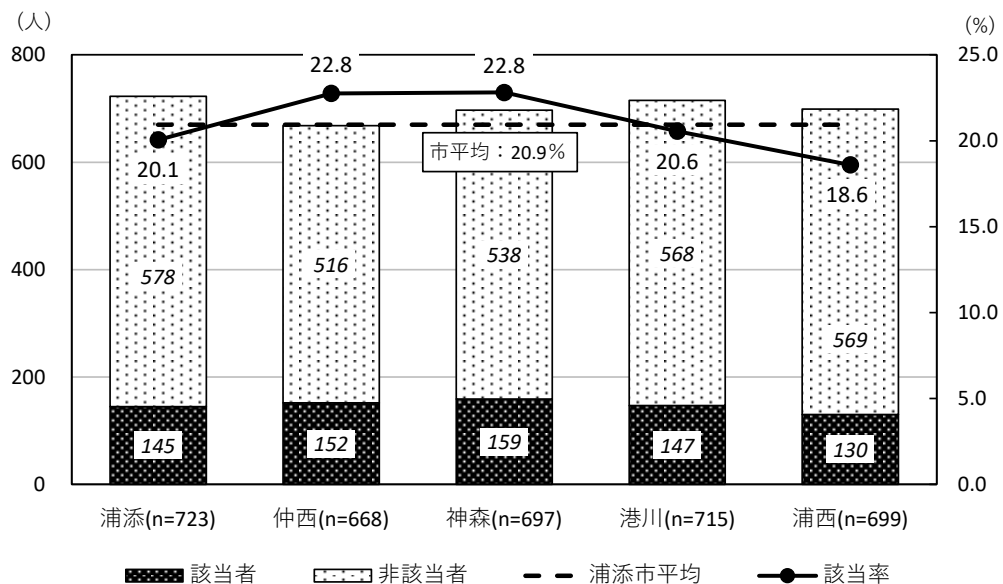
（２）転倒リスク

『転倒リスク』における該当率をみると、神森（32.6%）が他圏域と比較してとりわけ高い。



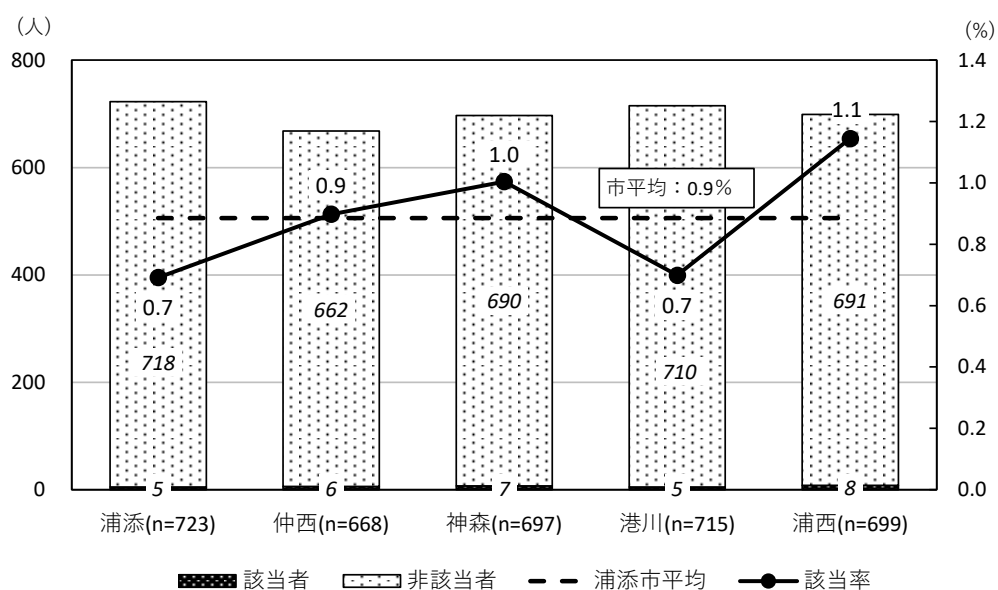
(3) 閉じこもり

『閉じこもり』における該当率をみると、仲西及び神森（それぞれ 22.8%）が本市平均（20.9%）を超えている。



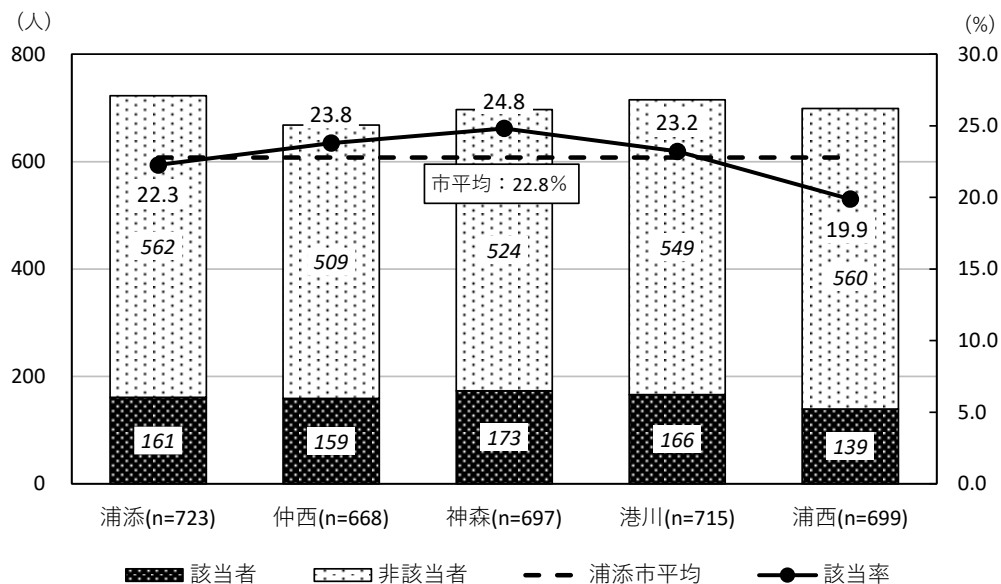
(4) 栄養（低栄養）

『栄養』における該当者の件数をみると、どの地区においても少数ではあるが5件程度の該当者が見られる。



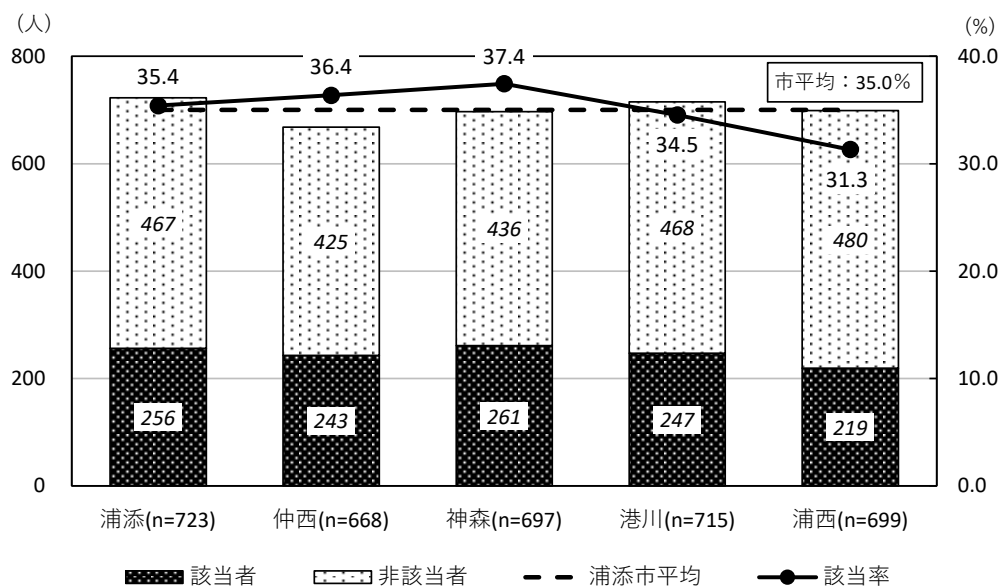
（５）口腔

『口腔』における該当率をみると、神森（24.8%）が最も高く、一方で浦西（19.9%）が他地区に比べ低い。



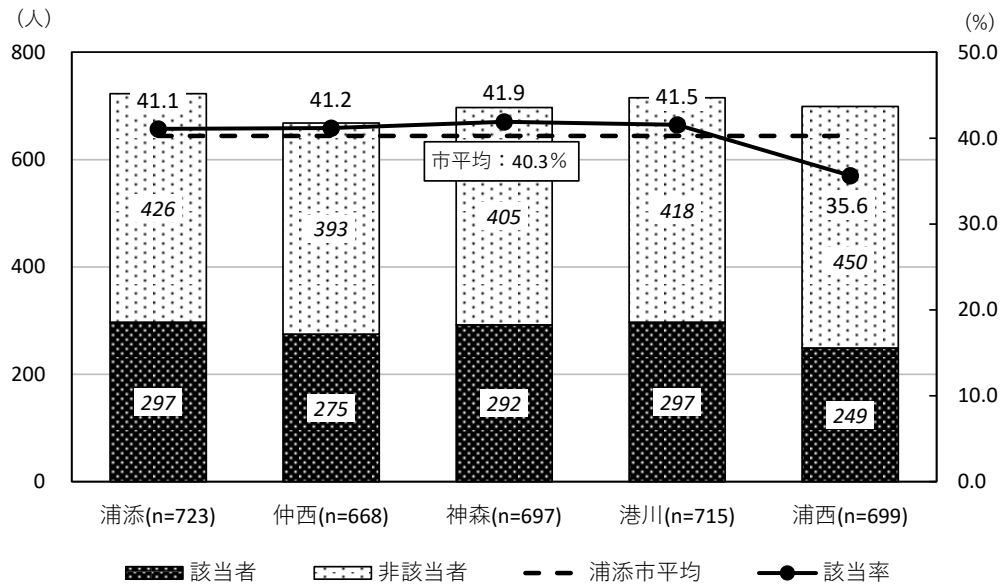
（６）認知機能

『認知機能』における該当率をみると、神森（37.4%）が最も高く、一方で浦西（31.3%）が他地区に比べ低い。



(7) うつ

『うつ』における該当率をみると、浦西（35.6%）が他地区に比べて該当率が低い。

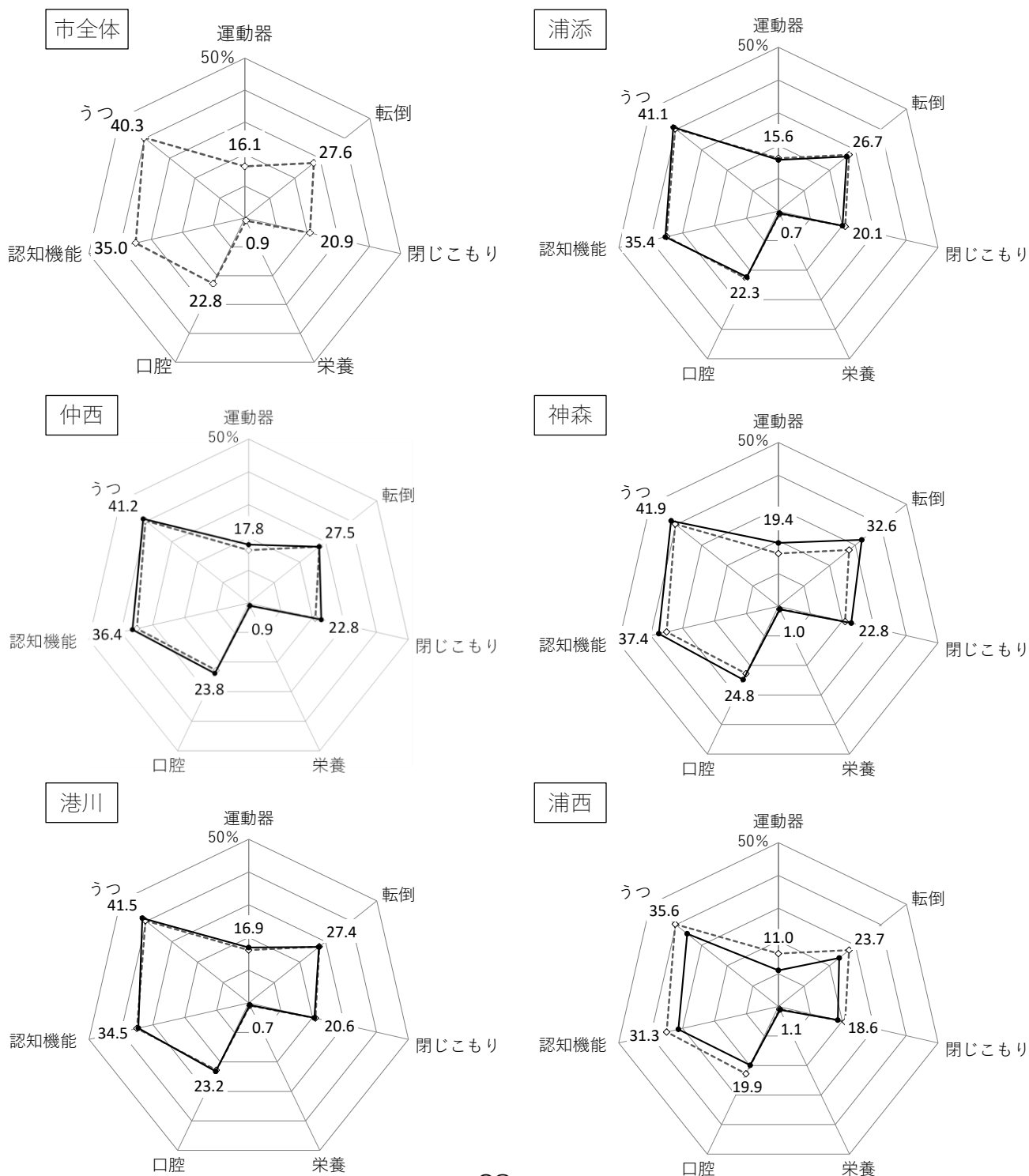


（８）生活機能の日常生活圏域別評価の総括

生活機能の評価で用いた７つの項目について、該当者（リスク者）の割合を日常生活圏域別にまとめると以下のグラフで示される。

７項目中、「栄養」以外の６項目において、神森の該当率が最も高い。また、浦西は「栄養」の１項目について他地域より該当率がわずかに高いが、他６項目に対してはいずれも市全体より該当率が低い。

それぞれの項目でグラフの大きさにわずかな差はあるものの、形状はおおよそ似通っており、各圏域で「うつ」、「認知機能」の該当率が高い傾向がみられる。



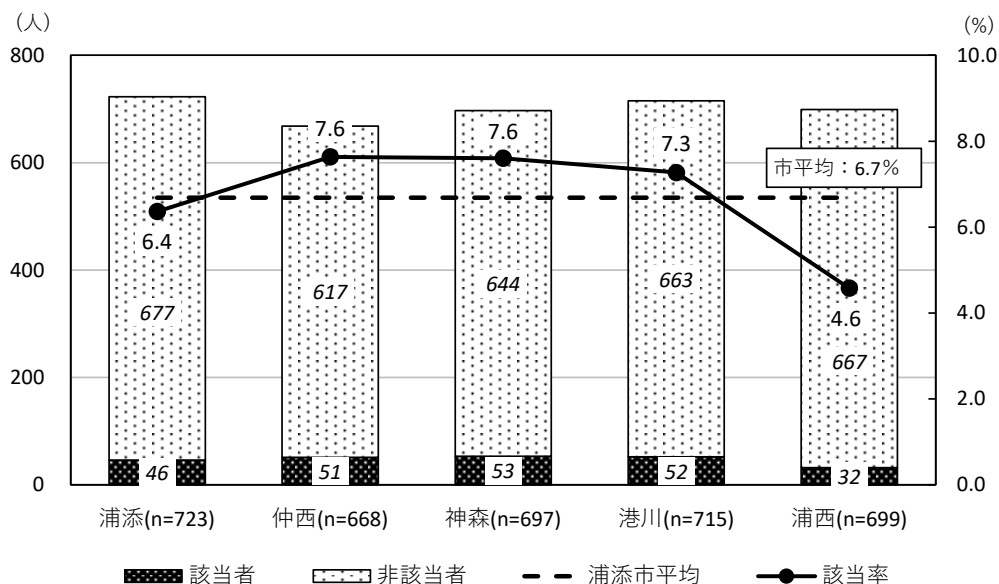
		運動器	転倒	閉じこもり	栄養	口腔	認知機能	うつ
全体 (N=3,502)	該当者(人)	565	966	733	31	798	1,226	1,410
	該当率(%)	16.1	27.6	20.9	0.9	22.8	35.0	40.3
浦添 (n=723)	該当者(人)	113	193	145	5	161	256	297
	該当率(%)	15.6	26.7	20.1	0.7	22.3	35.4	41.1
仲西 (n=668)	該当者(人)	119	184	152	6	159	243	275
	該当率(%)	17.8	27.5	22.8	0.9	23.8	36.4	41.2
神森 (n=697)	該当者(人)	135	227	159	7	173	261	292
	該当率(%)	19.4	32.6	22.8	1.0	24.8	37.4	41.9
港川 (n=715)	該当者(人)	121	196	147	5	166	247	297
	該当率(%)	16.9	27.4	20.6	0.7	23.2	34.5	41.5
浦西 (n=699)	該当者(人)	77	166	130	8	139	219	249
	該当率(%)	11.0	23.7	18.6	1.1	19.9	31.3	35.6

5 圏域の中で最も該当率が高い
 該当率が本市平均を上回っている

Ⅲ. 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

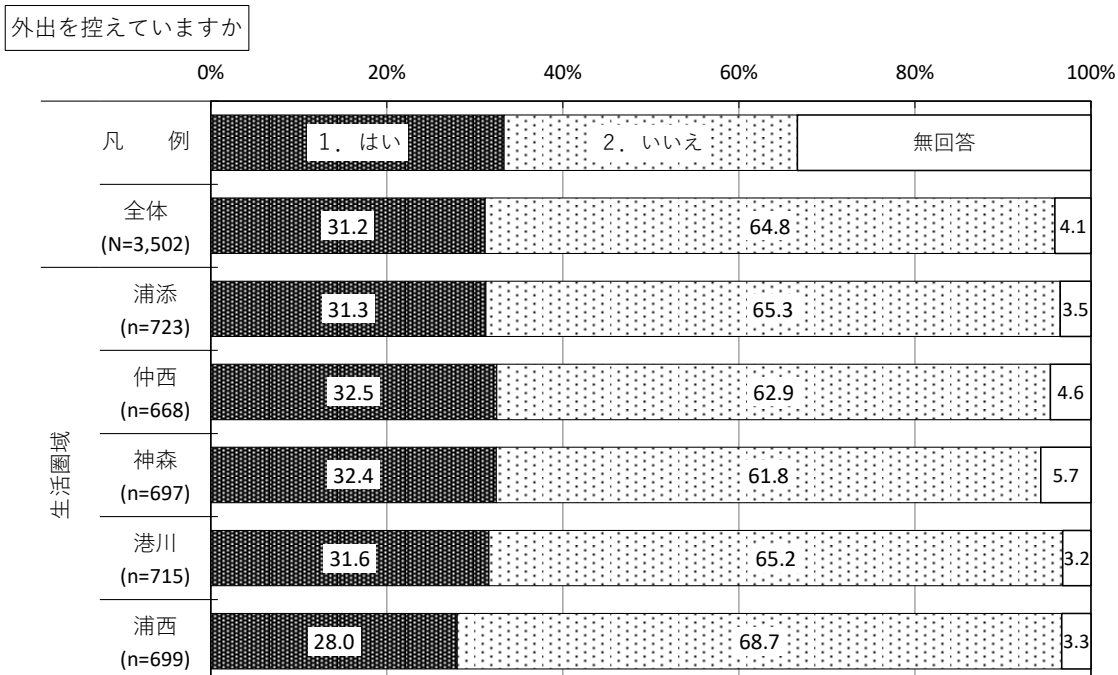
『手段的自立度 (IADL)』が低下している方の割合をみると、仲西及び神森（それぞれ7.6%）、港川（7.3%）が本市平均（6.7%）を超えている。



《関連設問》

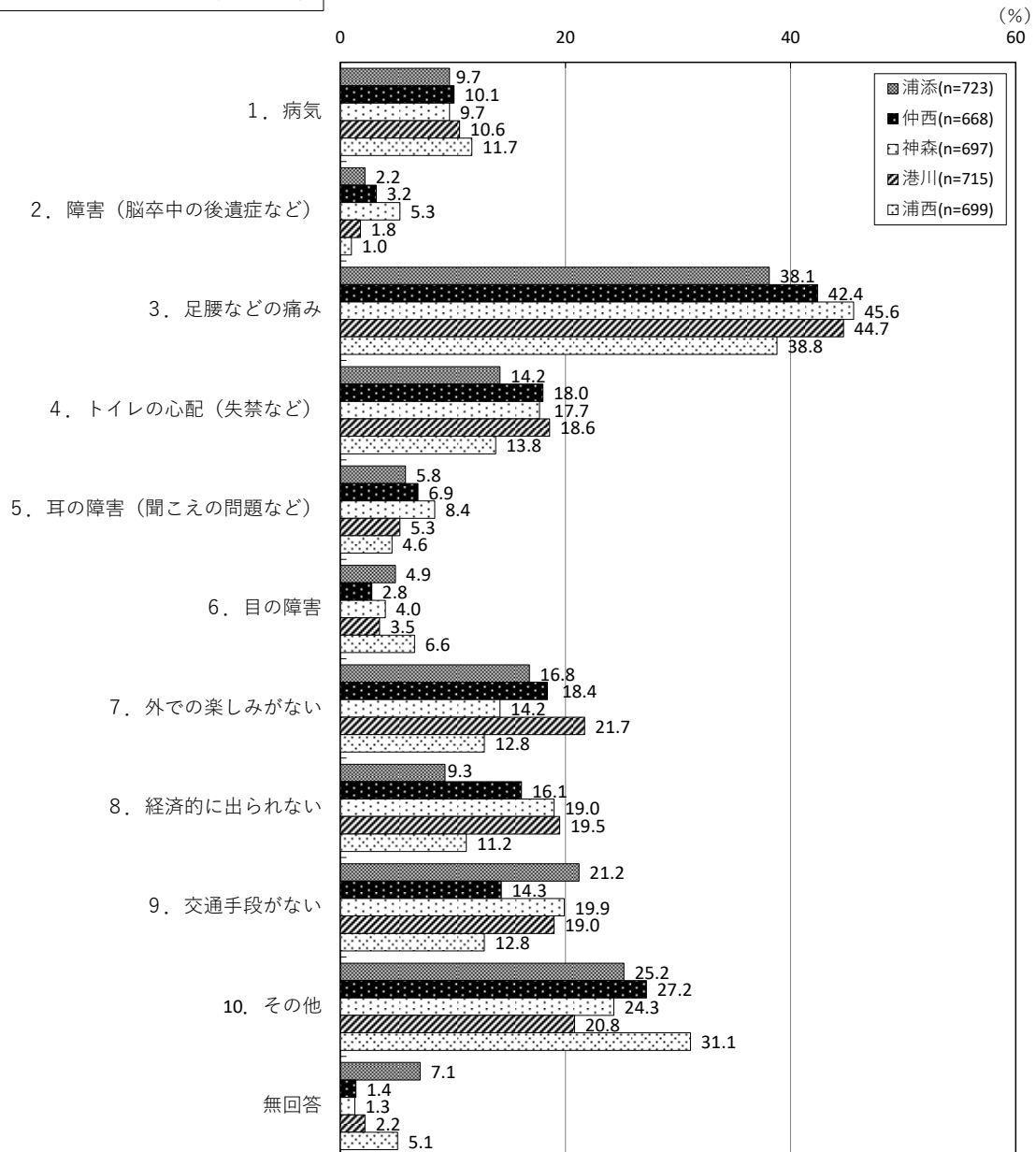
○外出の状況

外出を控えているか尋ねたところ、「控えている（はい）」とした割合は浦西（28.0%）で最も低い。



また、外出を控えている理由として圏域ごとに差が大きいものをみると、「7. 外での楽しみがない」とした割合は港川が 21.7%で最も高い。また、「9. 交通手段がない」とした割合は浦添が 21.2%で最も高い。

外出を控えている理由（複数回答）



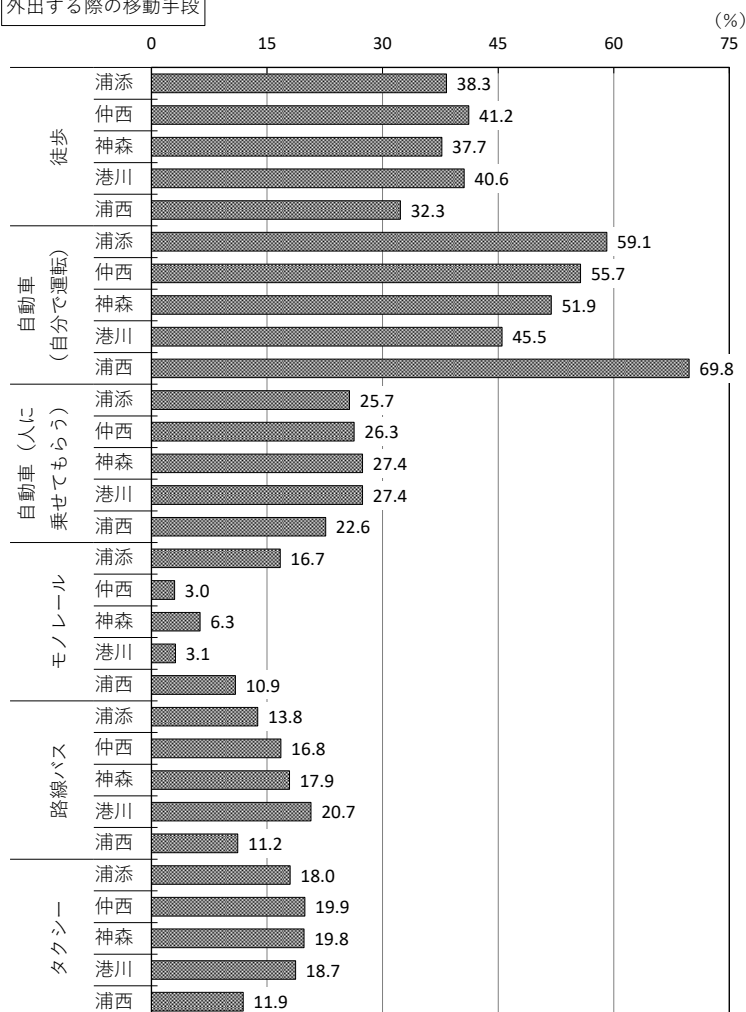
○移動手段

外出時の移動手段について圏域ごとに差が大きいものをみると、浦添では「6. 電車(モノレール)」の割合(16.7%)が、港川では「7. 路線バス」の割合(20.7%)が他圏域に比べ高い傾向にある。

また、浦西では「4. 自動車(自分で運転)」が他圏域に比べ割合が高い一方で、「1. 徒歩」、「7. 路線バス」、「12. タクシー」などの項目が他圏域に比べ低くなっている。

属性	上段:実数 下段:横%	外出する際の移動手段は何ですか(複数回答)														
		合 計	1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク	4. 自動車(自分で運転)	5. 自動車(人に乗せてもらう)	6. モノレール	7. 路線バス	8. 病院や施設のバス	9. 車いす	10. 電動車いす(カート)	11. 歩行器・シルバーカー	12. タクシー	13. その他	無回答
全 体		3,561	1,331	105	127	2,039	907	283	563	35	9	4	13	618	2	117
		－	38.0	3.0	3.6	58.2	25.9	8.1	16.1	1.0	0.3	0.1	0.4	17.6	0.1	3.3
生活圏域	浦添	752	277	15	20	427	186	121	100	8	4	0	3	130	0	28
		－	38.3	2.1	2.8	59.1	25.7	16.7	13.8	1.1	0.6	0.0	0.4	18.0	0.0	3.9
	仲西	690	275	25	23	372	176	20	112	5	1	0	1	133	1	18
		－	41.2	3.7	3.4	55.7	26.3	3.0	16.8	0.7	0.1	0.0	0.1	19.9	0.1	2.7
	神森	720	263	27	31	362	191	44	125	11	0	2	2	138	1	29
		－	37.7	3.9	4.4	51.9	27.4	6.3	17.9	1.6	0.0	0.3	0.3	19.8	0.1	4.2
	港川	724	290	24	29	390	196	22	148	7	3	2	3	134	0	21
		－	40.6	3.4	4.1	54.5	27.4	3.1	20.7	1.0	0.4	0.3	0.4	18.7	0.0	2.9
	浦西	675	226	14	24	488	158	76	78	4	1	0	4	83	0	21
		－	32.3	2.0	3.4	69.8	22.6	10.9	11.2	0.6	0.1	0.0	0.6	11.9	0.0	3.0

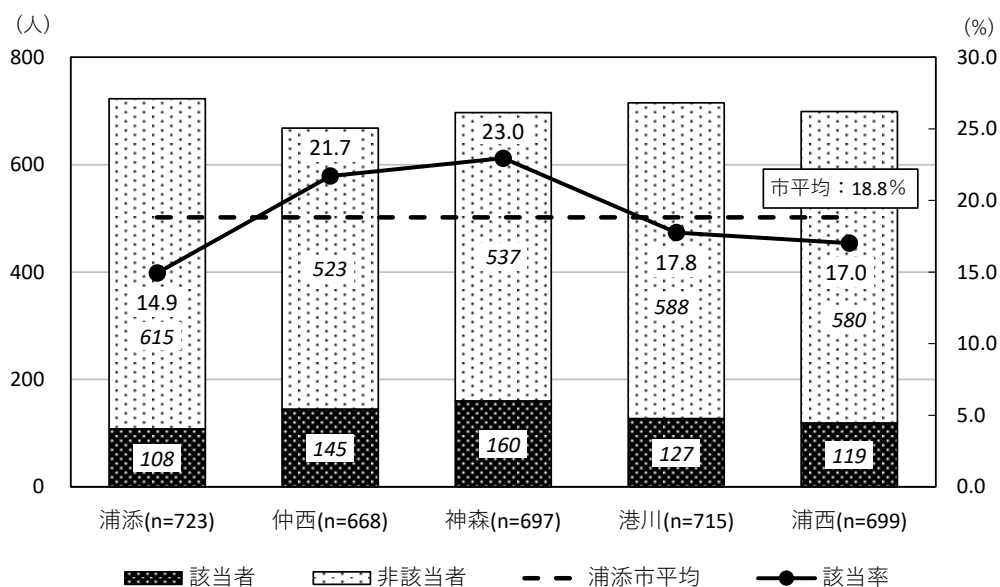
外出する際の移動手段



IV. 社会参加

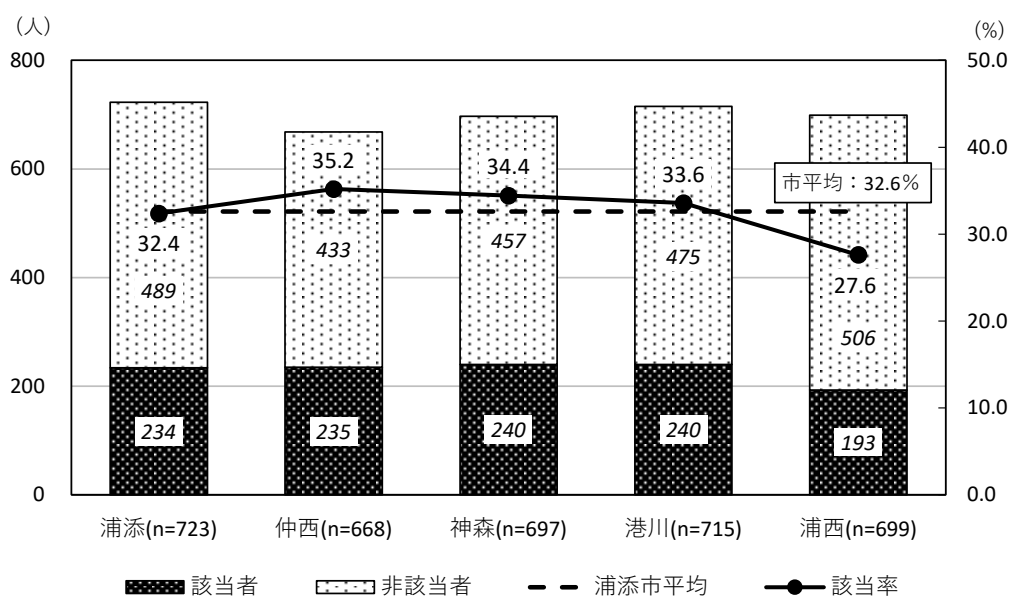
(1) 知的能動性

『知的能動性』が低下している方の割合をみると、神森（23.0%）、仲西（21.7%）の割合が本市平均（18.8%）を超えている。



(2) 社会的役割

『社会的役割』が低下している方の割合をみると、仲西（35.2%）が最も高く、浦西（27.6%）が最も低いことがうかがえる。



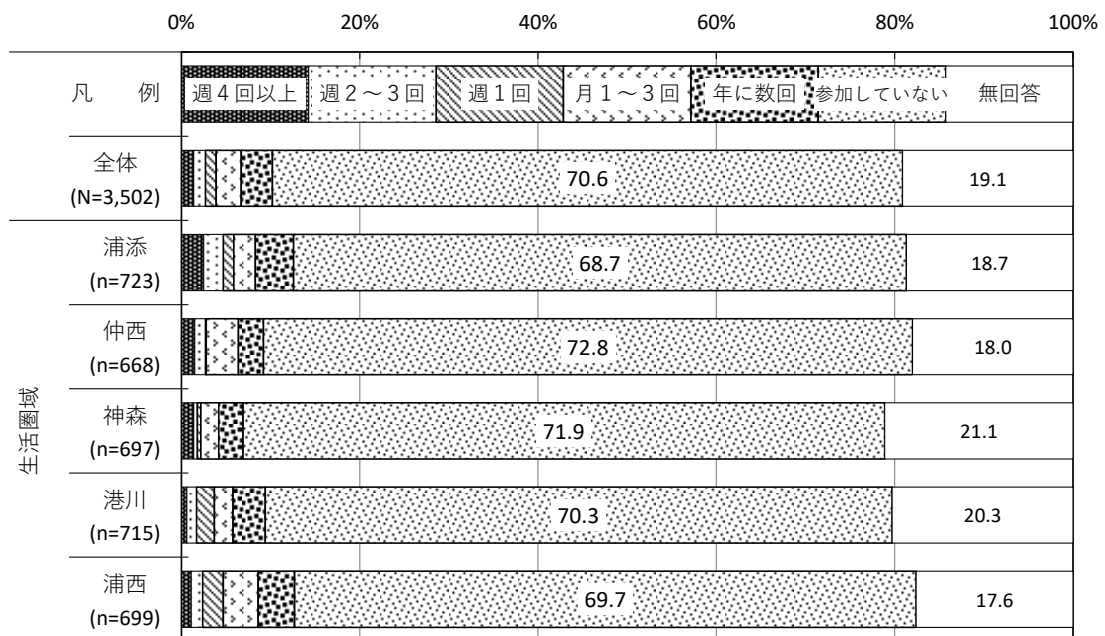
(3) 各グループ等への参加頻度

地域での活動について、各グループへの参加頻度を日常生活圏域別に整理する。

1) ボランティアのグループへの参加頻度

ボランティアグループへの参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が72.8%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答が多い圏域は浦西と浦添で、それぞれ1割を上回っている。

①ボランティアのグループへの参加頻度



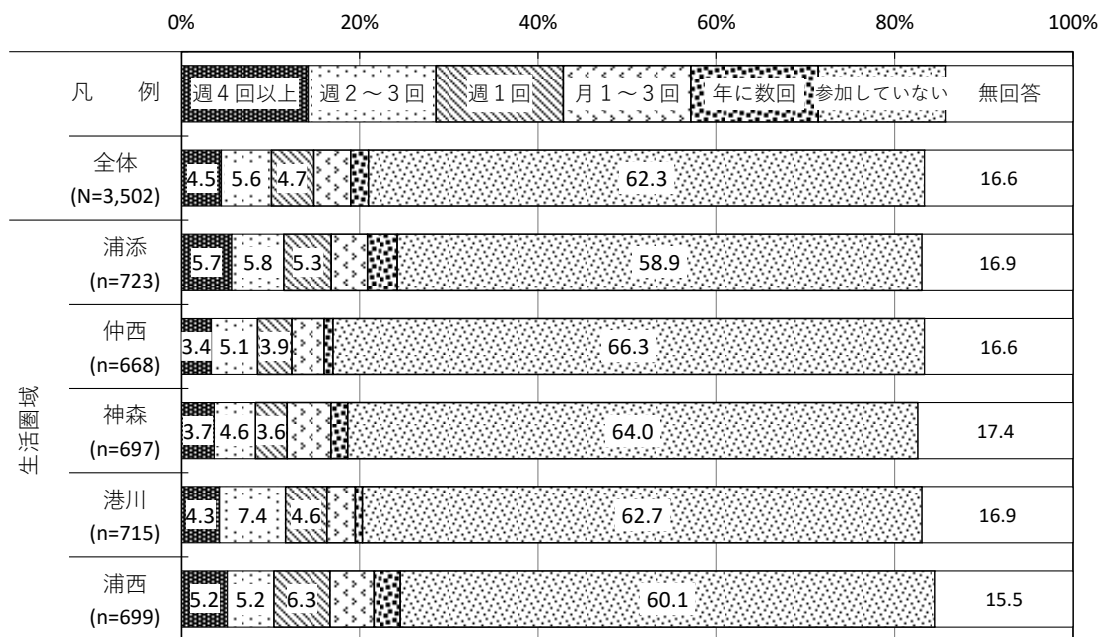
※表記の無い割合については集計表参照

上段:実数 下段:横%		①ボランティアのグループへの参加頻度						
		合 計	1. 週4回以上	2. 週2～3回	3. 週1回	4. 月1～3回	5. 年に数回	6. 参加していない
全 体		3,502	50	44	43	97	124	2,474
		100.0	1.4	1.3	1.2	2.8	3.5	70.6
生活圏域	浦 添	723	18	16	9	17	31	497
		100.0	2.5	2.2	1.2	2.4	4.3	68.7
	仲 西	668	10	8	1	24	19	486
		100.0	1.5	1.2	0.1	3.6	2.8	72.8
	神 森	697	10	3	3	14	19	501
		100.0	1.4	0.4	0.4	2.0	2.7	71.9
	港 川	715	4	8	14	15	26	503
		100.0	0.6	1.1	2.0	2.1	3.6	70.3
	浦 西	699	8	9	16	27	29	487
		100.0	1.1	1.3	2.3	3.9	4.1	69.7
	浦 西	699	8	9	16	27	29	487
		100.0	1.1	1.3	2.3	3.9	4.1	69.7

2) スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度

スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が66.3%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答が多い圏域は浦西と浦添で、それぞれ2割強となっている。

②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度



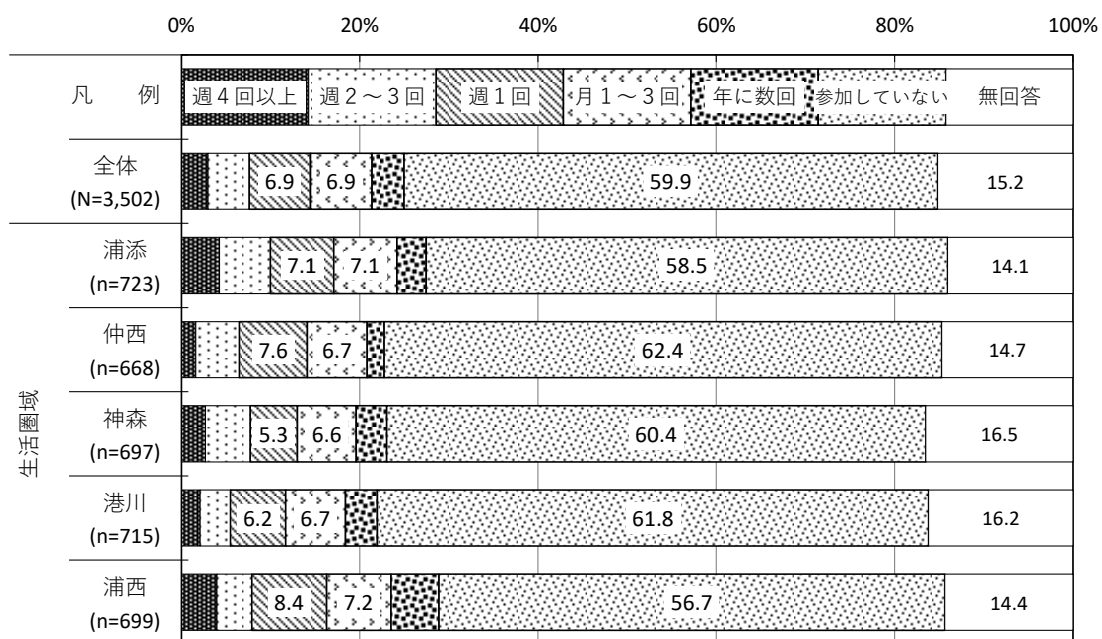
※表記の無い割合については集計表参照

		②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度							
	上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない	無回答
生活 圏域	全 体	3,502	157	197	166	146	70	2,183	583
		100.0	4.5	5.6	4.7	4.2	2.0	62.3	16.6
	浦 添	723	41	42	38	30	24	426	122
		100.0	5.7	5.8	5.3	4.1	3.3	58.9	16.9
	仲 西	668	23	34	26	24	7	443	111
		100.0	3.4	5.1	3.9	3.6	1.0	66.3	16.6
	神 森	697	26	32	25	34	13	446	121
		100.0	3.7	4.6	3.6	4.9	1.9	64.0	17.4
	港 川	715	31	53	33	23	6	448	121
		100.0	4.3	7.4	4.6	3.2	0.8	62.7	16.9
	浦 西	699	36	36	44	35	20	420	108
		100.0	5.2	5.2	6.3	5.0	2.9	60.1	15.5

3) 趣味関係のグループへの参加頻度

趣味関係のグループへの参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が62.4%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答が多い圏域は浦西と浦添で、それぞれ3割弱となっている。

③趣味関係のグループへの参加頻度



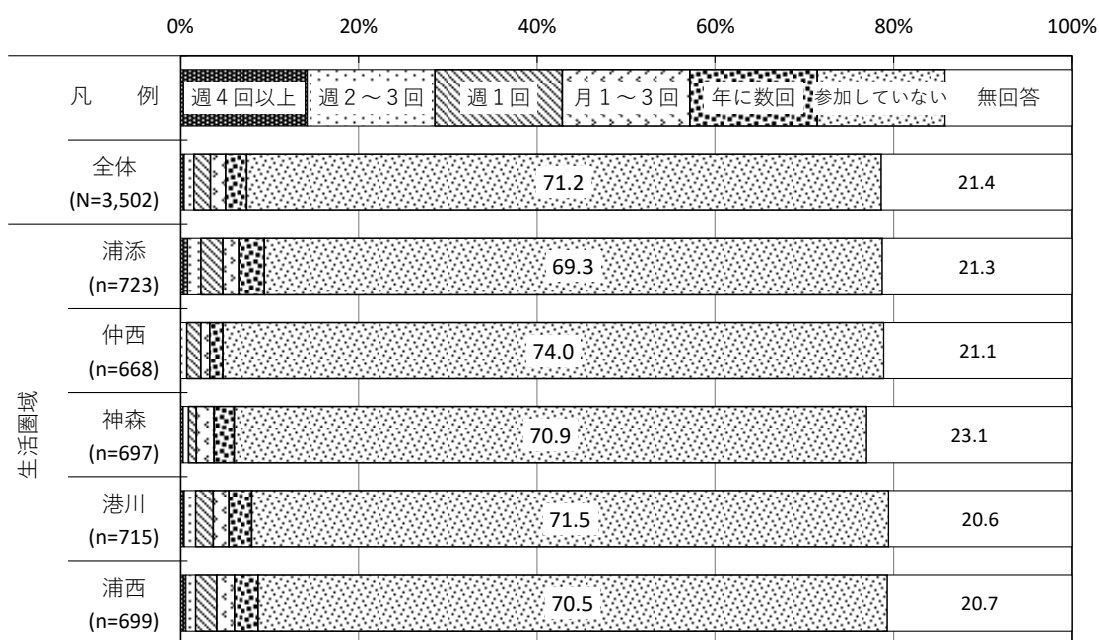
※表記の無い割合については集計表参照

		③趣味関係のグループへの参加頻度							
	上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない	無回答
全 体	3,502	104	160	242	240	125	2,099	532	
	100.0	3.0	4.6	6.9	6.9	3.6	59.9	15.2	
生活 圏域	浦 添	723	31	41	51	51	24	423	102
		100.0	4.3	5.7	7.1	7.1	3.3	58.5	14.1
	仲 西	668	11	33	51	45	13	417	98
		100.0	1.6	4.9	7.6	6.7	1.9	62.4	14.7
	神 森	697	19	35	37	46	24	421	115
		100.0	2.7	5.0	5.3	6.6	3.4	60.4	16.5
	港 川	715	15	24	44	48	26	442	116
		100.0	2.1	3.4	6.2	6.7	3.6	61.8	16.2
	浦 西	699	28	27	59	50	38	396	101
		100.0	4.0	3.9	8.4	7.2	5.4	56.7	14.4

4) 学習・教養サークルへの参加頻度

学習・教養サークルへの参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が74.0%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答が多い圏域は浦添が約1割で最も高く、次いで浦西と港川がそれぞれ1割弱と続いている。

④学習・教養サークルへの参加頻度



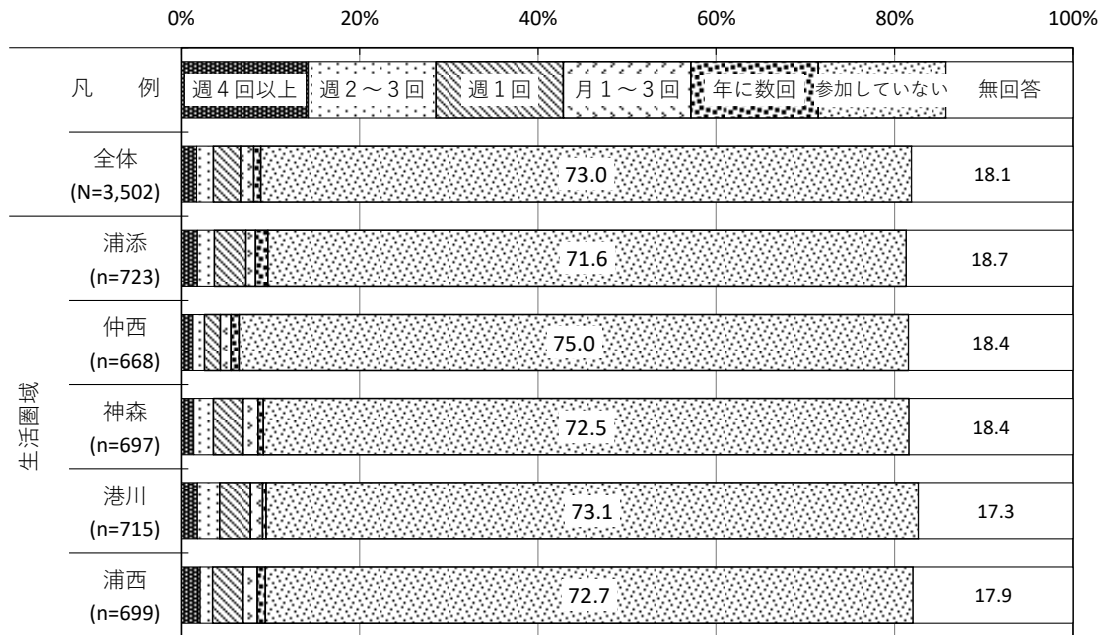
※表記の無い割合については集計表参照

		④学習・教養サークルへの参加頻度							
	上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない	無回答
生活 圏域	全 体	3,502	15	37	66	61	82	2,493	748
		100.0	0.4	1.1	1.9	1.7	2.3	71.2	21.4
	浦 添	723	6	11	18	13	20	501	154
		100.0	0.8	1.5	2.5	1.8	2.8	69.3	21.3
	仲 西	668	0	5	11	7	10	494	141
		100.0	0.0	0.7	1.6	1.0	1.5	74.0	21.1
	神 森	697	2	4	6	14	16	494	161
		100.0	0.3	0.6	0.9	2.0	2.3	70.9	23.1
	港 川	715	3	9	14	13	18	511	147
		100.0	0.4	1.3	2.0	1.8	2.5	71.5	20.6
	浦 西	699	4	8	17	14	18	493	145
		100.0	0.6	1.1	2.4	2.0	2.6	70.5	20.7

5) 介護予防のための通いの場への参加頻度

介護予防のための通いの場への参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が75.0%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答は、仲西以外の4圏域とも約1割に達している。

⑤介護予防のための通いの場への参加頻度



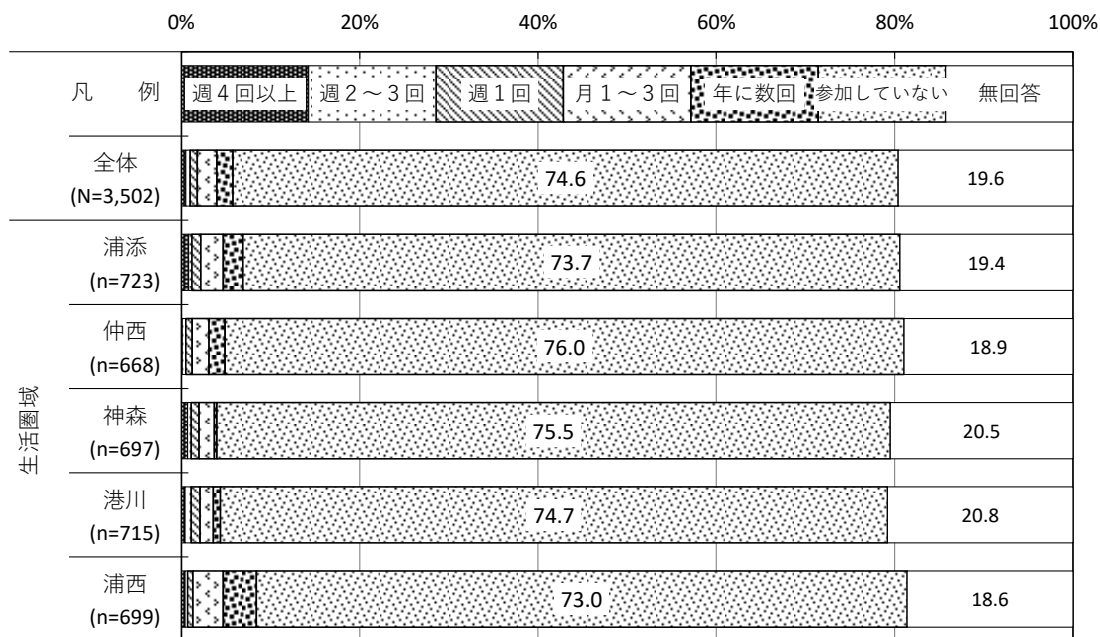
※表記の無い割合については集計表参照

		⑤介護予防のための通いの場への参加頻度							
		上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない
全 体		3,502 100.0	60 1.7	66 1.9	108 3.1	49 1.4	29 0.8	2,555 73.0	635 18.1
生活 圏域	浦 添	723 100.0	13 1.8	14 1.9	25 3.5	8 1.1	10 1.4	518 71.6	135 18.7
		668 100.0	9 1.3	9 1.3	12 1.8	8 1.2	6 0.9	501 75.0	123 18.4
	仲 西	697 100.0	10 1.4	15 2.2	23 3.3	12 1.7	4 0.6	505 72.5	128 18.4
		697 100.0	10 1.4	15 2.2	23 3.3	12 1.7	4 0.6	505 72.5	128 18.4
	神 森	715 100.0	13 1.8	18 2.5	24 3.4	10 1.4	3 0.4	523 73.1	124 17.3
		715 100.0	13 1.8	18 2.5	24 3.4	10 1.4	3 0.4	523 73.1	124 17.3
	港 川	699 100.0	15 2.1	10 1.4	24 3.4	11 1.6	6 0.9	508 72.7	125 17.9
		699 100.0	15 2.1	10 1.4	24 3.4	11 1.6	6 0.9	508 72.7	125 17.9
	浦 西	699 100.0	15 2.1	10 1.4	24 3.4	11 1.6	6 0.9	508 72.7	125 17.9
		699 100.0	15 2.1	10 1.4	24 3.4	11 1.6	6 0.9	508 72.7	125 17.9

6) 老人クラブへの参加頻度

老人クラブへの参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が76.0%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答が多い圏域は浦西で、8.4%となっている。

⑥老人クラブへの参加頻度



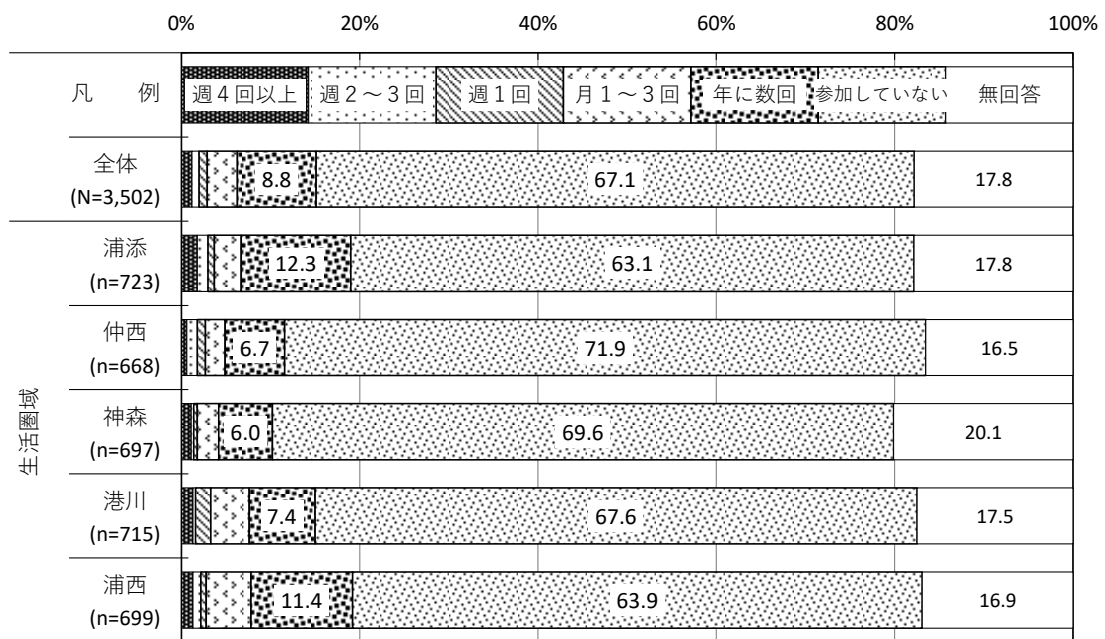
※表記の無い割合については集計表参照

		⑥老人クラブへの参加頻度							
	上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない	無回答
全 体	3,502	18	16	29	78	62	2,611	688	
	100.0	0.5	0.5	0.8	2.2	1.8	74.6	19.6	
生 活 圏 域	浦 添	723	6	3	7	18	16	533	140
		100.0	0.8	0.4	1.0	2.5	2.2	73.7	19.4
	仲 西	668	1	3	5	13	12	508	126
		100.0	0.1	0.4	0.7	1.9	1.8	76.0	18.9
	神 森	697	5	3	6	12	2	526	143
		100.0	0.7	0.4	0.9	1.7	0.3	75.5	20.5
	港 川	715	3	5	7	11	6	534	149
		100.0	0.4	0.7	1.0	1.5	0.8	74.7	20.8
	浦 西	699	3	2	4	24	26	510	130
		100.0	0.4	0.3	0.6	3.4	3.7	73.0	18.6

7) 町内会・自治会への参加頻度

町内会・自治会への参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は仲西が71.9%で最も高い。一方で、年に1回以上は『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答が多い圏域は浦西が約2割で最も高く、次いで浦添が2割と続いている。

⑦町内会・自治会への参加頻度



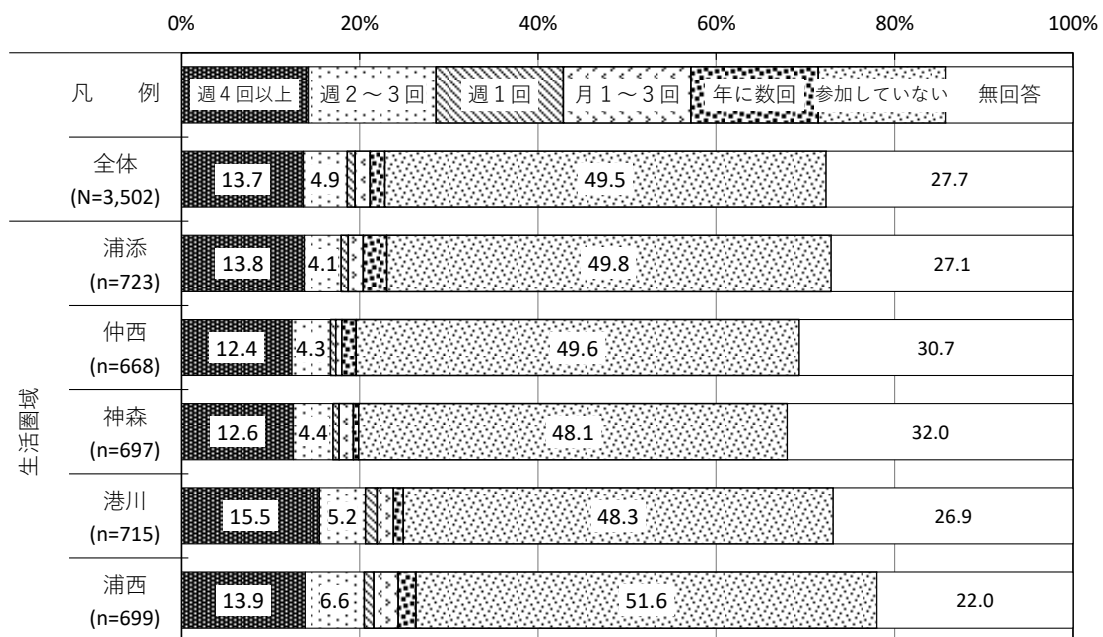
※表記の無い割合については集計表参照

		⑦町内会・自治会への参加頻度							
	上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない	無回答
生活 圏域	全 体	3,502	43	27	30	120	309	2,351	622
		100.0	1.2	0.8	0.9	3.4	8.8	67.1	17.8
	浦 添	723	13	9	5	22	89	456	129
		100.0	1.8	1.2	0.7	3.0	12.3	63.1	17.8
	仲 西	668	4	8	6	15	45	480	110
		100.0	0.6	1.2	0.9	2.2	6.7	71.9	16.5
	神 森	697	8	2	3	17	42	485	140
		100.0	1.1	0.3	0.4	2.4	6.0	69.6	20.1
	港 川	715	9	2	12	31	53	483	125
		100.0	1.3	0.3	1.7	4.3	7.4	67.6	17.5
	浦 西	699	9	6	4	35	80	447	118
		100.0	1.3	0.9	0.6	5.0	11.4	63.9	16.9

8) 収入のある仕事への参加頻度

収入のある仕事への参加状況を圏域別にみると、「参加していない」とした割合は浦西が51.6%で最も高いが、同時に年に1回以上『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」を合わせた割合）とした回答も浦西が3割弱で最も高い。また、「週に4日以上」参加しているとした回答が最も多かったのは港川で、2割弱となっている。

⑧収入のある仕事への参加頻度



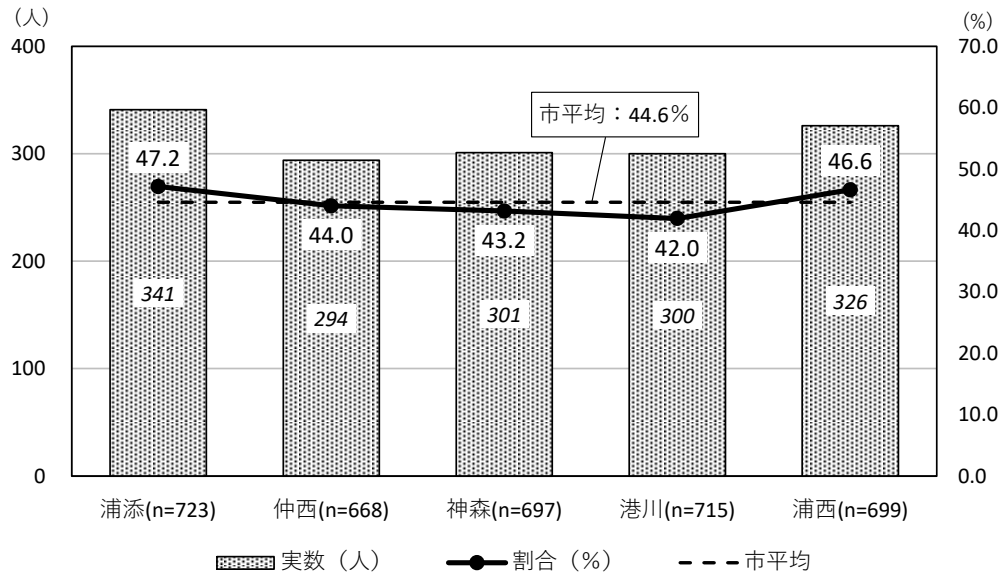
※表記の無い割合については集計表参照

		⑧収入のある仕事への参加頻度							
	上段:実数 下段:横%	合 計	1. 週4回 以上	2. 週2～ 3回	3. 週1回	4. 月1～ 3回	5. 年に数 回	6. 参加し ていない	無回答
生活 圏域	全 体	3,502	479	173	32	60	56	1,732	970
		100.0	13.7	4.9	0.9	1.7	1.6	49.5	27.7
	浦 添	723	100	30	6	12	19	360	196
		100.0	13.8	4.1	0.8	1.7	2.6	49.8	27.1
	仲 西	668	83	29	4	5	11	331	205
		100.0	12.4	4.3	0.6	0.7	1.6	49.6	30.7
	神 森	697	88	31	5	11	4	335	223
		100.0	12.6	4.4	0.7	1.6	0.6	48.1	32.0
	港 川	715	111	37	9	13	8	345	192
		100.0	15.5	5.2	1.3	1.8	1.1	48.3	26.9
	浦 西	699	97	46	8	19	14	361	154
		100.0	13.9	6.6	1.1	2.7	2.0	51.6	22.0

V. 疾病

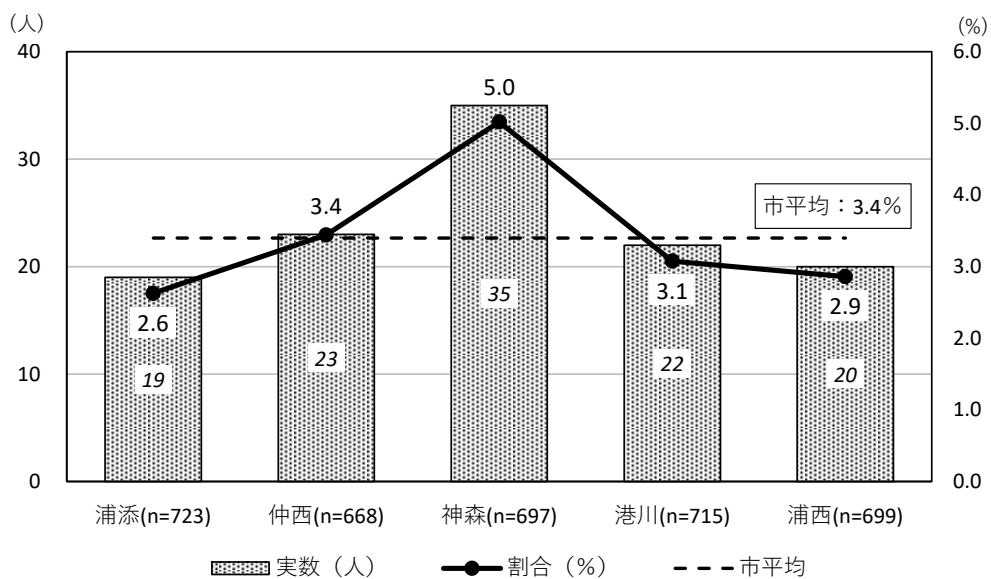
(1) 高血圧

高血圧と回答した割合は、浦添（47.2％）と浦西（46.6％）がわずかに高い。



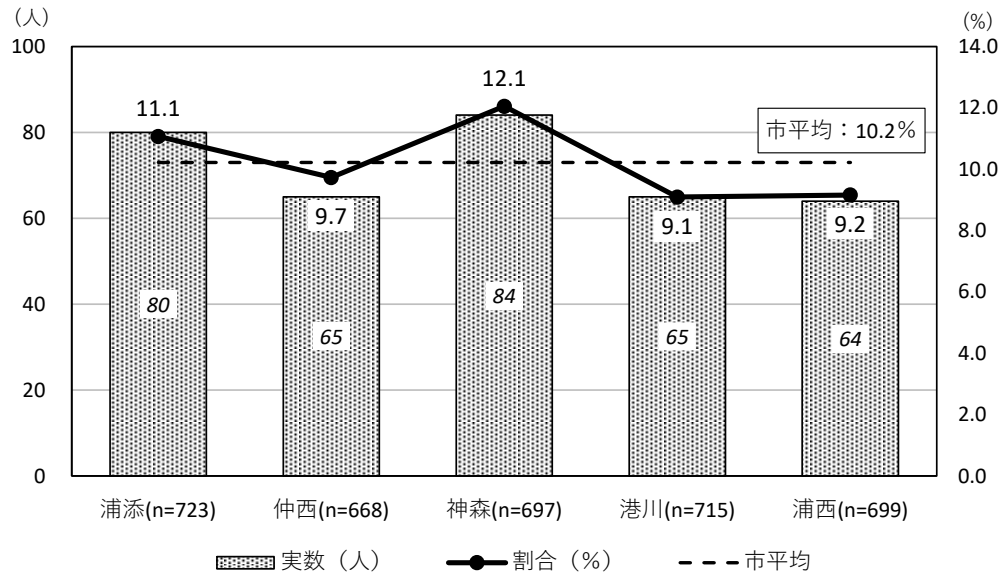
(2) 脳卒中

脳卒中と回答した割合は、神森（5.0％）が他圏域と比較してとりわけ高い。



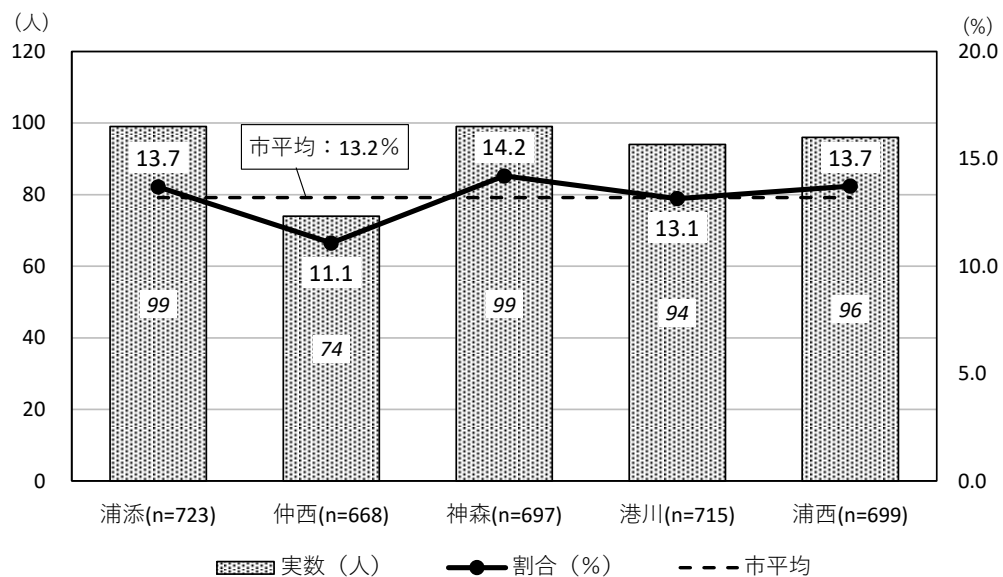
(3) 心臓病

心臓病と回答した割合は、神森（12.1%）、浦添（11.1%）がわずかに高い。



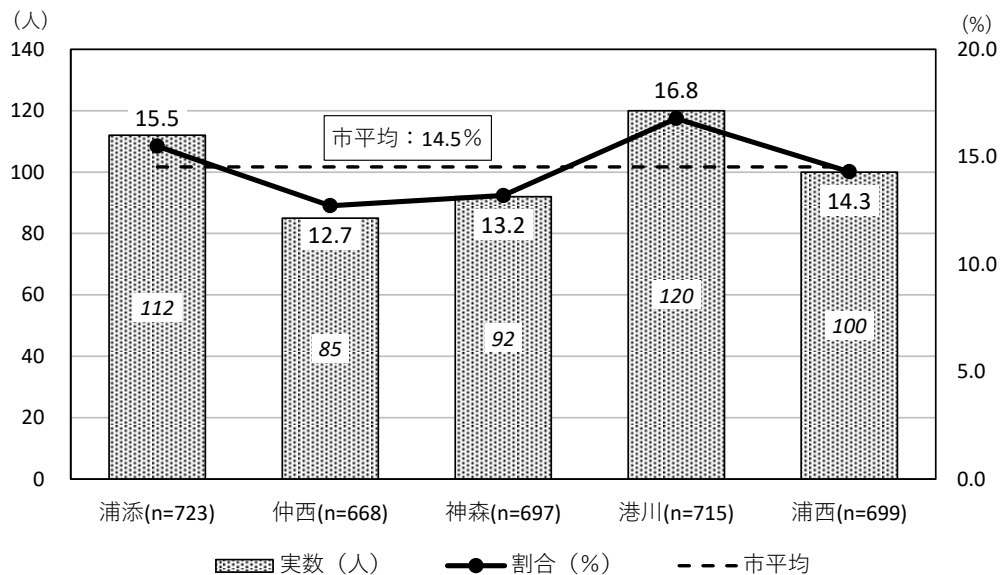
(4) 糖尿病

糖尿病と回答した割合は、神森（14.2%）が最も高く、仲西（11.1%）で最も低い。



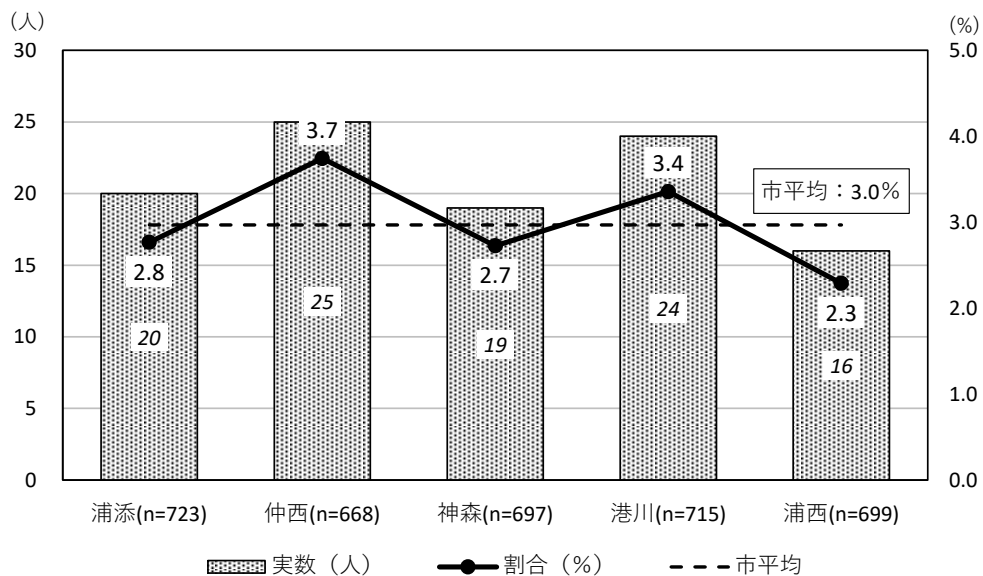
（５）筋骨格系疾患

筋骨格系疾患と回答した割合は、港川（16.8％）で最も高く、仲西（12.7％）で最も低い。



（６）がん

がんと回答した割合は、仲西（3.7％）、港川（3.4％）がわずかに高い。

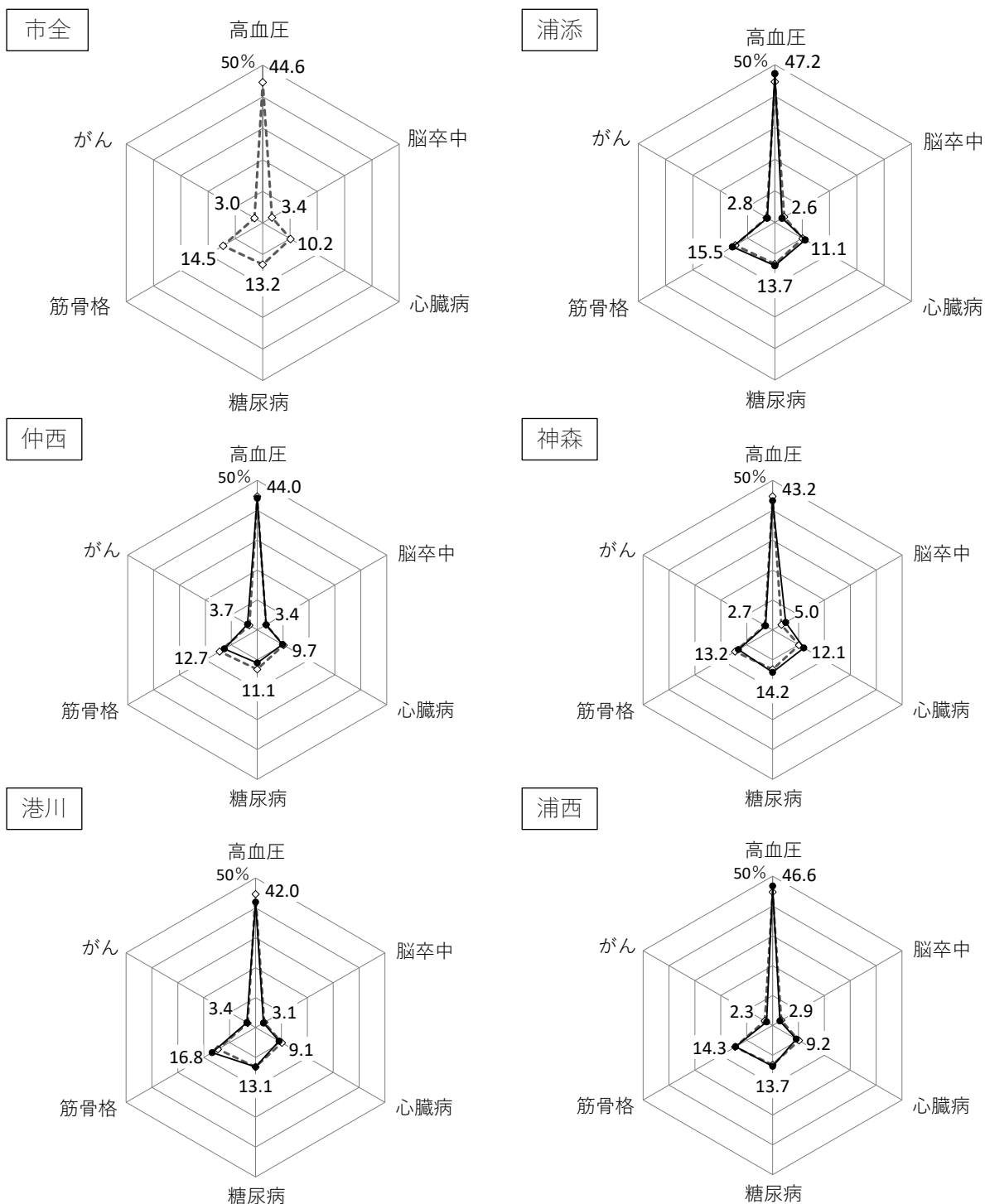


(7) 疾病状況の日常生活圏域別総括

疾病状況の調査で用いた6つの疾病について、回答割合を日常生活圏域別にまとめると以下のグラフで示される。

6項目中、「脳卒中」、「心臓病」、「糖尿病」の3項目において、神森の割合が最も高い。また、浦添は「高血圧」、港川は「筋骨格系疾患」の項目について、他地区と比較し最も高い割合となっている。

それぞれの項目でグラフの細かな傾きの差などはあるものの、形状はおおよそ似通っており、各圏域で「高血圧」の該当率が高い傾向がみられる。



		高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	筋骨格	がん
全体 (N=3,502)	該当者(人)	1,562	119	358	462	509	104
	該当率(%)	44.6	3.4	10.2	13.2	14.5	3.0
浦添 (n=723)	該当者(人)	341	19	80	99	112	20
	該当率(%)	47.2	2.6	11.1	13.7	15.5	2.8
仲西 (n=668)	該当者(人)	294	23	65	74	85	25
	該当率(%)	44.0	3.4	9.7	11.1	12.7	3.7
神森 (n=697)	該当者(人)	301	35	84	99	92	19
	該当率(%)	43.2	5.0	12.1	14.2	13.2	2.7
港川 (n=715)	該当者(人)	300	22	65	94	120	24
	該当率(%)	42.0	3.1	9.1	13.1	16.8	3.4
浦西 (n=699)	該当者(人)	326	20	64	96	100	16
	該当率(%)	46.6	2.9	9.2	13.7	14.3	2.3

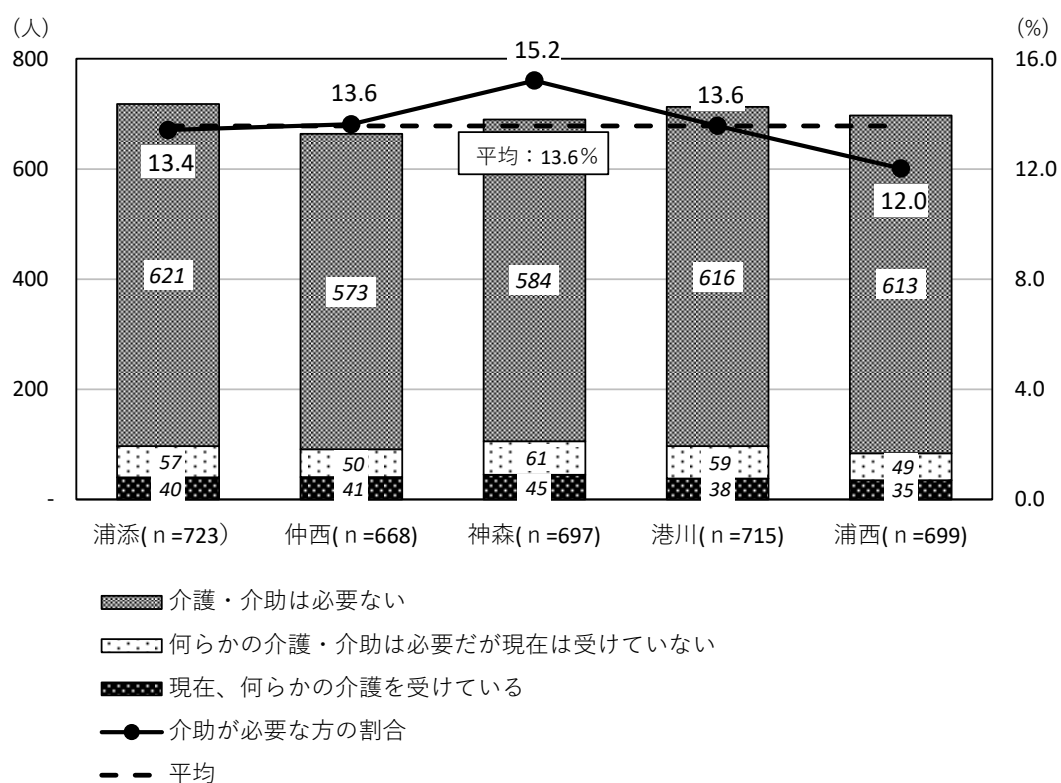
5 圏域の中で最も該当率が高い
 該当率が本市平均を上回っている

VI. 介護

1. 介護の必要性

「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方の件数をみると、神森が45件で最も多く、浦西が35件で最も少なくなっており、おおよその圏域も約40件程度の対象者が見受けられる。

『介護が必要な方』（「現在、何らかの介護を受けている」＋「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」）の割合を比較すると、神森（15.2%）が他圏域と比較してとりわけ高い割合となっている。



2. 介護・介助が必要になった原因について

介護・介助が必要になった原因の割合をみると、本市全体では「13. 高齢による衰弱」が20.8%と最も高く、「11. 骨折・転倒」(19.8%)、「5. 関節の病気」(17.7%)と続いている。

日常生活圏域別でみると、浦添では「5. 関節の病気」が22.7%と最も高く、「13. 高齢による衰弱」(20.6%)、「11. 骨折・転倒」(18.6%)と続いている。

仲西では「13. 高齢による衰弱」が23.1%と最も高く、「11. 骨折・転倒」(17.6%)、「5. 関節の病気」(14.3%)と続いている。

神森では「13. 高齢による衰弱」が22.6%と最も高く、「1. 脳卒中」及び「11. 骨折・転倒」(それぞれ18.9%)と続いている。

港川では「11. 骨折・転倒」が27.8%と最も高く、「13. 高齢による衰弱」(20.6%)、「5. 関節の病気」(18.6%)と続いている。

浦西では「5. 関節の病気」、「10. 視覚・聴覚障害」、「13. 高齢による衰弱」がいずれも16.7%と高く、中でも「10. 視覚・聴覚障害」は他4圏域と比べて高い。

■介護・介助が必要になった原因の割合

上段:件数 下段:横%	①脳卒中	②心臓病	③がん	④呼吸器 の病気	⑤関節の 病気	⑥認知症	⑦パーキン ソン病	⑧糖尿病
合計(n=475)	54 11.4	58 12.2	24 5.1	27 5.7	84 17.7	25 5.3	6 1.3	54 11.4
浦添(n=97)	10 10.3	11 11.3	5 5.2	6 6.2	22 22.7	5 5.2	0 0.0	10 10.3
仲西(n=91)	9 9.9	12 13.2	8 8.8	4 4.4	13 14.3	9 9.9	3 3.3	8 8.8
神森(n=106)	20 18.9	14 13.2	4 3.8	8 7.5	17 16.0	4 3.8	0 0.0	15 14.2
港川(n=97)	10 10.3	14 14.4	4 4.1	6 6.2	18 18.6	0 0.0	0 0.0	11 11.3
浦西(n=84)	5 6.0	7 8.3	3 3.6	3 3.6	14 16.7	7 8.3	3 3.6	10 11.9
上段:件数 下段:横%	⑨腎疾患	⑩視覚・ 聴覚障害	⑪骨折・ 転倒	⑫脊椎 損傷	⑬高齢に よる衰弱	⑭その他	⑮不明	無回答
合計(n=475)	12 2.5	43 9.1	94 19.8	28 5.9	99 20.8	33 6.9	9 1.9	54 11.4
浦添(n=97)	0 0.0	12 12.4	18 18.6	5 5.2	20 20.6	1 1.0	3 3.1	10 10.3
仲西(n=91)	3 3.3	4 4.4	16 17.6	6 6.6	21 23.1	7 7.7	1 1.1	6 6.6
神森(n=106)	2 1.9	9 8.5	20 18.9	6 5.7	24 22.6	11 10.4	0 0.0	12 11.3
港川(n=97)	5 5.2	4 4.1	27 27.8	9 9.3	20 20.6	5 5.2	4 4.1	9 9.3
浦西(n=84)	2 2.4	14 16.7	13 15.5	2 2.4	14 16.7	9 10.7	1 1.2	17 20.2

介護・介助が必要になった原因の1位をみると、浦添と浦西で「5. 関節の病気」、仲西と神森で「13. 高齢による衰弱」、港川で「11. 骨折・転倒」となっている。

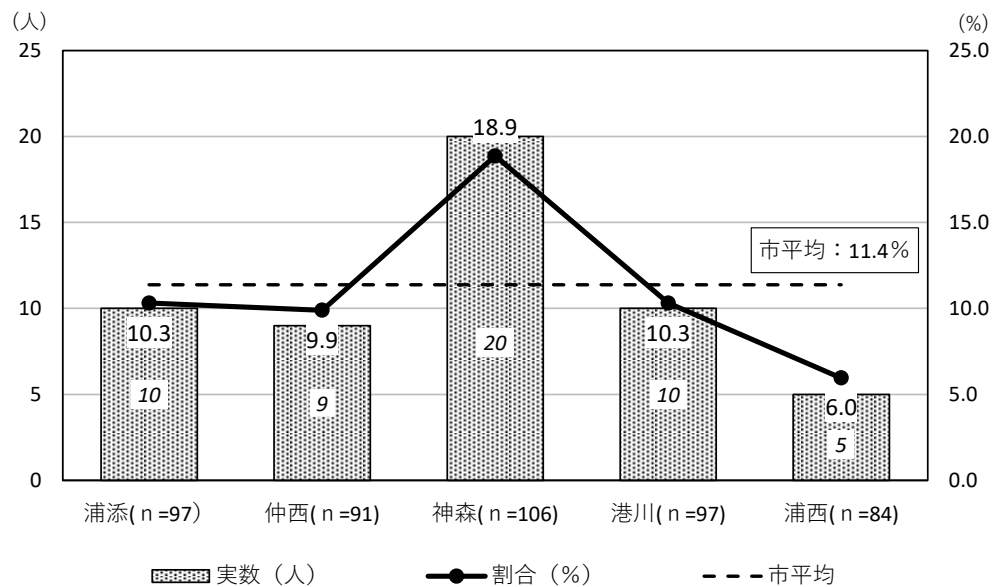
■介護・介助が必要になった原因の上位3項目

	浦添 (n=97)			仲西 (n=91)	
	原因	割合(%)		原因	割合(%)
1位	5. 関節の病気(リウマチ等)	22.7	1位	13. 高齢による衰弱	23.1
2位	13. 高齢による衰弱	20.6	2位	11. 骨折・転倒	17.6
3位	11. 骨折・転倒	18.6	3位	5. 関節の病気(リウマチ等)	14.3
	神森 (n=106)			港川 (n=97)	
	原因	割合(%)		原因	割合(%)
1位	13. 高齢による衰弱	22.6	1位	11. 骨折・転倒	27.8
2位	1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	18.9	2位	13. 高齢による衰弱	20.6
	11. 骨折・転倒		3位	5. 関節の病気(リウマチ等)	18.6
	浦西 (n=84)				
	原因	割合(%)			
1位	5. 関節の病気(リウマチ等)	16.7			
	10. 視覚・聴覚障害				
	13. 高齢による衰弱				

3. 原因ごとにおける調査結果

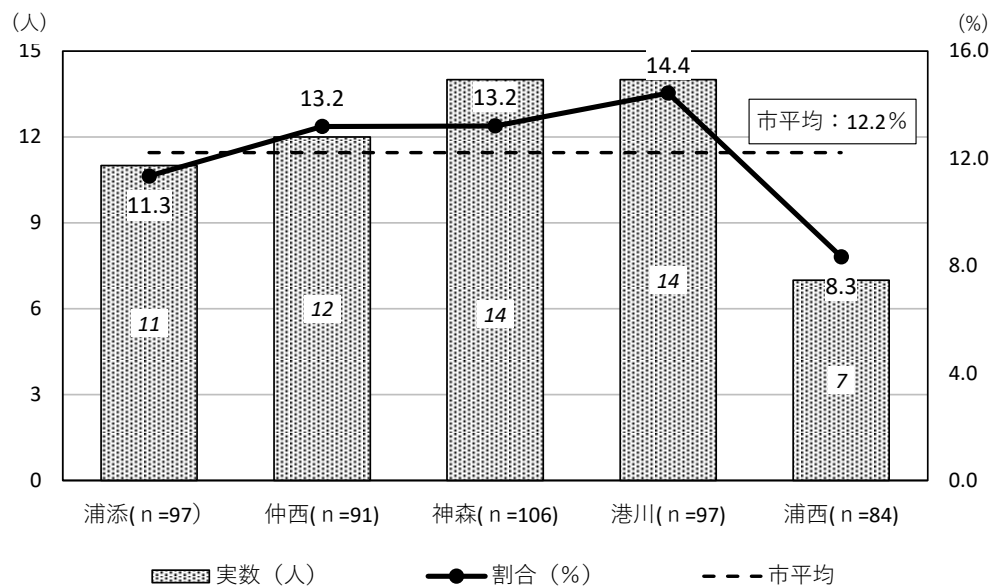
(1) 脳卒中

介護・介助が必要になった原因として『脳卒中』と回答した割合をみると、神森が18.9%で他圏域と比較してとりわけ高くなっている。一方で、浦西では6.0%と他圏域と比較して最も低い。



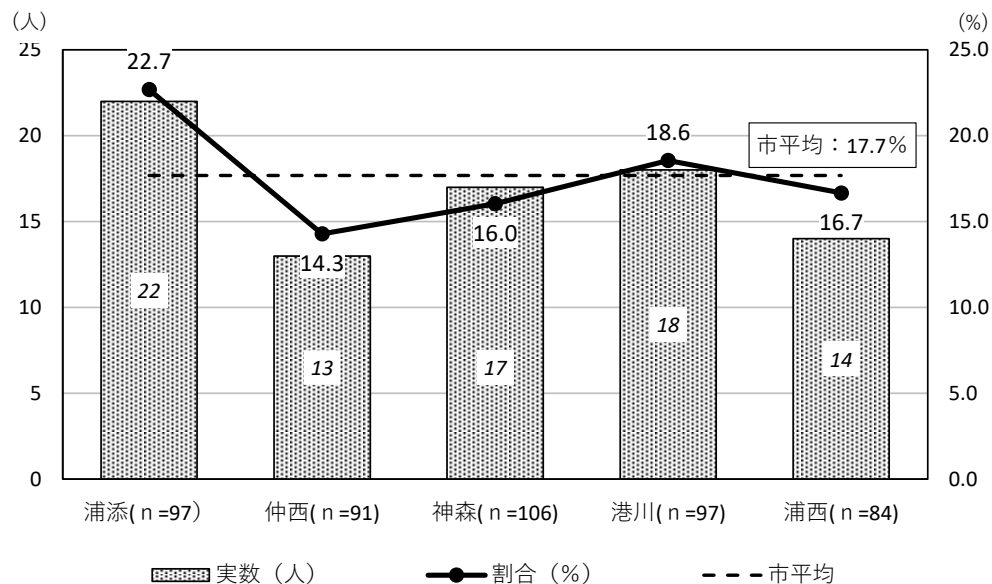
(2) 心臓病

介護・介助が必要になった原因として『心臓病』と回答した割合をみると、港川で14.4%と最も高く、浦西が8.3%と他圏域と比べて最も低い。



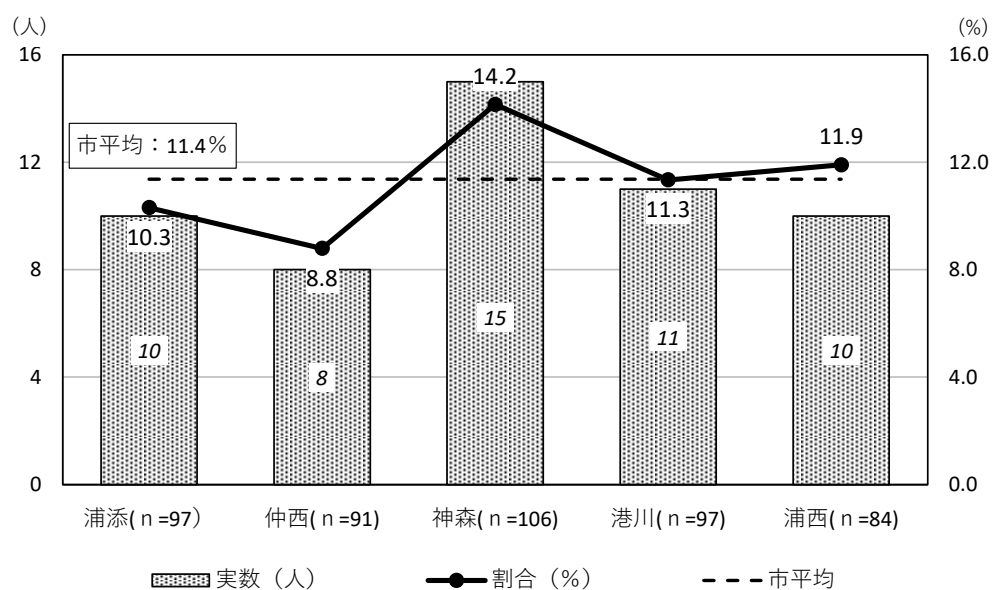
(3) 関節の病気

介護・介助が必要になった原因として『関節の病気』と回答した割合をみると、浦添が22.7%、港川が18.6%と比較的高く、一方で仲西が14.3%と最も低い。



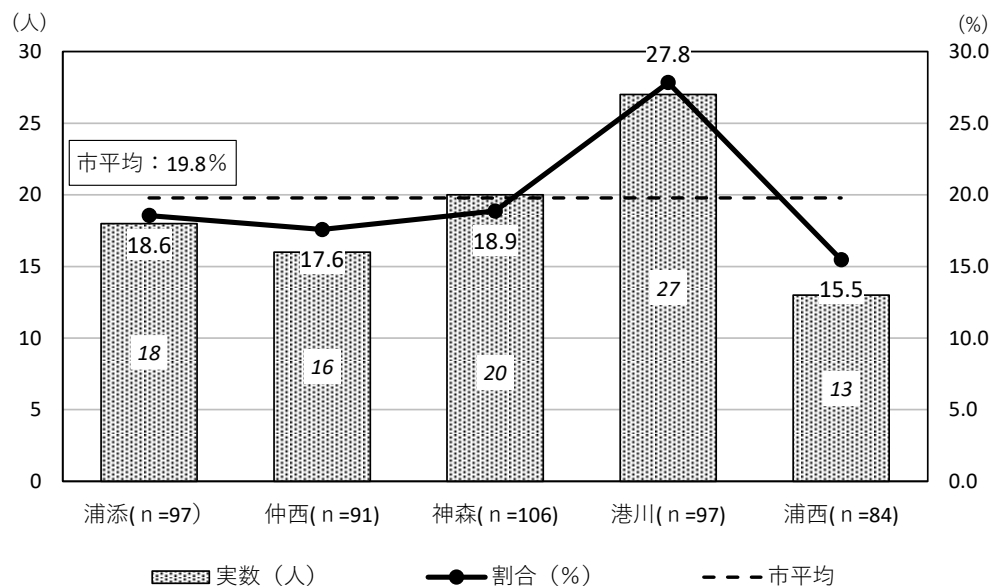
(4) 糖尿病

介護・介助が必要になった原因として『糖尿病』と回答した割合をみると、神森が14.2%で他圏域と比較して高くなっており、一方で仲西は8.8%と最も低い。



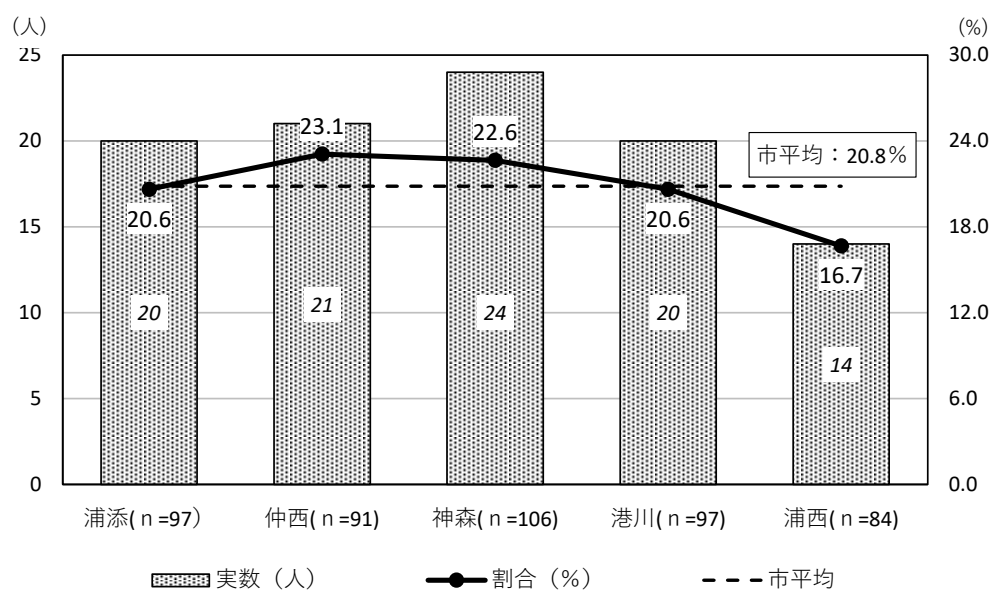
(5) 骨折・転倒

介護・介助が必要になった原因として『骨折・転倒』と回答した割合をみると、港川で27.8%ととりわけ高くなっている。一方、浦西は15.5%で最も低い。



(6) 高齢による衰弱

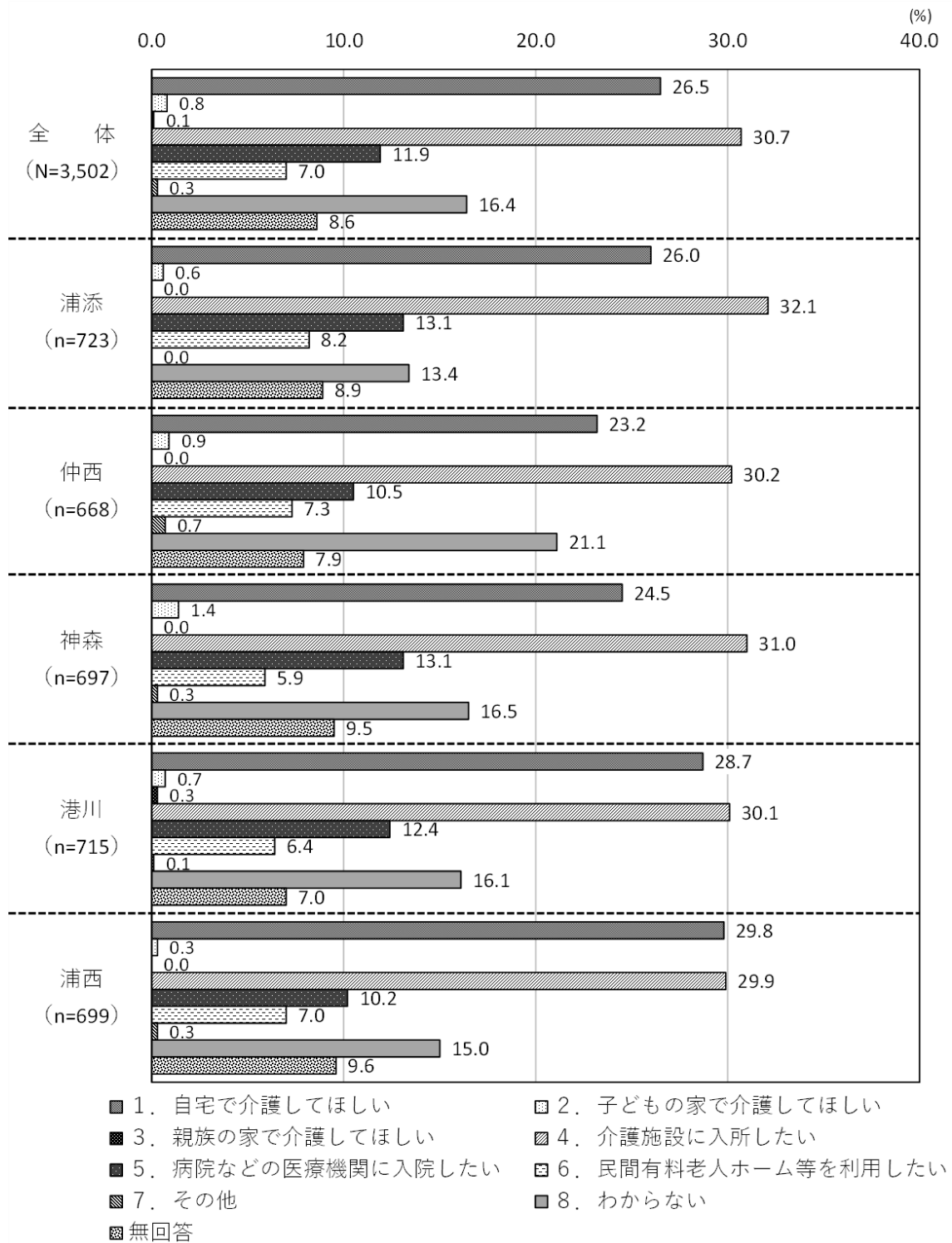
介護・介助が必要になった原因として『高齢による衰弱』と回答した割合をみると、浦西が16.7%で他圏域と比較して低い割合となっている。



4. 地域における療養に関する希望

(1) 将来介護が必要になった時の療養に関する希望

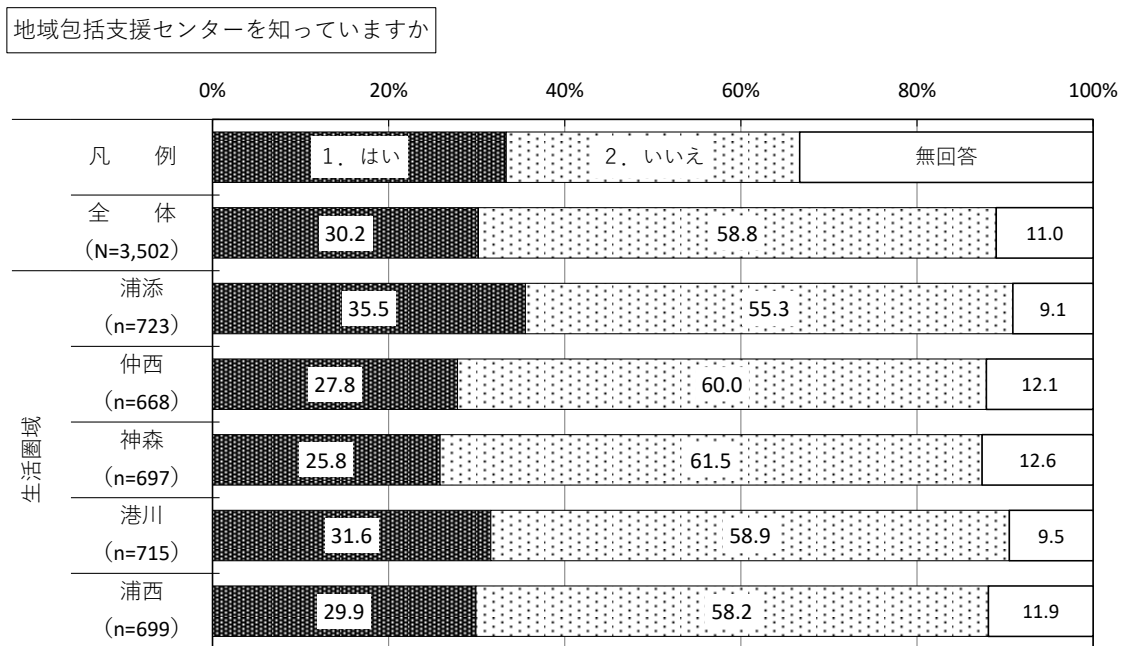
将来介護が必要になった時の療養に関する希望として、どの圏域においても「4. 介護施設に入所したい」という割合が3割前後、「1. 自宅で介護してほしい」という割合が2～3割前後うかがえる。



5. 相談窓口等の認知度

(1) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度について、「知っている（はい）」割合に着目すると、浦添（35.5％）が最も高い一方で、神森（25.8％）・仲西（27.8％）・浦西（29.9％）は3割を下回る認知度となっている。



VII. 考察（日常生活圏域について）

1) 「Ⅰ. 回答者の属性」について

- ・今回調査では、5 圏域全てで前期高齢者の割合が後期高齢者を上回っており、特に浦西では6割強が前期高齢者の回答者となっている。
- ・1人暮らし高齢者の割合については、仲西（26.8%）が比較的高い。介護の必要性は神森が15.2%と最も高い。圏域別に整理すると以下のとおりとなる。

圏域	前期・後期高齢者の割合	1人暮らし高齢者の割合	介護の必要性
浦添	前期・後期高齢者ほぼ同割合 (前期 51.2%、後期 48.8%)	比較的低い 19.4%	平均値以下 13.4%
仲西	前期高齢者の割合が高い (前期 56.0%、後期 44.0%)	比較的高い 26.8%	平均値 13.6%
神森	前期高齢者の割合が高い (前期 53.4%、後期 46.6%)	比較的低い 21.5%	比較的高い 15.3%
港川	前期高齢者の割合が高い (前期 55.4%、後期 44.6%)	比較的高い 24.8%	平均値 13.6%
浦西	前期高齢者の割合が高い (前期 62.1%、後期 37.9%)	比較的低い 18.0%	平均値以下 12.0%

※この表は本調査結果において集計された割合を示したものである。

2) 「Ⅱ. 機能」について

- ・心身機能の状況をみると、特に神森で該当率が高くなっている。具体的な項目でみると、「栄養」以外の6項目（運動器・転倒・閉じこもり・口腔・認知機能・うつ）全てにおいて該当率が他の圏域を上回っており、特に「転倒」の該当率は本市平均と5.0ポイントもの差が開いている。また、仲西も「閉じこもり」や「口腔」、「認知機能」、「うつ」の項目の該当者の割合が高くなっている。

3) 「Ⅲ. 日常生活」について

- ・手段的自立度（IADL）の状況をみると、仲西と神森、次いで港川のリスク該当率が高くなっている。
- ・外出控えの状況については、5 圏域全ての地区で3割程度の該当者が「控えている」としている。その要因として、どの圏域でも主に「足腰などの傷み」が挙げられているが、それ以外の圏域ごとに差が大きい回答としては、港川で「外での楽しみがない」点や、浦添の「交通手段がない」という点が挙げられている。
- ・外出時の移動手段について、浦添では「モノレール」が、港川では「路線バス」が他圏域と比べ割合が高くなっている。また、浦西では「自分で運転する自動車」の割合が他

圏域や他の移動手段と比較しても明らかに高い一方で、「徒歩」・「路線バス」・「タクシー」といった他の移動手段の割合が他圏域と比べ低い傾向にある。

4) 「Ⅳ. 社会参加」について

- ・高齢者の知的活動能力を指す「知的能動性」の状況をみると、神森と仲西のリスク該当率が高くなっている。
- ・ボランティアやスポーツ活動、通いの場など様々な地域活動への参加状況をみると、大半の活動項目に対し仲西の参加頻度が少ない状況がうかがえる。高齢者の介護予防にも繋がる「通いの場」や、生きがいくくりにも繋がる「老人クラブ」といった取り組みに対しても7割強～8割弱の回答者が「参加していない」傾向にある。

5) 「Ⅴ. 疾病」について

- ・各圏域とも「高血圧」の割合が4割強～5割弱と高い。また、神森では「脳卒中」、「心臓病」、「糖尿病」の割合が他の圏域をいずれも上回っている。浦添では「高血圧」が、港川では「筋骨格系疾患」の割合が最も高い。

6) 「Ⅵ. 介護」について

- ・介護・介助が必要になった原因の1位をみると、浦添で「関節の病気」、仲西と神森で「高齢による衰弱」、港川で「骨折・転倒」、浦西で「関節の病気」・「視覚・聴覚障害」・「高齢による衰弱」となっている。

以上を踏まえ、圏域別の高齢者の実状を概観すると、下記のとおりとなる。

浦添地区は、属性として「1人暮らし高齢者の割合が比較的低く」、「介護の必要性は市平均値より低い」圏域となっている。

心身機能の状況としてはリスク該当率の高い項目は多くないものの、「認知機能」や「うつ」の項目が市平均を上回っている。

日常生活の状況をみると、手段的自立度（IADL）の該当率は他圏域より低い一方で、外出控えの要因として「交通手段がない」とする回答が多かった地域でもある。圏域内をモノレールが運行していることから移動手段として活用している回答者が一定数居る一方、路線バスの活用割合が他圏域より低い状況にある。

疾病の状況を評価項目別にみると、6項目中「高血圧」・「心臓病」・「糖尿病」・「筋骨格系疾患」が本市平均を上回っており、特に「高血圧」の割合は5圏域中最も高い。また、介護・介助が必要となった原因の第1位が「関節の病気（リウマチ等）」となっており、栄養バラ

ンスの乱れからくる肥満傾向などは両疾病を発症・悪化させる危険因子ともなることから、健康づくり事業と連携した市民への健康増進の意識づけや肥満対策等の取り組みを検討する必要がある。

仲西地区は、属性として「1人暮らし高齢者の割合が比較的高い」圏域であり、本市全体の「介護の必要がある割合」の平均値と同程度となっている。

心身機能の状況を評価項目別にみると、7項目中5項目で該当率が本市平均を上回っており、特に「閉じこもり」の該当率は各圏域の中でも高い。また、日常生活の状況をみると、手段的自立度（IADL）の該当率が他圏域と比べ高く、加えて社会参加の状況についても他圏域と比較して参加頻度が低い傾向にあることから、高齢者の社会参加や健康づくりを推進する取り組みを積極的に実施していく必要がある。

また、地域包括支援センターといった相談窓口の認知度が低いことから、支援を必要とする高齢者の早期把握に繋がれるよう介護予防把握事業の強化が重要となる。

神森地区は、属性として「1人暮らし高齢者の割合が比較的低い」一方で、「介護の必要性が比較的高い」圏域となっている。

心身機能の状況を評価項目別にみると、7項目中「栄養」を除いた6項目全ての該当率が各圏域の中で最も高く、疾病についても「脳卒中」・「心臓病」・「糖尿病」の3疾病が他圏域と比較して高い割合となっている。「脳卒中」や「糖尿病」を要因として介護を必要とする割合も高い圏域であることから、糖尿病をはじめとした生活習慣病の予防に向けた健康づくり事業の強化が求められる。また、地域包括支援センターといった相談窓口の認知度が各圏域の中で最も低いため、支援を必要とする高齢者を取りこぼさないよう地域における支援ネットワークの拡充が急務である。

日常生活や社会参加の状況をみると、手段的自立度（IADL）・知的能動性ともに他圏域と比べリスク該当率が高い。

港川地区は、属性として「1人暮らし高齢者の割合が比較的高い」圏域であり、本市全体の「介護の必要がある割合」の平均値と同程度となっている。

心身機能の状況をみると、7項目中「うつ」・「運動器」・「口腔」の該当率が比較的高くなっている。特に「運動器」については、疾病の項目にある「筋骨格系疾患」が全圏域の中で最も高い割合となっていることや、介護・介助が必要になった要因として「骨折・転倒」の該当者が最も多かったことから、運動機能の維持・増進を目的とした取り組みの充実が求められる。

浦西地区は、属性として「1人暮らし高齢者の割合が比較的 low」、「介護の必要性は市平均値より低い」圏域となっている。

心身機能の状況を評価項目別にみると、「栄養」以外の6項目全てが市平均を下回っている。一方で、疾病については「高血圧」が比較的高く、介護・介助の要因になった要因についても「糖尿病」が高い割合となっていることから、生活習慣病の予防にむけた各種取り組み等を健康づくり事業と推進していく必要がある。

※なお、ここでは心身機能や疾病状況等について該当者の割合が高い圏域に着目して考察を行っているが、各種取り組みや対策を実施する際には全ての圏域において必要性を検討することが求められる。

参考資料（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査票）

第 9 期

郵送

※右の整理番号により、
性別・年齢階級・生活圏域・
介護保険事業等該当区分の
情報と照合し、調査結果を集
計・分析します。

整理番号

浦添市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【調査票案】

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、3つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、
令和5年3月10日(金)までにポストへ投函してください。
(切手不要)

記 入 日	令和 5 年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。			
1. あて名のご本人が記入			
2. ご家族が記入 (あて名のご本人から見た続柄)			
3. その他			

●調査に関するお問い合わせ●

浦添市役所 いきいき高齢支援課

電話：098-876-1292 (直通)

※お送りする際に確認をしておりますが、お手元に届いた時点で浦添市民でない場合は、
お手数をおかけしますが、破棄いただきますようお願い申し上げます。

調査へのご協力願い

市民の皆様には日頃より、浦添市の介護保険事業へのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたびは浦添市では、「第七次でたご高齢者プラン（浦添市高齢者保健福祉計画・第9期浦添市介護保険事業計画）」の策定に向け、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施することといたしました。

この調査は、高齢者の皆様の生活状況や心身の状況、支援のニーズなどについて把握するために全国で行われている調査であり、ご回答いただいた内容は統計的に処理し、計画策定の基礎資料として活用させていただきます。

調査票では多くの質問項目を設けておりますが、この調査をもとに、より一層介護予防・日常生活支援総合事業の発展に努めてまいりますので、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

なお、今回の調査は集計・分析等を「(株) ディー・プランニング沖縄」へ委託し、実施しております。

令和 5 年 2 月

浦添市長 松本 哲治

◆ 記入に際してのお願い

1. この調査は、令和4年12月1日現在、65歳以上の介護保険被保険者で要介護1～5の認定を受けていない方の中から、無作為に抽出した方々（6,000人）に郵送しています。
2. ご回答にあたっては封筒のあて名のご本人についてお答えください。ご家族の方がご本人の代わりに回答する際には、ご本人の同意の上、ご一緒に回答されてもかまいません。ただし、ご本人が正確に意思表示できない際には、ご家族の方でご本人の代わりに回答をお願いします。
3. 「あなたの～」と尋ねている質問項目がいくつかあります。この場合「あなた」とは、あて名のご本人をさします。本人以外のご家族が回答された場合でも、あて名のご本人に関して回答してください。
4. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。
5. この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。
介護・・・介護保険のサービスを受けている場合のほか、認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助を受けている状態
介助・・・ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態
ご質問などがございましたら、お手数とは存じますが担当（表紙の問い合わせ先）までご連絡いただければ幸いです。

個人情報取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。
なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な高齢者保健福祉施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、浦添市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、浦添市個人情報保護条例を遵守し、適切に取り扱うことといたします。
- ただし、浦添市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する市町村外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがございます。

問1 あなたの家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください (○は1つ)

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他 ()

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○は1つ)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2) において「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3. 現在、何らかの介護を受けている」を選んだ方におたずねします】

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (○はいくつでも)

1. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)
2. 心臓病
3. がん (悪性新生物)
4. 呼吸器の病気 (肺炎・肺気腫・肺炎等)
5. 関節の病気 (リウマチ等)
6. 認知症 (アルツハイマー病等)
7. パーキンソン病
8. 糖尿病
9. 腎疾患 (透析)
10. 視覚・聴覚障害
11. 骨折・転倒
12. 脊椎損傷
13. 高齢による衰弱
14. その他 ()
15. 不明

【(2) において「3. 現在、何らかの介護を受けている」を選んだ方におたずねします】

② 主にどなたの介護・介助を受けていますか (○はいくつでも)

1. 配偶者 (夫・妻)
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者
5. 孫
6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー
8. その他 ()

【ここからは全員におたずねします】

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○は1つ)

1. 大変苦しい
2. やや苦しい
3. ふつう
4. ややゆとりがある
5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (○は1つ)	
1. 持家 (一戸建て)	2. 持家 (マンションなど)
3. 公営賃貸住宅 (県営住宅など)	4. 民間賃貸住宅 (一戸建て)
5. 民間賃貸住宅 (アパート・マンションなど)	6. 借家
7. その他	

問2 からだを動かすことについて	
(1) 階段を、手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○は1つ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○は1つ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(3) 15分位続けて歩いていきますか (○は1つ)	
1. できるし、している	2. できるけどしていない 3. できない
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○は1つ)	
1. 何度もある	2. 1度ある 3. ない
(5) 転倒に対する不安は大きいですか (○は1つ)	
1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない	
(6) 週に1回以上は外出していますか (○は1つ)	
1. ほとんど外出しない	2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (○は1つ)	
1. とても減っている	2. 減っている
3. あまり減っていない	4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
【(8)で「1. はい」(外出を控えている)を選んだ方におたずねします】	
① 外出を控えている理由は、次のどれですか (○はいくつでも)	
1. 病気	2. 障害 (脳卒中の後遺症など)
3. 足腰などの痛み	4. トイレの心配 (失禁など)
5. 耳の障害 (聞こえの問題など)	6. 目の障害
7. 外での楽しみがない	8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない	10. その他 ()
【ここからは全員におたずねします】	
(9) 外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)	
1. 徒歩	2. 自転車 3. バイク
4. 自動車 (自分で運転)	5. 自動車 (人に乗せてもらう) 6. モノレール
7. 路線バス	8. 病院や施設のバス 9. 車いす
10. 電動車いす (カート)	11. 歩行器・シルバーカー
12. タクシー	13. その他 ()
【(9)において「3. バイク」「4. 自動車 (自分で運転)」を選んだ方におたずねします】	
① 将来、運転免許証を返納することになった場合、外出する手段についてどのように考えていますか (○はいくつでも)	
1. 徒歩	2. 家族や友人の車に乗せてもらう
3. 路線バス	4. タクシー 5. モノレール
6. 出かけることは難しい	7. その他 ()

【ここからは全員におたずねします】

問3 食べることにについて

(1) 身長・体重(例:身長 165cmの場合 165、体重 60kgの場合 060とお書きください)

身長		cm	体重			kg
----	----------------------	----	----	----------------------	----------------------	----

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(3) お茶や汁物等でむせることがありますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(4) 口の渇きが気になりますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(5) 歯磨き(人にやってもら場合も含む)を毎日していますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (○は1つ)

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です)

1. 自分の歯は20 本以上、入れ歯を利用 2. 自分の歯は20 本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19 本以下、入れ歯を利用 4. 自分の歯は19 本以下、入れ歯の利用なし

① 噛み合わせは良いですか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

【(6)で「1. 自分の歯は20 本以上で、入れ歯を利用」または「3. 自分の歯は19 本以下で、入れ歯を利用」の方のみ】を選んで方におたずねします】

② 毎日入れ歯の手入れをしていますか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

【ここからは全員におたずねします】

(7) 6 か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか (○は1つ)

1. はい 2. いいえ

(8) どなたかと食事をともにする機会はありますか (○は1つ)

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

問4 栄養について

(1) 普段の食事で比較的多いのは、次のどれですか (○はいくつでも)

1. 自分で作った食事 2. 家族が作った食事 3. ヘルパーが作った食事
4. 宅配弁当 5. 買ってきた惣菜や弁当 6. 冷凍食品
7. インスタント食品 8. 外食 9. その他()

(2) 食事の困りごとについて、当てはまるものはありますか (○はいくつでも)

1. 料理を作るのが大変 2. 栄養バランスがとれているか不安
3. 食べる量が減った 4. 脂っぽいものをさけるようになった
5. 買い物に行けない
6. 購入した食材を使いきるまで何食も同じものを食べる
7. 食事制限があるので、限られた食材でメニューを決めることが難しい
8. 困りごとはない
9. その他()

問5 聞こえについて		
(1) 相手の声が聞き取りにくいことがありますか (○は1つ)		
1. はい	2. 時々	3. いいえ
(2) 以前と比べて相手の話す内容が理解しづらいことがありますか (○は1つ)		
1. はい	2. 時々	3. いいえ
(3) 補聴器を使用していますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	3. 持っているが使っていない

問6 毎日の生活について		
(1) 物忘れが多いと感じますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけをしていますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(4) バスやモノレールを使って1人で外出していますか (自家用車でも可) (○は1つ)		
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない		
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○は1つ)		
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない		
(6) 自分で食事の用意をしていますか (○は1つ)		
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない		
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか (○は1つ)		
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない		

(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○は1つ)		
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない		
(9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(10) 新聞を読んでいますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(11) 本や雑誌を読んでいますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(13) 友人の家を訪ねていますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(14) 家族や友人の相談にのっていますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(15) 病人を見舞うことができますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか (○は1つ)		
1. はい	2. いいえ	
(17) 趣味はありますか (○は1つ) (ある場合はカッコ内にお書きください)		
1. 趣味あり → ()		
2. 思いつかない		
(18) 生きがいがありますか (○は1つ) (ある場合はカッコ内にお書きください)		
1. 生きがいあり → ()		
2. 思いつかない		

問7 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※① - ⑧それぞれに回答してください(○は1つずつ)

	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	参加して いない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係の グループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤介護予防のための 通いの場 ＜生いき健康クラブ、 体操サークル(いきいき 百歳体操、ピラティ ス体操、操体法など)、 栄養サークル等＞	1	2	3	4	5	6
⑥老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

【(1)で①～⑧の会やグループ全てに「参加していない」を選んだ方(「⑧収入のある仕事」以外の活動に参加していない方)におたずねします】

(2) 地域での活動に参加していない理由は何ですか(○はいくつでも)

1. 会やグループの存在を知らない	2. 興味を引く活動がない
3. 日時が合わない	4. 一人での参加に不安がある
5. 人との関わりがわずらわしい	6. 移動手段がない
7. 足腰が痛い	8. 体調や健康状態に自信がない
9. トイレが心配	10. 忙しい
11. 特に理由はない	12. その他()

【ここからは全員におたずねします】

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか(○は1つ)

1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している
(4) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(○は1つ)			
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している

問8 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておたずねします

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(○はいくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない	

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげてくれる人(○はいくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない	

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(○はいくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない	

(4) 反対に、看病や世話をしてあげてくれる人(○はいくつでも)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない	

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (○はいくつでも)			
1. 自治会・町内会・老人クラブ	2. 社会福祉協議会・民生委員		
3. ケアマネジャー	4. 医師・歯科医師・看護師		
5. 地域包括支援センター・役所・役場	6. その他		
7. そのような人はいない			
(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか (○は1つ)			
1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある	
4. 年に何度かある	5. ほとんどない		
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(○は1つ)			
同じ人には何度会っても1人と数えることとします。			
1. 0人 (いない)	2. 1～2人	3. 3～5人	
4. 6～9人	5. 10人以上		
(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(○はいくつでも)			
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人	
4. 仕事での同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人		
6. ボランティア等の活動での友人	7. その他	8. いらない	

(9) 健康について											
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○は1つ)											
1. とてもよい	2. まあよい	3. あまりよくない	4. よくない								
(2) あなたは、現在のどの程度幸せですか											
「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまるところの点数に○を1つつけてください											
とても不幸	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○は1つ)											
1. はい											
2. いいえ											
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しい感じがよくありましたか (○は1つ)											
1. はい											
2. いいえ											
(5) お酒は飲みますか (○は1つ)											
1. ほぼ毎日飲む											
2. 時々飲む											
3. ほとんど飲まない											
4. もともと飲まない											
(6) タバコは吸っていますか (○は1つ)											
1. ほぼ毎日吸っている											
2. 時々吸っている											
3. 吸っていたがやめた											
4. もともと吸っていない											
(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)											
1. ない	2. 高血圧	3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)									
4. 心臓病	5. 糖尿病	6. 高脂血症 (脂質異常)									
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気										
9. 腎臓・前立腺の病気	10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症)										
11. 外傷 (転倒・骨折等)	12. がん (悪性新生物)	13. 血液・免疫の病気									
14. うつ病	15. 認知症 (アルツハイマー病等)	16. パーキンソン病									
17. 目の病気	18. 耳の病気	19. その他 ()									

問 10 認知症にかかる相談窓口の把握や支援について	
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか(○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
(3) 認知症の予防についてどのようなことを望みますか (○は1つ)	
1. 自宅でできる予防策があれば取り組みたい 2. 予防策の教室等があれば参加したい 3. 早期発見できるチェックリストがあれば受けてみたい 4. すでに予防に取り組んでいる 5. あまり関心がない 6. その他 ()	
(4) あなた自身が認知症になったら、どういう支援が必要だと思いますか。(○は2つ)	
1. 介護保険などの公的サービス 2. 介護保険以外のサービスや相談窓口などの認知症に関する社会資源 3. 情報収集のしやすさ 4. 認知症を理解するための講座 5. 地域での見守りなどの本人や家族を支えるボランティア組織 6. 介護している家族への支援 7. その他 ()	
(5) あなた自身の判断能力に不安が生じたとき、成年後見制度を利用したいと思いますか (○は1つ)	
1. はい	2. いいえ
【成年後見制度とは】 年齢や病気などの理由で、物事を一人で決めることに不安や心配のある方を法律面や生活面で支援する制度のことです。(貯金の管理、入院手続き等)	

問 11 情報の収集や伝達について						
(1) 健康や保健福祉に関する情報や知識は何から得ていますか (○はいいくつかでも)						
1. 浦添市広報	2. 浦添市ホームページ	3. 浦添市SNS(LINE、Facebook)				
4. 市役所窓口	5. 地域包括支援センター	6. 社会福祉協議会				
7. 地域にある掲示板や回覧板	8. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ					
9. インターネット	10. 家族や友人	11. 病院などの医療機関				
12. その他 ()	13. 特になし					
(2) 日常生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどの情報通信の機器をどの程度お使いですか (項目ごとに○は1つずつ)						
	週に1回以上使う	月に1回程度使う	必要な時に使う	使う方法が分からない	持っていない	
①パソコン	1	2	3	4	5	
②スマートフォン	1	2	3	4	5	
③携帯電話(スマートフォン以外)	1	2	3	4	5	
④タブレット型端末※	1	2	3	4	5	
⑤その他 ()	1	2	3	4	5	
【※タブレット型端末とは】 ノート程度の大きさで手軽に持ち運びでき、スマートフォンのように画面に触れて操作ができるコンピューターのことを指します						
問 12 その他						
(1) 地域包括支援センターを知っていますか (○は1つ) ※浦添市の地域包括支援センターは以下の5カ所を設置しています さっとん・ライフサポート・ていだ・みなとん・ゆいまる						
1. はい 2. いいえ						

(2) 将来介護が必要になった時、療養に関して、次のどれを希望しますか(○は1つ)		
1. 自宅で介護してほしい	2. 子どもの家で介護してほしい	
3. 親族の家で介護してほしい	4. 介護施設に入所したい	
5. 病院などの医療機関に入院したい	6. 民間有料老人ホーム等を利用したい	
7. その他 ()	8. わからない	
(3) 最期に療養したい場所はどこですか (○は1つ)		
1. なるべく今まで通った (または現在入院中の) 医療機関に入院したい		
2. なるべく早く緩和ケア病棟に入院したい		
3. 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい		
4. 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい		
5. 自宅で最期まで療養したい		
6. 専門的医療機関 (がんセンターなど) で積極的に治療を受けたい		
7. 老人ホームに入所したい		
(4) ご自身の最期について、家族や近い人と話し合い、相談したことはありますか (○は1つ)		
1. ある	2. ない	3. したいと思う
4. したいけどできない	5. その他 ()	

問13 介護予防について	
(1) 介護予防について知っていますか (○は1つ)	
1. 聞いたことがあり、よく理解している	
2. 聞いたことはあるが、あまり理解していない	
3. 聞いたことがなく、知らない	

(2) 仕事、運動・スポーツや地域行事・趣味サークルや介護予防事業などへの参加、食事の工夫など、介護予防につながる活動に意識して取り組んでいますか (○は1つ)		
1. 意識して取り組んでいる	2. 体力が落ちてきたら取り組みたい	
3. もう少し年を取ってから取り組みたい	4. きっかけがあれば取り組みたい	
5. 興味はあるが、具体的な取り組み方は分らない		
6. 興味・関心は特にない	7. その他 ()	
【(2) において「1.意識して取り組んでいる」を選んだ方へおたずねします】		
① 取り組んでいる活動はどれですか (○はいくつでも)		
1. 仕事	2. 地域行事	3. ボランティア
4. 運動・スポーツ	5. 趣味サークル	6. 友人や家族との交流
7. 介護予防教室 (教室名)	8. 食事の工夫	
9. 健康管理	10. その他 ()	
【(2) において「1.意識して取り組んでいる」以外を選んだ方へおたずねします】		
② その理由を教えてください (○はいくつでも)		
1. 元気に過ごせているから	2. 時間に余裕がないから	
3. 曜日や時間帯が希望に合わないから	4. 開催場所が身近な所にならないから	
5. 移動する手段がないから	6. 人との関りがわずらわしいから	
7. 一緒に参加する仲間がいないから	8. 内容に興味がもてないから	
9. 参加しても効果がないと思うから	10. 費用がかかるから	
11. 医療機関に通院していて取り組むことが難しいから		
12. 介護予防事業があることを知らないから	13. 日時、場所が分からないから	
14. その他 ()		

■■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■■

第 9 期

浦添市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

結果報告書

令和 5 年 3 月

浦添市役所 福祉健康部 福祉総務課

いきいき高齢支援課

〒901-2501

沖縄県浦添市安波茶 1-1-1

電話：098-876-1234